

ヨーロッパ100名城

①国別城郭数

アイルランド①：イギリス（英国）⑩：イタリア共和国⑪：エストニア共和国①：オーストリア共和国⑤：オランダ王国①：ギリシャ共和国⑦：クロアチア共和国①：サンマリノ共和国①：スイス連邦②：スウェーデン王国①：スペイン王国⑧：スロバキア共和国①：スロベニア共和国①：セルビア共和国①：チェコ共和国②：デンマーク王国②：ドイツ連邦共和国⑩：トルコ共和国①：ノルウェー王国①：ハンガリー共和国①：フィンランド共和国①：フランス共和国⑪：ブルガリア共和国①：ベラルーシ共和国①：ベルギー王国②：ポーランド共和国①：ポルトガル共和国③：マルタ共和国①：ラトビア共和国①：リトアニア共和国①：リヒテンシュタイン公国①：ルーマニア②：ルクセンブルク大公国②：ロシア連邦③

②選定城郭の無いヨーロッパの国（11ヶ国）

アイスランド共和国、アルバニア共和国、アンドラ公国、ウクライナ、コソボ共和国、バチカン市国、ボスニア・ヘルツェゴビナ、マケドニア旧ユーゴスラビア共和国、モナコ公国、モルドバ共和国、モンテネグロ

③ウラル・黒海・マルマラ海・エーゲ海以西の国を対象とした。

④国名は外務省ウェブサイト「各国・地域情勢」表記名に基づく。但し、グレートブリテン及び北アイルランド連合王国（英国）は総務省「世界の統計」における国名（地域名）表記の一般的な通称名イギリスを用いた。

NO：1 ドゥーン・エンガス 防御集落(ケルト人)・平城・防御集落(ケルト人) -2世紀****アイルランド（Dun Aonghasa,Oileain Arann）

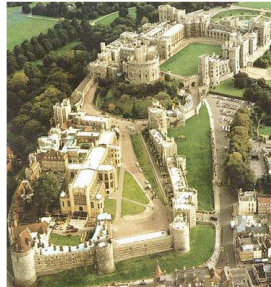


①ケルト人が築いた城塞、城郭集落が多数あったことは、『ガリア戦記』の詳細な記述によって明らかなのだが、ローマ人やゲルマン人によって破壊しつくされ、アイルランドのアラン諸島には、ケルト人(ゲール人)の石造の砦であるドゥーンがほとんど完璧に近い保存状態で現存している。

②Dun Aonghasa is the most famous of several prehistoric forts on the Aran Islands, of County Galway, Ireland. It is located on Inishmore at the edge of an approximately 100 metre high cliff.

③A popular tourist attraction, Dun Aonghasa is an important archaeological site that also offers a spectacular view. It is not known when Dun Aonghasa was built, though it is now thought to date from the Iron Age. T. F. O'Rahilly surmised that it was built in the second century B.C. by the Builg following the Lagenian conquest of Connacht. It was probably originally constructed as a circular ringfort several hundred metres from the coast, its present precarious position being the result of centuries of coastal erosion.

NO：2 ウィンザー城 イギリス・平城・モット・アンド・ベイリー型 1350年****イギリス（Windsor Castle,West of London）



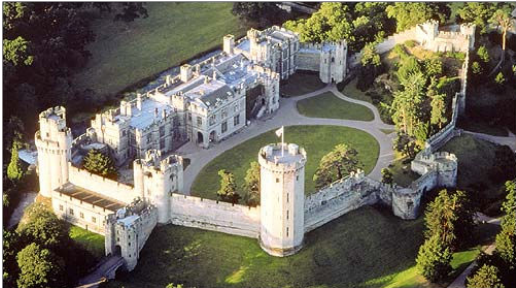
①11世紀、ウィリアム1世によって建てられた。この城はモット・アンド・ベーリー形式の木造の城であり、現在のウィンザー城の中央部、円形の塔の部分に建てられたものであった。

②ヘンリー2世は木製の防壁を石造りにし、また初めて石造りのキープ(城の心臓部となる、中央の塔)を建設した。ヘンリー3世によって建設された西部の防壁はその一部が現在に残っており、現存するこの城の最古のものである。

1350年より、城はエドワード3世によって一部を残して取り壊され、新しいものに再建された。ウィンザー城1000年の歴史の中で攻撃されたのは二度あり、1回目にはリチャード1世が十字軍遠征中に弟ジョン公が王位をねらって占領したが、リチャード派の貴族たちに明け渡してしまった。2回目はマグナ・カルタをめぐる争いで、ジョン王が貴族たちに攻撃されたが、贈物をして攻撃を中止させたという。

③イギリス王室の所有で、エリザベス2世が週末に過ごす場所でもある。およそ45,000平方メートルの床面積を持ち、現存する城で人が住むものとしては最大のものである。

NO：3 ウォリック城 城郭(城塞)・平城・イギリス領主の城 1068年****イギリス（Warwick Castle,Warwick）



①914年に建築されたエイヴォン川に臨む崖の上に建っているアングロ・サクソン人の砦があった場所に、1068年、ウィリアム征服王によって建築された。17世紀初頭まで軍事拠点として使用された。

②1088年以降、ウォリック伯に所有され、その権力の象徴となった。1153年にアンジュ伯アンリ(後のヘンリー2世)に接収され、囚人を閉じ込めるために使われた。例えば14世紀のボワティエの戦いにおける捕虜がここに収監された。“ウォリックのキングメイカー”リチャード・ネヴィルの所有時代にはエドワード4世王を監禁するために使用された。ウォリック城は規模、費用、歴史的・社会的地位に関してウィンザー城とよく比較される。

③元来は木製だったモット・アンド・ベーリーは12世紀に石製のものに代えられた。百年戦争の間には要塞として強化され、14世紀の典型的な軍事建造物となった。

NO：4 エディンバラ城★ 城郭(城塞)・平山城・ゲイトハウス型 1376年****イギリス（Edinburgh Castle ,Edinburgh）



①キャッスル・ロックという岩山の上に建つ古代からの要塞で、エディンバラのシンボルである。スコットランドでは、グラスゴーのケルヴィングローヴ・アート・ギャラリー・アンド・ミュージアムに次いで多くの観光客が訪れている。人間の定住は紀元前9世紀前後からといわれている。城内で最も古い12世紀初期の建築物であるセント・マーガレット教会堂を除くと、城の建築物のいくつかは16世紀以前のものである。デヴィッツ・タワーは、1376年にデヴィッド2世により建設が委任された。当時の主流の建築であり、城の主要な入り口であったが、のち塔が宿泊する客人や貴族のため拡張され、原型の入り口はゲスト・ハウスに塗り込められた。

②カトリックを信仰した女王メアリー1世は1567年にプロテスタントのジェームズ・ヘップバーンと結婚し、これに反対する貴族たちの大規模な反乱を引き起こした。反乱軍側に投降したメアリーはロッホ・リーヴン城へ監禁された。メアリーに忠誠を尽くす一部の貴族の助けを借り、彼女は城から逃亡しイングランドへ亡命した。エディンバラ城守護だったウィリアム・カークカルディーは1年余り城に立てこもった。幼王ジェームズ6世(のちのイングランド王ジェームズ1世)の摂政モートン伯ジェームズ・ダグラスは、エリザベス1世より支援を受け、砲撃と銃撃でデヴィッツ・タワーを崩壊させた。城の陥落後、ウィリアム・カークカルディーは絞首刑にされ、ハーフ・ムーン・バッテリーを含む多くが再建された。

NO：5 カーフィリー城 城郭(城塞)・平城・イギリス領主の城 1171年****イギリス（Caerphilly Castle,Caerphilly）



① サウスウエールズ、グラモーガン州の首都カーディフの北方約22キロのカーフィリーの町に、典型的な中世ノルマン風城塞の偉容を今なお保っているカーフィリーの城がある。城はグラモーガンの山地が海岸に向かって開ける丘陵地帯にある。初めカーディフ城の出城として築かれたものだが、濠、城壁、塔など防備の点ではむしろカーディフ城をしのいでいる。 城は初め、グラモーガン領主、アール・ギルバートが、ウエールズ王位を称えるライエリンに備えてつくったが、未完成の中に攻撃を受け破壊された。1171年、ギルバートは再度、現在の城地に筑城したが、これもライエリンに攻略された9しかし、再びギルバートが奪回し、その後も度々重なるウエールズの反乱の際にはこの城が戦略要地として戦場となり、次第に破壊されていった。第二次大戦前に大がかりな復興作業がおこなわれ、破壊のひどい建物を除いて現在の姿になった。 その構造は中世の戦闘的城塞を知る上で貴重なものである。

NO：6 カナーヴォン城☆ 城郭(城塞)・水城・エドワード式集中型 1283年****イギリス (Caernarfon Castle, Caernarfon)

①1283年、エドワード1世が独立国家ウェールズ公国を征服したのに伴い、この地域を平定するため城を築き城塞都市を建設した。
 ②カーナーヴォンが城を建てる地として選ばれたのは、メナイ海峡へSeiont川が注ぐ、河岸に位置することから戦略上重要であったためである。かつてこの地には古代ローマ人の砦があり、後にモット・アンド・ベーリー型の城が1090年頃初代チェスター伯ユー・ダヴランシュによって建てられた。当時の城は、両側が水辺であり、他方はカーナーヴォンの城壁に囲まれていた。19世紀、Seiont川に面した地域はカーナーヴォン港拡張のため埋め立てられ、現在はカーナーヴォン城の駐車場の一部となっている。
 ③1294年から1295年にかけての反乱で、カーナーヴォン城はルウェリン・アブ・グリフィズの連縁メドック・アブ・ルウェリン軍によって攻略されたが、1295年にイングランド軍が再度攻略した。城の守備は完璧に近くなった。1403年と1404年、オーウェン・グレンタワー軍により包囲されても持ちこたえた。イングランド内戦時代、1646年に王党派の要塞であった城を議会軍が取り囲んだ。

NO：7 コーンウィー城☆ 城郭(城塞)・平城・エドワード式集中型 1283年****イギリス (Conwy Castle, Conwy)

①1283年にエドワード1世がカーナボン、ハーレックなどの城とともにウェールズ征服の拠点として建造。工事の指揮は当時最大の軍事建築家であったセント・ジョージ教会のジェームスがおこなった。
 ②1646年、チャールズ1世と議会の争いに巻きこまれて落城、解体され廃墟となった。
 ③19世紀に修理され、外観は盛時の面影をしのばせている。ウェールズの名城の一つである。

NO：8 ドーヴァー城 城郭(城塞)・平城・イギリス領主の城 1066年****イギリス (Dover Castle, Dover, Kent)

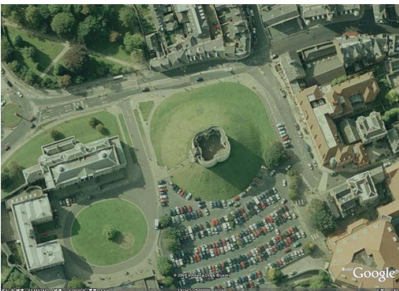
①1066年ノルマンジー公ウィリアム1世がイングランドに侵入すると、大陸とより密接な関係が生じ、ドーバー海峡にのぞむ港は新しい重要性をもってきた。このためドーバーにも大きな城塞が築かれ、さらにヘンリー2世が全土の守備態勢を強化再編成した時、いっそう規模も拡大され、イギリス最強の巨大なキープはこの時の遺構。
 ②古代ローマのころにはドーバーは重要な要塞港とされ「ポルトウス・デュブリス」(Portus Dubris)と命名された。ドーバーは古代ローマ街道「ワットリング街道(Watling Street)」の起点とされ、「ブリタニカ艦隊(classis britannica)」の重要な港であった。1642年に始まる清教徒革命ではドーバーは「議会派」についた。1670年の5月26日にはチャールズ2世とフランスのルイ14世の間で、密かに両国間の交戦状態の終結に関する条約の調印が行われた(ドーヴァーの密約)。20世紀の第一次世界大戦ではドーバーは英仏海峡防衛の中心となった。第二次世界大戦の間には市街がドイツ軍の爆弾と長距離砲による絶え間ない爆撃を受けた。戦争の間、ドーバーの崖の下の洞窟やトンネルは防空壕として使用された。

NO：9 ハーレック城☆ 城郭(城塞)・平山城・エドワード式集中型 1283年****イギリス (Harlech Castle, Harlech)

①1283年エドワード1世がカーナボン、コンウェーなどの城とともにウェールズ征服の拠点として建造。築城家James of St. Georgenoの設計による。
 ②Construction started in 1283 as part of Edward I's second Welsh campaign. The castle was part of Edward's iron ring of castles around Snowdonia, a string of new castles to hem the prince in. Like many of the castles in the area, Harlech was designed by Master James of St. George. The castle took seven years to build, and cost an estimated £8,190 to build (£88 million in 2009). Following its completion, James was appointed Constable of Harlech Castle, a high-status position he held for over three years. All the royal castles of Edward's second Welsh campaign were sited so that they could be kept supplied at all times. Harlech was not always isolated; the sea used to come to the foot of the cliffs.

NO：10 ロンドン塔☆ 城郭(城館・イギリス王家)・平城・イギリス領主の城 1098年****イギリス (Tower of London, London)

①1066年にイングランドを征服したウィリアム1世が1078年にロンドンを外敵から守るために堅固な要塞の建設を命じ、本体は約20年で完成した。その後、リチャード1世が城壁の周囲の濠の建設を始め、ヘンリー3世が完成した。
 ②国王が居住する宮殿として1625年まで使われ、最後に居住した王はジェームズ1世とされる。ロンドン塔が血の城塞として恐れられたのはバラ戦争のころからで、ヨーク家とランカスター家の争いに数多くの貴族たちがここで斬首された。リチャード3世が幼いエドワード5世兄弟を虐殺したのもここである。その後もトマス・モア、エリザベス1世の生母アン・ブレン、オ嬢ジェーン・グレイら著名人が処刑されている。
 ③イギリスの首都のロンドン流れるテムズ川の岸辺、イースト・エンドに築かれた中世の城塞である。正式には「女王陛下の宮殿にして要塞」(Her Majesty's Royal Palace and Fortress)と呼ばれるように現在も儀礼的な武器などの保管庫、礼拝所などとして使用されている。またその景観から「ホワイト・タワー」とも呼ばれる。世界最大級のカット・ダイヤモンド「カリナン」はここで保管されている。

NO：11 城郭都市ヨーク 城郭都市(カストラム)・平城・モット・アンド・ベーリー型 1069年****イギリス (York, North Yorkshire)

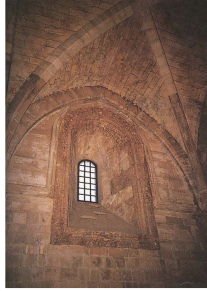
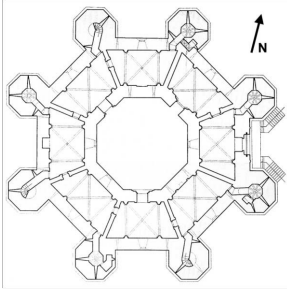
①ローマ時代には、属州ブリタニアの要塞エボラカム(Eboracum)であった。「ヨーク」の名前の由来は「イチイの木」(yew trees)といわれている。都市として創設されたのは紀元71年。第9軍団ヒスパナがブリガントス族を征服し、フォス川とオウス川の交わる平地に軍事要塞カストラを建設した時であった。要塞はのち石で再建され、総面積は50エーカーで6,000人の兵士が暮らした。
 ②1069年、ヨークはウィリアム征服王によって敵とみなされ破壊された。古いアングロサクソン期のヨーク・ミンスターはこの時の火災で致命的な損傷を受け、ノルマン人はまっさらになった場所に新たなミンスター建設を決めた。
 ③城壁の保存率は、ローマ時代の城壁が50% (総延長の)、中世城壁が同じく約85%です。さらに中世に全部で9あった城門のうちの6が、堅固な胸壁、矢狭間、石落とし、落とし格子を備えた完全装備のままで保存されています。その上に、四季折々の城壁や城門の景観も、非常に趣があって、見事です。ウィリアム征服王が築いたモットも、絵に描いたようなきれいな姿で残っています(クリフォード・タワー)。

NO : 12 エステ城 (フェラーラ) ★ 城郭(城館・エステ家)・平城・ゲイトハウス型 1385年****イタリア共和国 (Castello Estense, Ferrara)

①1385年にニコロⅡ世の時代にバルトリノ・ダ・ノヴァラによって建設され、以後16世紀まで改修が繰り返された。四つの四角形の塔とそれを繋ぐ回廊によって内庭を囲んで作られた建物は、戦略的な施設と居住空間を巧みに一体化したルネサンス城郭の傑作である。そして周囲に深い堀を廻らし、櫓で防御された狭い剣橋のみが外部と繋ぐ手立てであり、非常に防御的に優れた構造をしている。1階部分は城を守る兵士たちのゾーン、2階部分は謁見の間や公務を司る部屋、3階部分にはテラスがめぐらされた領主一族の居住空間がある。このテラスは戦闘の際には兵士が出て外部の敵と戦う場所でもあった。

②ニコロⅢ世、リオネッロ、エルコーレⅠ世の時代にはビサネッロ、ピエロ・ディ・フランチェスカ、マンテーニャ、アルベルティなどが招聘され、コスメツツラやコッサといったフェッラーラ派と呼ばれる人たちが活躍し、ルネサンス文化の花が開いた。何人もの公爵夫人が首を吊ったという度もあり、イタリアの中世史を彩る女性ルクレシア・ボルジアもエステ家の当主アルフォンソ・デ・エステに嫁いでいる。

③ラヴェンナによって7世紀に開かれた植民地で、1200年代にもともとカノッサ伯のエステ家が教皇代理人となり、その後僧主化して領主となり、1471年にローマ法王より爵位を受けて公国となった町である。ポー河下流の肥沃な大地からの農産物を背景に、軍事力を蓄え、ローマ地方で最も安定した基盤を築いた。特に、大砲製造の技術とその使用にたけていて、数一の合戦に名を馳せている。また、芸術の振興にも力をいれ15世紀のニコロⅢ世、リオネッロ、エルコーレⅠ世の時代にはビサネッロ、ピエロ・デラ・フランチェスカ、マンテーニャ、アルベルティなどが招聘され、コスメツツラやコッサといったフェッラーラ派と呼ばれる人たちが活躍し、ルネサンス文化の花が開いた。

NO : 13 カステル・デル・モンテ★ 城郭(要塞)・平山城・実践的な砦 1240年****イタリア共和国 (Castel del monte, Andria)

①1240年頃、シチリア王フェデリコⅠ世(シチリア王としては1世だが、神聖ローマ皇帝としてフリードリヒ2世またはフェデリコ2世として有名)によって建てられた。その後長い間放置され1876年にイタリア国家の所有となり1928年から修復が始まった。

②建造者であるフリードリヒ2世のイスラム教への理解を示すかのごとく、築城の位置は当時のキリスト教の拠点であるシャルトルとイスラムの中心メッカとの二点を結ぶ直線上の地点に立地している。丘の上にぽつんと立つ美しい城で、フリードリヒ2世の数学へ造詣を表す黄金比を用いた八角形を象徴的に取り入れており、全体が八角形の平面で構成され、中央に八角形の中庭を内包し、8つのコーナーにはそれぞれ八角形の小塔がそびえる。

③この城は軍事上でも居城でもなく別荘または客をもてなすために使用されたと考えられている。

NO : 14 カステル・ヌオヴォ (ナポリ) ★ 城郭(城館・ナポリ王国・アンジュー家)・平城・イタリア領主の城 1182年****イタリア共和国 (Castel Nuovo, Napoli)

①1182年、フランスの建築家ピエール・ダジャンクールによってアンジュー家出身のナポリ王カールⅠ世がフランスのアンジェ城をモデルに建築したが、スペイン支配時代に相当改装されている。入口の凱旋門はフランチェスコ・ラウラのデザインである。現在、城はナポリ市の庁舎として使用されている。

②アンジュー家支配末期に度重なる戦闘の舞台となり、大きく破損するが、15世紀から18世紀にかけて改築されて、現在に残る。正面に三つの円筒形の塔を持ち、二つの塔の間に凱旋門が建っている。

③紀元前6世紀末にギリシャの植民都市ネアポリスとして建設されて以来、ローマ帝国、ビザンチン帝国の支配下に入り、8世紀、9世紀には独立共和国として東方貿易を盛んにおこない繁栄したが、1140年にはシチリア王国領となり、のちナポリ王国の首都となった。13世紀末以後は、王位を皇帝、フランス王、スペインのアラゴン家が奪い合ったが、結局、1860年、ガリバルディの征服によってイタリア王国に編入された。

NO : 15 カステルヴェッキオ (ヴェローナ) ★ 城郭(城館・スカリジェロ家)・平城・イタリアの城郭 1254年****イタリア共和国 (Castelvecchio, Verona)

①1254年スカリジェロ家のゴンザランデ2世によって、市中を湾曲して流れるアディジェ川南岸に沿って建てられた。1375年川にかかるスカリジェロ橋も要塞化して、対岸の守り(脱出も考慮)に用いた。

②1165年ヴェローナ都市同盟を結ぶ。これは神聖ローマ帝国皇帝フリードリヒⅠ世(通称・赤髭王)に対し、自治・自衛の権利を守るために結ばれた。1183年、コンスタンツの和で諸都市の自主権を大幅に認めさせた。

③ペロナの町は古代エトルス人の都市として興り、紀元前3世紀にはローマ、6世紀にはロンバルディア王国の統治下にあった。12世紀に入るとギベリン党のスカラ家がこの町を支配したが、もともとブレunner峠からベネチア、ミラノを結ぶ幹線道路に位置したため、商業の中心として大いに栄えた。

NO : 16 サンタンジェロ城★ 城郭(要塞・霊廟)・平城・ローマ時代(市壁) 135年****イタリア共和国 (Castel Sant' Angelo, Roma)

①135年、皇帝ハドリアヌスが自らの霊廟として建設を開始しアントニヌス・ピウス治世の139年に完成した。403年にはアウレリアヌスの城壁の一部に組み入れられ、14世紀からは教皇達により要塞として強化された。

②サンタンジェロ城の名称は、590年にローマでペストが大流行した際、時の教皇グレゴリウスⅠ世が城の頂上で剣を鞘に収める大天使ミカエルを見て、ペスト流行の終焉を意味するとしたことに由来する。1527年の有名な「ローマの劫掠」の際、クレメンス7世はカール5世の兵に追われて城からパチカンに通じる秘密の通路から逃れている。ルネッサンス時代には牢獄として使用され、ベアトリーチェ・チェンチ、ペンベヌート・チェリーニ、ブルーノなどの著名人がここに幽閉された。

③ルネサンス期のサンガッロの基壇。

NO : 17 スフォルツァ城 (イモラ) ★ 城郭(城塞)・平城・ルネサンス様式 1499年****イタリア共和国 (Rocca Sforzesca, Imola)

①1332-34年にサンタ・セーデの教皇代理人アリドーシが現在の大きな砦を作り、スフォルツァ家のガレアツォが1472年に大改修した。1499年、風雲児チェザーレ・ボルジア(法王アレクサンドロⅥ世の庶子)によってカテリーナが追放されると、この街はローマニャ公国の実質的な首都としての整備され、彼に心酔してこの地にどまつていたレオナルド・ダヴィンチが再び改修した。その後サンガッロやサンミケーリの手によって改修が繰り返された。

②15世紀には、ミラノのヴィスコンティ家の傭兵隊長で、ついにはミラノ公まで登りつめたスフォルツァ家のイル・モロの所領であったが、姪の女傑カテリーナ(城を敵に囲まれ子供を人質にとられた際、城壁の上にたち『そんなもの、いくらでもここから出て来る』と言って、スカートをたくし上げたという逸話がある王妃。)が法王シストⅣ世の甥アリオバロ(隣町のフォルリ領主)に嫁いだ際、婚資として携えてきたことで知られている。

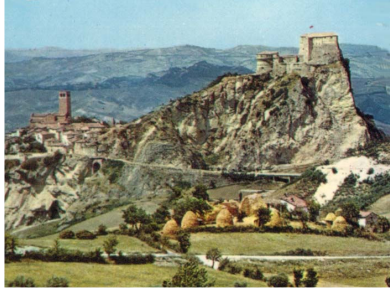
③代表的なルネサンス城郭

NO : 18 スフォルツァ城（ミラノ） 城郭(城館・ミラノ公)・平城・ルネサンス様式 1450年****イタリア共和国 (Castel Sforzesco, Milano)


①もともとはケルト人が開いた街であったが、紀元前222年にローマに征服されメディオラヌム(中間点)と呼ばれ、イタリアからフランス、スイス・ドイツを結ぶ街道の交差点として交通の要衝であった。3世紀末にディオクレティアヌス帝が帝国を四分国制にしたとき、西の正帝の本拠地をこの地に定めた。その後、313年、キリスト教を公認したミラノ勅令がこの地で発せられたことは余りにも有名であり、コンスタンティヌス大帝がビザンティウムに遷都した後も宮廷は存続し、その後、東西分裂した際には西ローマ帝国の首都がおかれ街は発展した。

②11世紀にはコムーネが成立。ロンバルディア同盟の旗頭となるまで復興した。しかし、要衝であるがゆえに、フランス、ドイツの干渉が激しく安定しなかった。1277年教皇グレゴリウス10世の一族でミラノの司教であったヴィスコンティ家のオットーネが僭主に選ばれ、1313年マッテオ1世がミラノ卿となり、1349年僭主の地位はヴィスコンティ家の世襲となり、共和制は終焉する。その孫ガレアツォ2世が堅固な城壁を作り、その北端に城を築いた。1349年僭主の地位はヴィスコンティ家の世襲となり、共和制は終焉する。その孫ガレアツォ2世が堅固な城壁を作り、その北端に城を築いた。

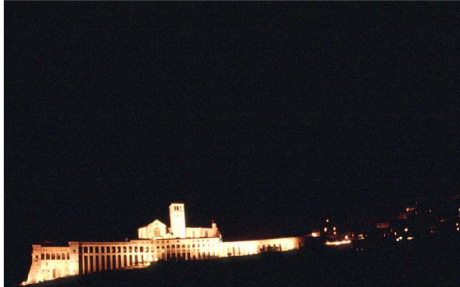
③1450-1466年、強奪したがゆえに周囲は数ばかりの中で、フランチェスコはフィラレーテに命じて、古い城を壊して、家族を住ませ、自分の軍隊を訓練できる中庭をもつ壮大な城造りにとにかかる。正面には高さ70Mの華やかな角塔、両翼には高さ31Mのシンダー状の塔をもち、塔を繋ぐ圍塼はイモラの城と同じように鉄砲狭間が設けられ、周囲を広い堀で囲み、跳ね橋のみで外と結ばれた防御を第一に考えたイタリア最大の城である。

NO : 19 フランチェスコ城（サン・レオ） 城郭(城塞)・山城・ルネサンス様式 15世紀****イタリア共和国 (Rocca Francesca, San Leo)


①サン・レオはサン・マリノの石工仲間であったレオが迫害を逃れてきたフェレトリオ山の頂上にある街であり、アペニン山脈がアドリア海に向かって張り出してきた尾根の端にある。

②この地方はウルビノ公モンテフェルトロ家発生の地で、12世紀にマルケ北部地方を統一しウルビノに領主館を構える。北部諸都市の傭兵隊長として財をなし、15、16世紀のフェデリコ2世、グイドバルド親子の代に絶頂期を迎え、ウルビノはルネサンスの花が開く。そしてその時期、サン・レオにあった元の館を、シエナ出身の建築家フランチェスコ・ディ・ジョルジョを用いて圧倒的な質感をもつ堅固な城壁に作り変え、北からの侵入者に備えた。

③1500年代初頭にチェザーレ・ボルジアによってモンテフェルトロ家が追放された後は、教皇領に組み入れられ、人里離れたサン・レオは流刑の館となり、サンタンジェロからカリオストロ伯爵がここに幽閉され一生を終えた(1795年)。

NO : 20 城郭都市アッシジ★ 城郭都市(都市国家)・平山城・宗教関連 1260年****イタリア共和国 (Assisi, Umbria)


①11世紀から12世紀にかけて商人たちが、アッシジの渓谷を開拓し、貴族たちなどの手により教会などの建築を行った。このころの建造物にはウンブリアの様式を取り入れたものがある。また人口の増加にともない城砦は、1260と1316年に拡張がなされた。サン・フランチェスコ聖堂やサンタ・キアラー修道院もこのころ作られた。

②この地方はラテン人と同系統のウンブリア人が支配していた地域であるが、前300年ごろローマの支配下にはいった。民族大移動の後は東フランク王国、神聖ローマ帝国の支配下にあったが、支配とは名ばかりでそれぞれの街がコムーネを作り都市国家を形成した。

③デヴェレ川をはさんでベルーシアと争いを繰り返す。どうも、戦いが下手であったらしく城壁をがっしり作り、頂上部分にはロッカ・マッジョーレ(大砦)、東端にはロッカ・ミノレ(小砦)、西端にサン・フランチェスコ寺院が城塞のような基壇の上に建っている。とにかく遠景の美しさではイタリアで1、2を争う街である。14世紀に入り、城壁が再度拡張整備された。14世紀から15世紀にかけてはベルーシアとの戦争などにより、アッシジの治安は不安定であった。

NO : 21 城郭都市ポルトヴェネレ★ 城郭都市(自由都市)・平山城・自由都市 1161年****イタリア共和国 (Portovenere, Liguria)

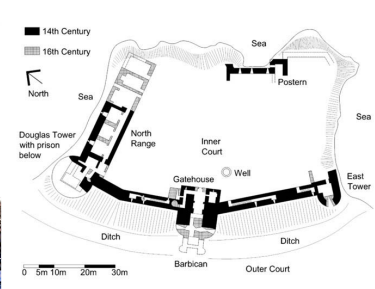

①After the fall of the Western Roman Empire, Portovenere became the base of the Byzantine fleet in the northern Tyrrhenian Sea, but was destroyed by the Lombards in 643 CE. Later, it was a frequent target of Saracen raids. First indications of the existence of a castle date from 1113, and in 1161 the walls were erected. Portovenere became a fiefdom of a family from Vezzano before passing to Genoa in the early twelfth century. In 1494, it suffered a devastating bombardment from the Aragonese fleet during their war with Genoa; subsequently the old part of the town declined in importance, giving way to the development of the Borgo Nuovo ("New District"), which had existed from 1139 and is centred on the church of St. Peter.

NO : 22 城郭都市ポルトフェライオ 城郭(城塞)・水城・稜堡型 1548年****イタリア共和国 (Portoferraio, Isola d'Elba)


①It was founded by Cosimo I de' Medici, Grand Duke of Tuscany, in 1548, with the name of Cosmopoli ("Cosimo's City"), to balance the presence of the Spanish citadel in Porto Azzurro. It had three forts (Forte Stella, Forte Falcone and Forte Inglese) [1] and a massive line of walls, all still visible today.

②街の最も高い場所に、サン・マルチーノ邸(ナポレオン宮殿)があり、ここからの眺望が良い。宮殿の西側には、ファルコーネ要塞(Forte Falcone) 東側には、灯台の上方にステラ要塞(Forte Stella)があり、1548年に造られ、ナポレオンが完成させた。

③メディチ家のフィレンツェ公コジモ1世(在位: 1537 - 69年)に売却され、1548年には、ポルトフェッラーイオの町を要塞化し、コスモポリ(Cosmopoli)と名付けた。

NO : 23 トームペア城★ 城郭(城塞)・平山城・北欧の城郭 1346年****エストニア共和国 (Toompea Loss, Tallinn)


①1219年以来デン人によって建設され、1346年ドイツ騎士団、1583年スウェーデン、1710年ロシア帝国と支配者が交代した。エストニア人の砦があった場所に13世紀前半ドイツ騎士団が進出し城として建設。

②現在はエストニア国会議事堂として使用されている現役の建物。

NO : 24 ハイデンライヒシュタイン城 城郭(城塞)・山城・ルネサンス様式 16世紀****オーストリア共和国 (Burg Heidenreichstein, Bezirk Gmünd)

①オーストリアの北部、チェコスロバキアとの国境近く、小さな湖に囲まれた建物は、13世紀のはじめごろにつくられたというが、16世紀に改築されている。13世紀、古くて巨大な中世風のドンジョンと三つの円塔に囲まれて建てられ、居館が城塞化されたスタイルをよく示しており、ヨーロッパの中世城郭の一つのタイプを現している。

②この辺りは明媚な風光で知られるところであるが、また古くからドナウ川沿いの要衝の地として戦路上重要視され、さまざまな部族の砦が築かれていた。

③The castle is first mentioned in 1200 in connection with an Otto von Heidenreichstein. The keep probably dates back to 1190 and most of the other buildings to the 15th and 16th century. From 1348 until 1641 the castle was owned by the powerful Puchheim family who also owned Grub Castle and nearby Litschau Castle. In the 15th century the castle was sieged in vain by an army of rebellious farmers and followers of Jan Hus. III

NO : 25 フォルヒテンシュタイン城 城郭(城塞)・山城・領主の城 1243年****オーストリア共和国 (Burg Forchtenstein, Forchtenstein)

①ウィーンから南に約60キロ、オーストリアとハンガリアの国境、ロザリエン山系の中にフォルヒテンシュタイン城がある。この地は東北ヨーロッパと中部ヨーロッパを結ぶ要衝だったために、古くからさまざまな民族によって、砦が築かれていた。現在の城の起りは、13世紀のはじめにスペインからハンガリアに移住してハンガリア王に重用されたマッテスドルフ家が、オーストリアとの争いの後、1243年に8年の歳月を要して完成させたものである。マッテスドルフ家は、後にフォルヒテンシュタイン伯を名乗ったので城もそのように呼ばれるようになった。マッテスドルフ家は14世紀中ごろにその勢力が衰え、城はオーストリアのハプスブルグ家のものとなり、その後も増築、改築がくり返され、城塞として強化されていった、地下の武器庫には19世紀初頭の大砲、小銃、その他の大量の兵器が所蔵され、近世までこの城が戦略的重要性をもっていたことがわかる。城の塗壁からのながめが美しい。

NO : 26 ホーエンヴェルフェン城 城郭(城塞)・山城・宗教関連(叙任権闘争) 1147年****オーストリア共和国 (Festung Hohenwerfen, Werfen im Salzburger)

①1077年に大司教ゲーブハルトによって建設され、レオンハルト・コイチャッハ(1495-1519)により大規模に拡張され、中部ヨーロッパで完璧なまでに保存された城塞。

②この古い城塞の歴史は、司教任命権にさかのぼり、法王と王が、司教の任命権をめぐる、対立したことからはじまる。法王に忠実であったザルツブルクの大司教ゲーブハルトは、当時(1077年)、防御のための城塞、ホーエンザルツブルク、ホーエンヴェルフェン、フリーザッハーを建立した。ゲーブハルトの防御の城塞は、その後、コンラッドⅠ世のもと(1160-1147)一応完成した。

③5世紀と16世紀(いわゆるハンガリーとの戦争と農民戦争の期間)ザルツブルクもまきこまれ、大司教は身をまもるためにホーエンザルツブルクに移り住む。この時宮殿は高くなり、兵器庫と貯蔵庫が加えられる。

NO : 27 ホーエンザルツブルク城★ 城郭(要塞)・平山城・宗教関連(叙任権闘争) 1077年****オーストリア共和国 (Festung Hohensalzburg, Salzburg)

①1077年、叙任権闘争のさなか、教皇派の大司教ゲーブハルト(ゲブハルト・フォン・ヘルフェンシュタインⅠ世、Gebhard of Salzburg)が皇帝派の南ドイツ諸侯に対抗すべく建築した防衛施設。

②「赤ひげ王」として知られる神聖ローマ皇帝フリードリヒⅠ世「バルバロッサ」(在位1152年-1190年)によってザルツブルクの町が焼き払われたことがあったが、この城はそのときも無事であった。

③紀元前より岩塩の交易によって栄えてきたこの町は、「ザルツ(塩)のブルク(城)」と呼称されてきた。

NO : 28 ホッホオスターヴィッツ城 城郭(城塞)・山城・ルネサンス様式 1570年****オーストリア共和国 (Burg Hochosterwitz, Sankt Georgen)

①The site was first mentioned in in a 860 deed issued by King Louis the German of East Francia, donating several of his properties in the former Principality of Garantania to the Archdiocese of Salzburg. It was then named as "Astarwiza", its name being of Slavic origin. In the 11th century Archbishop Gebhard of Salzburg ceded the castle to the Dukes of Carinthia from the noble House of Sponheim in return for their support during the Investiture Controversy. The Sponheim dukes bestowed the fiefdom upon the family of Osterwitz, who held the hereditary office of the cup-bearer in 1209

②In the 15th century, the last Carinthian cup-bearer, Georg of Osterwitz was captured in a Turkish invasion and died in 1476 in prison without leaving descendants. Hans, cup-bearer of Osterwitz was the last remaining survivor of the family. He had a substantial debt owing to the Emperor and was forced to give up the deeds of the castle to pay his debt. So after four centuries, on 30 May 1478, the possession of the castle reverted to Emperor Frederick III of Habsburg. Over the next thirty years the castle was badly damaged by numerous Turkish campaigns. On 5 October 1509, Emperor Maximilian I handed the castle as a pledge to Matthaues Lang von Wellenburg, then Bishop of Gurk. Bishop Lang undertook a substantial renovation project for the damaged castle.

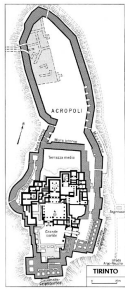
③1570-86年に、現在のような姿に建てられた、ホーホオスターヴィッツ城だ。当時から現在に至るまでケーフエンヒュラー男爵家の所有である城の内部は、博物館とレストランになっています。山の斜面に沿って幾重にも続く城塞、14本の塔、立派な武器庫などは、トルコ軍の襲撃の備えたもの。列車の窓からも眺められるこの城は、まるで陸にあがった車庫のようだ。

NO : 29 城郭都市マーストリヒト 城郭都市(自由都市)・平城・自由都市 1229年****オランダ王国 (Maastricht, Limburg)

①1204年にブラバント公国が領有権を奪還するとこの町に都市権を与え、1229年には最初の城壁が完成し、14世紀には二重の城壁を持つ強固な要塞都市となった。1579年にはスペイン王の命を受けたアレサンドロ・ファルネーゼによる攻略により、マーストリヒトを含む南部10州はгент講和条約に基づきスペインの統治を受けることになる。その後、フランスと結んだオラニエ公が1632年に街を奪還したがマーストリヒトはネーデルラント連邦共和国の一部とならず、その後のブラバント公国とリエージュ司教領の二重支配は、1794年のバタヴィア革命によるフランスの傀儡政府による支配を受けるようになるまで続いた。1830年にベルギー独立革命が起こり、周辺の都市がベルギー側に帰属するようにもマーストリヒトはオランダ側に残ることを選択した。1831年に列強の合意によりリンブルフ州の東部がオランダに、残り全てがベルギーに帰属することが決定されたが一部でこの分割に反対する者が居たため最終的に1839年のロンドン条約にて帰属が確定した。

②地獄の門(Hellpoort)1229年に構築されたかつての城門。その後、火薬庫や芸術家のアトリエとして使われていたこともあった。現在でも城壁を貫通する門として機能している。オランダに現存する最も古い城門でもある。

③マーストリヒトはオランダで最も古い町であるといわれているが、オランダで最初にローマ帝国から都市権を得たのはナイメーヘンである(西暦98年)。マーストリヒトはその500年前よりケルト人が造った町が存在していたが、ローマ帝国から都市権を得たことは無かった。マース川沿いの河港都市。ドイツとベルギーの国境線にも近く、EU(ヨーロッパ連合)に関する条約であるマーストリヒト条約はこの基礎自治体で締結された。名前の由来は、ラテン語のマース川の渡河地点(Trajectum ad Mosam)であると言われている。

NO : 30 ティリンスのアクロポリス★ 城郭都市(ポリス)・平山城・ポリスとアクロポリス -14世紀****ギリシャ共和国 (Acropolis, Tiryns)


①青銅器時代の始まりから7000年間の間、丘砦だった。絶頂期は紀元前1400年から紀元前1200年の間だった。最も注目しているのは、宮殿、サイクロプ式(巨石積み)の地下道、それにホメロスに「強力に囲まれたティリンス」と添え名させた壁である。

②ティリンス発掘のプラン有名なティリンス宮殿のメガロン(Megaron)は大きな客間と主室を有している。主室は、右壁に玉座があり、中央には屋根を支える四つのミノス様式の木の柱と、その柱に囲まれた炉床がある。メガロンの三つの壁のうち二つは、後のアルカイック時代(en:Archaic period in Greece. 紀元前750年-紀元前480年)に作られたヘーラー神殿に取り込まれた。

③古代、ティリンスはヘラクレスにまつわる神話と結びついていて、いくつかの言い伝えでは、ティリンスがヘラクレスの生地であるとされている。

NO : 31 パラミディ城(ナフプリオン) 城郭(要塞)・平山城・領主の城 14世紀****ギリシャ共和国 (Palamidi castle, Nafplio)


①ナフプリオ はギリシャのペロポネソス半島北東部にある都市。この町には1829年から1834年までギリシャの首都がおかれており、初代大統領のイオアニス・カポディストリアスはこの町で暗殺された。ナフプリオの付近には古代から集落が形成されていたが、現在ではほとんどその跡を見ることはできない。町はこれまで7度にわたって要塞化された。1回目は東ローマ帝国によるもので、第4回十字軍の占領に占領された。その後1377年に、ペロポネソス半島の多くの港湾都市と同様にヴェネツィアによって占領され、15世紀後半には港の沖の小島にブルジョアが建設された。その後オスマン帝国との間で互いに占領を繰り返し、1377年、ヴェネツィアが町の郊外の200mほどの丘に建設したパラミディ要塞が陥落した後はオスマン領となった。ナフプリオの陥落以後、ヴェネツィアの勢力は次第に弱まっていった。

②長くオスマン領となっていたギリシャで1821年に始まった独立戦争では、パラミディ要塞にテオドロス・コロコトロニス率いるギリシャ軍が立てこもり、一年以上にも渡って奮戦した。独立が決定すると1834年にアテネに移るまで、ナフプリオは独立ギリシャの首都に選ばれた。この時期に町の広場で初代首相のイオアニス・カポディストリアスが暗殺されている。

NO : 32 ミケーネのアクロポリス★ 城郭都市(ポリス)・平城・ポリスとアクロポリス -1450年****ギリシャ共和国 (Acropolis, Mycenae)


①ミケーネ(Mikenae)はギリシャ・アルゴリア県の都市。ペロポネソス半島東部に位置する。1872年に、ハインリッヒ・シュリーマンによって遺跡が発掘され、古代ギリシア以前の文明が発見された。これは、この地の名をとってミケーネ文明と呼ばれる。ミケーネの遺跡は、獅子門、円形墳墓A、王室、アトレウスの墳墓が有名で、そのいずれも巨大な切り石を用いた建築である。ミノア文明のものに比べ、これらは非開放的で求心的、かつ重装備である。

②紀元前1450年頃、アルゴリス地方で興り、ミノア文明と同じく地中海交易によって発展した。ミノア文明との貿易を通じて芸術などを流入し、ついにはクレタ島に侵攻、征服したと考えられる。このころ、ミケーネはトロアスのイリオスを滅ぼし(トロイア戦争)、後にこれをホメロスが叙事詩『イーリアス』の題材としたが、イリオスで大規模な破壊があったことは認められるものの、これが事実かどうかは推察の域を出ない。紀元前1150年頃、突如勃興した海の民によって、ミケーネ、ティリンスが破壊され、ミケーネ文明は崩壊した。

NO : 33 リンドスのアクロポリス★ 城郭(要塞・アクロポリス)・平山城・ポリスとアクロポリス -1世紀0****ギリシャ共和国 (Acropolis, Lindos)


①前10世紀ごろ町は作られ、前300年頃アクロポリスにアテネ神殿等が作られる。島の入口であるロドスの町から62キロほど南の地点にある、リンドスの町は、今でこそ観光と農産物の集散地にすぎない小村だが、古代、ロドスの町が建設される以前には、島内にあった三つの重要都市のなかでももっとも大きな城郭都市であった。その繁栄を象徴するかのように海洋に張り出した約100メートルの高さの峻険な岩山の上に巨大なアクロポリスが築かれた。ここ上る道は北面に一つあるだけで、町を望む天然の要害を成している。ギリシャのアクロポリスの典型的なスタイルといえる。アクロポリスはその後ビザンチン帝国や十字軍の要塞として使用された。

②1309年、ロードス島は聖ヨハネ騎士団(別名・ホスピタル騎士団)に占領され、ロードス島騎士団と称される。1522年にスレイマン1世の大軍に攻囲され遂に陥落した。騎士団の残った者たちはマルタ島へ移っていった。

NO : 34 城郭都市ミストラ★ 城郭(城塞)・山城・東欧の山城 1248年****ギリシャ共和国 (Mystras, Peloponnisos)


①1248年にモネンヴァシアを占領して半島の統一を達成した第4代アカイア公ギョーム2世・ド・ヴィルアルドゥアン(在位1246年-1278年)は1249年、彼らを監視し服属させるための前線基地としてタイゲトス山脈に良好な条件を備えた丘を見つけここに城を築いた。それがミストラの始まりである。

②ミストラの歴史は近隣に立つ古代都市スパルタの歴史と密接に結びついている。古代スパルタは395年の西ゴート族長アラリックの攻撃により崩壊し、間もなくキリスト教都市として再建された。その後、6世紀に始まるスラヴ人の侵入と定住の中、再度スパルタ市は放棄され、市民の一部はシチリア島に移住、別の1団は半島南東端の沿岸にモネンヴァシア市を建設してスラヴ人の波を逃れることになった。

NO : 35 城郭都市ロードス★ 城郭(城塞)・平山城・騎士団 14世紀****ギリシャ共和国 (Rhodos, Dodekanisa)


①14世紀から15世紀にかけて聖ヨハネ騎士団によって拡張され、要塞化が行われた。

②1444年にエジプトのマムルーク船団がロードス島を攻囲。1480年にスルタンのメフメド2世は、メシク・パシャ(Mesic Pasha)に命じて、ロードスへの侵攻。スレイマン1世による第二次ロードス攻囲(1522年)。協定を結び、1523年1月1日をもって騎士団は島を離れ、以降ロードス島はオスマン帝国の支配下に入った。

③ロードス島はクレタ島に次ぐ大きな島である。ロードスの名前の由来はニンフ、すなわち妖精の意味のロードンといわれ、またバラのように輝かしいとのローズからきているともいわれる。その玄関口にあたるのがロードスの町である。現在は島内最大の都市であるが、古代にはこの島にリンドス、イアリュソス、カメイロスの都市が栄えており、ロードスでできたのはずっと新しく、アクロポリスがつくられたのも紀元前5世紀ごろである。

NO : 36 聖ヨハネ城郭修道院（パトモス島）★ 城郭(要塞・教会)・平山城・宗教関連（布教） 1138年****ギリシャ共和国（Manastir iznad Chora, Patmos）



①1088年には、丘の上にあったアルテミスの神殿に代えて、神学者聖ヨハネ修道院が建てられた。1138年には、修道院は城壁の回りに住民が住むことを許可した。これがホーラの始まりである。ホーラは外敵の侵入に備えて要塞化されていった。ホーラ（「主要な町」）は、海賊などの侵襲から聖ヨハネ修道院を守るために建造された要塞都市で、丘の上にある修道院を囲むように形成されている。現存する町並みは16世紀にまで遡るもので、黒ずんだ城壁が特徴的な修道院とは対照的に、ホーラの歴史的建造物群は純白の外観を呈している。

②95年には使徒ヨハネがドミティアヌス帝によってこの島に流されたとされる。ヨハネはこの島でイエス・キリストの啓示を受け、「ヨハネの黙示録」を執筆したと、キリスト教では伝統的に受け止められてきた（歴史的には議論がある）。

NO : 37 城郭都市ドゥブロヴニク★ 城郭都市(自由都市)・水城・自由都市 1358年****クロアチア共和国（Dubrovnik, ?upanija）



①町の起源は古くローマ帝国時代、あるいはそれ以前に遡るとされている。町のイタリア語名ラグーサは、当時のラテン語名ラグシウムに由来する。11世紀頃からヴェネツィア共和国の影響下で発展し、1358年ヴェネツィアのコントロールを脱してラグーサ共和国として自立するようになった。そもそもこの町は後背地であるボスニアやセルビアで産出される鉱石の積出港として栄えていたが、15世紀にオスマン帝国がバルカン半島の内部へと進出してくるとその宗主権を認め、ヴェネツィアがオスマン帝国と度々戦争状態に入りその都度停滞したのとは裏腹に、かつてヴェネツィアが独占的に果たしていた東西交易の中で役割をより確かなものとしていった。

②共和国は1805年にナポレオンにより解体され、1815年以降、オーストリア帝国領ダルマチアの一部となる。さらに第一次世界大戦の結果二重帝国が解体されると、セルボ・クロアット・スロヴェーン王国を経て1929年に成立したユーゴスラビア領となった。ローマ帝国の時代以来、ダルマチアに長く影響力をもったイタリア系住民は、多数派であるクロアチア系住民と同化していく流れにあったが、ユーゴスラビアの独立と第二次世界大戦を経て、その存在は消滅した。

③1991年のクロアチア独立とともにクロアチア領となった。この時起こった内戦ではユーゴスラビア連邦軍の攻撃を受け、かなりの被害が出たが、その後復興し、一時名を連ねた世界遺産の危機遺産リストからも1998年に除外された。

NO : 38 ロッカ・ペンネ（サンマリノ）★ 城郭都市(自由都市)・山城・自由都市 11世紀****サンマリノ共和国（Rocca Penne, San Marino）



①クロアチアからリミニに出稼ぎに来ていた石工のマリーノが、4世紀初頭のディオクレティアヌスのキリスト教徒迫害を逃れて隠れ住んだのが町の起源という伝承があるように、人里離れた急峻な崖の上に発展した城壁都市であり、天然の要害に守られている。そして北側の崖地の上に紋章にもなっている三つの岩、ロッカ・ペンネがある。ペンネとは鳥の羽のことで崖地の上に舞い降りた鳥の羽を連想することから付けられた名前である。塔の上には羽の飾りが掲げられている。一番大きい岩は11世紀に作られ、1400年代に改築されたグアイタ（ほえ猿）岩、中間の岩は13世紀のチェスタ（龍）の塔、城壁の外にあるやはり13世紀のモンターレ（岩）山というようにそれぞれにも名前がついている。

②1463年、近隣リミニのマラテスタ家の侵略に晒されるが独力で撃退、追撃を加え逆に領土を拡大。1631年、教皇ウルバヌス8世より独立を承認される。

③中世のころ、一時チェザーレ・ボルジアに攻略されたこともあるが、その他はあまり攻撃を受けなかった。もともと都市から離れた山中の城であったため、戦略的な価値があまりなかったためと思われる。

NO : 39 シヨン城 城郭(城塞)・水城・十字軍の影響 12世紀****スイス連邦（Chateau de Chillon, Chillon）

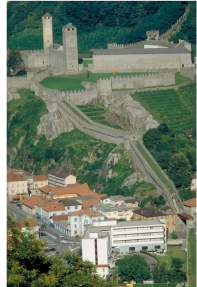


①12世紀から15世紀にかけて支配していたサボイ家が建設。モントルーの町、レマン湖畔の岩盤上にあるヨーロッパでももっとも美しい城の一つである。城の入口は屋根つきの橋で、これを落とすと湖中の岩上の城は水中に孤立する構造になっている。サボイ家は北イタリアの伝統ある貴族で、ヨーロッパの諸王家のなかでも由緒正しい家柄であり、はじめサボイ伯、ついでサルジニア王、さらにイタリア王にもなった。15世紀の末にベルン人の所有となり、修築され、外郭はその後ほとんど手を加えられずに今日にいたっている。

②湖水中の要害であるところから城の起源は古く、紀元前1000年ごろ、すでにケルト人が砦を築いていたといわれている。紀元前58年、シーザーの征服後はローマ駐屯軍拠点があった。ローマの後はブルグンド族の勢力圏に入り、9世紀にシヨンの大僧正の領地となったのち、12世紀にはサボイ家の所有となったが、このころ、現在のスタイルの城が築かれた。その後、城主も替り、近世になって荒廃していたものを19世紀になって詳細な築城データに基づいて忠実に復元したのが現在の建物である。

③モントルー近郊のレマン湖畔にあり、イギリスの詩人バイロンの詩「シヨンの囚人」、「シヨン城詩」の舞台として知られている。

NO : 40 ベリンツォーナの3城★ 城郭(城塞)・平城・領主の城 14世紀****スイス連邦（Castelgrande etc., Bellinzona）



①10世紀から11世紀にかけて、神聖ローマ帝国によって大きく破壊していた元の城壁に代えて、現存するカステルグランデの城壁が築かれ、コモの司教たちに譲渡した。12世紀以降、ベリンツォーナは戦いの中心地となり、城塞もより高く強固なものへと変更された。

②モンテペッコ城は1400年ごろに着工され、15世紀中に完成した城壁は、巡邏路を備えていて3隅に塔を備えている。防衛堅固で、城の中庭へ行くには、二つの門、一つの堀と跳ね橋、さらに落としたり格子を通らねばならない。銃眼のある長い壁と塔に助けられて、都市の要塞化の一翼を担った。サツコ・コルバロ城はベリンツォーナの三つの城の一番高い所にあり、1479年に着工されたが、それから6ヵ月後にはもう都市防衛の準備が整っていた。

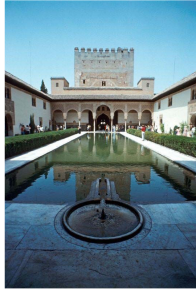
③アルプス山脈の南の深い渓谷の入り口に位置し、13世紀から15世紀にかけて形成された三つの城をもつベリンツォーナは、中世における軍事建築の重要性の例証となっている。また同時に、目まぐるしく支配者が変わったこの町は、ヨーロッパの歴史都市の中でも、時代ごとの人々の要求を絶えず受け入れて発展してきたユニークな例になっている。

NO : 41 グリプスホルム城（マリアフレッド） 城郭(城塞)・平城・ルネサンス様式 1526年****スウェーデン王国（Gripsholms Slott, Mariefuredo）



①1380年頃、要塞としてボー・ヨンソンにより建てられ、彼の一族が代々所有した。1526年、グスタフ1世が城を取り壊し、防衛上の目的から、四方に塔と城壁を巡らせた要塞化した城に建て替えた。

NO : 42 アルハンブラ★ 城郭(要塞・アルカサーバ、城館・ムーア人王朝)・平山城・ナスル朝 1238年****スペイン王国 (Alhambra, Grenade)

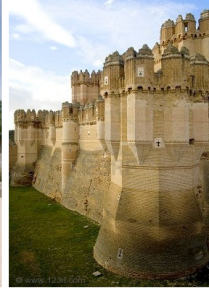


①9世紀末イベリア半島南部を版図としていた後ウマイヤ朝末期の、アルカサーバと呼ばれる岩が原形。ナスル朝(1238年-1492年)の時代にグラナダを首都とし、アルカサーバの拡張工事が行われている。アルハンブラは構造的には一つの城塞都市であるが、当初から全体の形が計画されていたのではない。異なる時代に建てられた様々な建築物の複合体であり、時代により、建築様式や形状などが異なっている。その前半はムーア人王朝の栄枯盛衰と共にあり、9世紀末イベリア半島南部を版図としていた後ウマイヤ朝末期の、アルカサーバと呼ばれる岩が原形であると言われている。

②1718年カルロス1世(カール5世)、この宮殿を自らの帝国の支配の中心地にする考えを持っていたと言われており、カルロス5世の噴水や、カルロス5世の宮殿の建設が始まり(宮殿は完成することはなかった)、モスクは教会へ変えられ、礼拝堂や修道院が建築されている。

る。1830年、フェルナンド7世の大修理で、荒廃していた城も往時の姿をとり戻した。 ③アル・アンドルス様式

NO : 43 コカ城 城郭(城館・フォンセカ家)・平城・イベリア半島 14世紀****スペイン王国 (Castillo de Coca, Segovia)



①14世紀にセビラーの司教アルフォンソ・デ・フォンセカの命によってつくられたというこの城は、材料をすべて煉瓦を使用して築かれている。2代目城主アントニオ・フォンセカは、ムデハル様式で飾られたパティオをルネッサンス風に改築した。

②建築家の名前はわかっていないが、城はほぼ四角形で三重になっている。一番外側の城壁には頑強な側塔があり、数多くの銃眼で武装されている。その内側には六角形の塔の付属した内壁があり、塔の内部は美しい六角形の室になっている。巨大なキープに至るまで城壁は内側にはいるほど、高くなっていて防備の頑強さがわかる。

③ムデハル様式

NO : 44 シグエンサ城 城郭(城塞)・平山城・イベリア半島 1140年****スペイン王国 (Alcazar de Sigüenza, Sigüenza)



①ローマ帝国、西ゴート王国、ムーア人と、数世紀の間に支配者は移り変わった。シグエンサ司教座の歴史は非常に古く、589年に行われた第3回トレド公会議に代表を送っている。イスラム支配下でもキリスト教徒は信仰が保証され、シグエンサ司教座は絶えなかった。しかし、後にシグエンサから人口が流出し打ち捨てられたらしい。カスティーリャ王アルフォンソ6世がこの地域全体を征服した際、征服した都市の中にシグエンサの名が上がっていないからである。再植民が行われた後の1123年頃、初代シグエンサ司教としてベルナルド・デ・セディラクが着任した。1140年3月10日、アルフォンソ7世はシグエンサ司教を、シグエンサの封建領主とした。その後14世紀まで、シグエンサ司教は小規模な司教公領を保持し続けた。シグエンサは第一次カスティーリャ継承戦争において重要な役割を演じた。1355年、ペドロ1世の王妃ブランカ・デ・ボルボーンがシグエンサ城に幽閉された。

NO : 45 セゴビアのアルカサル★ 城郭(城館・アルフォンソ10世)・平山城・イベリア半島 1251年****スペイン王国 (Alcazar de Segovia, Segovia)



①11世紀、カスティーリャ王アルフォンソ6世がトレドを征服したのち、アルフォンソ6世の娘婿ライムンド(レーモン)はセゴビアに司教座を創建し、キリスト教徒を植民させた。中世の終わりにセゴビアは最盛期を迎えた。ゴシック様式の建築物が建てられ、アルフォンソ10世(在位：1251年-1282年)はアルカサルを王室の宮殿に変えた。

②1474年12月13日にイサベル1世はセゴビアでカスティーリャ王位に就いた。

③セゴビアには古代から人が住んでおり、現在のアルカサルの位置にはケルト人の城があった。ローマ時代には、クルニアの行政区に属していた。ローマ時代には「セゴウィア」、イスラム支配期には「シクビヤー」と呼ばれた

が、この名前はおそらくケルト語で「とりで」を意味する。

NO : 46 ベルモンテ城 城郭(城塞)・平山城・イベリア半島 15世紀****スペイン王国 (Castillo de Belmonte, Mota del Cuervo)



①ラ・マンチャ地方の要衝として15世紀に築かれたこの城は、ほとんど完全な形で残っており、スペインの代表的な城の一つに数えられている。六角形の平面プランで、各コーナーには大きな塔が配されており、この大きな塔と塔のあいだにはさらに小さな側面塔が付随している。城の防備はほとんど完全である。いかめしい半円柱状のドンジョン(天守閣に当る)は城門の正面内庭に設けられている。城の窓には装飾が美しくほどこされており、内部にも部分的にはあるが往時の装飾が残っているのを見ることができる。

②もっともスペイン的な城として知られている。ドン・キホーテ遍歴の舞台となった。

NO : 47 城郭都市アビラ★ 城郭都市(城塞)・平山城・イベリア半島 1090年****スペイン王国 (Avila ,Castilla y Leon)

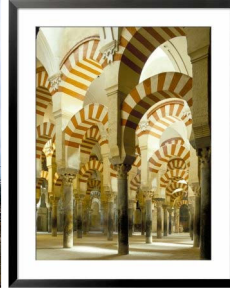


①1090年アルフォンソ6世が奪回した後、王はボルゴナのライムンド伯に命じて9年の歳月をかけて、町を取り囲む大城壁を完成した。

②アビラの市壁は茶色い花崗岩で作られており、上に

胸壁が並んでいる。88の塔と9つの門があり、よく保存されているが、市街の多くは市壁の外に広がっている。司教座が置かれたアビラでは、いくつもの教会建築が名所となっている。ゴシック建築のカテドラルは1107年に遡るとされるが、おそらくは13世紀から14世紀に建てられた。要塞のような外見を持ち、胸壁と二つの頑丈な塔がある。

NO : 48 城郭都市コルドバ★ 城郭(城館・後ウマイヤ朝)・平城・御ウマイア朝 1236年****スペイン王国 (Cordoba, Andalusia)



①古代ローマ時代には、属州ヒスパーニア・バエティカの首都であった。711年、イスラム教徒に征服された。756年に成立した後ウマイヤ朝はコルドバを首都とし、その中心はモスク(メスキータ)であった。10世紀にアブド・アッラフマーン3世とハカム2世の治世で繁栄をとり、大図書館が建てられて多くの学者が活躍した。

②1236年6月29日、カスティーリャ王国のフェルナンド3世に征服された。15世紀末、レコンキスタが完了するとイスラム勢力がイベリア半島から追われ、メスキータもカトリック教会に改装された。

NO : 49 城郭都市トレド★ 城郭都市(城館・カスティーリャ王国、スペイン王国)・平城・西ゴート王国 1085年****スペイン王国 (Toledo, Castilla-La Mancha)



①先史時代から人が住んでおり、ローマの領地となつてからは「トレトゥム」と呼ばれた。西ゴート王国がイベリア半島を支配したのち、560年にアタナヒルド王によって首都とされた。トレドでは400年に第一回トレド教会会議が開かれていたが、西ゴート時代にもたびたび教会会議が開かれた。これによりトレド司教座の権威が高まり、イベリア半島全体の首座大司教座となった。711年、ウマイヤ朝の指揮官ターリク・ブン・ジヤードによって征服され、イスラム支配下に入った。後ウマイヤ朝が崩壊すると、タイファ諸国の一つトレド王国の領域となった。1085年、カスティーリャ王国による長期の包囲のちトレドは降伏し、アルフォンソ6世は5月26日にトレドに入城した。そののちもカスティーリャ王国はムラービタ朝の攻撃からトレドを守り抜いたため、トレド征服はレコンキスタの節目の一つとなっている。1085年、カステリア王アルフォンソ6世がアラブ人の築いた城壁や城郭のあとを修理再建。1561年、フェリペ2世がトレドからマドリッドに宮廷を移す。

②トレド征服以降、カスティーリャ王国やスペイン王国は定まった首都を持たず、トレドは一時的な宮廷の所在地であった。1561年、フェリペ2世がトレドからマドリッドに宮廷を移すと、マドリッドが首都として確定し、トレドはゆるやかに衰退を始め、現在に至っている。トレドのアルカサルは、19世紀から20世紀には有名な軍学校として使われた。1936年、スペイン内戦の初期に、共和国軍によってフランコ軍の守備隊に対するアルカサル攻囲戦が行われた。

NO : 50 スピシュスキー城★ 城郭(城塞)・平山城・東欧の山城 15世紀****スロバキア共和国 (Spišsky Hrad, Spišské Podhradie)



①スラヴ人の城があった場所に12世紀に建てられた。1464年以前は名目上ハンガリー王国が所有し、のちサボイ家、ツルツォ家、ツサースキー家が所有し、1945年にチェコスロバキア政府が接収。1993年以降はスロバキア政府の国有地である。

②城は当初、ロマネスク建築の要塞化された石城で、2階建てのロマネスク様式宮殿と三つの本堂のあるロマネスク・ゴシック建築の聖堂が13世紀半ばに一帯に建てられた。2番目の城壁外居住地は14世紀に建てられ、城一帯は二重となった。15世紀に城は完全に再建されている。城壁は高くされ3番目の城外居住地が建設された。サボイ家は後期ゴシック様式に変え、上階を過ごしやすい家族の住居とし、16世紀と17世紀の典型的な後期ルネサンス様式の住居にした。1780年に城は火災に遭

い、それ以降廃墟と化した。

NO : 51 リュブリャナ城 城郭(城塞)・平山城・東欧の城郭 1144年****スロベニア共和国 (Ljubljanski Grad, Ljubljana)



①6世紀ごろにスラブ民族のスロベニア人がスロベニアに定着して、1144年にリュブリャナ城が初めて言及される。

②1335年にリュブリャナはハプスブルク家の支配下に入った。1461年には司教管区になり、中世にはスロベニア文化の中心地として発展した。ハプスブルク家の支配はナポレオン戦争時に一時的に中断し、1809年から1813年の間、リュブリャナはフランス第一帝政イリュリア州の首都だった。

NO : 52 カレメグダン城(ベオグラード) 城郭(城塞)・平山城・東欧の城郭 1248年****セルビア共和国 (Kalemegdan Fortress, Beograd)



①600年代に白セルビア人による定住が始まる。ベオグラードは戦略的拠点として、町は古代より現代までの間に140回にわたって戦いの場となった。

②1521年、ベオグラードはオスマン帝国に征服され、オスマン領ヨーロッパの重要拠点となった。ベオグラードはオスマン帝国とハプスブルク君主国に交互に支配され、セルビアの首都としての地位を回復するのは1841年のことであった。

③ヨーロッパでも最古の都市の一つであり、考古学的な調査では、同地における人の居住は紀元前6000年紀にまでさかのぼる。「白い街」。

NO : 53 ブラハ城★ 城郭(城館・神聖ローマ帝国ハプスブルク家)・平城・宗教関連(布教) 9世紀****チェコ共和国 (Pražský Hrad, Praha)



①9世紀後半にはブラハ城、10世紀頃にヴィシェヴァト城。1346年にボヘミア王カレル1世が神聖ローマ帝国の皇帝に選ばれ、カレル4世(ドイツ語名カール4世)となると、神聖ローマ帝国の首都はブラハに移された。

②1415年にフスが火刑にされると、フス派によってフス戦争が勃発。16世紀後半、ルドルフ2世の治世になると、芸術や科学を愛する王の下、ブラハに芸術家、錬金術師、占星術師などが集められ、ブラハはヨーロッパの文化の中心都市として栄華を極めた。しかし、1618年にブラハ城で起きたブラハ窓外投擲事件を皮切りにピーラー・ボラ(白山)の戦いが勃発し、31年戦争に発展。1648年、カトリックの最後の牙城だったブラハはスウェーデン軍に包囲されるが、ヴェストファーレン条約が締結され、戦争は終結した。しかし、王宮はウィーンへ移転された。

NO : 54 城郭都市チェスキー・クルムロフ★ 城郭(城館・ローゼンベルク家)・平山城・東欧の城郭 13世紀****チェコ共和国 (Gesky Krumlov, Jihočeský kraj)



①13世紀後半に町と城の建設は、ボヘミアの重要な通商路であるモルダウ川(ヴルタヴァ川)沿いに始まった。1302年、クルマウ(チェスキー・クルムロフ)の町と城は、ボヘミアの有力貴族であったローゼンベルク(ロジェンベルク)家のものとなる。14世紀以降、町では手工業と交易が盛んになった。16世紀、特に領主ウィルヘルム・フォン・ローゼンベルクの時代には、ルネサンス様式の建物が数多く建築され、町は色彩鮮やかな華麗なるルネサンス都市へと変貌を遂げた。
②しかし、町の華やかな装いは裏腹に、ローゼンベルク家の財政は次第に破綻を来すようになり、ついに借金の抵当に入れられたクルマウ(チェスキー・クルムロフ)は、1601年、神聖ローマ皇帝ルドルフ2世の手に渡る。その後、1622年、神聖ローマ皇帝フェルディナント2世は、当時、神聖ローマ帝国全土を巻き込んでいた31年戦争において、財政面を含む貢献のあったエッゲンベルク家にこの町を与えた。この時代に、町にはバロック様式の建築物が加わった。

NO : 55 クローンボー城★ 城郭(要塞)・水城・ルネサンス様式 1580年****デンマーク王国 (Kronborg Slot, Helsingør)



①1580年ころデンマーク王フレデリク2世によって大規模に改築され、ルネサンス風の城館をつくった。
②デーン人、スウェーデン人がこの地に城を建設する前からバルト海の要塞として小さな建築物が作られていた。これを作ったのはヴァイキングだと言われている。中世以後、特に北欧を統一したカルマル同盟によって、カテガット海峡の防衛・通行税徴収の場として更に要塞化され、後にデンマーク王フレデリク2世によって大規模に改築され、現在の建物となった。近年まで城内はデンマーク軍の基地司令部としても利用されていた為、内部はそれほど中世の面影を残していない。
③シェイクスピアの戯曲『ハムレット』の舞台として有名な城であるが、シェイクスピア自身がこの城を訪れたことはない。建物の内部は壮麗だが、とくに「騎士の間」は北ヨーロッパでもっとも奥行の長い部屋といわれる。シェイクスピアの『ハムレット』の城のモデルといわれるが、その城は現存の城の前にあったゴシックの城塞のことと思われる。

NO : 56 フレデリクスボー城 宮殿・水城・ルネサンス様式 1560年****デンマーク王国 (Frederiksborg Slot, castle in Hillerød)



①1560年、フレゼリク2世により建築された。フレデリクスボー城の名は、ここに由来する。しかし現在の宮殿の大部分は、1602年から1620年にかけてクリスチャン4世がオランダ人建築家ハンス・ファン・シュテューヴィンケルとロレンツ・ファン・シュテューヴィンケルに命じて作らせたものである。このオランダ様式が気に入ったクリスチャン4世は、コペンハーゲン内に建築した新しい建物にも、この様式を取り入れた。
②1720年、フレデリクスボー条約がここで締結されている。1850年代には、宮殿は再びフレデリク7世の居城として使用されるようになった。1859年12月16日から17日にかけての夜、王が宮殿に滞在中に火事が発生、宮殿中心部の内装のほとんどが焼失した。再建のための募金が行われ、国王や州も多額の献金を行った。
③現在の城はスカンディナヴィアで最も大きなルネサンス様式の宮殿となっている。宮殿はパラス湖(デンマーク語: Slotsø)に浮かぶ三つの小島の上に位置しており、バロック様式の大きな庭園に隣接している。

NO : 57 ヴァルトブルク城★ 城郭(城塞)・山城・ドイツの領主城 1067年****ドイツ連邦共和国 (Burg Wartburg, Eisenach)



①1067年、テューリンゲン方伯ルードヴィヒが山頂を見て「待て(wart)汝我が城(burg)となれ」と呼び建築を命じたことに由来するとされる。テューリンゲン州にある史跡である。ゲータ街道沿いにあるアイゼナハ郊外の山の上に位置する。
②13世紀ころおこなわれた宮廷詩人たちの歌合戦の様子を、ワグナーが、その作品「タンホイザー」の中にとり入れたことである。いまいつは、マルチン・ルターがこの城にかくれて、1521年から約1年間をかけて新約聖書をドイツ語に訳した史実である。

NO : 58 コーブルク城 城郭(城塞)・平山城・ドイツの領主城 1225年****ドイツ連邦共和国 (Veste Coburg, Coburg)



①1225年の文献に「Sloss」と表記され、その存在が記録され、1200年代の前半に、最初の土台および建物が建設されたと推測される。
②16世紀以降、ザクセン選帝侯の滞在地として使用されるようになり、1530年4-10月にかけてマルティン・ルターがザクセン選帝侯の保護の下、この城塞に居住していた。時代とともに新たに増改築を繰り返し、17世紀には三重の壁が拡充され、19世紀にはザクセン・コーブルク・ゴータ家の歴代公爵により、ガラス工芸、武器・武具、馬車などが収集された。
③ドイツの城を理解する上では必ず見なければならぬ城である。

NO : 59 ハイデルベルク城 城郭(城館・プファルツ選帝侯)・平山城・ルネサンス様式 1225年****ドイツ連邦共和国 (Heidelberger Schloss, Heidelberg)



①前500年頃からケルト人がハイデルベルクの歴史に登場する。彼らは、ハイデルベルクに防衛施設を有する大きな入植地を築いた。ローマ人のハイデルベルクは1世紀から3世紀まで存続した。城は1225年、プファルツ伯オットー・ヴィッテルスバッハによって山上に築かれたが1537年、落雷による火薬庫の爆発で崩壊した。その後、プファルツ選帝侯によって山腹に移築されたが、31年戦争、プファルツ戦争など相つづ戦乱で城は荒廃し、1689年にはフランス軍の攻撃によって大損害をこうむった。選帝侯カールによる修築も中絶したままで現在に至っている。
②1689年にルイ14世の軍によって大同盟戦争(1688年-1697年、膨張政策をとるフランス王ルイ14世とアウクスブルク同盟に結集した欧州諸国との戦争。アウクスブルク同盟戦争とも9年戦争、プファルツ継承戦争ともいう)破壊された。1693年に一部だけが修復された。
③アルプスの北側で最も重要なルネサンス建築

NO : 60 ブファルツ城★ 城郭(要塞・関税城)・水城・ドイツの領主城 1202年****ドイツ連邦共和国 (Burg Pfalzgrafenstein, Kaub)



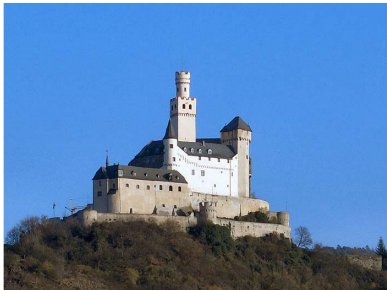
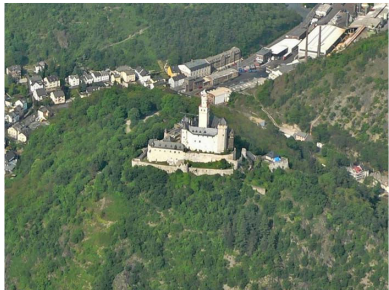
① ライン川の名所として名高いローレライの岩の少し上流にカウプの町がある。このカウプの町が面しているライン川の流れの中の小島にファルツの城がある。急流の中に軍艦のように建った城はファルツグラーフンシュタイン(ファルツ侯の岩)とも呼ばれ、中洲に建てられた川中城である。1202年にはじまる建物は、もともと領主がライン川を通行する船舶から通行料をとりたてる目的をもってつくられた関所のような要塞であった。現在城内にライン川博物館があり、ここに行くには対岸のカウプの町からボートで渡る。ファルツ城の周辺には城が多く、ファルツ城の背後にはグーテンフェルスの古城がそびえており、上流にはシュレーク、ゾーネック、ラインシュタインの城、そして下流にはシェンブルクやブルグカツなどの古城がラインの流れにのぞんでいる。どの城もたびたび戦乱に巻き込まれ、それぞれのエピソードを秘めている。

NO : 61 ブルク・エルツ城 城郭(城塞)・山城・ドイツの領主城 12世紀****ドイツ連邦共和国 (Burg Eltz, Moselkern)



①12世紀、シュタウフェル王朝のコンラッド3世が、モーゼル川流域を手中に収め、コッヘムの城を手に入れたとき、帝国城塞の一つとしてエルツ山中に城を構築させたもので、築城者はトリエールの大司教の被官だったエリヤスで、のちエルツ家と名乗った。
②エルツの城は1356年になって国王カール4世からトリエールの大司教に与えられたが、エルツ家は城主としてこの城に残された。現在のエルツ城の建物は12世紀にはじまったものが16世紀にいたるまでに修理、改築されて残ったものである。城内にはその歴史を物語るように武具、甲冑、美術品その他のコレクションがある。

NO : 62 マルクスブルク城★ 城郭(城塞・関税城)・山城・ドイツの領主城 12世紀****ドイツ連邦共和国 (Marksburg, Braubach)



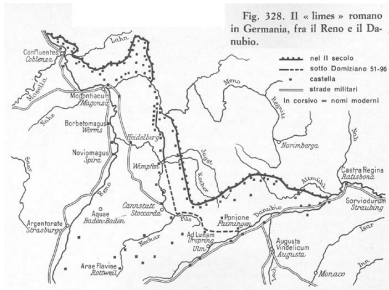
①ブラウバッハに建つ城。ライン地方の城の中で戦乱による破壊を免れ、中世の面影を残す唯一の遺構である。12世紀頃、街の防および税関施設として建設された。エプスタイン家が所有。1866年にはプロイセン王国が所有。1899年、ヴィルヘルム2世によって現所有者の先祖に与えられ、現在に至る。

NO : 63 ライヒスブルク城(コッヘム) 城郭(城塞・関税城)・山城・ドイツの領主城 1151年****ドイツ連邦共和国 (Reichsburg, Cochem)



①1151年、コンラッド1世は、ここに帝国城塞の一つを築いた。そののちはトリエールの大司教に属する騎士の居城になった。
②モーゼル川はフランスとドイツを結ぶ主要航路だったため、その川を支配するためにこの城が建設され、関税城としての役目も担っていた。

NO : 64 リーマスとザールブルク城★ 長城・長城・ローマ時代(長城) 90年****ドイツ連邦共和国 (Limes, Saalburg Fort, Saalburg)



①前2世紀頃から始まり、ローマ皇帝ドミティアヌス。目的としては、ゲルマン民族の侵入からライン川・マイン川流域の肥沃な土地と通商路を守るためであった。
②リーマスの遺構は、主に長城と物見櫓、岩に分けられる。長城の総延長は約550kmで、東はドナウ川から西はライン川まで達する。
③リーマスの城砦の中で調査が行われているものの一つのザールブルク城砦(Kastell Saalburg)は、高地ゲルマニアの部分に属し、城砦の初期は紀元前90年頃の建築と推定され、長方形の形をしており、面積は約0.7haであった。城砦内部には、物見櫓や浴場の跡なども残る。その後の135年頃に拡張され、長さ221m、幅147mの3.2haという広い敷地に四つの城門と、石壁、二重の堀を持つものになった。

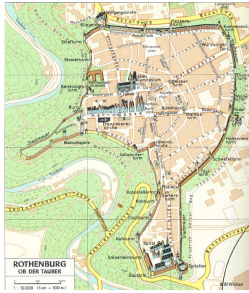
NO : 65 城郭都市ニュルンベルク 城郭都市(自由都市)・平城・自由都市 1219年****ドイツ連邦共和国 (Nurnberg, Bayern)



① ニュルンベルクの町はゲルマン民族の城塞にはじまったといわれる。12世紀にはカイザーブルク(皇帝の城)とブルクグラーフ(城塞伯)の城があったが、1219年ころフリードリヒ2世の代から皇帝直属の自由市となし、神聖ローマ帝国の皇帝は恒久的な首都をもたなかったものもあるので、ニュルンベルクはその意味で固定した皇帝の町であった。10世紀から16世紀にかけてフランケン家からハプスブルク家まで、32人の統治者がこの町の城を受けついで、城はカイザーブルク(皇帝の城)と呼ばれた。第二次大戦で大きな被害をこうむったが、古い城や城壁の大部分が修復された。城は町の北部の丘陵部につくられ、古代風な大円塔を中心に古い建物があり、各時代の歴史を物語っている。長い階段を上って大円塔の上に出ると大連の上部に10個ばかりの窓があり、市街を一望できる。城壁は城の近くでは上部に屋根をもっており、要所に望楼や円塔がある。
②1050年に皇帝ハインリヒ3世のSigena-Urkundeに「Nuorenberg」として記録されている。現在の地名の元となったこの名前は「岩山」を意味している。その後ニュルンベルク城は皇帝の拠点として神聖ローマ帝国で重きをした。
③中世以来、ニュルンベルクはアウクスブルクとともにイタリアとヨーロッパ北部を結ぶ2大貿易都市であった。カール4世は、1356年にニュルンベルクで金印勅書を公布した。勅書では即位後第一回目の帝国議会をニュルンベルクで開催する

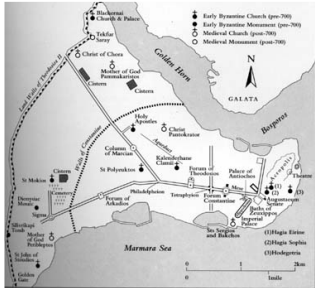
ことと定められ、この慣例は1543年まで続けられた。

NO : 66 城郭都市ローテンブルク 城郭都市(自由都市)・平城・自由都市 1274年****ドイツ連邦共和国 (Rothenburg ob der Tauber ,Bayern)



①970年頃にライニガーという名の東フランケン地方の貴族によって創設された。この貴族が、タウバー川を望む丘の上に (oberhalb der Tauber) 城を建てたことが、現在の地名である“ob der Tauber ”の由来である。このコムブルク＝ローテンブルク伯が断絶する1108年までには、皇帝の城が築かれていた。この伯家の最後の当主となったハインリヒ・フォン・ローテンブルクは、城をコムブルク修道院に遺贈した。
②1274年にローテンブルクはハプスブルク家のルドルフ1世から帝国都市の特権を与えられた。市内には三つの有名な市場が出来、その後の数世紀にわたり街は発展した。1350年には皇帝から徴税権と関税権を認められ、この頃からローテンブルクは帝国自由都市とみなされるようになる。

NO : 67 テオドシウスの城壁 長城・長城・ローマ時代(市壁) 408年****トルコ共和国 (Theodosian Walls, Istanbul)



①5世紀初頭にテオドシウス2世の治世に建設され、イスタンブル旧市街を完全に内側に覆いつくしている大城壁。かつては内壁と外壁の二重構造の上、外側には堀がめぐらされ、さらに1定の間隔で塔が建設されて外敵からコンスタンティノポリスを完全に防衛した。現在は荒廃が進んでいるが、大部分は城壁の原形を十分に保っている。
②In 408, at the beginning of the reign of Emperor Theodosius II (r. 408?450), construction began on a new wall, about 1,500 m to the west of the old. The new wall became known as the Theodosian Wall, and was built under the direction of Anthemius, the Praetorian prefect of the East, being completed in 413. New Rome now enclosed seven hills and justified the appellation Heptalophos ("seven hills"), in imitation of Elder Rome. On 7 November 447 however, a powerful earthquake destroyed large parts of the wall, including 57 towers.
③Employing the city's d'moi (the "Circus factions") in the work, the walls were restored in a record 60 days, according to the Byzantine chroniclers. The chronicles also suggest that at this point, the second outer wall was added, and a wide ditch opened in front of the walls, but the validity of that information is open to question. Throughout their history, the walls were damaged by earthquakes, and repairs were undertaken on numerous occasions, as testified by the numerous inscriptions

commemorating the emperors or their servants who undertook to restore them.

NO : 68 アークェルスフース城 城郭(城塞)・平城・北欧の城郭 1296年****ノルウェー王国 (Akershus Fortress, Oslo)



①1290年代後半、ホーコン5世主導のもとに、貴族・サルプスボリのアルフ・エルリクソンによる、オスロへの攻撃に備えて建設された。
②城塞はスウェーデンの公爵、セーデルマンランドのエリク10世による攻勢が行われた、1308年の戦いで最初に使用された。17世紀初期、クリスチャン4世の統治の下、城塞は近代的に改築が行われ、ルネサンス様式の宮殿として完成した。

NO : 69 ブダ城★ 城郭(城館・ハンガリー)・平城・東欧の城郭 1247年****ハンガリー共和国 (Budai Var, Budapest)



①89年頃ローマ帝国が、もともとケルト族が定住していた現在のオーブダ地区の近くに建設した都市アクウイクムに始まり、アクウイクムは106年から4世紀の終わりまで、ローマ帝国のパンノニア州の州都であった。
②1241年にモンゴル帝国のバトゥの征西軍の侵入を受ける。ベーラ4世の下で、すぐに復旧されたが、1361年にハンガリーの首都となったのはオーブダの少し南に位置し、1247年以来王宮所在地であったブダであった。

NO : 70 スオメンリンナ★ 城郭(要塞)・水城・北欧の要塞 1748年****フィンランド共和国 (Suomenlinna Fortress, Helsinki)



①1748年にスウェーデン＝フィンランドはロシア帝国に対する守りを目的として要塞の建造に着手した。総責任者に任命されたのは、Augustin Ehrensvärdであり、その当初案には当代きっての築城の名手ヴォーバンの思想の強い影響が見られた。
②島の要塞自体に加えて、本土の臨海要塞群が足かりとなる海岸堡を築けないようにしていた。また、計画には駐留スウェーデン海軍とフィンランド分遣隊全体の軍需品の備蓄も盛り込まれていた。フィンランド戦争中の1808年5月3日に要塞はロシア軍に占領され、1809年のロシア軍によるフィンランド占領の足がかりとなった。この時には実害がほとんどなかったが、1855年のクリミア戦争のときには、英仏海軍の爆撃で損害を被った。当初の名前はスウェアボ

リ(Sveaborg, スウェーデンの要塞)だったが、1918年に愛国主義的な理由からスオメンリンナ(スオミの城塞)と改称された。これは、星型要塞の一例である。

NO : 71 アンジェ城 城郭(城館・アンジュ伯、ブランタジネット家)・平城・十字軍の影響 1204年****フランス共和国 (Chateau d'Angers, Angers)



①1204年、この地はフィリップ2世によって征服され、孫のルイ9世によって、13世紀初頭に巨大な城が建設された。外周約600m、17もの巨大な塔で防御され、城壁が25,000 m2の土地を包囲している。
②ケルトの種族であるAndecaviであった。彼らはローマ人に追い払われた。ローマ支配の下、街はユリオマグス("Juliomagus")と呼ばれた。アンジュ伯フルク・ネラは10世紀にここに巨大な城塞を築く。このアンジェの町にはのちイングランド王家となるブランタジネット家の人たちが住んでいて、その宿敵であったカペー家との争いのため、城はこわされ、荒廃した。

NO : 72 アンボワーズ城★ 城郭(城館・プランタジネット家)・平城・ルネサンス様式 1495年****フランス共和国 (Chateau d'Amboise, Amboise)



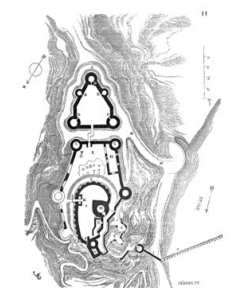
①11世紀に城が築かれた際には、悪名高いアンジュー伯フルク3世が要塞を石で再建した。1495年、2人のイタリア人建築家、ドメニコ・ダ・コルトナとフラ・ジョコンドを雇い入れた。彼らはメイソン(中世の熟練石工組合員)であり、フランス建築では最初のルネサンスの装飾モチーフを、アンボワーズに取り入れた。
②ユグノー戦争中の1560年、ブルボン家の面一によってギーズ公フランソワへの陰謀が企てられた。フロンドの乱の際には刑務所に転用され、ルイ14世の時代には失脚した大臣ニコラ・フーケとローザン公もここに拘留された。
③1492年にフレンチ・ゴシック後期の初めのフランポワイアン様式。1495年、フランス建築では最初のルネサンス。

NO : 73 ヴィトレ城 城郭(城塞)・平城・領主の城 13世紀****フランス共和国 (Chateau de Vitre, Ille-et-Vilaine)



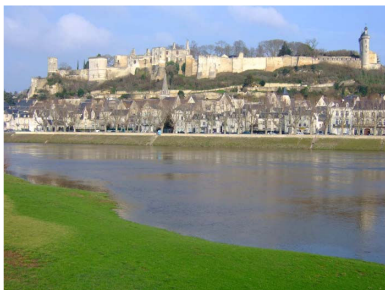
①ブルターニュ公ジョフロワ1世はリワロン・ル・ヴィケールへ封建権力を授けた。リワロンは、与えられたこの戦略的要地をブルターニュ辺境侯領の緩衝地帯として維持するのに努力した。小さな木造のモット・アンド・ベーリー式の城が小高い丘(サント＝クロワ丘)の上に建てられた。
②13世紀、城は拡大され、頑丈な塔とカーテン状の壁が装備された。城は露出の三角形の場所を結合し、フィリップ2世の城の様式を踏襲した構造で建設された。都市は防衛用塁壁と堀で囲まれた。この時代には現在のかたちをとった城塞都市であった。ヴィトレ男爵は、城塞都市周辺の特権自治体建設を指揮した。三つの自治体は、ヴィトレの現在の近隣コミュニティの通りの線状レイアウトをはっきりとさせた。13世紀以降、ヴィトレは伝統的な中世都市の要素全てを結合させた。要塞状の城、宗教施設、神学校、郊外である。

NO : 74 ガイヤール城 城郭(城塞)・山城・十字軍の影響 1196年****フランス共和国 (Chateau Gaillard, Les Andelys)



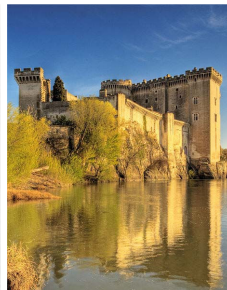
①1196年、イングランドの『獅子心王』の異名をもつリチャード1世によって構築された。1203年仏王フィリップ2世は、1203年にこの城を攻め落とす。
②要害の地形、戦略的な構造から難攻不落の城といわれ、その城攻めの物語とともにヨーロッパの城郭史、戦史に特筆されている。

NO : 75 シノン城★ 城郭(城館・シャルル7世)・平山城・十字軍の影響 12世紀****フランス共和国 (Chateau de Chinon, Chinon)



①954年、ブロワ伯爵テオバルド1世の拠点として築城。12世紀プランタジネット朝アンジュー王家出身のイングランド王ヘンリー2世。長さ1,300フィート以上、幅250フィート、高さ115フィート(14世紀の時計塔)という巨大な城の建築ほぼすべてに関わっている。
②1307年に起こった Templar 騎士団の弾圧の際、騎士が抑留され拷問された。15世紀初期、シノン城はフランス王太子(のちのシャルル7世)の居城となった。ジャンヌ・ダルクが1429年3月8日にシノン城を訪れる。

NO : 76 タラスコン城 城郭(城塞)・平城・十字軍の影響 1401年****フランス共和国 (Chateau de Tarascon, Tarascon)



①川沿いにあり、現在のものは1401年にアンジュー公ルイ2世が建造に着手したものである。建造は長男ルイ3世が引き継ぎ、次男ルネが1447年に完成させた。落成者の名を探り、この城はしばしば「ルネ王の城 (le chateau du roi Rene)」と呼ばれている。城は17世紀以降、国有になる1932年まで軍用の牢獄に転用されていた。
②1481年にフランス王国に併合されるまで、プロヴァンスは独立の伯国であった。そしてプロヴァンス伯はこのタラスコン城とエクス城とを本拠にしていて、中世文芸史に名高いプロヴァンス文芸の黄金時代は、これらの二城を舞台として花を開きました。したがって歴史的な話題も豊富です。フランス王国に合併されて、一国の君主としてのプロヴァンス伯の居城ではなくなったことが、逆に言えばこの城をずっと牢獄にしておくことを可能にし、中世そのままの状態が保存されたといえましょう。

NO : 77 ディフ城 城郭(要塞)・水城・水辺の要塞 1524年****フランス共和国 (Chateau d'If, Marseille)



①1524年から1531年海からの防御拠点とするために、フランソワ1世の命令により建設された。
②(マルセイユ要塞)シャトー・ディフはその孤立性と付近の海流から脱獄が困難であるため、政治犯や宗教者を収容する牢獄として利用されるようになった。

NO : 78 フジエール城 城郭(城塞)・平山城・十字軍の影響 1173年***フランス共和国 (Chateau de Fougères,Fougères)

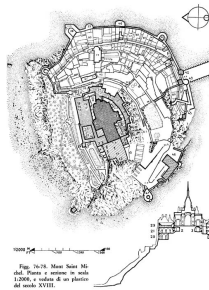


①花崗岩の岩棚上に建つ中世の要塞である。これはフランスの侵略に対するブルターニュ公国の防御システムであり、ヴィトレの要塞を含んで3箇所あった。フジエールは、ブルターニュに3箇所ある鐘楼の一つがある。鐘楼の位置は、週末開かれる市場の中心となっている。1397年に建てられた鐘楼は、地元商人たちによって集められた基金でつくられた。かつては教会の保存は貴族に許されていたが、この鐘楼は庶民が建設を許されたということを示している。相当な大きさの城壁は、下町にある城から伸びて上町周辺の丘の上に至る。下町の市民は防衛設備の外におり、トラブルが起きたときには要塞の中へ避難しなければならなかった。

②Le premier chateau-fort qui appartenait au XIe siècle a la famille d'Amboise a été ruiné en 1166 après avoir été assiégé et pris par Henri II Plantagenet. Il a été démantelé et son donjon

rase. Raoul II le reconstruisit vers 1173.

NO : 79 モン・サン・ミッシェル城郭修道院★ 城郭(要塞・教会)・水城・宗教関連(布教) 966年***フランス共和国 (Mont Saint-Michel, Normandie)



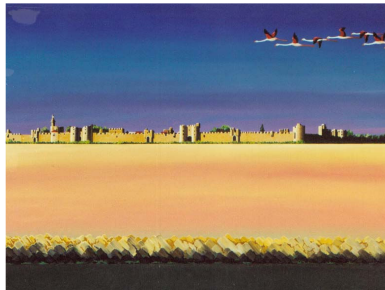
①966年にはノルマンディー公リチャード1世がベネディクト会の修道院を島に建て、これが増改築を重ねて13世紀にはほぼ現在のようになっている。

②百年戦争の期間は島全体が英仏海峡に浮かぶ要塞の役目を果たした。18世紀末のフランス革命時に修道院は廃止され1863年まで国の監獄として使用され、その後廃止したが、ヴィクトル・ユゴーの紹介がナポレオン3世を動かし、1865年に再び修道院として復元され、ミサが行われるようになった。

③主要部はゴシック様式だが、内部はさまざまな中世の建築方式が混ざり合っており構成されている。教会堂はカロリング期の様式で、身廊はノルマン様式(11〜12世紀)、百年戦争後の1421年に破壊されたロマネスク様式の百年戦争後の1421年に破壊されたロマネスク様式の百年戦争後の1421年に破壊されたロマネスク様式(15世紀半ば〜16世紀初頭)として再建された。これら周囲を13世紀の重層構造の修道院建築と13〜15世紀の軍事施設が取り囲んでいる。ゴシック・リヴァイヴァル建

築の鐘楼と尖塔は1897年に完成した。

NO : 80 城郭都市エグ・モルト 城郭都市(要塞)・平城・南仏の城 1289年***フランス共和国 (Aigues-Mortes, Languedoc-Roussillon)

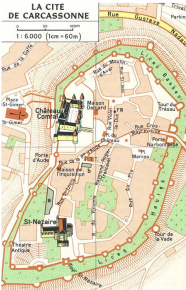


①The foundation of the city is attributed to Marius Caius, around 102 BC, but the first document mentioning a place called "Ayga Mortas" (dead waters) dates from the 10th century AD. Louis IX of France (Saint Louis) rebuilt the port in the 13th century as France's only Mediterranean port at that time. It was the embarkation point of the Seventh Crusade (1248) and the Eighth Crusade (1270).

②The 1,650 meters of city walls were built in two phases: the first during the reign of Philippe III the Bold and the second during the reign of Philippe IV the Fair, who had the enclosure completed between 1289 and 1300. The Constance Tower, completed in 1248, is all that remains of the castle built in Louis IX's reign. It was designed to be impregnable with six-meter thick walls. A spiral staircase leads to the different levels of the tower.

③From 1575 to 1622, Aigues-Mortes was one of the eight safe havens granted to the Protestants. The revocation of the Edict of Nantes in 1685 caused severe repression of Protestantism, which was marked in Languedoc and the Cévennes in the early 18th century by the "Camisard War".

NO : 81 城郭都市カルカソンヌ★ 城郭(城館・トランカヴェル家)都市・平山城・南仏の城 1130年***フランス共和国 (Carcassonne, Languedoc-Roussillon)



①1082年には、トランカヴェル家が権力を握り、カルカソンヌからニームに上る広大な公国のなかで、都市をまとめあげていた。1130年には、トランカヴェル子爵は城の建造に着手させる一方、ガロ・ローマン期の城壁の修繕を命じた。この時初めて、カルカソンヌは完全な城壁に取り囲まれた都市となったのである。

②紀元前6世紀以降、この一帯にはガリア人が進出した。そして、のちに古代ローマ帝国の都市として発達した。この頃の城塞都市(オビドゥム)の面影は、残存する図面などから窺い知ることが出来る。725年から729年にはシテはムスリムの手に落ちたが、ピピン3世が奪還した。街の名前カルカソンヌは、カール大帝がこの都市の攻略をあきらめ退散するときに、当時街を治めていた女性カルカス(Carcas)が勝利の鐘を鳴らした(sonner)ことに由来する。

③都市は、カタリ派の拡大に対してインノケンティウス3世が命じたアルビジョワ十字軍という形でカペー朝の歴代国王たちの侵攻を受け、1209年には十字軍による攻囲も受けた。

NO : 82 ババ・ヴィダ城 城郭(要塞)・平山城・東欧の山城 1356年***ブルガリア共和国 (Baba Vida Fortress, Vidin)

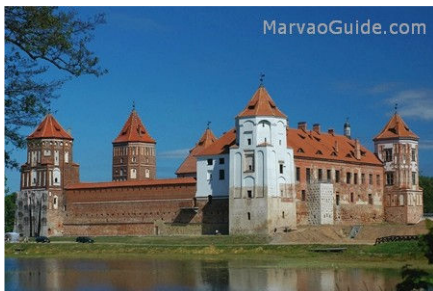


①10世紀から14世紀、ブルガリアの重要な都市であり、主教座が置かれ、地域の中心地であったヴィディンに第一次ブルガリア帝国(皇帝サムイル)によって作られた。

②1356年、ブルガリア皇帝のイヴァン・アレクサンダル・アセンはヴィディンをブルガリア本国から切り離し、彼の息子を都市国家ヴィディン王国(Vidinsko tsarstvo, en)の君主とした。1365年、ヴィディン王国はマジャル人の十字軍に占領された。

③古代ローマ人の要塞化都市ボノニア(Bononia)が建造された。町はやがて、ブルガリア北西部とセルビア東部に位置し46年まで続いた上モエシアの重要な拠点となった。

NO : 83 ニャスヴィシュ城★ 城郭(城館・リトアニア大公国)・平城・ルネサンス様式 1568年***ベラルーシ共和国 (Nesvyžius, Mir)



①15世紀末から16世紀初めにかけてミール村付近ゴシック様式の城として建設された。1568年に城はリトアニア大公国の大貴族であるラジヴィウ家の手に渡り、ルネサンス様式の城として完成させた。その後、城は放棄され更にナポレオン戦争で損傷を受けたが、19世紀末には修復を受けた。第二次世界大戦の間、城はドイツ軍に接収されゲットーとして使用された。ネスヴィジ城(Nesvyžius)は、ベラルーシのネスヴィジ(Nesvizh)にあるラジヴィウ家の居城として建てられた城郭建築である。

②その後、元の持ち主からもロシア軍からも見捨てられた城は、次第に朽ちていった。しかし、ラジヴィウ家の手に再び渡ると、1881年から1886年にかけて、当主アントン・ヴィルヘルム・ラジヴィウ(Antoni Wilhelm Radziwiłł)とそのフランス人妻マリー・ド・カステラヌによって、内装の復元作業が行われた。彼らはイギリス風の風景式庭園をデザインしたが、面積1 km²を超えるこの庭園は、今日でもその種の庭園のなかでヨーロッパ最大級である。

NO : 84 ディナン城 城郭(要塞)・平山城・実践的な砦 1468年****ベルギー王国 (Citadelle Dinant, Dinant)



①870年、西フランク王シャルル2世は、ディナンの一部をナミュール伯管理下に与え、残りをトンヘレン司教(当時はリエージュ)管理下へ与えた。11世紀、神聖ローマ皇帝ハインリヒ4世は、市場と裁判権を含むいくつかの特権を、リエージュ司教領ディナンへ授けた。
②ミューズ川の軍事要所に位置することから、公然の敵から常ではないがディナンは戦闘と略奪にさらされた。1466年、ブルゴーニュ公フィリップ善良公(リエージュ司教公ルイ・ド・ブルボンの叔父)と、フィリップの嫡子シャルル勇胆公は、ディナンで起こった反乱を、800人の市民をミューズ川へ投げ込むことで懲らしめ、市に火を放った。ディナンの経済的競争相手は、ミューズ川対岸を下った地点にあるブヴィニユであった。

NO : 85 フランドル伯城(ヘント) 城郭(城塞)・平城・十字軍の影響 1180年****ベルギー王国 (Gravensteen, Ghent)



①バイキングの侵入に対抗するために、848年頃にボードワン伯爵が建てた城砦が起源で、1180年フランドル伯フィリップ・ダルザスが再建したもの。シリアにある十字軍の要塞をモデルにしたと言われている。フィリップの父ティエリー・ダルザスは、ブルーージュの聖血礼拝堂に納められている「聖血」を十字軍の遠征で持ち帰ったことで有名な人物。
②The present castle was built in 1180 by count Philip of Alsace and was modelled after the crusaders castles the count encountered while he participated in the second crusade. Before its construction, there stood a wooden castle on the same location, presumably built in the ninth century. The castle served as the seat of the Counts of Flanders until they abandoned it in the 14th century. The castle was then used as a courthouse, a prison and eventually decayed. Houses were built against the walls and even on the courtyard and the stones of the walls were used to erect other buildings. At one time it even served as a factory. At the end of the 19th century, the castle was scheduled to be demolished.

NO : 86 マルボルク城★ 城郭(城塞・ドイツ騎士団)・平城・騎士団 1274年****ポーランド共和国 (Zamek w Malborku, Malborku)



①1274年にドイツ騎士団のバルト海沿岸地方征服の拠点として建設された。
②1306年ごろ、ボヘミア地方の領有権をめぐるポーランド王ヴワディスワフ1世はブランデンブルク人の影響をボヘミアから排除するためドイツ騎士団を傭兵として遠征させた。この遠征の代金として銀300マルクを支払う提案をしたのに対し、ドイツ騎士団は銀1万マルクを要求した。交渉が決裂するとドイツ騎士団はグダニスクを占領した。1410年、ドイツ騎士団とポーランド・リトアニア連合軍の決戦がタンネンベルクで行われ、ポーランド・リトアニア連合の軍が決定的勝利を収め、ドイツ騎士団総長ウルリッヒ・フォン・ユルギンゲンは合戦中に農民兵によって殺害され、ドイツ騎士団の高位の者もほとんどがここで命を落した。敗走した騎士団員は、ハインリッヒ・フォン・ブラウエンを新総長とし、ドイツ騎士団の防衛の要であったマルボルク城(マリエ

ンブルク城)に立て籠もった。

NO : 87 サン・ジョルジェ城 城郭(城館・ポルトガル王)・平山城・イベリア半島 13世紀****ポルトガル共和国 (Castelo de Sao Jorge, Lisboa)



①12世紀後半のムーア人侵入を持ちこたえたリスボンは王国の首都として拡大し、1255年に王宮となった(アルカソヴァ城Alcavovaの名前で呼ばれた)。1300年代にはディニス1世が大改修を行った。
②1373年から1375年にかけて、フェルナンド1世が新たにリスボンを取り巻く城壁をつくらせた(セルカ・ノヴァGerca NovaまたはフェルナンディーナFernandinaという)。一部は古いムーア人の城壁と取り替えられ、かつて防御のない部分だったところを取り囲むように設計された。77の塔、周辺は5,400メートルで、わずか2年で建てられた。14世紀後半には、ポルトガルはカスティーリャ軍の侵襲に立ち向かった。
③王宮として、城はインド航路開拓者ヴァスコ・ダ・ガマを歓待するのに使われた。城では1502年に劇作家ジル・ヴィセンテの『モノローゴ・ド・ヴァクエイロ』がマヌエル1世の嫡子ジョアン(のちのジョアン3世)の誕生を祝い上演された。

NO : 88 ドス・ムーロス城(シントラ)★ 宮殿・平山城・イベリア半島 1415年****ポルトガル共和国 (Castelo dos Mouros ,Sintra)



①山の上には、かつてアラブ人の築いた櫓をめぐる長城風のエストラモドラ(モロ)の城壁があり、その横つぎのけわしい山の上にベナの城がつくられている。1415年頃から始まったジョアン1世が後援した建設計画で建てられた。19世紀後半にかけポルトガル王家が住み続けており、ポルトガル国内で最も保存状態の良い中世の王宮である。
②モロの城はかつてのアラブ支配時代、アラブ人によってつくられた長城で、山頂を囲むようにめがけられた石造城壁の大部分が現在もよく残っている。長城は、城壁と、移動のための廻廊、兵士の拠点としての城塔から成り立っており、けわしい峰と峰とを結びながら巉々とした石の岩である。ところどころに塔があり、要所には兵士の待機のための石造の部屋が設けられている。
③1493年、クリストファー・コロンブスが、スペイン国王のもとへ航海を続けた際に、突風に巻き込まれ、シントラの岩壁に避難したこともある。ポルトガル国内で、安全な港を探すことができず、このような事態に陥り、他に選択の余地もなく、シントラからリスボン港へ向かった。

NO : 89 城郭都市オビドス 城郭都市(城塞)・平山城・イベリア半島 16世紀****ポルトガル共和国 (Pousada de Obidos,Leiria)



①古代ローマ時代には城砦(じょうさい)が築かれた。イスラム支配の後、1148年アフォンソ・エンリケス(後のポルトガル王アフォンソ1世)が奪還。13世紀にディニス1世の妃イザベルが山間のこの地に気に入り、以降19世紀まで代々の王妃の直轄地となった。城壁に囲まれた街並みには、中世の面影が色濃く残っている。
②オビドスの町は小高い丘陵地の上にあり、その周囲に古い城壁が累々とつながっているが、この城壁はアラブ人によってつくられたものである。アラブ人から奪回された後、城郭都市の形態はそのまま受けつがれ、13世紀のサンチニ1世、14世紀のフェルナンド王、16世紀のマヌエル王の時に補修・改築されている。町の中では白く塗られた古い家々が狭い道をはさんで並び、町の一角にキープをもった城がある。キープは14世紀のもので、城内の扉や窓にはマヌエリック風の建築様式がうかがえる。

NO : 90 城郭都市ヴァレッタ★ 城郭都市(城塞)・水城・騎士団 1565年****マルタ共和国 (Valletta, Malta)



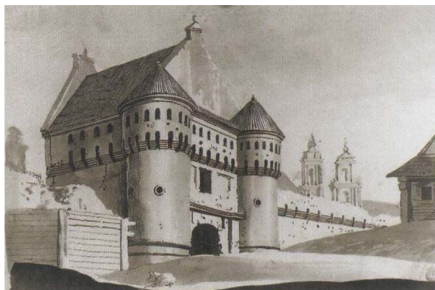
①1565年のマルタ大包圍戦が終わってすぐ後に、聖ヨハネ騎士団総長ジャン・ド・ヴァレットはシペラス半島上に新都建設を決めた。計画都市として都市設計は、フランチェスコ・ラバレッリが行い、最も重要とされる建物の多くはジェローラモ・カッサールが建設した。
②第二次世界大戦中のナチス・ドイツやイタリア軍の空襲で多くは損傷した。

NO : 91 城郭都市リガ★ 城郭都市(城塞)・平城・北欧の城郭都市 1282年****ラトビア共和国 (Rīga, Baltijas valstis)



①2世紀には見られる。長くヴァリャーグによる東ローマ帝国への交易ルートとして、ダウガヴァ川は古来より利用されており、河口から15キロに広がるリガは、天然の良港であった。
②1200年に東方十字軍を組織しリヴォニアに侵攻、23隻の軍艦と1500人の十字軍兵でリガを制圧し、リウヴ人の服属と改宗を行った。1202年に、アルベルトは、刀剣騎士修道会をリガで創立。以降、リガはバルト海とロシアの中継貿易拠点として重きをなしていく。1282年にはハンザ同盟に加盟。経済発展の地歩を固めるが、同時にリガの繁栄は侵略者を招くこととなる。1522年には、プロテスタントを受容。1561年のドイツ騎士団の解散で、それ以後の20年間は帝国自由都市となる。

NO : 92 城郭都市ヴィリニウス★ 城郭(城館・リトアニア大公国)・平城・北欧の城郭都市 13世紀****リトアニア共和国 (Vilnius, Vilniaus apskritis)



①13世紀リトアニア大公国の王ミンダウカスの居城。ゲディミナス朝の中興の祖・ゲディミナスによって公国の領土は、ベラルーシ、ウクライナ、そしてドニエストル川全域、さらにはポーランドやロシアの一部にまで拡大したが、ヴィルナ川とネリス川という二つの航行可能な河川が流れ、森林と湿地に守られたヴィリニウスは公国の統治・防衛に好都合で、首都として機能するようになる(1323年、ゲディミナスがローマ教皇ヨハネス22世に宛てた書簡に都として名前が登場する)。

NO : 93 ファドゥーツ城 城郭(城館・リヒテンシュタイン公)・山城・小国の城 1322年****リヒテンシュタイン公国 (Schloss Vaduz, Vaduz)



①13世紀に街が作られた、と言われる。1322年に城が造られたが、1499年にアレマン系のスイス人による略奪が起こった。
②17世紀に入ると、リヒテンシュタイン家は、帝国議会を設ける都市を求め、1699年にはシェレンベルク男爵領を、1712年には隣接するファドゥーン伯領を購入した。この二つの隣接した所領は1719年、ハプスブルク家の神聖ローマ皇帝・カール6世によって神聖ローマ帝国に属する領邦国家に公認され、リヒテンシュタイン公アントン・フロリアンにちなんで命名された。1938年、ヨーゼフ2世がファドゥーツの城に移り、ここが公

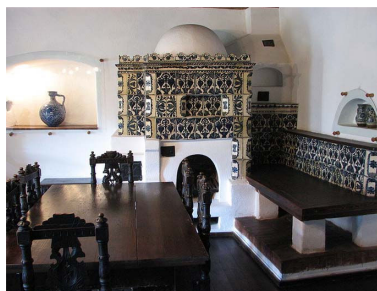
国の首都に定められた。

NO : 94 コルヴィネシティロル城(フネドアラ) 城郭(城塞)・平城・東欧の城郭 15世紀****ルーマニア (Castelul Corvinestilor, Hunedoara)



①14世紀ごろに基礎が作られ、15世紀に活躍したヤンク・デ・フネドアラ(lancu de Hunedoara)によって拡大され、このときにゴシック様式で作りなおされた。その後、持ち主が変わり、城は拡大したが、数度、火事にも見舞われ修復され姿良く現在も残っています。
②フネドアラは、15世紀ハンガリーで活躍した政治家で、トランシルヴァニア公。オスマン帝国の侵攻に対して抵抗し、ハンガリー最盛期の基礎を作ったといわれている。彼の父親が、ハンガリー国王の近衛兵としてトランシルヴァニアのフニャディ(ルーマニア名だとフネドアラ)城を得たときから、この苗字を名乗るようになり、ルーマニアのもう1人の有名人、ヴラド・ツェペシュ(ドラキュラのモデル)の父親ヴラド2世と同世代で、ヴラド・ツェペシュの父ヴラド2世と兄ミルチャが暗殺されたとも言われています。
③東ヨーロッパのゴシック様式建築の最も重要な例ともいわれている城。

NO : 95 ブラン城 城郭(城塞)・平山城・東欧の城郭 1211年****ルーマニア (Castelul Bran, Bran)



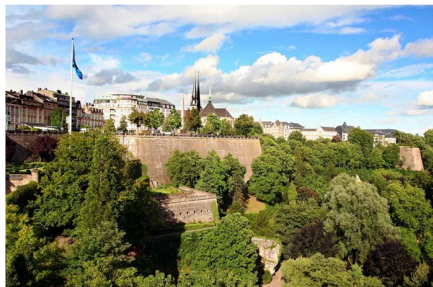
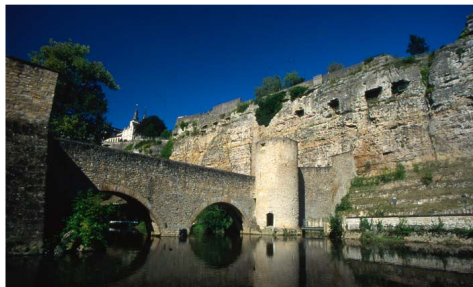
①1211年から1225年の間にドイツ騎士団によって建てられた。建設後ハンガリー王家の所有となり、大方はトランシルヴァニアのヴォイヴォド(Voivode)によって管理され、近くにはトランシルヴァニアとワラキアを結ぶ山道で関税を徴収する場所が作られた。
②1498年、ハンガリー王ヴラディスラフ2世によって、ブラン城はブラショフの市に買収された。その後、1513年からはブラショフ市が所有権を持つ事となった。1920年、ブラショフ市の評議会は、ルーマニア国王フェルディナンド1世の王妃マリアに、1918年12月1日の大ルーマニア統一の実現への彼女の貢献に対する感謝のしるしとして、ブラン城を寄進した。

NO : 96 ヴィアンデン城 城郭(城塞)・山城・十字軍の影響 1123年****ルクセンブルク大公国 (Vianden Castle, Vianden)



- ①12世紀にルクセンブルク大公によって築城されて以来、17世紀にいたるまで、難攻不落の実戦的城塞としての役目を果たしてきた。
- ②ドイツとの国境の町ビヤンデンにある、ルクセンブルクでもっとも有名な、堅固な城塞である。現在、建物の大部分は廃墟となってしまっている。

NO : 97 城郭都市ルクセンブルク★ 城郭都市(自由都市)・平山城・実践的な砦 963年****ルクセンブルク大公国 (Casemates du Bock, Letzebuerg)



- ①963年、アルデンスのジークフリートがこの地を手に入れ、アルゼット川に囲まれた岩だらけの崖地に、堅固なボック城を建設する。12世紀末までには市域は西方に今日のノートルダム大聖堂のあたりまで拡大し、新しい城壁も作られた。ルクセンブルク伯・ヨーハン(盲目王)の時代には新たな要塞も建造された。
- ②ペトリュス川がモーゼル川の支流のアルゼット川に合流する所に位置し、ローマ帝国時代、二つのローマ街道がこの地で交差する要衝点だった。1443年、フィリップ3世のブルゴーニュ公国に征服され、その一部に組み込まれる。その後、スペイン領やオーストリア領の南ネーデルラントとしてハプスブルク家の統治下に入る。この時期に城は繰り返し強化され、ルクセンブルクの要塞は欧州でも最も堅固で壮麗なものとなった。フランス革命戦争ではフランス軍に二度占領される。二度目の戦闘ではフランス軍の包囲を7ヶ月間耐え忍び難攻不落ぶりが有名となった。

NO : 98 カザンのクレムリン★ 城郭(城館・クレムリン)・平城・クレムリン 1552年****ロシア連邦 (Kazan Kreml', Kazan)



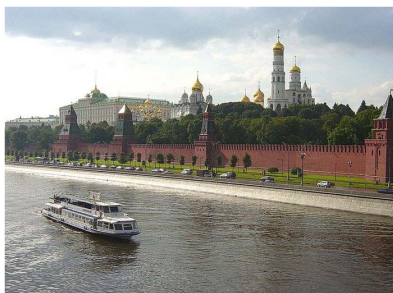
- ①1552年イワン雷帝の侵攻によって破壊された。破壊された城塞の跡に再びクレムリンが築かれ、都市の発展とともに大城郭が形成されていった。
- ②1630年のカザン(アダム・オルレリウス Adam Olearius画)ロシアの領有後、プスコフから派遣されたポストニク・ヤコブレフ Postnik Yakovlev、イワン・シリヤイの率いる建築職人たちは、新たにもとの城塞跡にクレムリンを造営した。

NO : 99 ノヴゴロドのクレムリン★ 城郭(城館・クレムリン)・平城・クレムリン 1478年****ロシア連邦 (Novgorod Kreml', Novgorod)



- ①862年スウェーデン・ヴァイキングのノルマン人・ルス族(ロシアの語源)が首長リュリク(?~879年)に率いられてノヴゴロドを占領し、スラヴ人を征服してロシア最初の国家を建設した。
- ②1478年にノヴゴロド公国はモスクワ大公国によって併合された。1570年この時期のツァーリであるイヴァン4世(雷帝)により町全体における粛清が行われる。

NO : 100 モスクワのクレムリン★ 城郭(城館・クレムリン)・平城・クレムリン 1366年****ロシア連邦 (Moskovsky Kreml', Moskovsky)

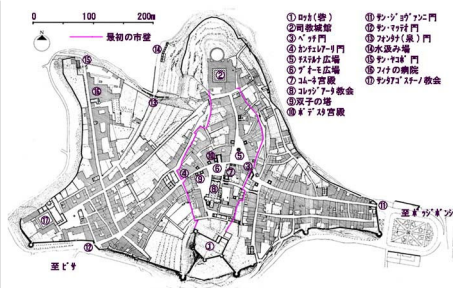


- ①1366年、第4代モスクワ大公ドミトリイ・ドンスコイにより、石造りの城塞として再建された。イヴァン3世時代のモスクワ・クレムリン、アポリナリー・ヴァスネツォフ15世紀後半、イヴァン3世(イヴァン大帝)の治世に、ロドルフォ・ディ・フィオラバンディやマルコ・ルフィーライタリア人建築家により、進んだ築城術が導入され、ルネサンス風に全面改築がなされた。
- ②モスクワのクレムリンは、南をモスクワ川、北東を赤の広場、北西をアレクサンドロフスキー公園によって囲まれたほぼ三角形の形をしている。総面積は約26ヘクタール。城壁に囲まれた構内には、大小新旧様一の宮殿(バラダ)、聖堂建築、20の塔(バーシニヤ)がある。

コラムによる紹介

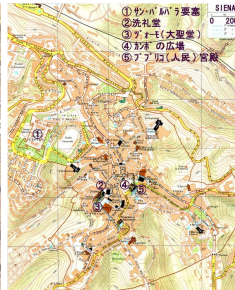
- ① トスカーナの城壁都市
- ② ロワールの宮殿建築
- ③ ドイツの擬古典様式城郭

NO : 101 城郭都市サン・ジミニャーノ★ 城郭都市(都市国家)・平山城・トスカーナの城壁都市 13世紀****イタリア共和国 (San Gimignano, Toscana)



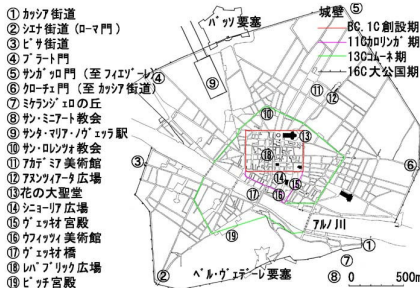
- ① 1150年にコムネとして成立。13世紀に入り街が繁栄したことで、貴族の権力の象徴としての塔建設が次々と行われ、50mを超える物を含む72もの塔が街内に建設された。
- ② ベストの流行と内部での権力争いによって町が衰退し、1353年にフィレンツェ共和国に組み入れられる。
- ③ サン・ジミニャーノはローマ近くフィレンツェから 50km 程南に位置している。街の名前は398年になくなったモデナの司教、聖ジミニャーノからとられた。町の発展はフランチェーナ街道の建設に始まる。地理的にフランチェーナ街道とピサーナ街道の合流地点に位置する流通の主要拠点であり、また、聖ジミニャーノの遺物「指と指輪」が安置された聖堂への巡礼者が多く訪れる街として繁栄した。街は城壁で取り囲まれ、街そのものが祝福であったため芸術家が多く住まい、シエナ派の芸術家を多く輩出している。

NO : 102 城郭都市シエナ★ 城郭都市(都市国家)・平城・トスカーナの城壁都市 1297年****イタリア共和国 (Siena, Toscana)



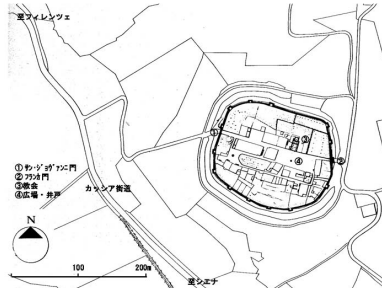
- ① シエナの中心はカンポの広場である。かつては街から少し下がった、カッシア街道に近い原っぱ(カンポ)で、ここに市がたった。その後街の発展に伴い、ここで集会が行われる中心地ようになり、政庁舎(パラッツォ・プブリコ)が建ち(1320)、広場を扇型に囲むように建物ができ1347年には煉瓦舗装と政庁舎前の一帯低い場所を中心に放射状に石の帯で9つに区切られた今の形の広場が整備された。シエナは最後まで共和制が機能したコムネであり、ノーヴェ(9)と呼ばれる9人制の評議会が市の運営を行ったが、9つの区画はその象徴である。

NO : 103 城郭都市フィレンツェ★ 城郭都市(都市国家)・平城・トスカーナの城壁都市 1299年****イタリア共和国 (Firenze, Toscana)



- ① 前59年アルノ川の橋(現在のヴェッキオ橋)を守るようにローマの退役軍人の入植地が作られた。南北350m 東西500mの長方形の城壁を作り、カッシア街道がヴェッキオ橋を経由して街の中央を縦断してフィエゾーレ(フィレンツェ北側の丘の上にエトルリア人が作った街で、ローマに組み入れられた後もこの地方の中心都市であった)に通じていた。城壁の中は基盤目状に区切られ、アルノ川に平行して走る東西の大通りデクマヌス・マクシムスが交差する中央に長方形のフォーラム(広場・現リパブリック広場)がつくられた。
- ② 民族大移動の際には街は何度も破壊や略奪にあうが、アルノ川の渡しという地の利が人を集め、かつての植民市を少しアルノの川の方に少し広げような形の第2の城壁がつくられた。この城壁の北東部の隅の現在のドウオモの地に、1128年サンタ・レパレータ教会ができ、その世紀の末にはコムネが成立し、毛織物工業を中心に街は繁栄の時代をむかえる。1296年、アルノルフォ・ディ・カンビオの設計と監督によりサンタ・レパレータ教会の上にサンタ・マリア・デル・フィオーレ(花の大聖堂)の建設が始まったころには街はフィエゾーレを凌ぐ活気を呈していた。
- ③ ベッキオ宮殿は1299年から1314年にかけてアルノルフォ・ディ・カンビオによって建設され、初めは、フィレンツェ共和国の政庁舎として使われた。都市国家の政庁舎は一般的に塔や狭間を備え、政敵や外敵の攻撃に備えて十分な防御設備を持っており城郭と言ってもおかしくない。特徴的なのは市民の集会のために前面に大きな広場を有している。1550年から1565年の間に、ジョルジョ・ヴァザーリによって部分的に改築された。一時、メディチ家もビッティ宮殿へ移るまでここを住居としていた。現在でも、フィレンツェ市庁舎として使われている。

NO : 104 城郭都市モンテリジョーニ 城郭都市(要塞)・平山城・トスカーナの城壁都市 1214年****イタリア共和国 (Monteriggioni, Toscana)



- ① Il Castello di Monteriggioni fu costruito dai senesi, per ordinanza del podestà Guelfo da Porcari, in un periodo compreso tra il 1214 e il 1219. Il terreno, acquistato dalla famiglia nobile Da Staggia, era la sede di un'antica fattoria Longobarda (la denominazione di Montis Regis probabilmente indicava un fondo di proprietà regale o che godeva di esenzioni fiscali da parte della corona).
- ② この村はフィレンツェの攻撃に備えて、シエナの西側の砦として1203年から1254年にかけて作られた。城壁自体は周囲570mの卵型をした小さなものであるが、丁度カッシア街道を見下ろす位置にあり、防衛上重要な拠点となり、周囲の村々から集められた兵士が立て籠もって何度もフィレンツェ軍と戦った(1391, 1478, 1482, 1526)という記録がある。シエナのトスカナ大公国併合後はフィレンツェ 貴族(ゴリア家、ファブローニ家他)の領地となり、数軒の農家と小さな教会のある寒村となってしまうが、それが逆に城壁の形を守ったといえる。
- ③ シエナの西約15kmにある、モンテリッジョーニは、フィレンツェの外交使節としてシエナに向かうダンテが『王冠のような』と讃えた小村である。カッシア街道からならだかに続く緑の小高い丘の上に、14の塔とそれを繋ぐ城壁が王冠を形作っている。

NO : 105 シャンボール城★ 宮殿・平城・ロワールの城 1519年****フランス共和国 (Chateau de Chambord, Loire)



- ① 1519年フランス王1世によってドメニコ・ダ・コルトナの計画・起工され、1533年に建物は一応でき上がったが、完成したのは起工から20年後の1539年、アンリ2世のとき。
- ② 狩猟用の離宮としてこの城をつくったため、城の備えはまったくない。

NO : 106 シュノンソー城★ 宮殿・平城・ロワールの城 1411年****フランス共和国 (Chateau de Chenonceau,Loire)



①1411年に持ち主のジャン・マルクが扇動罪に問われて、国王軍により火をかけられた。彼は1430年代に、その場所に城と水車を再建した。1515年から1521年にかけて、ポイエは城をいったん壊し、新しい邸宅を建設した。
②ディアヌ・ド・ボワチエ、カトリヌ・ド・メディシス、ルイー・ズ・ド・ロレーヌ＝ヴォーデモン、フランソワーズ・ド・ロレーヌ、ルイー・ズ・デュバン等女の館。

NO : 107 シュリー城★ 城郭(城館・シュリー公爵)・平城・ロワールの城 1281年****フランス共和国 (Sully-sur-Loire,Loire)



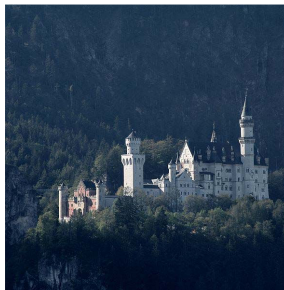
①11世紀初期(ゴール人の時代)ロワール川を渡ることができる貴重な地の一つを支配するために築かれた。1218年には、フィリップ2世が本丸を築いている。
②城塞(chateau-fort)であり、シュリー公はこの地を1602年に購入、庭園と要塞を拡張した。彼は堤防を強化して、ときおり起こる氾濫から町を守ろうとした。百年戦争の最中は重要なフランス軍の基地で、ジャンヌ・ダルクがバターの戦いでイギリス軍を破ったときにはシャルル7世はこの城にいた。

NO : 108 ブロワ城★ 城郭(城館・フランス王家・1598年に宮廷をパリに移すまで)・平城・ロワールの城 14世紀****フランス共和国 (Chateau de Blois,Loire)



①14世紀、オルレアン城主ルイ・ドルレアンが本格的な館を築いて以来、ルイ12世、フランソワ1世、ルイ12世の弟、ガストン・ドルレアンがそれぞれ独自の館を建てたため、現在でもその中庭に立つと、12世紀から17世紀にかけての異なった建築様式の館が周囲をとりまいているのを一望できる。
②1429年、オルレアンからイギリス人に向けて軍を出発させる前に、ランスの大司教から祝福を受けた場所でもある。1576年と1588年の2回にわたってここで3部会が開かれました。
③8角形の螺旋階段で有名なこの建物は16世紀のルネッサンス様式の傑作と言われ、建築家フランソワ・マンサールによって建てられた

NO : 109 ノイシュヴァーンシュタイン城 擬古典様式城郭・山城・擬古典様式城郭 1869年****ドイツ連邦共和国 (Schloss Neuschwanstein,Fussen,Bayern)



①1869年ルドヴィック2世によって建設が開始され、1886年には、なんとか居住できる程度に完成。ノイシュヴァーンシュタインという名は、現在ホーエンシュヴァンガウ城のある地にかつてあったシュヴァンシュタイン城にちなみ1890年になってから付けられた名であり(「ノイ(Neu)」は「新しい」の意)、建設当時はノイホーエンシュヴァンガウ城と呼ばれていた。シュヴァンガウは、「白鳥河口」の意味の地名で、ホーエンシュヴァンガウは、上シュヴァンガウ村のことである。(新白鳥城)
②ルートヴィヒ2世は中世騎士道への憧れを強く抱いた人物で、ワーグナーを庇護し、彼の創作する楽劇の世界に酔いしれた。「私自身の作品」として自分の中世への憧れを具現化するロマンティックな城を造ろうと決意する。このため城全体のグランドデザインを行うよう指名されたのは建築家でも技術者でもなく、宮廷劇場の舞台装置・舞台美術を担当していた画家のクリスチャン・ヤンクであった。ドイツの城館に本来は必ずあるべき小聖堂や墓地がこの城にはなく、玉座を後回しにしてもヴィーナスの洞窟と名付けられた人工の洞窟を造るといった具合で、ルートヴィヒ王の趣味のためだけに建設された実用には向きません城である。
③17年の歳月と巨費を投じてこの城は完成されたが、ここに移り住んで間もなく、王の発狂という名目のもとにバーバリアの国政は叔父ルイボルト公に委ねられ、首相ルッツらは、ルートヴィヒ2世を形ばかりの精神病鑑定にかけ、統治不能としてベルク城に軟禁した。その翌日、王は主治医とシュタルンベルク湖畔を散歩中に謎の死を遂げる。

NO : 110 ホーエンツォレルン城 擬古典様式城郭・山城・擬古典様式城郭 1887年****ドイツ連邦共和国 (Burg Hohenzollern,Baden-Württemberg)



①ツォレルン・アルプ郡のヘヒンゲンの南の海拔855mの円錐形の山にある。現在の城はフリードリヒ・ヴィルヘルム4世がプロイセン王になる前の太子であった時に再建を決めたもので、没後の1867年に完成したものである。
②1218年(または1214年)にツォレルン家は領地の分割を行って長男のコンラート1世がフランケン伯の地位を得て後のプロイセン王国の王家の祖となる一方、次男のフリードリヒ2世はシュヴァーベン伯の地位を得た。
③シュヴァーベンの空中楼閣Castro Zolreについて1267年に言及されていることから、この頃にはツォレルン城はできていてツォレルン＝ヘヒンゲン家の城であった。14世紀にツォレルン家をホーエンツォレルン家と改め、城名もツォレルン城からホーエンツォレルン城となる。この城は1423年には完全に破壊されている。その後再建され、31年戦争では要塞として使用された。

NO : 111 ホーエンシュヴァーンガウ城 擬古典様式城郭・山城・擬古典様式城郭 1853年****ドイツ連邦共和国 (Schlos Hohenschwangau,Fussen,Bayern)



①1832年、マクシミリアン2世は12世紀に建設されたが廃墟になっていたシュヴァンシュタイン城を購入した。そして、1853年にマクシミリアン2世は息子のルートヴィヒ2世のためにこの城を改築した。(高白鳥城)
②ホーエンシュヴァンガウ城には、至る所に中世騎士伝説を描いた壁画が描かれており、「ローエングリン」の壁画も当然そこに含まれている。この城で幼少期を過ごしたルートヴィヒ2世が長じた後、ワーグナーのローエングリンに魅了され、伝説と現実の境界を見失うようになってしまう遠因をここに求める研究者は多い。
③バーバリア・アルプス山中の美しい湖、アルプジーとスワンジー両湖を見下ろすようにそびえているネオ・ゴシック様式のこの城はもともと四つあったシュヴァンガウの要塞の一つであった。

NO : 112 シュトルツェンフェルス城 擬古典様式城郭・山城・擬古典様式城郭 1835年****ドイツ連邦共和国 (Schloss Stolzenfels, near Koblenz)



①13世紀半ばトリアー大司教アルノルトⅡ世・フォン・イーゼンブルクにより建てられた。その後プロイセン王国王子と後の王フリードリッヒ・ヴィルヘルムⅣ世により、17世紀に破壊された城を1835年から再建された。その際、建築家カール・フリードリック・シンケルによる設計でイギリスのチューダー様式（後期ゴシック建築様式）に基づいた「ほとんど屋根がなく、ぐるりとのこぎり壁に囲まれた」型の居城が建てられた。数々の内部の部屋では今日もその卓越した14から19世紀にかけての内装がみられる。

城郭歴史の中で特筆する

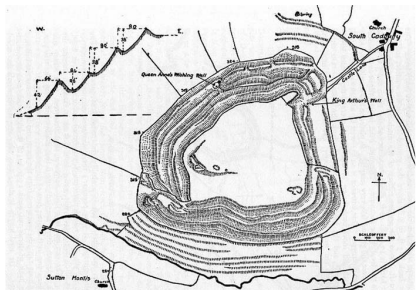
- ①遺跡・遺構
- ②稜堡形式の要塞・城郭都市
- ③言及したい城郭・城郭都市

NO : 113 メイドウン・カースル 防御集落（後期青銅器時代丘砦）・平城・防御集落（ヒルフォート） -5世紀****イギリス (Maiden Castle, Dorchester)



①Maiden Castle is the largest Iron Age hill fort in Europe and covers an area of 47 acres. 'Maiden' derives from the Celtic 'Mai Dun' which means 'great hill'. It is situated just 2 miles south of Dorchester in Dorset. It is truly an amazing place: even a
②The present hill fort as we see it today, was started during the Iron Age around 450-300 BC when the area of the fort was extended and the ramparts and ditches were enlarged. Three ditches were dug, the earth removed being used to build the ramparts. A wooden fence would have been built along the ramparts with wooden gates at the entrances. The entrances were not aligned therefore making it more difficult for opposing forces to gain entry.

NO : 114 サウス・キャドベリーの丘 防御集落（後期青銅器時代丘砦）・平山城・防御集落（ヒルフォート） -4世紀****イギリス (Cadbury Castle, South Cadbury, Somerset)



①前400年代後期青銅器時代と鉄器時代の土塁
②The name Cadbury means Cada's fort and refers to Cadbury Castle, which is immediately to the south west of the village. It is a vast Iron Age hill fort covering an area of around 20 acres (8 ha). The site has seen human occupation from Neolithic times until the late Saxon period. It was famously partially excavated by Leslie Alcock in the 1960s, when, amongst other things, an Arthurian period feasting hall was discovered.
③Since John Leland made reference to local traditions of a connection with King Arthur in the 16th century, there has been widespread speculation that this was the location of Camelot. King Arthur's Well sits at the foot of the hill and the local public house, the Red Lion, was renamed The Camelot when it was remodelled in 2004.

NO : 115 サルミゼジェトゥサ☆ 防御集落（ダキア防御集落）・山城・防御集落（ダキア防御集落） -106年****ルーマニア (Sarmizegetusa Regia,)



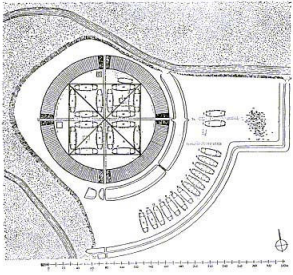
①古代ダキア人による軍事・宗教・政治上の最も重要な古代都市である。1200メートルの高地に建設され、狭隘なオラシュチエ山脈の立地を生かした6箇所要塞群の一つでもあり（なお、サルミゼゲトゥサ以外はブリダル、ピアトラ・ロシエ、コステシュティ、カプルナ、バニツァ）、戦術的な防衛システムが設置されていた。
②101年よりローマ帝国皇帝トラヤヌス率いるローマ軍とダキア王デケバルスのダキア軍との間でダキア戦争が始まった。第二次の侵攻（106年）でサルミゼゲトゥサは陥落して、ダキア全土がローマ帝国の属州となった。

NO : 116 ビスクピン 防御集落（鉄器時代初期の防御集落）・水城・防御集落（鉄器時代初期の防御集落） -12世紀****ポーランド共和国 (Biskupin)



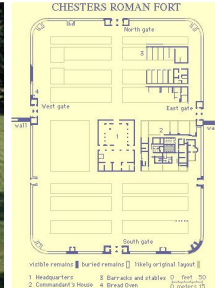
①前1200-400鉄器時代初期の砦および集落。
②ポーランドで最も有名な古代遺跡。遺跡はワルシャワ国立博物館の分館となっており、再現遺跡のほかに博物館棟もある。博物館棟には発掘された遺物や、当時の墳墓の人骨などが展示されている。

NO : 117 トレルボー 防御集落（バイキングの防御集落）・平城・防御集落（バイキングの防御集落） 1257年***デンマーク王国（Trelleborg, Aggersborg他）



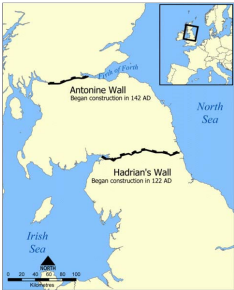
①正式にはTrelleborgといい(バイキングの防御集落) ノンネバックケン、アッガースボー、フィアカットと共に、デンマークにあるヴァイキング時代の円形要塞跡の名前。丸に十字のこの美しい遺跡は、現在デンマークの「文化財マーク」にもなっている。
②The earliest written record of Trelleborg is from 1257, when Trelleborg was presented as a wedding gift from the Danish royal family to the Swedish Prince Valdemar. It was soon reconquered by the Danes, and it belonged to Denmark until 1658, when Scania was lost to Sweden by the Treaty of Roskilde. Aggersborg Viking Castle Aggersborg・Fyrkat・Nonnebakken・Trelleborg (Slagelse)・Borgeby・Trelleborg (Skane)
③In medieval times, Trelleborg had an important part in herring fishing. At that time, this was conducted along the entire coast line of what is now Sweden, as the herring shoals were of such great numbers that fishermen were said to have been able to stand on the shore and land fish with nets. Trelleborg became an important merchant city as merchants from Germany came to trade herring. In 1619 following a devastating fire, the Danish King decided that one merchant city on the coast was sufficient and revoked Trelleborg's status as a merchant city in order to favour Malmö.

NO : 118 チェスターの砦 城郭(要塞)・平城・ローマ時代(長城) 123年***イギリス (Chesters Roman Fort, Walwick Northumberland)



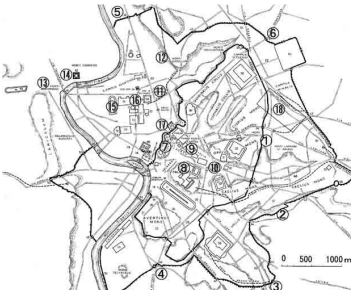
①ハドリアヌスの長城を守る砦として作られた。
②Cilurnum is considered to be the best preserved Roman cavalry fort along Hadrian's Wall. It was built in 123 AD, just after the wall's completion.

NO : 119 ハドリアヌスの長城とアントニヌスの長城★ 長城・長城・ローマ時代(長城) 122年***イギリス (Hadrian's Wall, northern England)



①122年ケルト人の侵入に悩まされていたローマ帝国は、皇帝ハドリアヌスが長城の建設を命じ、に工事が開始される。完成には10年の歳月がかかった。完成当時は、ニューカッスル・アポン・タインからカーライルまでの118kmにも及んだ。壁の高さは4から5m、厚さ約3m。後の方で建設された部分は約2.5mに狭くなっている。完成当初は土塁で、その後石垣で補強されたと考えられている。約1.5kmの間隔で監視所も設置されていた。また、6km間隔で要塞も建築され、要塞には500人から1000人のローマ兵が配備されたと推定されている。
②この長城は文化的境界ではなく、あくまで軍事上の防衛線として建設されたが、スコットランドに対する防御壁として、ローマ帝国の支配が及ばなくなった4世紀後半以後も、17世紀まで使用されていた。このため、イングランドとスコットランドの国境として半ば固定化し、現在のイングランドとスコットランドの境界線にも大きな影響を与えている。
③アントニヌスの長城は142年から144年にかけてローマ帝国によって作られ、クライド湾沿いの古キルバトリック(ウェスト・ダンバートンシャー)からフォース湾沿いのフォールカークまで60キロに及んでいる。164年、ローマ軍はハドリアヌスの長城へ撤退し、アントニヌスの長城は建設後わずか20年で放棄された。

NO : 120 ローマ市壁★ 城郭都市(ローマ帝国)・平城・ローマ時代(市壁) -6世紀***イタリア共和国 (Mura serviane e Mura aureliane, Roma)



① トラヤヌスの城壁
② アルバ・マゲラの城壁
③ ヴァレ・マクシマの門
④ ヴァレ・マゲラの門
⑤ トラヤヌスの門
⑥ トラヤヌスの門
⑦ トラヤヌスの門
⑧ トラヤヌスの門
⑨ トラヤヌスの門
⑩ トラヤヌスの門
⑪ トラヤヌスの門
⑫ トラヤヌスの門
⑬ トラヤヌスの門
⑭ トラヤヌスの門
⑮ トラヤヌスの門
⑯ トラヤヌスの門
⑰ トラヤヌスの門
⑱ トラヤヌスの門
⑲ トラヤヌスの門
⑳ トラヤヌスの門



①前6世紀、王政ローマの第6代の王セルウィウス・トゥッリウス(前4世紀に改修されたもの)によって作られた、ローマを取り囲んでいた防御用城壁である。壁の高さは最高で10mで、基部の幅は3.6m前後、全周は11kmである。16の大門があったとされているが、その多くは文献に記されているだけで、遺構は発見されていない。帝政末期になってゲルマン民族がローマの近くまで迫るようになり、271年から275年、ローマ皇帝アウレリアヌスとプロブスの治世の間に作られたのがアウレリアヌスの城壁である。
②セルウィウス城壁は、アッリアの戦いのころガリア人のプレヌヌスがしばしばローマで略奪を繰り返したため、それを防ぐ目的で建設されたといわれている。第二次ポエニ戦争の際にはハンニバルを手こずらせたほど堅固だった。共和政末期からローマ帝国初頭まで保持された。カンピドリオの丘はセルウィウスの城壁の西側の中心部にあり、古代ローマ時代には、神殿を囲むように城壁が作られ、アルク(城塞)と呼ばれ、防衛上重要な拠点となった。前390年にガリア人に攻め込まれた際には全ローマ人が籠城し半年以上も持ちこたえたという記録がある。ローマの中心であり、現在もローマ市庁舎が位置する。
③アウレリアヌスの城壁はローマの7丘に加えてカンパス・マルティウスやテヴェレ川の右岸であるトラステヴェレ地区を囲んでいる。全周19kmで、13.7平方キロの領域を取り囲んでいる。壁はコンクリートを煉瓦で覆う形で作られており、厚さは3.5m、高さは8mで、100ローマンフィート(29.6m)ごとに塔がある。

NO : 121 アテネのアクロポリス★ 城郭(要塞・アクロポリス)・平山城・ポリスとアクロポリス -9世紀***ギリシャ共和国 (Acropolis, Athens)



①アクロポリスの創設の年代ははっきりしないが、紀元前9世紀ごろと考えられる。前447年、パルテノン再建はペイディアスとイクティノスに委任。前421年にはエレクトイオンの起工。前420年にはペリクレスによって、アテナ・ニケ神殿。
②アクロポリスとは、古代ギリシャの都市国家(ポリス)がもっていた城塞のことである。城塞は通常都市の中央か背後の高地につくられたためアクロ(高い)ポリスと呼ばれたものである、市民は敵に攻撃された場合アクロポリスに避難したが、この構想は城の一つの典型的なスタイルであり、城の本質が住居防備にあったことを示している。現在残っている遺構は高さ150メートル、東西300メートル、南北150メートルの丘を占め、周囲は石壁で固められている。アテネは3回に及ぶペルシャとの戦いに勝利をおさめ、デロス同盟の盟主となると急速に国力を増し、それに従ってアクロポリスの規模も拡大された、しかし、ペロポネソス戦争でスパルタに敗れて以来衰退

し、ローマに攻略されて後、トルコの支配下に入り、アクロポリスも19世紀までトルコ総督の居館に使われていた。 ③ギリシア古典様式

NO : 122 城郭都市パルマノーヴァ 城郭都市(稜堡型)・平城・稜堡型 1580年***イタリア共和国 (Palmanova, Palmanova)



①16世紀末にヴェネツィア共和国の軍事拠点として造られたもので、(日本の5稜郭のように)星型の堀に囲まれており、9つの砲台が置かれた。
②ヴィンチェンツォ・スカモッツィにより計画されたもので、ルネサンスの理想都市の実践例として知られる。

NO : 123 城郭都市ナールデン 城郭都市(稜堡型)・平城・稜堡型 17世紀***オランダ王国 (Gemeente Naarden, Naarden)



①17世紀に築造された要塞の稜堡。
②アムステルダムから東南東約20kmの位置にあり、本土とフレヴォランド干拓地との間のホーイ海に面している。また、ヒルフェルスムを中心とするホーイ地域の一部である。自治体の中心は、稜堡と堀が完全な形で復元・維持されている星型要塞であり、オランダ要塞都市連盟の要塞都市リストにも掲載されている。1522年にホーイ地域で最初に都市権を得たこの街は、繊維産業を主産業とする要塞都市として栄えたが、18世紀にはヒルフェルスムに追い越され、現在では隣のバッセムよりも小さな町となっている。

NO : 124 城郭都市ヌフ・ブリザック★ 城郭都市(稜堡型)・平城・稜堡型 1697年***フランス共和国 (Neuf-Brisach, Haut-Rhin)



①The town's name means New Breisach, referring to the German town Breisach, located on the other side of the Rhine.
②The aerial photography shows the layout of the town built as fortification. The plans were drawn by Marquis de Vauban, a military engineer at the service of Louis XIV. After the peace of Ryswick 1697 and the loss of Breisach to Habsburg, France built this fortified town to guard the border.

NO : 125 ペトロバプロフスク要塞★ 要塞(稜堡型)・水城・稜堡型 1703年***ロシア連邦 (Suomenlahti, Sankt-Peterburg)



①1703年5月16日 建設開始。同日は、サントペテルブルク開基の日でもある。大北方戦争の過程で、スウェーデンから奪った土地を防衛するために築かれた。河口付近のザーヤチ島を高い壁で取り囲むように構築された。
②スウェーデンの脅威が低下した19世紀には、政治収容所としても利用され、一時はバクーニンやネチヤーエフ、ドストエフスキー、レーニンらも収容された。
③現在は、造幣局として利用されているほか、一部は観光客にも開放されており、金箔を用いた豪華なバロック様式の内装などを見学できる。

NO : 126 ケアー城 城郭(城塞)・平城・ゲイトハウス型 1375年***アイルランド (Cahir Castle, island in the river Suir)



①In 1375, the castle was granted to James Butler, newly-created Earl of Ormond, for his loyalty to Edward III. His son James, the second Earl (by his second marriage) passed the lands around the barony of Iffa and Offa West to his children, though they were not themselves noble. This changed by 1542 when the first of the Barons of Cahir was created. Unlike their staunchly Anglican kinsmen, this branch of the Butler dynasty sided with the Roman Catholic Irish in the Elizabethan wars. In 1599 the castle was captured after a three day siege by the army of the Earl of Essex and was for a year put under the charge of Sir Charles Blount.

NO : 127 カーディフ 城郭(城塞)・平城・モット・アンド・ベイリー 1091年***イギリス (, Cardiff)



①The Norman keep was built on a high motte on the site of a Roman castra, first uncovered during the third Marquess of Bute's building campaign. The Norman keep, of which the shell remains, was constructed about 1091 by Robert Fitzhamon, lord of Gloucester and conqueror of Glamorgan. After the failed attempt of Robert Curthose, duke of Normandy, William the Conqueror's eldest son, to take England from Henry I, Robert of Normandy was imprisoned here until his death in 1134.
②The castle, rebuilt in stone, was an important stronghold of Marcher Lords, in the de Clare and le Despenser dynasties, also the Beauchamps Earls of Warwick, Richard of York through his marriage into the Neville family, and the Herbert family, Earls of Pembroke. In the 18th century the castle became the property of John Stuart, 3rd Earl of Bute, who became through his Herbert wife a major landowner in the area, and whose heirs developed the docks that transformed Cardiff from a fishing village to a major coal exporting port during the 19th century.

NO : 128 チェpstow城★ 城郭(城塞)・平城・イギリス領主の城 1067年***イギリス (Chepstow Castle, Chepstow)



①Foundation, 1067-1188: The speed with which William the Conqueror committed to the creation of a castle at Chepstow is testament to its strategic importance. There is no evidence for a settlement there of any size before the Norman invasion of Wales.
②Expansion by William Marshal and Roger Bigod, 1189-1300: Further fortifications were added by William Marshal, Earl of Pembroke, starting in the 1190s. The wood in the doors of the gatehouse has been dated by dendrochronology to the period 1159-89. Marshal extended and modernised the castle, drawing on his knowledge of warfare gained in France and the Crusades. He built the present main gatehouse, strengthened the defences of the Middle Bailey with round towers, and, before his death in 1219, may also have rebuilt the Upper Bailey defences. Further work to expand the Great Tower was undertaken for William Marshal's sons William, Richard, Gilbert and Walter, in the period to 1245.

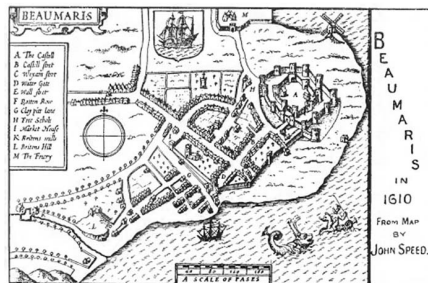
NO : 129 ピカリング城 城郭(城塞)・平城・モット・アンド・ベイリ-型 12世紀****イギリス (pickering.)



①モットアンドベイリー

② イングランドの北部、ヨーク州、ヨークの町の北東約30キロのところにピカリングの城がある。この城は、古いノルマン風の城壁と濠のある城の構造の典型を示していることで有名である。この場合、濠は、ちょうど二つの城壁の間に作られている。円形に盛り上げられた土塁と、その上につくられた塔も残っているが、この塔は古くは木造であった。全体をとり囲む城壁と塔は12世紀から13世紀にかけてのもので、内部には11世紀の古いホールが残骸も見られる。18世紀の風土記作者によると、ピカリングが議会軍に包囲された時のこと、攻撃によって大きな破れ目が城の西側ににつくられ、ついに城は落ちた。陥落後、おびたしい量の金箔で飾った書類や文書が『お城通り』と呼ばれている通りに撒き散らされ、子供たちがそれらのきらきら輝く紙や羊皮紙を争ってひろったという。現在も古い様式を見せるイギリスの城の遺構として貴重な存在である。

NO : 130 ボーマリス城★ 城郭(城塞)・水城・エドワード式集中型 1295年****イギリス (Beaumaris Castle, Beaumaris)



①1295年エドワード1世の築城。

②Beaumaris Castle (beau mareys-beautiful marsh) was the last of Edward I's fortresses in North Wales. Work started in 1295 and continued for 35 years, with over 3,500 workmen employed at the peak of construction. Finances and material ran out when King Edward turned his attentions towards Scotland, and the castle was not completed, although an impressive £15,000. Renowned designer Master James of Saint George, responsible for the construction of Beaumaris, explained the cost:

NO : 131 城郭都市トロギル★ 城郭都市(自由都市)・水城・自由都市 12世紀****クロアチア共和国 (Trogir.)



①前3世紀、ヴィス島からやってきたギリシャ人植民者により植民地トラグリオンがつくられ、大きな港として発展していったが、それは古代ローマ時代までであった。サラナ(スプリト近郊にあった植民都市)の急な繁栄によって、トロギルの重要性は低下した。スラヴ人の移住が始まると、破壊されたサラナの市民はトロギルへ避難した。9世紀から、トロギルはクロアチア王国へ臣従するようになった。トロギルの司教区は11世紀に創立され(1828年廃止)、1107年にはハンガリー及びクロアチア王カールマーニ1世によって特権を与えられ、町として自治権を授けられた。

②1123年、サラセン人によって町全域が征服されほぼ完全に破壊された。しかし、トロギルは短期間で被害から回復し、12世紀と13世紀には力強い経済繁栄を見せた。1420年、長く続くヴェネツィア共和国支配時代が始まった。1797年にヴェネツィアが崩壊すると、トロギルはハプスブルク帝国の一部となり、1918年まで支配された。

③1420年、長く続くヴェネツィア共和国支配時代が始まった。1797年にヴェネツィアが崩壊すると、トロギルはハプスブルク帝国の一部となり、1918年まで支配された。ただし(ナポレオン戦争中の)1806年から1814年の間だけは、フランス軍に占領されていた。第一次世界大戦後、トロギルはクロアチアとともに、セルブ・クロアート・スロヴェン王国の一部となり、その後ユーゴスラビア王国の一部となった。

NO : 132 ヴュフラン城 城郭(城塞)・平山城・領主の城 15世紀****スイス連邦 (Vufflens-le-Chateau, canton of Vaud)



① スイスの東部、レマン湖の北岸には数々の歴史的な町、そして観光地がある。その一つローザンヌはローマ時代以前からの古い町だが、そのローザンヌから北に約15キロ、プウフレンはブドウ畑、果物畑に囲まれた静かな小村である。この村の1隅の小丘にプウフレンの城が建っている。15世紀にはじまる城はサボイ王国で知られるサボイ家の構築にかかるものだが、かつての城塞の面影をとどめる厳しい巨大な塔はその高さ60メートルもあり、最上層には回廊、石落としをもっている。居館の部分も古い様式をもつが、内部は19世紀になって居住性を考え改装されている。城のテラスの一部はシーズン中カフェテリアとして公開されているが、城は今でも個人の所有のため城内の見学にはあらかじめ管理人に電話で申し込むことになっている。城内には由緒ある絵画、調度の類が飾られているので、ジュネーブに行った人は時間の余裕があれば一見したいところである。

NO : 133 モタ城 城郭(城塞)・平山城・イベリア半島 1354年****スペイン王国 (Castillo de la Mota, Medina del Campo)



①12世紀にカステリア王によってつくられたこの城は、巨大なドンjonを中心に、外堀と二重の城壁に囲まれ、多くの隅塔、小塔によって完璧に防御されている。城壁の上は歩廊となり、胸壁がついている。

②歴史的にも知られていることは、イサベラ女王が幼時をこの城で過ごしたことであるが、近世になってからは刑務所として使われ、現在は城の一部に人が住んでいる。

③Initial fortification of the village, repopulated after Moorish depredations, led to the creation of a fortress on the site, starting in 1080. The village soon grew alongside. In 1354, Henry of Trastámara is known to have taken the fortress by force. In 1390 King John I of Castile granted the town to his son, the infante Ferdinand of Antequera, future king of Aragon. After the latter's death in 1416, his son, John II of Aragon, in 1433 taxed local residents to help the construction at the Mota. During the following century, the castle and town changed hands between the rival kings of Castile and Aragon, with the castle and town being sometimes held by opposing sides. In 1439, for example, the prince of Aragon locked the town gates, thereby imprisoning the Castilian king within the castle walls.

NO : 134 モリーナ・デ・アラゴン城 城郭(城塞)・平山城・イベリア半島 1129年****スペイン王国 (Molina de Aragon, Guadalajara)



①歴史の方は古くイベリア半島の先住民民族イベロ族がMEDULUMと呼んでいた。アラブ統治下ではTARIKと呼んでいたようである。1129年アラゴンのアルフォン1世によってアラブから失地回復された。この王様はBATALLADORと言うあだ名のある人で、武闘派と訳したらびったりする好戦の人だったようだ。

NO : 135 城郭都市カセレス★ 城郭都市(城塞)・平山城・イベリア半島 8世紀****スペイン王国 (Castile-La Mancha,Caceres)



①カセレスの近くには先史時代から人間が住んでおり、マルトラビエソとエル・コネハルの洞窟からその証拠が見つかる。都市は紀元前25年にローマ人によって建設された。700年代アラブ人によって作られた城郭都市。
②城郭都市ははじめアラブの構築したものだが、15世紀には改築されている。しかし、城壁、塔などの様式にはアラブの築城の手法が強く現れている。旧市街の一部はコウノトリの巢の多さでも知られている。現代化の跡がない中世の町並みを完璧に残しているため、多くの映画が

ここで撮影されている。

NO : 136 ブルクハウゼン城 城郭(城塞)・平山城・バラティウムから 12世紀****ドイツ連邦共和国 (Burghausen,Burghausen)



①12世紀～14世紀、バイエルン王が作った全幅は1,043Mのヨーロッパ最長の大城塞。
②16世紀にはトルコ軍の侵入に対する一つの強力な防衛線であった。

NO : 137 レ・ボー城 城郭(城塞)・平山城・南仏の城 1642年****フランス共和国 (Les Baux-de-Provence,Les Baux)



①中世期に栄えた。ボーの領主は近隣の79の町村を支配下におさめ、プロヴァンスでその名が知られた。彼らは家紋にベツレヘムの星を用いていた。これは、彼らが東方の3博士の1人バルタザールの末裔を自称していたことによる。
②1642年にモナコの領主グリマルディ家に譲り渡され、レ・ボー侯爵(Marquises des Baux)の名は現在でもモナコ大公家に受け継がれている。この称号は、伝統的に大公の一族が襲名することになっており、現在の称号の保持者はカロリーヌ王女である。
③アルピーユ山脈の中にある、壮大な景観を持つ岩だらけの土地であり、南方の平野を見渡せる古城を頂いている。プロヴァンス語の baou (岩だらけの尾根、の意)に由来する町の名前は、その景観からつけられたものである。なお、ボーキサイト(bauxite)はこの町の名前にちなんでいる。

NO : 138 城郭都市プロヴァン★ 城郭都市(城塞)・平城・ローマ時代 485年****フランス共和国 (Provins,Provins)



①古代にはローマ軍によって利用された。485年にはソワソンでの勝利の後で、クロヴィス1世がプロヴァンスにあったローマ軍の城塞を占領した。9世紀初頭からカルル大帝はこの地に Missus dominicusを派遣したことが明らかになっている。また独自の貨幣を鑄造していたことも明らかになっている。
②中世にシャンパーニュ伯の保護を受けていたときには、シャンパーニュ大市を開催する都市のひとつだった。この時期は確かにプロヴァンスに歴史に大きな足跡を残した時期であったといえる。
③プロヴァンスの市名はローマの将軍プロブスのブドウの木(プロビ・ウィナム, Probi vinum)に由来するといえる。プロブスは237年頃にドミティアヌスが禁止していたにもかかわらず、ブドウの栽培を許したとされる。

NO : 139 城郭都市アヴィニオン★ 城郭((城塞)・平城・宗教関連 1234年****フランス共和国 (Palais des Papes,Avignon)



①南フランス、アビニオンの町には14世紀は法王庁があった。これは1309年から1377年にいたる間、7代のローマ法王がアビニオンに法王庁を移したためで、そのためこの町は法王の新・旧宮殿が1234年から42年と1342年から52年にかけて築かれた。
②もともとこの地方はローマ時代から栄えたところだが、ローマの崩壊後は貴族の勢力、宗教勢力が入り乱れ、城塞も多くつくられた。法王の別荘があったシャトウ・ヌフ・ド・パプの町に近いローヌ川沿いにレユルの城の廃墟がある。城のはじまりは9世紀のころともいわれるが、アルビ新教徒とカソリックの戦いのころには城塞があったという。ルイ14世がカソリック軍を率い新教徒を討ち、プロバンス伯にこの地方を与えると、伯の傘下の城主がレユルの城を守った。

NO : 140 城郭都市ヴェリコ・タルノヴォ 城郭(要塞)・平山城・東欧の山城 12世紀****ブルガリア共和国 (Fortress at Veliko Tarnovo, Veliko Tarnovo)



①12世紀から14世紀にかけてブルガリアで最も強固な要塞として成長し、ブルガリア帝国の首都としてその政治、経済、文化、宗教の最重要拠点となった。14世紀に東ローマ帝国が弱体化すると、タルノヴォは、そのバルカン半島およびスラヴ系正教会圏に対する重要性から、第3のローマを称した。
②町は二百年にわたって繁栄と発展を続けた。町の政治的・精神的な発展は1393年、オスマン帝国による3箇月にわたる包囲の後の陥落によって停止し、ブルガリア帝国全土は侵入したオスマン帝国の征服者によって荒廃した。中世のブルガリアで、町や村、教会や修道院の多くが焼かれ、灰と化した。ヴェリコ・タルノヴォは中世にはブルガリア語でトゥルノヴグラト(Tarnovgrad)と呼ばれ、1598年(第一次タルノヴォ蜂起)と1686年(第二次タルノヴォ蜂起)の2回の対オスマン帝国武装蜂起の場となったが、いずれもブルガリア解放を実現することはできなかった。
③トゥルノヴグラトはその後19世紀までオスマン帝国支配下に置かれ続けた。19世紀にはブルガリア民族復興運動によって民族意識が喚起され、強力な抵抗運動へとつながっていった。ブルガリアの独立国家と独立教会たるブルガリア正教会を復活させる考えは、1875年と1876年の蜂起へと結びついた。1876年4月23日の4月蜂起はオスマン帝国によるブルガリア支配の終焉の始まりであった。これは後の露土戦争へとつながっていった。

NO : 141 ワルシャワのバルバカン☆ 城郭都市(城塞)・平城・北欧の城郭 1596年****ポーランド共和国 (barbican, Warszawa)



①1596年、ジグムント3世による野心的な政策によってポーランド王宮廷は古都クラクフより移転し、ワルシャワは1611年に正式にポーランドの首都となる。
②1830年には、フランス7月革命の影響もあり、11月蜂起(ワルシャワ蜂起)が起こったが、翌年までに無惨に鎮圧された。1815年に成立したポーランド王国(ポーランド立憲王国)では、自由主義的な憲法が規定されていたが、その多くはこれを機に形骸化された。

NO : 142 アルムロール城 城郭(城塞)・水城・イベリア半島 12世紀****ポルトガル共和国 (Castelo de Almourol, Almourol)



①12世紀のころの修道院がつくられていたといわれ、そののち城塞が築かれた。その様式はアラブ風のスタイルをもつ実戦的な城塞で、立地条件もきわめて地の利を得ている。
②この川中の小島には、12世紀のころの修道院がつくられていたといわれ、ヨーロッパでもこのようにはっきりと川中島につくられた城は、このアルムロールとドイツのライン川にあるファルツ城くらいである。

NO : 143 ビエルタン城郭修道院☆ 城郭(要塞・教会)・平城・宗教関連 1397年****ルーマニア (Biertan,)



①1397年にビエルタンの城塞化が行われた。ザクセン人たちの他の定住地と同じように、ビエルタンも都市的な組織を有していた。つまり、家々は中央広場の周りに連なり、その広場には印象的な要塞聖堂が鎮座していた。ビエルタンの要塞聖堂は、塔と中世的な堡壘を備えた三重の城壁に守られている、ゴシック様式とルネサンス様式の調和した素晴らしいキリスト教建築物である。最初の城壁の建造は12世紀に遡るが、これは同時に最初の聖堂(聖マリア聖堂)が建造された時期でもあったと考えられている。現在の聖堂は後期ゴシック様式で1487年から！
②ビエルタンは、トランシルヴァニア地方における最初のドイツ人居住地の一つである。この集落は、1224年にハンガリー王アンドラーシュ2世によって出された金印意章に従い「二つの座」(Deux Chaises)、つまりメディアシュやシェイカと1纏めにされていた。しかし、文書に残る最初の証言は1283年のもので、メディアシュやモシュナ(Mo?na)とともに言及がある。この三つの集落は、「二つの座」の行政上の中心地となるべく熾烈な競争を繰り広げていた。そのため、それぞれの集落はその名声を高めようとして、他よりも立派で装飾を凝らした宗教施設を建設しようとした。

NO : 144 オレシェク要塞☆ 城郭(要塞)・水城・北欧の要塞 13世紀****ロシア連邦 (Oreshek, Shlisselburg)



①13世紀、モスクワ大公かつノヴゴロド大公でもあったユーリー3世が、ノヴゴロド共和国の北辺の防衛の要であるオレホヴェツ島に木造の要塞を築いた。これがオレシェク要塞で、ノヴゴロドからヴォルホフ川・ラドガ湖・ネヴァ川・バルト海を結ぶ重要な水上交易路を防衛していた。
②スウェーデンとノヴゴロド双方の争奪戦の結果、1323年オレシェク要塞でスウェーデンおよびノヴゴロド共和国の間に国境を定める条約が結ばれた(ノーテボリ条約)。これによりカレリア地方に両国の国境線が引かれ、これが東西教会間の境界線ともなった。

予備選考落ち

NO : 2001 オーナヌーレ 城郭(要塞)・平城・1582年****アイルランド (Doonagore Castle ,Doolin)



①While a castle was built on the site by Tadgh MacTurlough MacCon O' Connor from stone drawn from the quarry of Tra Leachain some time during the 14th century, the current structure is likely to date to the 16th century. It was granted to Sir Turlough O'Brien of Ennistymon (a neighboring town of Doolin) in 1582. In 1588, during the retreat of the Spanish Armada from its failed attempt to invade England, 170 survivors of a Spanish shipwreck were caught by the high sheriff of County Clare, Boetius MacClancy, and were hanged at Doonagore Castle and buried in a barrow near of Doolin called Cnocan an Crochaire.

NO : 2002 ダブリン 城郭（城館）・平城・1230年****アイランド（Caislean Bhaile Atha Cliath,Dublin）



①Dublin Castle was first founded as a major defensive work on the orders of King John of England in 1204, shortly after the Norman invasion of Ireland in 1169, when it was commanded that a castle be built with strong walls and good ditches for the defence of the city, the administration of justice, and the protection of the King's treasure. Largely complete by 1230, the castle was of typical Norman courtyard design, with a central square without a keep, bounded on all sides by tall defensive walls and protected at each corner by a circular tower.

②Most of it dates from the 18th century, though a castle has stood on the site since the days of King John, the first Lord of Ireland. The Castle served as the seat of English, then later British government of Ireland under the Lordship of Ireland (1171?1541), the Kingdom of Ireland (1541?1800), and the United Kingdom of Great Britain and Ireland (1800?1922). Upon establishment of the Irish Free State in 1922, the complex was ceremonially handed over to the newly formed Provisional Government led by Michael Collins.

NO : 2003 ナックグラフォン 城郭（城塞）・平城・モット・アンド・ベイリー 12世紀****アイランド（Knockgraffon Motte, Tipperary）



①The parish of New Inn also includes Knockgraffon (Cnoc Rafann), a completely rural locality which is home to a ruined medieval church and graveyard. Knockgraffon was once a village in its own right, but the settlement was abandoned some time in the eighteenth century. Around 1610, the Irish historian Geoffrey Keating was appointed Parish Priest of Knockgraffon. Notably, Knockgraffon is home to the remains of a motte which dates from the late 12th century.

②Knockgraffon was also the centre of the O'Sullivan clan's ancestral lands, until that family was displaced by the Normans in the early 13th century. In 1998, the Knockgraffon Motte was purchased by an O'Sullivan (Gary Brian Sullivan of Statesboro, Georgia, USA) from its Norman-Irish owner (Donal Keating of Cahir, Ireland). It is the first time that Knockgraffon has been back in O'Sullivan possession for nearly 800 years. Other townlands include: Ardneasa, Boytonrath, Chamberlainstown, Derryclooney, Garrandea, Garranlea, Lagganstown, Lough Kent, Masterstown, Marlhill, Outrath.

NO : 2004 バー 城郭（城館）・平城・1620年****アイランド（Birr Castle ,Birr）



①After the death of Sir Charles O'Carroll, Sir Laurence Parsons was granted Birr Castle and 1,277 acres (5.2 km2) of land in 1620. Parsons engaged English masons in the construction of a new castle on the site. This construction took place, not on the site of the O'Carroll's Black Tower (since disappeared), but at its gatehouse. "Flankers" were added to the gatehouse diagonally at either side, giving the castle the plan it retains today.

②After the death of Sir Laurence Parsons and his elder son Richard, the castle passed to his younger son William. During the Irish Rebellion of 1641 William was besieged at Birr for fifteen months by Catholic forces. After the civil war, William's son Laurence (baronet from 1677) refurbished the castle.

NO : 1001 バンラティ 城郭（城塞）・平城・ドンジヨン型 1425年****アイランド（Bunratty Castle,Bun Raite）



①12世紀の終りに、はじめてこの場所に石造の城が築かれたが、約百年ののちに完全に崩壊してしまった。1425年ころ、マッコン・マッコンマラによって建てられたものと伝えられ、長方形の高くそびえた比較的单純な建物で、4隅に強固な四角な小塔が付随している。バンラティで興味深いのはこの塔で、規模は小さいが、実戦的な要素をもっている。

②城内には、現在の城の所有者であるゴート子爵の家に伝わる古い家具やタビストリー（数物）、絵画などのコレクションがあり、一般公開されている。またこの城では観光客のために中世風パーティーが開かれ、名物になっている。この晩さん会では、その夜の王と女王が選ばれ、ショー的な雰囲気で行われる。

NO : 1002 ブラーニー 城郭（要塞）・平城・ドンジヨン型 1446年****アイランド（Blarney Castle ,Blarney, near Cork）

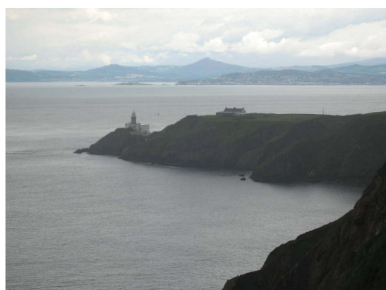


①1446年に、デスモンド王コーマック＝マッカーシーにより要塞として建造され、以降、領主マッカーシー家により増改築がなされた。

②The castle originally dates from before AD 1200, when a wooden structure was built on the site. Around 1210 AD this was replaced by a stone fortification. It was destroyed in 1446, but subsequently rebuilt by Cormac MacCarthy – then King of Munster .

③頂上の城壁にブラーニーストーンという石があり、この石にキスすると雄弁になれるという言い伝えがあることで知られる。

NO : 2005 ハウス 城郭（城塞）・平山城・14世紀****アイランド（Howth Castle,Howth）



①The current building is not the original Howth Castle, which was on the high slopes by the village and the sea. The great English architect Sir Edwin Lutyens restyled a 14th century castle built here, overlooking Dublin Bay.

②A popular legend about the Castle concerns an incident that apparently occurred in 1576. During a trip from Dublin, the pirate Grace O'Malley attempted to pay a courtesy visit to the 8th Baron Howth. However, she was informed that the family was at dinner and the castle gates were closed against her. In retaliation, she abducted the grandson and heir, the 10th Baron. He was eventually released when a promise was given to keep the gates open to unexpected visitors, and to set an extra place at every meal. At Howth Castle today, this agreement is still honoured by the descendants of the Baron.

NO : 2006 リメリック 城郭（城館）・平城・ 1197年****アイルランド（King John's Castle ,Luimneach）



①The arrival of the Anglo-Normans to the area in 1172 changed everything. Domhnall Mor O Briain burned the city to the ground in 1174 in a bid to keep it from the hands of the new invaders. The Anglo-Normans finally captured the area in 1195, under John, Lord of Ireland. In 1197 local legend claims Limerick was given its first charter and its first Mayor, Adam Sarvant. A castle, built on the orders of King John and bearing his name, was completed around 1200.
②Under the general peace imposed by the Norman rule, Limerick prospered as a port and trading centre. By this time the city was divided into an area became known as "English Town" on King's Island, while another settlement, named "Irish Town" had grown on the south bank of the river.

NO : 2007 ローズ 城郭（城塞）・平城・ 15世紀****アイルランド（Rose Castle,Killarney）



①アイル共和国、すなわちアイルランドは山と湖の美しい地方が多い。 もっとも荒涼たる原野の所もあるのだが、中でも南部のキラニーはアイルランド第一の景勝の地として知られている。 その美しい景観の中心はマックロス湖とレーン湖だが、マックロス湖のほとりには広大な庭園をもつ美しい居館、マックロスの館があり、その他にもこの辺りには小さい城のすでに廃城となつたものが多い。その中の一つにローズ城がある。 ローズ城、その名の通り、バラの城といわれるだけあって、かつてはこの城の庭園にはバラが咲き乱れていたのだが、今ではなかば崩れかかった塔を一つ残すのみである。石造の塔の内部は何もないが、塔の上に登る石の階段はまだしっかりしていて、この城を訪ねる人はこの塔に上ることもできる。塔からのなめは美しく、ローズ湖の水の中を泳ぐ、大きな鱈のすがたが湖の澄みきった水の中になめられる。
②This square medieval tower which was built by the O' Donoghues in the 15th century is beautifully situated on the shores of Lough Lein. Now restored, the castle houses a fine collection of 16th and 17th century oak furniture. Killarney to the rose castle, take about 30min by walk. There are beautiful walking course.

NO : 2151 アルニック 城郭（城塞）・平城・ 16世紀****イギリス（Alnwick Castle, Alnwick, Northumberland）



①1096年にアニック男爵イヴ・ド・ヴィシーがスコットランド人の侵入を防ぐために建設を開始した要塞が起源である。1309年にはノーサンバーランド伯爵パーシー家（後のノーサンバーランド公爵）の所有となり、アボット・タワー、ミドル・ゲートウェイ、コンスタブルズ・タワーなどが改修により追加された。
②第6代ノーサンバーランド伯爵ヘンリー・パーシーが16世紀に大規模な改修を行っている。さらに18世紀にはロバート・アダム設計に基づいて増築工事が行われた。内装はゴシック建築の代表作であるストロベリー・ヒルを模倣しており、彼が通常好んだ新古典主義とはことなっている。アダム設計した部屋の大部分は今日も残されているが、一般に公開されている部分はほぼ全てヴィクトリア時代にイタリア風の装飾に変更されたものである。

NO : 2152 アントニヌスの長城★ 長城・長城・ 142年****イギリス（Antonine Wall,Central Belt of Scotland）



①142年から144年にかけてローマ帝国によって作られた長城はクライド湾沿いの古キルパトリック（ウェスト・ダンバートンシャー）からフォース湾沿いのフォールカークまで60キロに及んでいる。164年、ローマ軍はハドリアヌスの長城へ撤退し、アントニヌスの長城は建設後わずか20年で放棄された。
②長城はクライド湾沿いの古キルパトリック（ウェスト・ダンバートンシャー）からフォース湾沿いのフォールカークまで60キロに及んでいる。長城は160キロ南にあるハドリアヌスの長城に代わるものとして建設されたが、ローマ人は城壁北方に城壁や基地を築き、スコットランド人（カレドニア人）を征圧できなかったため、長城は幾度も攻撃にさらされた。ローマ人は長城から北を「カレドニア」と呼んだ。ただし、この場合の長城はハドリアヌスの長城を指すこともある。
③アントニヌスの長城はハドリアヌスの長城に比べ、規模や構築物の点で見劣りがするが、寒さ厳しいローマ帝国の北辺にたった2年で建設されたということを考えると、驚嘆すべき業績といえる。長城は北に幅広の堀を、南に軍道を持つ高さ4メートルの土壁だった。ローマ人は長城の6マイル（9.66キロメートル）ごとに堡壘を設ける計画をしていたが、結局のところ、城壁沿いの19個の堡壘にあわせて2マイル（3.22キロメートル）ごとに改められた。最も保存状態が良いものは、最小の砦の一つでもあるラフ・キャッスル砦である。

NO : 2153 オックスフォード ・ ・ 年****イギリス（Oxford Castle,）



①オックスフォード城はイギリス、オックスフォード市中心部に位置する城郭で、1066年のノルマン・コンクエスト直後の1071年にノルマン人のロバート・ド・イリー男爵（Robert D'Oyly）によって建設された。当初は木製の天守をいただく土塁（モット・アンド・ベイリー）であったが、のちに石造の天守（聖ゲオルグの塔として知られる）に置き換えられ、周囲は50フィートの城壁で囲まれた。
②城は14世紀に破却され、その後この場所は郡政府の管理下に置かれ、監獄として利用されることになった。1888年には王立のオックスフォード刑務所となり、1996年に閉鎖、オックスフォードシャー郡議会に委ねられた。遺跡は観光資源として開放されることになった。独房は客室として利用されることとなり、敷地の大部分はマルメゾン・チェーンの経営するホテルに転換されることになった。刑務所がホテルに転換されるのは英国で初めてのことである。

NO : 1094 カリスブルック 城郭（城塞）・水城・モット・アンド・ベイリー 11世紀****イギリス（Carisbrooke Castle, Newport, Isle of Wight）



① An Anglo-Saxon stronghold occupied the site during the 8th century. Around 1000, a wall was built around the hill as a defence against Viking raids.
②From 1100 The castle remained in the possession of Richard de Redvers' family, and over the next two hundred years his descendants improved the castle with stone walls, towers and a keep. This was until 1293, when Countess Isabella de Fortibus, the last Redvers resident sold it to Edward I, after which the government was entrusted to wardens as representatives of the crown. In the reign of Richard II it was unsuccessfully attacked by the French (1377).
③ Anthony de Wydeville, Lord Scales, later Earl Rivers, obtained a grant of the castle and rights of Lordship in 1467. He was responsible for the addition of the Woodville Gate, now known as the Entrance Gate. The keep was added to the castle in the reign of Henry I, and in the reign of Elizabeth I; when the Spanish Armada was expected, it was surrounded by an elaborate pentagonal fortification by Sir George Carey

NO : 1095 キルチャン 城郭（城塞）・水城・小奇麗な城 1450年****イギリス (Kilchurn Castle, Argyll)



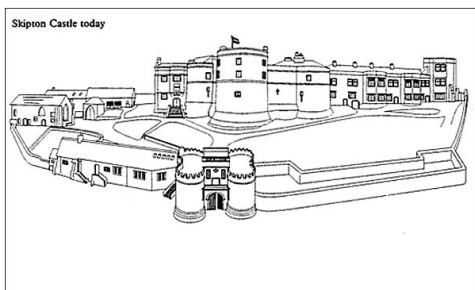
① スコットランドのアルギール州に静かで美しい風景をもつアウエ湖がある。 この25マイルの長さをもつ湖は、主に北東の一角に多くの島をもち、これらの島や湖畔に城や居館が数多くある。フィンチャーン城やノースポート、ヘイフィールドの館などだが、これらの城の中でもっとも重要なものがキルチャンの城である。 アウエ湖周辺の城が、主として守備的な理由から、湖畔から大分離れた沖合の島の上に建てられているが、キルチャンの城もまた湖中の島の上に建てられている。 城は、風景の美しさとはうらはらに戦術的な構造をもった城塞で、15世紀にグレンオルシーのコーリン・キャンベルによって建てられたものである。 湖の北側のやや陰湿な場所にあるが、訪れる人にとっては十分に魅力的な風景を展開している。内部は公開していないが、国道沿いに外観を鑑賞できる。 冬のシーズンには雪にとざされるが、春から夏のたたずまいは美しい。

NO : 2154 ケニルワース ・ ・ 年****イギリス (Kenilworth)



① ウォーリックの町の10キロほど北にケニルウォースの町がある。今はもの静かなところだが、11世紀から13世紀にかけてここに強固な城塞がつくられた。 1200年、城はイングランド国王のものとなり、ジョン王およびヘンリー3世によって修築強化され、バラ戦争当時にはイングランドでも屈指の堅固な城として戦略的にも重要な役割を演じた。 しかし、その後、歴史上有名なマグナ・カルタ(大憲章)を無視して君臨しようとしたヘンリー3世が、1258年、シモン・ド・モンフォールによって捕えられ、ケニルウォースの城もシモンのものとなった。 シモンの息子が城主になった時に、この城は約6カ月間にわたって包囲攻撃を受けながら陥落せず、その堅城の名声をさらにたかめたという。 クロムウエルの革命戦争のときに、城は破壊され、そのまま復元されないままに、現在のはまつくの廃墟として残骸を残している。 しかし、その城址には古城の詩情があり、イギリスの名城である。

NO : 2155 スキプトン ・ ・ 年****イギリス (Skipton Castle, North Yorkshire)



①The castle has stood for over 900 years, first built as a Motte and Bailey castle in 1090 by Robert de Romille, a Norman baron. The castle was soon replaced with a stone keep as the old Motte and Bailey constructed was not enough to withstand the attacks from the Scots to the north.
②In 1310, Edward II granted the property of the castle to Robert Clifford who was appointed Lord Clifford of Skipton and Guardian of Craven. Robert Clifford ordered many improvements to the fortifications of the castle but died in the Battle of Bannockburn in 1314 when the improvements were barely complete.

NO : 2156 スターリング ・ ・ 年****イギリス (Stirling)



① スターリングはエジンバラとならぶスコットランドの古い町で、かつてスコットランドの首都になったこともあり、7世紀のころすでに町の一角を占める丘の上に木造ながら強固な城の建物があった。 この城もエジンバラ同様、たびたびイングランドとスコットランドの抗争の舞台となってきた。12世紀にイングランド王エドワード1世がスコットランドを侵襲したころは、スコットランドでもっとも頑強な城塞として知られていた。そのころのスターリング城はまだ木造の建物や城壁も木柵でできていたが、イングランドの強力な投石器に対してよく抵抗、やむなくイングランド軍は近くの僧院の屋根に射撃監視所を設け、そこからの指示で投石攻撃をしながらようやく陥落させたという。 その後、スコットランドのロバート1世の反撃でスターリング城は破壊され、15世紀になって現在の規模の城が構築され、ジェームス3世によってゴシック風のさまざまな建造物がつくられた。 城には現在も軍隊がいる。

NO : 1096 セント・マイケルス・マウント 城郭（城塞）・水城・小奇麗な城 15世紀****イギリス (St. Michael's Mount, Marazion, Cornwall)



①イングランドのコーンウォール州の海岸、マウンツ湾の中の海中に孤立した岩の上に、セント・マイケルス・マウントの城がある。 この城は、地形も名前も、海に浮かんだ姿もフランスのモン・サン・ミッシェルの城によく似ているが、そもそもこの岩の上に建物のできた始めがキリスト教の奇蹟をきっかけにしているという点も似ている。
② 495年のこと、この岩に上がっていた漁師たちの幻影のなかにセント・マイケルが現われたという話があり、それ以来この岩は巡礼たちの聖地としてにぎわうようになり、僧院もたたられ、防御のための備えも構築されたのである。城がつくられたのは15世紀であるが、その後の修理保存もよく、中世の城のさまざまな機構を見ることができる。

NO : 1097 ダラム★ 城郭（城塞）・平山城・ノルマンの影響 1066年****イギリス (Durham Castle, Durham)



①11世紀にイングランド王国北部においてノルマン朝の勢力を投影させるために建てられた。1066年のノルマン・コンクエストの分裂に従い、野蛮で移り気なままの北部イングランドの人口増加があったためである。城は、ノルマン人が好んだ初期モット・アンド・ベーリー型城の秀逸な例である。ダラム司教の聖務所としての城の所有は、アングロサクソン時代から封建的な領主司教であったダラム司教を味方につけて王家の権力を振るおうとした王によって、許可されたものだった。城はダラム司教座となった。
②イギリス・ダラムにあるノルマン様式の城。1840年より全体がダラム大学学生寮となっている。城はダラム大聖堂と共にウェア川を見下ろす丘の上に立つ。

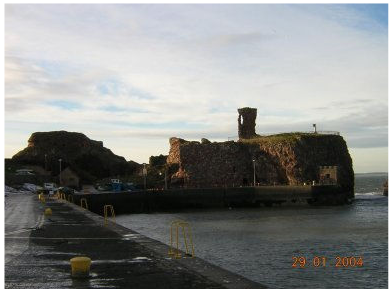
NO : 1098 タンタロン ・ ・ 年****イギリス (Tantallon Castle, Tantallon)



① タンタロンの城はエジンバラから東に、フォース湾に沿って約50キロ、東ロリンアン州の北海に突き出た崖の上にその姿を残している。崖は三方を北海の荒波に洗われており、天然の要害の地であり、ここにはその自然の地形を利用して、7世紀からすでに城があったといわれているが、はっきり記録に残っているのは14世紀末、最初のダグラス伯およびマール伯であったウィリアムが築いたものである。

② 1528年、スコットランド王ジェームズがこのタンタロンの城を包囲した。三方が海、残る唯一の攻撃路を強固な外壁と城壁で嚴重に防備する難攻不落のこの城を、さすがに攻めあぐねて、20キロ離れたダンバーの城から数門の大砲を借りて盛んに攻撃をかけたがそれでも落ちず、20日間の攻城の後に、ついに囲みをといて引き揚げたという。この堅固な城塞も、現在は巨大な城壁と塔の一部が廃墟となって海岸に孤立し、北海の潮風にその雄姿をさらし、この城を訪ねる旅行者に荒涼とした旅の愁いを感じさせる。

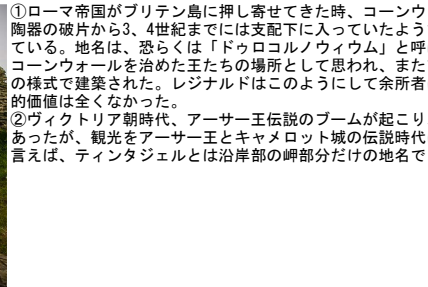
NO : 2157 ダンバー ・ ・ 年****イギリス (Dunbar Castle,)



① In the 10th and early 11th century the Norsemen made increasing inroads in Scotland, and in 1005 there is record of a Patrick de Dunbar, under Malcolm II, engaged against the Norse invaders in the north, at Murthlake, a town of Marr, where, alongside Kenneth, Thane of the Isles, and Grim, Thane of Strathearn, he was slain.

② The first stone castle is thought to have been built by Gospatric, Earl of Northumbria, after his exile from England, following the Harrowing of the North, by William the Conqueror after Gospatric took refuge at the court of Malcolm II of Scotland. Gospatric was a powerful landowner in both kingdoms and could summon many men, which encouraged Malcolm to give him more lands in the Merse and Lauderdale, in return for those lost further south in return for loyalty. Sir Walter Scott argued that Gospatric or Gospatrick was a contraction of Comes Patricius. In any case, King Malcolm III is recorded as bestowing the manor of Dunbar &c., on "the expatriated Earl of Northumberland".

NO : 2158 ティンタジェル ・ ・ 年****イギリス (Tintagel Castle,)



① ローマ帝国がブリテン島に押し寄せてきた時、コーンウォール地方にまではその覇権は行き届いてはいなかった。しかしながら、この地の貨幣、陶器の破片から3、4世紀までには支配下に入っていたようである。ローマ街道の道標が二つ近辺で発見されている事から居住地があったと考えられている。地名は、恐らくは「ドゥロコルノウィウム」と呼ばれたと思われる。1233年コーンウォール伯レジナルドによって城は建てられた。古のコーンウォールを治めた王たちの場所として思われ、またアーサー王伝説所縁の土地であるという理由からである。城は古のものと映るように古式の様式で建築された。レジナルドはこのようにして余所者に対して警戒心のあるコーンウォールの民の信用を高めようと考えていた。城自体の戦略的価値は全くなかった。

② ヴィクトリア朝時代、アーサー王伝説のブームが起り、この城跡は観光地となった。1850年までティンタジェルの村はトレヴェナという名であったが、観光をアーサー王とキャメロット城の伝説時代に焦点を合わせて売り出すために、村は「ティンタジェル」と改名された。しかし厳密に言えば、ティンタジェルとは沿岸部の岬部分だけの地名である。

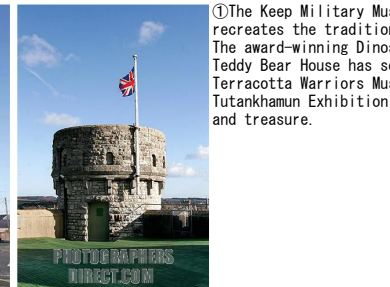
NO : 1099 テトフォード 城郭(城塞)・平城・モット・アンド・ベイリー 11世紀****イギリス (Castle Hill, Thetford)



① Castle Hill, to the south-east of the town centre, is the highest Norman motte in England[citation needed] though no trace remains of the castle which once surmounted it. The mound (motte) is open to the public, and provides excellent views of the town from its summit and extensive earthworks. It is situated in a public park, near the Three Nuns Bridges and close to the town centre overlooking the rivers.

② It is said that a network of chalk tunnels is buried deep within Castle Hill, which once acted as an escape route for Monks during a time of civil strife. Rumour has it that one of the entrances to these tunnels can be found in the basement of a house along Old Market Street.

NO : 2159 ドーチェスター ・ ・ 年****イギリス (Keep Military, Dorchester)



① The Keep Military Museum, which was built in 1879, tells stories of courage and humour as it recreates the traditions of those who served in the regiments of Devon and Dorset for over 300 years. The award-winning Dinosaur Museum includes fossils, skeletons and life-size reconstructions, while the Teddy Bear House has some of the earliest teddies right through to today's TV favourites. The Terracotta Warriors Museum houses life-size replicas of these unique Chinese statues, while the Tutankhamun Exhibition recreates the sights, sounds and smell of Tutankhamun's ancient Egyptian tomb and treasure.

NO : 2160 ドニングトン ・ ・ 年****イギリス (, Donington)



① ロンドンから西方へ約70キロ、パークシャー州のほぼ中央、ハンブシャー州との境近くにドニングトンの城がある。ドニングトンの城は1286年にこの地方の領主によって建てられた。そののち、17世紀のなかば、議会派と王党派が争っていたころ、この城は王党派軍の立て籠もるところとなったが、議会派軍の猛攻にも屈せず、降参まで実に20ヵ月もの包囲戦に耐えたことで有名になった。もっとも大軍を動員した城攻めではなかった。1643年から1644年までの間にカーナル・ボーイズによって、当時の金で1000ポンドをかけて城の増・修築がおこなわれた。城の防御強化のためにおこなわれたこの土木工事の跡は、今日でもまだその輪郭をたどることができる。その星形をした輪郭は、射手を攻撃側にさらすことなく最大限の射撃範囲をもつように考えられた銃座をもっている。しかし、現在では主塔を残すのみである。この塔もイギリスの城の一つの形態を示している。

NO : 1100 バンプロー ・ ・ 年****イギリス (Bambrough)



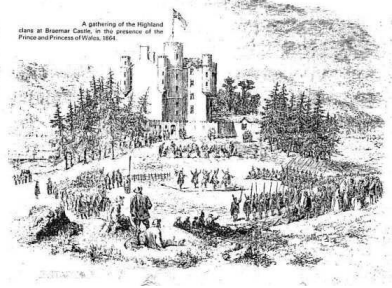
① ノーサンパーランド州はイングランドの北端で、スコットランドとの国境にあつている。さらに東は北海に面し、アングロサクソンやノルマンの侵入を早くから受けるという地理的条件にあつたため、この地域の城塞は早くから発達した。

②バンプローの城はその代表的なもので、北海にのぞむ高さ40メートルの大岩盤の上に建てられている。海岸に築かれた古い砦から発達した城塞で、現在の規模になったのは12世紀ごろであり、15世紀には石造の城塞として完成した。ジョン王をはじめヘンリー3世、エドワード1世、2世、3世など多くの国王がこの城を訪問しており、バラ戦争ではランカスター派の城塞として激しい戦闘の舞台となった。

③白砂の海岸を見下ろす大岩壁上に建つ石造の大城郭は、荒涼たる北海を前に厳しい古城のリリシズムをたたえて、男性的な美しさではヨーロッパ第一級の城である。また、城内には城の歴史を物語る数々の展示物があり、家

具、調度、武具、美術品のコレクションがある。

NO : 1101 ブレイマー 城郭(城塞)・山城・ドンジョン型 1628年****イギリス (Braemar Castle, Braemar)



① スコットランドのアバディーン市の西方約80キロ、バルモラルの城からさらに20キロ西に入った山の中にブラマ…の城があり、国道93号からも、小塔に飾られたブラマーの城をのぞむことができる。この城の歴史は古く、1628年、マール伯によって建てられたが始まりである。

②1689年にはブラック・カーナルによって占拠、略奪され、城には火がかけられ炎上した。その後、60年の間放置されたままになっていたのをハノーバー王家が借り受け居城の一つとして使った。焼けてしまっていた内部の設備はウィリアム・アダムの息子であるロバート・アダムによって補修され、居城として快適な部屋につくりなおされた。この城の賃貸契約は初め99年間という約束であったが、期限がくる前に持主に返され、ふたたびもとの城主の居城として存続している。さほど大きな城ではないが、スコットランドの知られた城の一つである。

NO : 1102 ブレナム宮殿★ 宮殿・平城・宮殿 1705年****イギリス (Blenheim Palace, Woodstock, Oxfordshire)



①マールバラ公ジョン・チャーチルが、スペイン継承戦争中のブランハイム(ブレナム)の戦いで立てた戦功によって当時のアン女王から贈られた大邸宅。バロック様式で、建築家ジョン・ヴァンプラの設計による。彼の子孫で、第二次世界大戦中の首相であったウィンストン・チャーチルの生家でもある。

②Blenheim Palace (/?bl?n?m/) is a large and monumental country house situated in Woodstock, Oxfordshire, England. It is the only non-Episcopal country house in England to hold the title of palace. The palace, one of England's largest houses, was built between 1705 and circa 1724

NO : 2161 ペンブロック ・ ・ 年****イギリス (Pembroke Castle, Pembroke)



① ウェールズ地方の最西端、ペンブロック州にあるペンブロックの城塞は巨大な円形キープをもつ堅固な要塞である。城地はローマ時代からの要害の地形にあるが、ここに1093年、ウェールズに対する防備のための城塞が建てられた。1228年、ペンブロックの伯爵位がつくれ、ギルバート・デ・クレアが初代の伯爵位を得、その位にふさわしいように城を拡充強化した。ギルバートの弟、リチャード・ストロングボウはアイルランドの征服者であったが、アイルランド戦争の間、ペンブロックの城を自分の居城として使った。巨大なキープとノルマン風のホールは、後のペンブロック伯ウィリアム・マーシャルによって築かれた。その後、王党派と議会の争いの時、城は初め議会の拠点であったのが、戦争末期に王党派の拠点となったため、クロムウェル軍に攻撃占拠され、破壊を命じられたが堅固なつくりのため取壊し作業は進まなかったという。

NO : 2162 ポーチェスター ・ ・ 年****イギリス (Portchester Castle,)



① ロンドンから南西に110キロ、ポーツマス港の近くに、その湾の奥にポーチェスターの城がある。この城の位置するイングランド東南岸一帯には、かつて「サクソン海岸の城砦」と呼ばれた一連のローマの城砦があり、ポーチェスターも古くはその中の一つとしてポルトウス・アドウルニイの名で呼ばれていた。現存のポーチェスターの城は、バウリス・アドウルニイのローマ城砦の囲郭を利用して築かれた中世の城郭である。飾り気のない、雄壮で巨大な四辺形キープは12世紀につくられたもので、直線的で実戦的な形態はよくこの時期の特色を表わしている。中世城郭において、キープの位置する地点はいくつもあるが、このポーチェスターの場合はキープが囲郭城壁の一角を占めている良い例である。現在、城内には数々の石造の建物の遺構があるが、内部まで完全に原形をとどめるものは一つもない。城内の一部は教会と墓地があり、城はヨットハーバーに面している。

NO : 1103 ボディアム 城郭(城塞)・水城・ドンジョン型 1289年****イギリス (Bodiam Castle, Robertsbridge, East Sussex)



① イギリスの南岸、イギリス海峡に面した町ヘイステイキングズから北に約20キロ、ケント州との州境に近いサセックス州ロバートス・ブリッジに近くボディアムの城がある。この地にはサクソンの時代から砦があったが、現在の城はこの地方の領主サー・エドワード・デリングルジによって1289年につくられたものである。

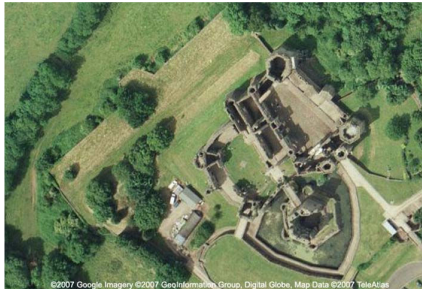
② 当時、イギリスはリチャード二世の治下にあり、イギリス南部はフランス軍の攻撃にさらされていたので、王の命令によってこの城が築かれたのである。イギリスの城は大陸の城に比べて武骨なのが特色でもあるが、ボディアムの城は実戦を旨としながらも居住性も考慮されているため、水蓮の花の咲く小さな濠に囲まれた姿はどことなく優雅な趣がある。その後、バラ戦争の時こも戦場となり、さらに市民革命の時に攻撃を受けて内部が破壊されたが、外観は被害を免れ、現在もその偉容を保っている。イギリスのなかでも美しい城の一つに数えられる。

NO : 2163 ミドルハム ・ ・ 年****イギリス (Middleham Castle,)



①ミドルハム城 (Middleham Castle) は、12世紀の終わりにノース・ヨークシャー州のウェンズリーデール (Wensleydale) に、それまでのモット・アンド・ベーリー方式の城のそばに建てられた城である。1270年にこの城はネヴィル家の手に渡った。ネヴィル家でもっとも有名なのは、「キングメーカー」として薔薇戦争に登場するウォリック伯リチャード・ネヴィルである。1460年のウェイクフィールドの戦いでヨーク公リチャードが死ぬと、リチャードの幼い息子たち (後のクラレンス公ジョージとリチャード3世) はウォリックの庇護下に入り、2人と一時期ウォリックの家族と1緒にミドルハム城に居住していた。彼らの兄、エドワード4世国王が、1469年にウォリックによって捕えられて、短期間拘束されたのは同じくミドルハムであった。1471年のバーネットの戦いでウォリック伯が戦死し、エドワード4世が国王に復位すると、リチャードはウォリック伯の娘アン・ネヴィルと結婚した。彼らの住まいもミドルハムであり、彼らの息子の王太子エドワードが生まれたのも死んだのもミドルハムだった。

NO : 2164 ラグラン ・ ・ 年****イギリス (Raglan Castle, Monmouthshire)



① ウェールズ地方、モンモース州ニューポートの町から北約30キロ、ラグランの城塞は15世紀にウィリアム・トマスによって築かれたものである。15世紀当時は『力は正義なり』という思想がゆきわたっていた時で、富裕な貴族は私兵を備え、彼らの地位をしばしば武力によって手に入れた。兵士の忠誠を金で買っていたため、いつでも競争相手が彼の首により高い賞金をつける覚悟をしていなければならず、ラグランの城の平面を見てみると、ウィリアム・トマスも充分このことに配慮していたことがわかる。すなわち、濠が巨大な塔をとりまいており、塔自身充分に防備されていて強固である。これは塔が外からの攻撃に対するとともにまた城内の裏切者に対する反撃の拠点であったことを示している。城はエリザベス朝時代になっても増築が続けられ、内部も豪華に装飾されていたが、のち革命戦争で破壊され廃墟となった。ラグランもまた中世の構造をよく残すものである。

②The present castle was begun in 1435 for Sir William ap Thomas, who married the Raglan heiress Elizabeth Bloet in 1406. Upon his death his son, William Herbert, continued the work. Debate continues as to which was responsible for building the Great Tower, the most prominent feature of the present site. The castle was the boyhood home of Henry Tudor, later King Henry VII, who was placed in the custody of William Herbert during the War of the Roses.

③In the latter 16th century, the castle was re-fashioned into a grandiose and luxurious mansion by the Somersets, Earls, and later Marquesses, of Worcester, who inherited the manor of Raglan through marriage.

NO : 2165 ラドロー ・ ・ 年****イギリス (Ludlow Castle,)



①イングランドのシュロップシャー、ラドローの町を見下ろす大きな、今は破壊された城である。この城はテム川を見下ろす高台の上に立っている。この城は11世紀後半 (恐らく1085年) にロジャー・ドゥ・レイシーとして知られているノルマン人の辺境貴族によって建設され、エドワード4世の即位で王室管理下になるまでは、ドゥ・レイシー家とモーティマー家によって受け継がれた。モーティマー家から引き継いだのがエドワード4世の父、ヨーク公リチャードである。チューダー朝期に大改築を行って、1811年まで王室の所有物のままだった。今はボウイス伯の所有である。この城は約百年間、イングランドの西部辺境およびウェールズ統治の拠点であり、3人の王の子の住まいでもあった。

NO : 1104 レストーメル 城郭 (城塞) ・平城・モット・アンド・ベイリー 11世紀****イギリス (Restormel Castle ,Lostwithiel, Cornwall)



①Robert de Cardinham, lord of the manor 1192/1225, then built up the inner curtain walls and converted the gatehouse completely to stone, giving the castle its current design. The village of Lostwithiel was established close to the castle at around the same time. The castle belonged to the Cardinham for several years, who used it in preference to their older castle at Old Cardinham. Andrew de Cardinham's daughter, Isolda de Cardinham, finally married Thomas de Tracey, who then owned the castle until 1264.

②The castle was seized in 1264 without fighting by Simon de Montfort during the civil conflicts in the reign of Henry III, and was seized back in turn by the former High Sheriff of Cornwall, Sir Ralph Arundell, in 1265. After some persuasion, Isolda de Cardinham granted the castle to Henry III's brother, Richard of Cornwall in 1270. Richard died in 1271, and his son Edmund took over Restormel as his main administrative base, building the inner chambers to the castle during his residence there and titling it his "duchy palace".

③The castle in this period resembled a "miniature palace", with

luxurious quarters and piped water. It was home to stannary administration and oversaw the local, profitable tin-mines in the village.

NO : 2166 ワークワース ・ ・ 年****イギリス (Warkworth Castle, Warkworth)



① 古い記録に見られるところによれば、ワークワースの町には8世紀から9世紀のころすでに要塞のようなものがあつたというが、現存の城は11世紀末にノーサンバーランド伯ロバート・モーブレイによって建てられたものである。城は、1191年から114年のあいだにさらに強化され、規模も拡大されたが、当初建築された建物もかなり残っている。ワークワース城のキープは丘のいちばん高いところに建てられている。この丘の西側は川に向かって急傾斜をなしており、東も西よりややゆるやかなが勾配になっているので戦いの時には守りやすい。城の周囲で唯一の平坦地となっているのは南側であるが、ここは深い濠をとまう高い城壁で堅固に力かためられている。城は、1922年、ノーサンバーランド家8代目の公爵のときに政府の管理するところとなり、現在にいたっている。城の建物はいずれも外部を残すのみだが、その構造は興味深い。

NO : 1003 ヴェネツィア・ドゥカーレ宮殿★ 宮殿・水城・宮殿 1309年****イタリア共和国 (Palazzo Ducale ,Venezia)



①古代、ヴェネツィア周辺の地域にはウェネティ人が住んでいた。伝説では、アクイレイア、パドヴァなどの北イタリアの都市の住民が、5世紀のゲルマン人のイタリア侵略からのこの湿地帯へと避難してくることから、452年にヴェネツィアの歴史が始まる。この時避難してきた先が現在の「トルッチェロ島」である。足場が悪い湿地帯のため、侵入者は追って来ることが出来ず、避難した人々はここに暮らし続けるようになる。干潟に住むメリットを保つため、干潟を荒らしたり干拓したものを極刑にする、という法を作ったり、普段は船が通れる道を杭で示していたが非常時にはその杭を抜く、など、干潟を守り、かつ、有効に利用していた。

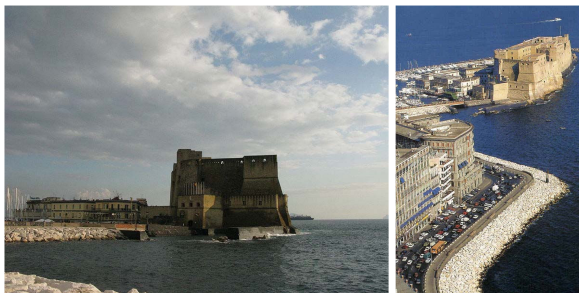
②ヴェネツィアのドゥカーレ宮殿はサン・マルコ広場にあり、共和国の総督邸兼政庁だった建造物。8世紀に創建され、14世紀(1309年)-16世紀にかけて現在の形に改修された。外観はゴシック風のアーチが連続し、イスラム建築の影響も見られる細やかな装飾が施されている

NO : 2008 オステア 城郭（城塞）・平城・14世紀****イタリア共和国（Castello di Ostia, Ostia Antica）



①Castello di Ostia (Castle of Ostia) ? in the Italian region of Lazio, began life during the early part of the 1400' s, when Pope Marino V ordered the construction of an "exelsa turris et rotunda." Towards the end of the 14th century a fortress was built upon the rotunda in all the magnificence and splendour of the renaissance period and became closely linked with Rome and the papacy.

NO : 1004 カステル・デル・オボ★ 城郭（要塞）・水城・水辺の要塞 11世紀****イタリア共和国（Castel dell'Ovo, Napoli）



①卵城（Castel dell'Ovo）は、サンタルチア港の小島に突出して作られた要塞である。もともとはローマ帝国にルクルスが建築した豪華な別荘であった。11世紀にノルマン人のオートヴィル家がナポリを支配すると、要塞として機能を拡大する。ノルマン人がこの城を築くにあたって、基礎の中に卵を埋め込み、「卵が割れるとき、城はおろか、ナポリにまで危機が迫るだろう」と呪文をかけたことが城の名前の由来と言われている。アンジュー家統治時代には税を納めるための倉庫に使われた。

②ナポリの起源は紀元前470年頃にギリシアの植民都市として建設されたことにさかのぼる。当時の町の名前は新しい都市という意味でネアポリス（Neapolis）と呼ばれ、基盤の目のように整然とした都市計画のもとに整備されていたと考えられている。紀元前4世紀頃に古代ローマの支配下に入る。62年と79年に地震が起こり、深刻なダメージをナポリにあたえたが、復興をとげた。

③11世紀にノルマン人のオートヴィル家が侵入してナポリを支配し、その後ホーエンシュタウフェン家の支配に入った。13世紀に入ってアンジュー家がこの地でナポリ王国を興し、ナポリは繁栄を迎える。16世紀前半にアンジュー家が衰えると、ナポリはスペインの支配下に入った。18世紀以降はブルボン家による支配を受けたが、1860年にイタリア王国へ併合され、その後は他の都市と比べて近代化が遅れ、衰退した。

NO : 2009 カノッサ 城郭（城塞）・山城・15世紀****イタリア共和国（Canossa, Reggio Emilia）



① イタリアの北部、パルマの町からアペニン山脈の中に34キロ入ったところにカノッサの小村と城の廃墟がある。建物もほとんど崩れ、わずかに塔や城壁の跡を残すのであるが、ここは1077年のはじめ、宗教権力と政治権力の葛藤から、ローマ法王グレゴリウス7世から破門されたドイツ国王ハインリッヒ4世が、許しを求めて法王に面会を申し込んだが、断られ、雪の中の門前に3日間立ちつくし、やっと法王に会うことができたという歴史上有名な『カノッサの屈辱』の舞台となった城である。この史実は、一方的な法王側の記録で政治的意図が見られるというが、当時ヨーロッパで複雑な権力闘争を現す一端の物語である。当時トスカナ女伯、マティルダの城であり、のちフェラーラのエステ家の属城となった。11世紀と15世紀に建てられた城はすべて崩れ、今では城跡に小さい史料館が建つのみで時の流れを感じさせる。

NO : 2010 クーバ 城郭（城館）・平城・1180年****イタリア共和国（Castello della Cuba, Palermo）



①イタリア・パレルモにある城。1180年、シチリア王グリエルモ2世によって建てられた。城は、グリエルモ2世の私的な休息所である広大な王室公園内に、人工湖と同時につくられた。1072年のノルマン征服以後もパレルモに住み続けたアラブ人芸術家の手による装飾と設計がみてとれ、イスラム建築から強い影響を受けていることがわかる。ブルボン家支配に変わってからは、いくつかの兵舎が追加された。16世紀にはハンセン病患者の居住地に使用された。

②大建築物は、どっしりとした外観の長方形の平面図を持つ。四つのファサードは、目隠しアーケードと小さな窓、壁がんにによって特徴づけられる。『クーバ』という名は、実際に大きくどっしりとした形態から名付けられている。有名な中世イタリア文学者ジョヴァンニ・ボッカッチョはクーバ城に触発され、『デカメロン』におさめられた一編の作品の舞台とした。

NO : 2011 ゴリチア 城郭（城塞）・平山城・1508年****イタリア共和国（, Gorizia）



①イタリアの北部、ユーゴスラビアとの国境に近くゴリチアの町がある。さほど大きくもない町だが、昔からイタリアと東ヨーロッパの交通上の接点でもあったから軍事基地があった。今は静かな田舎町である。このゴリチアの町を見下ろす丘の上に1508年、城がつくられた。当時はイタリアはいくつかの国に分かれ、この辺りはベネチア（ベニス）を中心とするベネチア共和国の領国だった。ベネチアは海上貿易の覇権を握る強国でその植民地はギリシャから地中海諸島にまで及んでいた。ゴリチアはベネチアの北部の守りだから城も実戦的な城塞であり、つねに駐屯兵が置かれた。ゴリチアはイタリアが統一されたのちも北辺の城として残った。1914年から18年にかけての戦乱で町はこわされたが、城はそのまま残り、今に伝えられている。城からゴリチアの町やイゾンツォ盆地のながめが美しい。なお、ゴリチアの町にはオーストリア・バロックの教会が残っている。

NO : 2012 シラクサ・エウリアロ★ 城郭（要塞）・平山城・ローマ時代 -402. 397年****イタリア共和国（Eurialo (Argonauta), Siracusa）



①市の西側に広がる「エビポリの台地」西端に、僭主ディオニシウスが建てた古代の要塞。エウリアロ（Eurialo）、エビポリ（Epipoli）とも。

②ハンニバル優位の状況を知った都市国家シラクサ（Siracusa）は、ローマを見限ってカルタゴについた。このときアルキメデスの発明品の数々がローマを悩ませて有名になるのだが、それと関係あるかないか激戦地だったのがエウリュアロスの要塞（イタリア語でCastello Eurialo、英語でThe Euryalus Castle）である。

NO : 1005 シルミオネ・スカリジェロ 城郭（城塞）・水城・実践的な砦 14世紀****イタリア共和国 (castello scaligero, Sirmione)



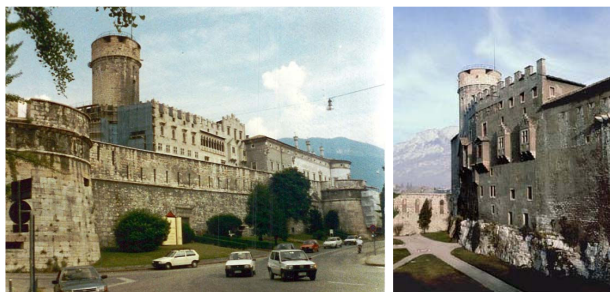
①14世紀にガルダ湖の南岸、岸から4キロほど湖に突出している岬の先端にシルミオネの町にヴェローナのスカリジェロ家が築いたもので、城は岬の先端の岩盤上に築かれて、まるで水中に浮いているように見える。建物の様式は中世のイタリア風で正面城門のはね橋を上げれば城は水中に孤立する。城壁、胸壁、塔は石と煉瓦でできているが、その形は北部イタリア的な特色を見せている。
②1405以来、ヴェネツィア共和国の一部となった。
③ヨーロッパに残る湖城の代表的なものであり、イタリアの訪ねたい城の一つである。

NO : 1006 ソアヴェ・スカリジェロ砦 城郭（城塞）・平山城・実践的な砦 1369年****イタリア共和国 (rocca scaligero, Soave)



①1369年に、スカラ家によってヴェローナのヴェネチアに対する守りの砦として作られた。街全体を城壁で囲み、小高い丘の上に実戦的な城を築き、一族のものと守備兵を駐屯させた。
②その後、ヴェローナがヴェネチアの支配下に入ると、ヴェネチア貴族の領地となり、城壁が強化され、ワインの生産と共に街は発展した。

NO : 2013 トレント 城郭（城塞）・平城・13世紀、16世紀****イタリア共和国 (Castello del Buonconsiglio, Trento)



① イタリアの北部、風景が美しいことで知られるガルダ湖からさらに北東に行ったところ、アディジェ川の清らかな流れに沿ってトレントの町がある。人口約8万人のこの町は、古くからブレンネル峠越えの要地として、オーストリアとイタリアの交流の一大中心として繁栄してきた。市の中心からやや北東寄りの一角、駅から歩いて5分ほどのところにカステル・デル・フオン・コンシリオと呼ばれる古い城がある。この城は二つの部分からなっており、一つはカステル・ベッキオ。もう一つはパラツォ・マグノと呼ばれる。カステル・ベッキオの方は12世紀、パラツォ・マグノは16世紀につくられた。現在は、博物館として公開されているが、とくにカステル・ベッキオの庭はベネチアン・ゴシックの美しいものである。トレントは北イタリアの古都としても知られた町で、見るべきものも多いから、機会があれば訪れたい。

②The Castle originated from a fortified building erected in the 13th century next to the city's walls. This first edifice was called Castelvecchio ("Old Castle"), and was the seat of the Bishopric of Trent from the 13th century onwards.

③Bishop George of Liechtenstein was the first to enlarge the castle, in the late 14th century, turning it into a well-styled residence. The Castelvecchio was further modified by Johannes Hinderbach, who had the double loggiato and the Gothic entrance gate built. In the first decades of the 16th century Bishop Bernardo Clesio had a new residence, called Palazzo Magno ("Grand Palace") built in Renaissance style alongside the old castle. The last great addition was the so-called Giunta Albertiana, from the name of Bishop Francesco Alberti Poja (1686), with which the Castelvecchio and the Palazzo Magno were united

NO : 2014 バーリ 城郭（城塞）・平城・1131年****イタリア共和国 (Castello Svevo, Bari)



①The Norman-Hohenstaufen Castle, widely known as the Castello Svevo (Swabian Castle), was built by Roger II of Sicily around 1131. Destroyed in 1156, it was rebuilt by Frederick II of Hohenstaufen. The castle now serves as a gallery for a variety of temporary exhibitions in the city.

NO : 2015 ポンペイ遺跡★ 城郭都市（都市国家）・平城・ローマ時代 -89年****イタリア共和国 (Pompeii, Pompeii)



①イタリア先住のオスキ人によって集落が形成された。紀元前7世紀、サルノ川の河口付近の丘に集落があった。その後、紀元前526年からエトルリア人に占領されたが、ポンペイ市民はイタリア南部に居住していたギリシャ人と同盟を組み、紀元前474年クマエの海戦で支配から脱した。ギリシャ人はその後ナポリ湾を支配した。紀元前5世紀後半からサムニウム人の侵攻が始まり、紀元前424年にはサムニウム人に征服されることとなった。

②カンパニアの諸都市が同盟戦争と呼ばれる戦争をローマに対して起こすと、ポンペイも反ローマ側に加わった。しかし、紀元前89年、ルキウス・コルネリウス・スッラによって町は征服された。これによりポンペイは周辺のカンパニア諸都市とともにローマの植民都市となった。ローマの支配下に入った後のポンペイの正式名はColonia Cornelia Veneria Pompeianorum (ポンペイ人によるウェヌス女神に献呈されたコルネリウスの植民市) となった。ポンペイは、港に届いたローマへの荷物を近くのアッピア街道に運ぶための重要な拠点となり、以後、商業都市として栄えた。79年8月24日、ヴェスヴィオ火山が大噴火し、一昼夜に渡って火山灰が降り続け、翌25日に完全に地中に埋まった。

NO : 2016 マルセジネ 城郭（城塞）・平山城・13世紀****イタリア共和国 (Marcesine)



① シルミオネの町からガルダ湖の東岸を北上すると、湖の北東岸にあるマルセジネの町の、湖に面した巨大な岩盤の上にベネチア共和国の時代からの城がそびえている。シルミオネの城と同じく、北イタリアの名家で、ペローナに本拠を置いていたスカリジェロ家が、13世紀から14世紀にかけてつくった実戦的な城塞である。マルセジネの城のその構造には、まったく装飾というものがみられず、戦いのためにのみ備えがある。巨大な中世風の大型のドンジョンと居館からできている頑丈な構造は、むしろスペイン辺りのアラブの流れをくむ城塞を思わせるスタイルであるが、中央にそびえるドンジョンには、最上層まで、窓も狭間もまったくなく、という奇妙なものである。この塔の屋上にのぼれば、北イタリア独特の水の色を持つガルダ湖とマルセジネの町の眺望が美しい。湖上の遊覧船からの城の姿も一見の価値がある。イタリアの代表的な城の一つである。

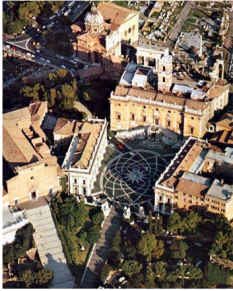
②Its most prominent landmark is the Castello Scaligero, which has 13th-century fortifications and an older medieval tower. Remnants of an Etruscan tomb have been found within the castle walls. The castle was fortified by the della Scala family who ruled the region throughout the 13th century.

NO : 1007 マントヴァ・ドゥカーレ宮殿★ 宮殿・平城・宮殿 1395年****イタリア共和国 (Palazzo Ducale , Mantova)



①built between the 14th and the 17th century mainly by the noble family of Gonzaga as their royal residence in the capital of their Duchy. The buildings are connected by corridors and galleries and are enriched by inner courts and wide gardens. The complex includes some 500 rooms and occupies an area of c. 34,000 m2. Although most famous for Mantegna's frescos in the Camera degli Sposi (Wedding Room), they have many other very significant architectural and painted elements. The Gonzaga lived in the palace from 1328 to 1707, when the dynasty extinguished.
②The Castle of St. George (Castello di San Giorgio) was built from 1395 and finished in 1406 under commission by Francesco I Gonzaga, designed by Bartolino da Novara, one of the most renowned military architects of the time. It has a square plan with four corner towers, surrounded by a ditch with three entrances, each one with a drawbridge.
③In 1459 architect Luca Fancelli, commissioned by marquis Ludovico III Gonzaga, who assigned several rooms of the Corte Vecchia for the Council of Mantua called by Pope Pius II, restored the castle, which lost definitely lost its military and defensive function.

NO : 1008 ローマ・カピトリヌスの丘★ 城郭(要塞)・平城・ポリスとアクロポリス -390年****イタリア共和国 (Campidoglio, Roma)



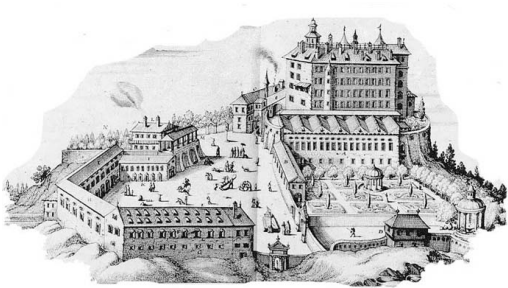
①カンピドリオ (Campidoglio) は、ローマの7丘の一つである。カピトリノ (Capitolino) ともいい、古代ローマ時代にはラテン語でカピトリヌス (Capitolinus) と言われた。この丘は、ローマの7丘でも最も高い丘で、ローマ神の最高神であったユピテルやユノーの神殿 (ユピテル・オプティムス・マキシムス、ユノー、ミネルヴァ神殿) があり、古代ローマ時代には、ユノーを囲むように城壁が作られ、アルク (城塞) と呼ばれ、セルウィウスの城壁の西側の中心部にあり、防衛上重要な拠点となった。前390年にガリア人に攻め込まれた際には全ローマ 人が籠城し半年以上も持ちこたえたという記録がある。ローマの中心であり、現在のローマ市庁舎が位置する。
②現在の頂上には、ミケランジェロが設計したカンピドリオ広場 (Piazza del Campidoglio) があり、中心にはマルクス・アウレリウス像、その周囲をカピトリノ美術館、コンセルヴァトリー宮殿などが取り巻いている。また、ヴェネツィア広場側にはヴィットーリオ・エマヌエーレ2世記念堂がカンピドリオの丘に背を向けるように建っている。ミケランジェロはカンピドリオ広場の設計にあたって、複数の異なった形の建物を、ひとつの明快な対称軸線上に統合することで、建築史上初めて、バロック的広場を創案した。このランドスケープの設計手法は後に、ミケランジェロの後を引き継いだバルネーニによって、サン・ピエトロ広場においてより明確に示されることになる。

NO : 2017 アニフ 宮殿・水城・サウンドオブミュージック 1838年****エストニア共和国 (Wasserschloss Anif , Anif)



① サルツブルクの町から南に約10キロ、車で20分足らずのところにあるアニフの小村に、小さな湖と森に囲まれたアニフの城がある。湖の中に孤立しているためと、その澄んだ水に映る姿の美しさのために『水城』と呼ばれているこの城は、中世にあった古い城館を近世になってから修築したものである。小さな湖の中に建てられた城館の建築は、ルネッサンス様式やネオ・クラシック様式をたくみに使った、美しく瀟灑なものだ、まるでおとぎ話の国のお城のような、美しい姫君でもテラスから窓にでも現れそうなたたずまいを見せている。オーストリアでもっとも優雅だといわれるこの城も、個人所有のために公開されていないため、内部はもちろん、広い敷地の中にある外観さえも一般には見ることができず、わずかにサルツブルクで売られている絵葉書で、その姿を見せるくらいである。しかし最近では、許可を得れば庭内に入れるので、サルツブルクを訪ねたら、車を走らせて見るとよい。
②The Anif Palace, also known as Water Palace Anif, stands beside an artificial pond within the Austrian county of Anif at the southern edge of the city of Salzburg. Anif is most famous for its use in several movies, including The Sound of Music and Frederick Forsyth's The Odessa File.

NO : 2018 アンブラス 城郭(城館)・平山城・1564年****エストニア共和国 (Schloss Ambras, Innsbruck)



① オーストリア・チロル地方の中心、冬季オリンピックの開催地としても有名になったインスブルクの南郊の・山麓に優雅なアンブラスの城がある。清澄な空気の中に四季の草花を植えた広大な庭園、テラスから一望できるインスブルクの町とアルプスの山々が手に取れるような風光絶佳の城である。建物ははじめアンデック伯によって11世紀につくられたが、こわされ、その後、交替した領主たちによってたびたび増・改築され、現在の建物は1564年、フェルディナンド公によってつくられたルネッサンス風の城館が中心になっている。城館は二つのブロックにわかれており、一つは宮殿風の巨大な建物、もう一つはチロル風の瀟灑な装いをもつ建物である。城の内部は一般に公開されており、美術品、武器、調度などのコレクションが陳列されている。インスブルクから車で15分くらいのところにあるので、この町を訪ねれば足を向けたい城である。

NO : 2019 インスブルック ・ 年****エストニア共和国 (, Innsbruck)



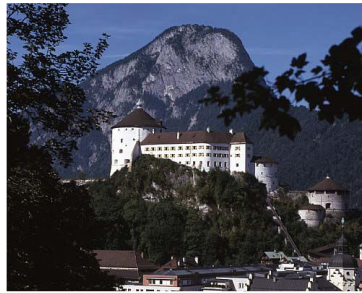
①イン川沿いに位置する。インスブルックという地名自体が、「イン (川) の橋」という意味になる。ドイツに至るためのアールベルク峠、イタリアに至るためのブレンナー峠に近い。交易上の中継都市として重要な役割を果たした。近隣の都市としては、約95キロ北にドイツのミュンヘン、85キロ南にイタリアのボルツァーノが位置する (ただし直線距離。実際はアルプス越えが必要でさらに遠い。)。1239年に都市特権を得た。14世紀よりハプスブルク家の支配下に入る。マクシミリアン1世の治世時には都が置かれ、各地から商人が往来する繁栄をした。チロルの鉱山から産出される豊かな資源を利用して、当地に武器工場を建て、最新の甲冑 (フリューテッドアーマー) を開発、製造させた。
②チロル州はワルツの発祥の地ということもあり、インスブルックは舞踏会の街でもある。人口密度と比較すればウィーンより多くの舞踏会がカーニバル (ファッシング) シーズン中に開かれている。
③Castle Court Innsbruck Albrecht Durer

NO : 2020 キッツビュール ・ 年****エストニア共和国 (,)



①In the twelfth century the name Chizzingensspuehel is mentioned for the first time in a document of the Chiemsee monastery. Chizzo relates to a Bavarii clan, Buhel describes the location of the settlement upon a hill. Kitzbuhel became part of Upper Bavaria in 1255. Louis II, Duke of Bavaria granted Kitzbuhel the rights of a city on June 6, 1271, and it was fortified with mighty city walls. During the next centuries the city became a focus of trade, grew steadily and never was affected by wars. So the city walls were razed at the level of the first floor and used for building new houses.

NO : 2021 クフシュタイン ・ ・ 年****エストニア共和国 (Festung Kufstein, Kufstein)



① インスブルクとサルツブルクの中間、ドイツとの国境近く、美しいライン川の流れに沿った小さな丘の上にクフシュタインの城がある。流れをへだてた対岸からの城の眺めはオーストリアの城の中でも絵のように麗しいと定評がある。この地には、古くから街道の要地だったために、砦があったが、1205年、この砦の跡にレゲンスブルクの大僧正が新たに教区の保護のための城塞をつくった。現在の建物はその城塞を、16世紀になってから大改築したもので、丘陵の上に威容を誇っている古代風な大円塔が城塞としての厳しさを示している。城はそののちたびたび城主を替えているが、18世紀のころからはバイエルン王国の支配下にあり、19世紀には刑務所として使用されており、カイザーターム(皇帝の塔)と呼ばれる塔にも上ることができる。城のある丘上は公園となって公開され、また城内には郷土博物館となった城の建物もあって、内部には興味深い郷土資料の展示が見られる。
②The greatest landmark of Kufstein is the Kufstein Fortress, which was first mentioned in the 13th century.

NO : 2022 グレーレンシュタイン ・ ・ ルネサンス 1570年****エストニア共和国 (Schloss Greillenstein, Horn)



① オーストリア・ドナウの北部地方、ウィーンから北西に約60キロほどの距離のところにあるホルンの町に近く、グレーレンシュタインの城がある。この城のはじめは22世紀初期、すなわち1210年にグレーレン家の居城としてつくられたという。その後、16世紀にはクフシュタイン伯のものとなっていたが、17世紀のはじめにバイエルンによって占領され、1645年には、スウェーデン軍によって破壊されてしまった。現在見られる建物はその後、17世紀の終りに再建されたものである。この城の建造物としての特徴は、大きな四角い塔が建物の真正面中央にあることで、居館がその塔の後に置かれるというきわめて異色のスタイルをもっている。城内は一般公開されており、美術品、調度などを展示している。この辺り、ウィーンからの行楽地の一つであり、田園と森の静かさは機会があれば訪ねたい地である。
②Schloss Greillenstein wurde zwischen 1570 und 1590 im Stil der Renaissance errichtet und diente vorwiegend als Repräsentations- und Amtsgebäude zur Verwaltung der grossen Grundherrschaft von Hans Georg III. von Kufstein.

NO : 1009 シェーンビュール★ 城郭(城塞)・山城・東欧の山城 15世紀****エストニア共和国 (Schloß Schonbuhel, Schonbuhel-Aggsbach)



①9世紀初めの建造。中世のころには、オーストリア大公に属する城塞があったが、15世紀から16世紀以降に、古い城塞は壊されて、その基盤の上に現在見られる居館が新たに建築された。現在の建物は、近世風バロックの瀟洒な城館。
②ドナウ川に沿った有名な修道院のある町メルクから、さらに少し下ると、ドナウの流れに沿った大きな岩盤の上に建つ、オーストリアでもっとも美しいといわれる白い城館である。

NO : 1010 シェーンブルン宮殿★ 宮殿・平城・宮殿(庭園式) 1693年****エストニア共和国 (schonbrunn, Wien)



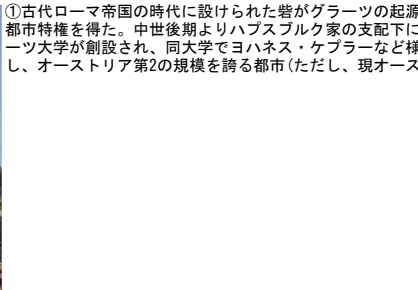
①1693年 レオポルト1世(在位: 1658年-1705年)が狩猟用の別荘をつくった。歴代の皇帝らが増築・造作を行い、マリア・テレジア(在位: 1740年-1780年)の時代に完成された。
②オーストリアの首都ウィーンにある宮殿。ハプスブルク王朝の歴代君主が主に離宮として使用した。神聖ローマ皇帝マティアス(在位: 1612年 - 1619年)が狩猟時に美しい(schon)泉(Brunn)を発見したためにシェーンブルンと命名したと伝えられている。
③ウィーン風ロココ様式

NO : 2023 シャッテンブルク ・ ・ 年****エストニア共和国 (Schattenburg ,Feldkirch)



①The beautiful medieval town, which remains well preserved to this day, was mentioned as a city for the first time in 1218, after Count Hugo von Montfort built the "Schattenburg", a castle which still is the major landmark of Feldkirch.
②The Schattenburg Feldkirch, the landmark of the city, was built in the 12th century. It served Hugo I from Montfort to secure the city and traffic over the passes to the south and the east and gives us today a view of the world in the early 16th century. The castle walls, the beautiful castle tower, the ancient areas and the unique inner court provide for a unique medieval atmosphere.

NO : 1011 シュロスベルグ★ 城郭(城塞)・平山城・領主の城 13世紀****エストニア共和国 (Schlosberg, Grazer)



①古代ローマ帝国の時代に設けられた砦がグラーツの起源であり、町の語源はスラブ語で「砦」を意味する「グラデツ」からきている。13世紀に都市特権を得た。中世後期よりハプスブルク家の支配下におかれ、フェルディナント2世など何人かの歴代皇帝がこの地で生まれた。1586年、グラーツ大学が創設され、同大学でヨハネス・ケプラーなど様々な学者が教壇に立った。19世紀以降、交通網の発展や工業化にともなって急速に発展し、オーストリア第2の規模を誇る都市(ただし、現オーストリア領において)へと成長した。第二次世界大戦では街の一部が破壊された。

NO : 2024 デュルンシュタイン ・ ・ 年****エストニア共和国 (Durnstein)



①Durnstein was first mentioned in 1192, when, in the castle above the town, King Richard I Lionheart of England was held captive by Duke Leopold V of Austria after their dispute during the Third Crusade. Richard had personally offended Leopold by casting down his standard from the walls at the Battle of Acre, and the duke suspected that King Richard ordered the murder of his cousin Conrad of Montferrat in Jerusalem. In consequence Pope Celestine III excommunicated Leopold for capturing a fellow crusader. The duke finally gave the custody of Richard to Emperor Henry VI, who imprisoned Richard at Trifels Castle. Durnstein Castle was almost completely destroyed by the troops of the Swedish Empire under Field Marshal Lennart Torstenson in 1645.

NO : 2025 ペルセンブルク ・ ・ 年****エストニア共和国 (Schloss Persenbeug, Persenbeug)



① ドイツのバツサウの町からオーストリアのウィーンに至るドナウ川下りの遊覧船は、早朝にバツサウを出発、夕方というよりは夜、ウィーンにつく1日コースだがその両岸に多くの古城を見ることができる。ただこの遊覧船がいささか時間がかかるのは、ライン川の場合と異なり、オーストリア国内を流れるドナウ川には数多くのダムがあって、そのつど、ドックに水を出し入れして船を進めるためなのである。数々の有名な古城の中でもペルセンブルクの城はドナウ川に近接し、遊覧船の上からもすぐま近に見ることができる。この城は有名な修道院メルクから20キロほど上流にあり、その創築は10世紀という。現在の建物は17世紀のもので、さらに近年に修築されている。居館風な建物だが、オーストリア最後の王、カール1世は1887年にこの城内で生れたという由緒深い城である。城の一部は公開されている。ウィーンから車で3時間余りの距離である。

②Wachau

NO : 2026 ヘルブルン ・ ・ 年****エストニア共和国 (Schlos Hellbrunn ,)



①Hellbrunn Palace (German: Schloss Hellbrunn) is an early Baroque villa of palatial size, near Morzg, a southern district of the city of Salzburg, Austria. It was built in 1613-19 by Markus Sittikus von Hohenems, Prince-Archbishop of Salzburg, and named for the "clear spring" that supplied it. Hellbrunn was only meant for use as a day residence in summer, as the Archbishop usually returned to Salzburg in the evening. Therefore, there is no bedroom in Hellbrunn.

②The schloss is also famous for its jeux d'eau ("watergames") in the grounds, which are a popular tourist attraction in the summer months. These games were conceived by Markus Sittikus, a man with a keen sense of humour, as a series of practical jokes to be performed on guests.

NO : 2027 モズハム ・ ・ 年****エストニア共和国 (Schloss Moosham?, Burg Moosham)



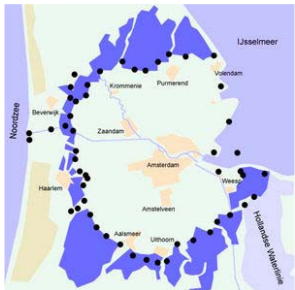
① サルツブルクから南に約120キロ、ザンクト・マルティンの町の近くにモズハムの城がある。そのはじまりは、1256年、モズハム家によって築かれた。しかし、モズハム家は13世紀の終わりに城を失い、その後、城主はたびたび替ったが、現在の城はその間、16、17世紀に改築されたものである。19世紀にはサルツブルクの大司教がこの城の所有者となった。城は二つの部分に分かれており、オーストリアの典型的な城館のスタイルを今につたえている。城内は一般に公開されており、美術品、武具類、調度品などのコレクションは有名である。高い塔と中世風の建物は、静かな谷間にあってよく古城の面影をのこしている。とくに、入口を渡った所にある城門をかねた時計塔が美しい。交通の便はよいとはいえないが、サルツブルクから車ならば、約2時間足らずのところなので、機会があれば訪ねたい城の一つである。

NO : 2028 ローゼンブルク ・ ・ 年****エストニア共和国 (Rosenburg Slot,)



①ウィーンの北西約80キロ、ドナウ川の支流、カンブ川の静かで美しい渓谷沿いの山上にローゼンブルクの城がある。記録によれば、1175年からローゼンブルク家がこの地方を支配しており、城がつくられたのは1569年という。その後、16世紀の終りから17世紀の前半にかけて増・改築された。カンブ川の高峻な山上に建てられた城は、22の塔をもち、南側に一つの通路があるのみの要害である。その後、フランス軍によって占領された時に、建物は破壊、焼失してしまったが、1859年に古い様式にしたがって再建された。現在見られる建物がそれである。オーストリアの代表的な城の一つで、古いフォークソングにも次のように讃えられている。『正義を守るオーストリアの城がここにある。城は銀と黄金によってつくられ、大理石の壁で飾られている』この辺り、カンブ川の静流はウィーンからの行楽地である。

NO : 1012 アムステルダムの防塞線★ 城郭都市(稜堡型)・平城・稜堡型 1880年****オランダ王国 (Stelling van Amsterdam, Amsterdam)



①1880年から1914年にアムステルダムの防塞線は建造された。しかし、完成するや、飛行機と戦車の実戦投入が始まり、要塞は意味を成さなくなった。

②42の要塞が配置された全長135キロに及ぶ堤防で、各要塞はアムステルダム中心部から10 - 15kmに位置しており、戦時には防衛の為に低地部が容易に冠水するように設計されていた。冠水時の水深は30cm程度で、ボートが使えないように配慮されていた。また、防塞線の1km以内の建造物は、可燃性や可動性を考慮されて木製だった。

NO : 2029 ザイレン ・ ・ 年****オランダ王国 (slot Zuylen, Zuylen?)



① オランダ中部の町ユトレヒトの北郊、風車や運河の美しい田園風景の中にザイレンの城がある。赤煉瓦づくりの城館は、小さい静かな濠に囲まれてのどかなたたずまいを見せている。かつては中世風の城館があったのを、18世紀になって現在のような煉瓦づくりの建物に改築した。したがって、中世風スタイルのまま残っている城門や塔などの古式とは対照的である。城館の濠に面している部分と反対の半分は庭園に面しており、古びた煉瓦の壁面にはつたがからまり、四季折々の花は城の庭園に咲き乱れる。現在の城の所有者は、世界的富豪として知られるロスチャイルド家で、同家のヨーロッパに点在する所有物の一つとして知られている。城内のコレクションはさすがで、美術品、家具、調度の類が見事であり、希望者には公開されている。ただし、この城の内部のコレクションの見物はシーズン中は随時できるが、そのほかは申込みが必要。

② The castle was originally built in the 13th century by lord van Suilen en Anholt as a simple Donjon. In 1420 during the Hook and Cod wars the castle was completely demolished. In 1525 rebuilding started. In 1752 the castle was modified for the last time. It holds a tapestry by the Delft carpet weaver Maximiliaan van der Gucht. Its past inhabitants include Steven van der Hagen and Belle van Zuylen.

NO : 2030 セン・ウデンロード ・ ・ 年****オランダ王国 (Sint-Oedenrode, s-Hertogenbosch)



① アムステルダムから南西90キロ、スヘルトヘーンボスの町に近くセン・ウデンロードの城がある。ドムメル川に沿った小さい町は静かなたたずまいを見せているが、その町の1隅に小さい濠に囲まれた城がある。城の周辺は今では公園になっているが、かつては城に付属する庭園で、この城も田園につくられた領主の城館だったが、オランダのような平地につくられた建物は天然の要害な地形による城地の選定は不可能だから、防備はせいぜい水壕程度であり、城館とはいうものの敵に対する防御性はきわめて良くない。現在は、城館は改装されて内部は図書館になっているのだが、そのスタイルは中世風の塔をもち、おとぎ話に登場する城のようである。本館の前に残る建物は古い様式を見せ、その白く塗られた外壁の内部には納屋のような構造を見せ、中世風な雰囲気を残している。このスタイルは領主の城館に馬屋やその他の家畜が飼われていて、また農耕のための器具等を収める納屋が付属していたことを伝えている。

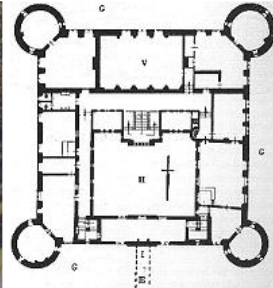
NO : 2031 デ・ハール ・ ・ 1482年****オランダ王国 (Kasteel De Haar,)



① The oldest historical record of a building at the location of the current castle dates to 1391. In that year, the family De Haar received the castle and the surrounding lands as fiefdom from Hendrik van Woerden.

② The castle remained in the ownership of the De Haar family until 1440, when the last male heir died childless. The castle then passed to the Van Zuylen family. In 1482, the castle was burned down and the walls were torn down, except for the parts that did not have a military function. These parts probably were incorporated into the castle when it was rebuilt during the early 16th century.

NO : 2032 ヘルモント ・ ・ 1402年****オランダ王国 (Kasteel Helmond, Helmond)



① Helmond Castle was built around 1402 by a member of the Van Berlaer family to replace their first castle, of which remains were found during excavations some 250 meters to the southwest. It is a square castle with 4 circular corner towers that shows similarity to other square castles like Ammersoyen Castle, Muiden Castle and the partially remaining Radboud Castle.

② Its walls are only 1.3 meters thick so the castle relied heavily on its double moats to keep the canons at a safe distance. The defences of the castle were closely linked to those of the town of Helmond. Originally the 2 northern towers weren't equipped with the conical roofs we see today but were crenelated, as was the northern wall with the gate. In 1549 the castle was damaged by a fire.

NO : 2033 マイデン 城郭(城塞) ・ 平城 ・ 1350年****オランダ王国 (Muiderslot, Muiden)



① 12世紀に構築されたというのが、当時、オランダはまだ独立国ではなく、司教領や諸侯の領土が入り組んでいたため、14世紀から15世紀にわたってたびたび戦乱に巻きこまれた。17世紀の前半になって、当時詩人であり歴史家としても有名なP・C・ホープがこの城主となり、そのころの学者・文化人を集めてマイデン・サークルと呼ばれる文化集団を結成していた。その活動の名声は今日におよんでいる。

② アムステルダムから東へ約10キロ、ソイデル海に面したマイデンの町の海岸に城はある。海水を濠に引き入れ、茶色の煉瓦で外観を築き、内部の随所に木材をつかったこの城は、石の産出の少ないこの国の築城の特色をよく現している。マイデンの城は、中世のオランダ地方海岸部に構築された城の典型的な例の一つである。

NO : 2034 ミル ・ ・ 年****オランダ王国 (Kasteel Aldendriel, Mill)



① オランダの首都アムステルダム(ハーグもまた首都)から南西に約120キロ、ナイメーヘンという都市があり、そこから30キロほかりのところにミルという小都がある。入口1万足らずのこの町はドイツ国境にも近く、ライン川の支流ラム川に沿った田園の中の小さい中心だが、町のほぼ中央にラム川の水を引いて濠とした中に赤煉瓦の城館が建っている。もともとこの地方の領主の居館だが、中世のころからの城館で当時でもまったくの平地のことだから防備のよりどころは水を引いた濠であり、城館は水中に孤立してはね橋で外郭と結ばれていた。大軍に攻められればひとまりもない城だが、オランダにおける田園の居館の典型的なものである。現在の建物は近世になって建て直されたものだが、学校として使用されている。城の周辺は公園になっていて子供や老人の姿が見られる。オランダにはこのようなスタイルで、学校や図書館などに利用されている城館が多い。

NO : 2035 ライデン モット・アンド・ベイリー・平城・モット・アンド・ベイリー 12世紀***オランダ王国 (Burcht te Leiden, Leiden)



①ライデンは、16世紀から17世紀にかけて繁栄を極めた。15世紀終わりにライデンの繊維業（主に服地）確立が非常に重要だった。スペイン軍の追放後、ライデンの織物、ライデンの毛氈、ライデンのらくだ織りはよく知られた言葉だった。同じ時代、ライデンは重要な印刷・出版業の地として発展した。

NO : 2036 ローゼンダール ・ ・ 年***オランダ王国 (Kasteel Roosendaal, Roosendaal)



①はじめの城は中世に築かれたが、1124年にはゲルダールのレイノード伯によって築城されたという記録がある。1421年にはこの城は大火災で焼失し、その後たびたび修築されて現在の城は18世紀から19世紀にかけてつくられたものである。居館風に改装されているため、武備はわずかに大きな円塔に面影を残すのみである。庭園は広場で、池のような濠と、噴水、森、野外彫刻物などからできている。

②現在、城内は博物館になっており、武具、調度などのコレクションがある。とくに目をひくのは中世の城の模型で、人形の戦士の攻防戦が見られる。なお、世界城郭協会の事務局がここに設置されていた。

NO : 2037 アルゴス・アクロポリス ・ ・ 年***ギリシャ共和国 (Acropolis, Argos)



①Argos was a major stronghold of Mycenaean times, and along with the neighbouring acropolis of Mycenae and Tiryns became a very early settlement because of its commanding positions in the midst of the fertile plain of Argolis. During Homeric times it belonged to a follower of Agamemnon and gave its name to the surrounding district: the Argolid which the Romans knew as Argeia. The importance of Argos was eclipsed by nearby Sparta after the 6th century BC.

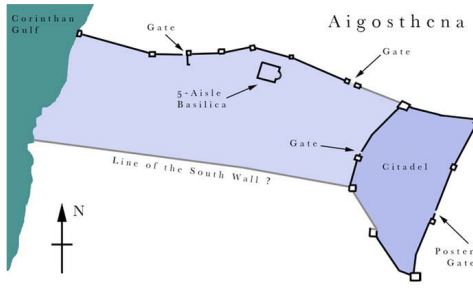
②Because of its refusal to fight or send supplies in the Graeco-Persian Wars, Argos was shunned by most other city-states. [citation needed] Argos remained neutral or the ineffective ally of Athens during the 5th century BC struggles between Sparta and Athens.

NO : 2038 イラクリオン 城郭（要塞）・水城・13世紀***ギリシャ共和国 (Iraklion)



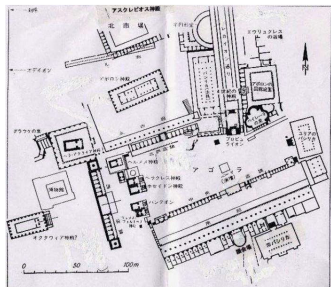
①9世紀、イスラーム勢力によって街が建てられたとされるが、それ以前にも文明が存在した痕跡の遺跡などが発見されている。その後、東ローマ帝国、ジェノヴァなどの支配を経て、13世紀初頭に第4回十字軍で勢力を伸張させていたヴェネツィアの支配下におかれた。現在でも、ヴェネツィア領時代の要塞が残されている。その後、20年以上に渡る攻防戦を経て1669年にオスマン帝国がこの都市を獲得した。20世紀初頭にギリシア領となった。

NO : 2039 エゴステナ ・ ・ 年***ギリシャ共和国 (Larissa - Acropolis of Argos, Aegosthena)



①Based on the design of the defense towers, Ober proposes that the site was fortified after 370 BCE. Lawrence opts for a date in the late 4th century BCE, on the assumption that Demetrios Poliorcetes built the fortress rather than simply occupying it. The site was under the control of the Achaean League in 243-242 BCE, and in 225 BCE it joined the Boeotian League. Shrines of Melampus and Heracles are known to have existed by inscriptions recovered on the site. The town and its warehouses operated down into Roman times. An inscription of c. 420 CE listed Aegosthena as a free city. A five-aisled Christian basilica was erected in the lower fortified area in the medieval period, and there was a monastery complex within the citadel.

NO : 2040 コリントのアクロポリス ・ ・ 年***ギリシャ共和国 (Acropolis, Korinthos)



①紀元前9世紀、ドーリア人（ドリス人）によって建設され商業都市として繁栄した。アプロディーテーを守護神としその祭祀で知られる。ヘレニズム時代に繁栄した後、一時衰退したが、古代ローマ時代に属州アカエアの州都として再建され、繁栄を誇った。キリスト教文化においてはパウロ書簡の宛て先としても知られる。現在のコリントシア (Corinthia) に相当する。

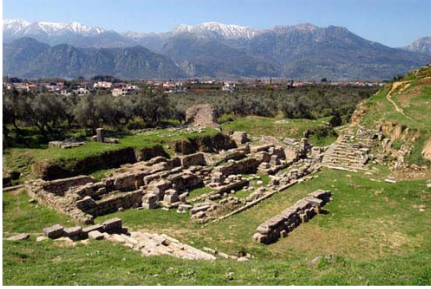
②395年～396年のアラリック1世のギリシア侵攻時、コリントスは彼によって略奪された都市の一つとなり、多くの市民が奴隷として売られた。東ローマ帝国皇帝ユスティニアヌス1世治下、サラニコス湾からコリント湾まで大きな石壁が建てられ、都市とペロポネソス半島を北方の蛮族の侵襲から守った。石壁は、長さ約6マイル（10キロメートル）で、エグザミリオン (Examilion (exilはギリシア語で6) と名づけられた。この時代、コリントスはヘラス（現代のギリシアを意味する）のテマ（軍管区）の中心であった。

NO : 2041 サロニカ (テッサロニキ) ・ ・ 年****ギリシャ共和国 (Salonica)



①テッサロニキは紀元前315年前後にマケドニア王アレクサンドロス大王によって創建。アレクサンドロスの王統より王位を奪ったカッサンドロスは王妃テッサロニカ（アレクサンドロスの腹違いの姉妹）の名を取りテッサロニケーと名付けた。紀元前168年にマケドニア王国が滅びてから、共和制ローマ領の都市となる。ローマとビザンチウム（後のローマ帝国の首都コンスタンティノポリス、現在のイスタンブール）を結ぶエグナティア街道沿いの重要拠点となり、東西交易の場所として栄えた。ローマが東西に分割されたあとは、東ローマ帝国の権力下に置かれ、コンスタンティノポリスに次ぐ、帝国第2の都市として栄え、多くの教会が建設された。テッサロニキの人々は聖像破壊運動の時代にもイコンを隠して守ったため、他の旧東ローマ帝国領内では失われてしまった聖像破壊運動以前の貴重なイコンやモザイク画が数多く残っている。

NO : 2042 スパルタのアクロポリス ・ ・ 年****ギリシャ共和国 (Acropolis, Sparta)



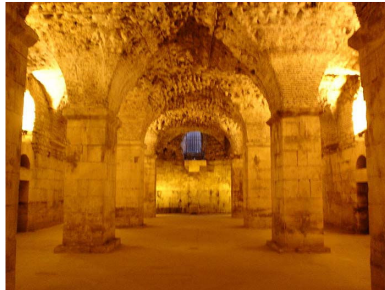
①Sparta's primary role in Herodotus was as the winner of the Peloponnesian War (432-404 BC), after which it attempted to rule over all of Greece; but it is unclear whether the Sparta of Herodotus has a one-to-one correlation with the archaeological site, which has been explored since the late 19th century by the American School, the British School, and most recently, by the Greek Service.

NO : 2043 ミコノス・ディロス★ ・ ・ 年****ギリシャ共和国 (Mykonos, Delos)



①紀元前11世紀初頭よりイオニア人が住みついたとされている。フテリア海岸 (Ftelia) には紀元前3000年前後の新石器時代のカレスの遺跡も発見されたとも伝えられている。ギリシア神話ではゼウスとギガースの戦いの地として知られ、島の名はアポロンの孫・ミコノスの名より取られたとされる。古代では2kmに隣接している栄えた島デロス島への農産物供給地及びデロス人の休息地として栄えたと考えられている。
②歴史的にはデロス同盟が結ばれたことで知られている。キクラデス諸島に属する。島内には遺跡が数多く残っている。ギリシア神話では、アポロンとアルテミスの生誕地として、聖地とされている。女神レトはデロス島のキュントス山 (Mount Kynthos) でアポロンを産んだとされる。かつてはヘレニズム文化の宗教的、芸術的、商業的な中心地として栄えた。

NO : 1013 スプリット★ 宮殿・平城・ローマ時代 305年****クロアチア共和国 (Diocletian's Palace, Split)



①295年-305年、ディオクレティアヌス宮殿を造営されたことが都市の起源となったことが知られる。それより早く、ギリシア植民地アスパラトス (Aspalathos) が建設されていた。ギリシャ人からは、近郊の都市サラナに住むイリュリア人（多くがダルマチア人）との貿易を行って暮らした。
②瀕死の病にかかったローマ皇帝ディオクレティアヌス (在位: 284年-305年) は、305年に政治から引退した。彼は故郷の近くに隠居用の宮殿を建てるよう命じ、故郷ディオクレア (サラナ近郊) にほど近い、海辺の町スパラトゥムを建設の地を選んだ。建設事業は、政界引退をディオクレティアヌスが準備していた293年に始まった。宮殿はどっしりとした構造をしており、ほとんどローマの軍事要塞のようである。宮殿南側は海に面し、その城壁は170メートルから200メートルの長さで囲む (高さは15から20メートル)。城壁内の面積は38,000平方キロメートルであった。宮殿の水道は堅固な作りで、ディナル・アルプス山中のヤドロ水源から水道路で供給されていた。この潤沢な宮殿と周囲には、当時8,000人から10,000人の住民が暮らしていた。

NO : 1014 エーグル 城郭 (城塞) ・平城・小奇麗な城 12世紀****スイス連邦 (Chateau d'Aigle, Aigle)



①12世紀から15世紀にかけて支配していたサバイ家のものであった。中世風の塔、城壁に囲まれたその形態は、スイスの中世城塞の特色をよく現しているが、現在は刑務所として使用されており、城内は公開されておらず、外観を見に時々旅行者が訪れる。しかし、一面にブドウ畑で囲まれた城のたたずまいは、美しいなごめである。
②レマン湖の東端に近いモントルーの町から南に約10キロ、エーグルはローヌ渓谷の入口の町でもあり、インターラーケンにいたる中部山地への道でもある。このあたりのブドウ畑は有名で、名酒を産出する。

NO : 1015 オーバーホーフエン 宮殿・水城・小奇麗な城 17世紀****スイス連邦 (Schloss Oberhofen,)



①11世紀当時には戦闘用のキーブツと城壁がつくられたただけであったが、17世紀になって近世風な居館が増築された。現在の建物は19世紀に修築されたものだが、古い建物も残されて、かつての城塞の面影を伝えている。
②スイス中部にあるツーン湖は観光の湖として知られ、湖畔にツーン、シュピッツ、インターラーケンなどの著名な観光地をもっている。その一つ、ツーンの町から約5キロ、ツーン湖北岸にあるオーバーホーフエンにあり、スイスの城の中でも美しいものの一つとして知られ、とくに湖水中に張り出してつくられた水塔と呼ばれるあずまやは見事で、この城の特色となっている。
③1386年のゼムバッハの戦いでスイス独立のための8州連合軍がハプスブルグ軍を撃退するまではハプスブルグ家の所有だった。現在はベルン歴史博物館の付属館として展示した内装、家具調度、武器、肖像、玩具などが城の雰囲気を高めている。

NO : 2044 サッソ・コルバロ★ 城郭(城塞)・山城・ペリンツォーナの3城 1479年****スイス連邦 (Castello di Sasso Corbaro,Bellinzona)



①ペリンツォーナの三つの城の一番高い所にあり、1479年に着工されたが、それから6ヵ月後にはもう都市防衛の準備が整っていた。

NO : 1016 サン・メイル 宮殿・平城・小奇麗な城 1431年****スイス連邦 (St. Maire, Lausanne)



①レマン湖北岸に沿ったローザンヌは湖にのぞむ斜面につくられた町で、その中心近くにサン・メールの城がある。町はローマ以前からの古い歴史をもち、4世紀ごろ一度破壊され、現在のシテを中心に新たに建設された。市内には、スイスのゴシック建築を代表する中世期の大聖堂など歴史的な建造物が多い。中世の叙情味豊かな姿を周囲との調和の風景のなかに見せているサン・メールの城は、1431年につくられた。

NO : 2045 シオン ・・ 年****スイス連邦 (.Sion)



①スイスの南部、ローヌ川沿いの盆地の中心にある小都、静かな町シオンは、別名をステーンともいい、バレー県の県庁所在地である。580年、バレーの司教がマルティニからシオンに移ってきて以来、シオンはこの地方の中心地になった。ここには一つの町に二つの城があり、町の南、岩山の突出したところにあるのが、シオンの城と呼ばれるバレーアの要塞である。建物は、12世紀ごろのロマネスクおよび13世紀ごろのゴシック様式の教会をもっており、要塞の内部もやはりロマネスク様式とゴシック様式の建築が共存している。壁画は、1451年から57年にかけて描かれたものであるという。山頂の城塞からのシオン盆地の眺めは絶好である。町を望むもう一つの急峻な山上にはトルビヨンの城塞跡がある。このほうは完全に軍事的な城塞であり、その地形は難攻不落の歴史を伝えるが、この上からの眺望は素晴らしいものである。ローヌ渓谷の旅の途中ぜひ寄りた町である。

NO : 2046 シャッフハウゼン ・・ 年****スイス連邦 (Munot Fortress,Schaffhausen)



① スイスの東北部、チューリッヒの北約50キロのところにシャッフハウゼンの町がある。ドイツとは国境を接し、ライン川に面するこの町はローマ時代から基地として発達したところで、その12世紀には自由都市として町の外郭には城壁がめぐらされ、防備された。ライン川に面する町の丘にムートと呼ばれる六角形の城塞があり、16世紀に築かれた。中世風の石造の塔、城壁の上に設けられた歩廊は屋根がつけられ、城塞としての古風なフォルムと厳しさを見せている。この城の塔に上ればシャッフハウゼンの町並み、ライン川の景観が一望出来る。このシャッフハウゼンの旧市内には11世紀にはじまるミュンスター寺院があり、ロマネスクの建築様式を持っているが、その他にも中世風の古い建物が多い。近くのライン・フォール(ラインの滝)も北スイスで指折りの観光地であり、その観光の基地もシャッフハウゼンである。ここからライン川観光の遊覧船も出ている。

②Munot is a circular 16th century fortification south of the Swiss city of Schaffhausen. It is surrounded by vineyards and serves as the city's symbol. Today, it is a tourist attraction and hosts various events.

NO : 2047 シュピッツ ・・ 年****スイス連邦 (Schloss Spiez,)



① スイスのほぼ中部、ツーンとインターラーケンにはさまれたツーン湖は、スイスの多くの湖水の中でも著名な観光地として知られ、また湖畔には前にも書いたようにツーン、オベルホーヘン、シュピッツなどの町と城があることでも有名である。岸から湖に突出した丘の上には12世紀から13世紀にかけてつくられた城がある。当時の城は塔と城壁だったが、そのうち居館がつけ加えられた。塔は中世の方形風のもので、最上層以外にはほとんど窓を設けないスタイルで現在スイスの城に残る多くの塔に共通する様式である。たとえばシヨンの城の主塔、オベルホーヘン、サラツの城の塔などである。城内は現在博物館となっており、ゴシック、ルネッサンス、バロックなどのスイス国家のコレクションを公開している。この城のながめは城に近づくよりも国道6号線に沿ったパークキングから、シュピッツの町と、湖と対岸の山との一望がすばらしい。町にはツーン湖に面してヨットハーバーがある。

NO : 2048 タラスプ ・・ 年****スイス連邦 (Castello di Tarasp,Tarasp)



① ウンテル・エンゲルン渓谷、この地方はスイスの最東端にあり、北をオーストリア、南をイタリアに接するが、有名な観光地としてはサン・モリッツ、ダボスなどがある。かつてはオーストリアの支配下にあったから、スイスの中でもロマンシュ語圏だが、ダボスの町から渓谷ぞいの道を東に約50キロほど山中に入るとタラスプの村があり、村にのぞむ小山の上にタラスプの城がある。タラスプの村からのぞむクルツベルグ山は標高1477メートルで、この山麓にあるタラスプの城もすでに相当な標高である。タラスプの城は南部オーストリアに見られる山上城塞の構想だが、15世紀にはじまる城の居館は近世になって修築されている。城のたたずまいはまるでマザー・グースの城でありながら、城塞としての厳しさも感じられる。シーズン中には時間を決めて公開されている。城内には特色ある家具のコレクションもあるが、交通の関係でこの城を訪ねる人は多くないが、機会があればぜひ行って見たい城である。

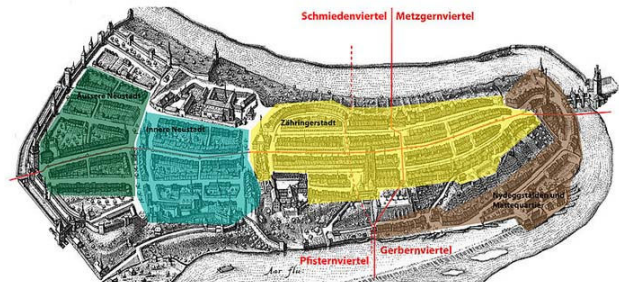
NO : 1017 ツーン ・ ・ 年****スイス連邦 (Schloss Thun, Thun)



① 首都ベルンから南に約30キロ、スイスのほぼ中央をしめるツーン湖の西端にツーンの町がある。中世の落ち着きをもった町で、山地から湖に流れ込む水が町の中を流れている『水の町』でもある。 城は、町の中央をしめる丘の上にある。 古くから砦があったところであるが、現在の城は12世紀から13世紀にかけて、ゾーリングゲンとキーブルグの騎士団によってつくられた。 四つの特徴ある塔と、それにつらなる建物をもつ、きわめてスイス的な趣のある城である。

②城内は歴史博物館をかねて観光客に公開されており、歴史的資料、調度、武具の類が多く展示され、屋内の構造は中世来の城の様子をよく伝えていいる。ツーンの城は遠望がとくに美しく、アルプスの山々を背景に立つ様子はスイスの代表的景観の一つといえる。町の中にも数々のスイス的な建物が見られ、古都のたたずまいが観光の町としても知られている。

NO : 2049 ニーデックの砦★ ・ ・ 年****スイス連邦 (Nydegg, Bern)



①ニーデック砦はベルンが発展する初期では防衛の機能をまだ果たしてはいたがベルンが大きくなるにつれ徐々にその機能が弱くなり、遂に1270年頃に取り壊された。現在のニーデック教会やニーデック橋辺りがこの砦の跡地となっている。

②The history of the city of Bern proper begins with its founding by Duke Berchtold V of Zähringen in 1191. Local legend has it that the duke vowed to name the city after the first animal he met on the hunt, which turned out to be a bear

NO : 2050 ベルデンベルク ・ ・ 年****スイス連邦 (Werdenberg, Buchs)



① スイスの東部、チューリッヒから約120キロ、リヒテンシュタインと国境を接する町ブックスは小さい湖に沿った丘上にベルデンベルクの古城があることで知られている。 小さい村落とブドウ畑にとり囲まれた絵のような城は古くから砦だったが、現在の建物は17世紀になって、この地方の領主ベルデンベルク伯が築いたものである。 丘の下の方の入口から城にいたる間の家並みには17世紀、18世紀ころの木造の家をもつ古い村落の面影がしのばれる。 城は現在公開されていないからそぼまで行ってその外観をながめるだけだが、天守閣に相当する主塔は最上層の胸壁の上に屋根のとりつけられたスタイルで、戦いのための配慮が充分に感じられる。塔につづく居居のほうは、近世に改装された居住陸のよいもので、現在も住居として使用されている。 スイスからオーストリアに入る道路沿いで車の旅行者ならこの中世的なベルデンベルク城を見ることができる。

NO : 2051 モンテペッロ★ 城郭(城塞) ・ 平山城・ペリンツォーナの3城 1399年****スイス連邦 (Castello di Montebello, Bellinzona)



①ペリンツォーナの三つの城の中央にあり、上から見るとほぼ菱形になっている城壁の内側に建てられており、この城壁内で最古の部分である。13世紀に建てられたこの城は、非常に不規則な形をしており、一つの塔と二つの中庭、そして住居群を含んでいる。

②1400年ごろに着工され、15世紀中に完成した城壁は、巡邏路を備えていて3隅に塔を備えている。防衛堅固で、城の中庭へ行くには、二つの門、一つの堀と跳ね橋、さらに落とし格子を通らねばならない。このモンテペッロ城は、銃眼のある長い壁と塔に助けられて、都市の要塞化の一翼を担った。

NO : 2052 ラッペルツウィル ・ ・ 年****スイス連邦 (Schloss Rapperswil, Rapperswil)



① チューリッヒの町から30キロほどのチューリッヒ湖北岸にあるラッペルスビルの城は、12世紀初めにラッペルスビル家のランドルフ1世によってつくられたものである。 ラッペルスビル家は初め神聖ローマ帝国に忠誠を誓う貴族で、同じチューリッヒ湖岸のラーヘンに居城をもっていた。1220年、十字軍によるパレスチナ遠征から帰ったランドルフ1世は遠征中に学んだ、近東の築城術を取り入れて、ラーヘンから少し離れた現在の位置に城を建てた。この地はちょうどスイス東部と中央部を結ぶ道と、チューリッヒから北イタリアへ通ずる道とが交差する位置にあったため城下町は急速に発展していった。 その後、この町の帰属をめぐる、ドイツとオーストリアの間で紛争が起こったが、1354年には領主ヨハン1世によってオーストリアに売り渡されオーストリア領となった。スイスのセント・ガル州に併合されたのは1803年である。 城内は一般に公開されていて、中世風の面影をよく伝えている。

NO : 2053 ルツェルン城壁 ・ ・ 年****スイス連邦 (Museggmauer, Luzern)



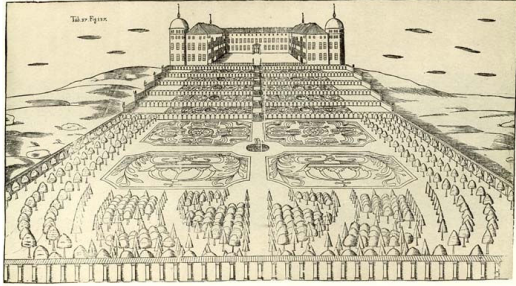
①A part of the rampart walls built in 1386; the wall is still almost entirely intact. Three towers are open to the public: Schirmer, Zyt and Mannli. The oldest city clock, built by Hans Luter in 1535, is in the Zyt tower. This clock is allowed to chime every hour one minute before all the other city clocks.

NO : 1018 ヴィスビュー★ 城郭都市（自由都市）・平城・自由都市 12世紀**スウェーデン王国（Visby Stadtmuer, Gotland Municipality）**



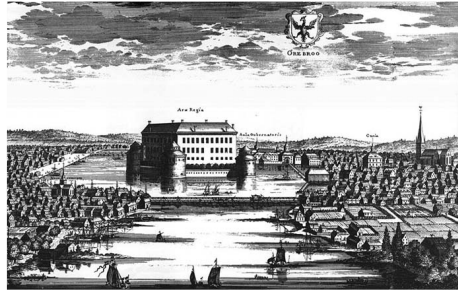
①10世紀に建設され、その遺跡が国際的に有名。ゴットランド島の中心都市である。
 ②12世紀から14世紀の間、ヴィスビーはハンザ同盟の重要な中心地の一つだった。旧市街を囲む殆ど完全な姿の3.4kmの石の壁で知られている。この壁は「Ringmuren」（輪壁）と呼ばれる。
 ③ゴットランドは、ブレムセブルーの和議の後3百年間デンマークの占領から、1645年にスウェーデン領となった。ヴィスビーは要塞であり、近年までは軍事基地の中心地でもあった。冷戦期は、一般人の立ち入りが制限された1種の閉鎖都市だった。

NO : 2054 ウプサラ ・ ・ 年**スウェーデン王国（Uppsala Slott, Uppsala）**



①街の中心から5kmほど北方の郊外に、ガムラ・ウプサラと称される遺跡があり、王の墳墓が残されている。中世初期、北欧各地でキリスト教化が進む中、ガムラ・ウプサラは異教の伝統を保ち続けており、11世紀ごろまでスウェーデン王を司祭とした大権性祭が行われていた。12世紀になると、キリスト教化が完了し、ガムラ・ウプサラにキリスト教の教会が建てられた。現在のウプサラ市が発展する契機となったのは、この辺りが交易活動の拠点であったことと、1245年にガムラ・ウプサラの大聖堂が焼失したため、この地に大聖堂が移転して建設が始まったことが挙げられる。1435年に大聖堂は完成した。1471年、ウプサラ大学が建てられ（講義開始は1477年）、聖職者育成などに努めた。16世紀半ばは、グスタフ1世によってウプサラ城が建てられた。また、1672年まで歴代のスウェーデン君主の戴冠式はウプサラで行われた。

NO : 1019 エーレブルー 城郭（城塞）・平城・北欧の城郭 1560年**スウェーデン王国（Orebro castle ,Orebro）**



①エーレブルーは中世に商業に格好の立地であった。市の中心には町を南北に分ける川が流れ、町の中心となる場所に小島が浮かんでいた。その島に壮大なエーレブルー城が建設されたのは1560年代、グスタフ1世の治世である。
 ②交易の町であったにもかかわらず、エーレブルーは国内の靴製造業の中心となる19世紀半ばまで規模の小さな町であった。
 ③ The location became a natural seat of commerce in the (Scandinavian) medieval time, and is mentioned in print in the 13th century. Old buildings from the early days include the foundations of the city church, a building which has undergone several modifications. The natural center of the city is otherwise the magnificent Orebro Castle, situated on an islet in the Svartan, and dividing the town into a northern and a southern part. This castle was constructed during the stewardship of Birger Jarl during the early 13th century and then modified and enlarged during the reign of King Gustav Vasa in the 1560s.

NO : 2055 カルマル ・ ・ 年**スウェーデン王国（Kalmar slott, Kalmar）**



①そのもとは13世紀にはじまるといわ、れ、初めはノルマン風のゴシックの城塞であったが、近世になって堡壘をとまう現在の城館に改築された。城の名所には、古い城塞の型もよく残っており、昔をしのぶことができる。
 ② 歴史的な事件としては、1297年この城で、デンマーク、ノルウェー、スウェーデン3国の国家連合である『カルマルの血盟』が決議されたところとして有名である。対岸のエランド島には古い遺跡が多いが、ボルグホルムには城と遺構、島の中央部グロボーリ付近には「石づくりの城塞の遺構が残っている。また、エランド島のやや北にあるゴットランド島も古代からの遺跡が多く、島の玄関ともいえるビスピは城郭都市だった。

NO : 2056 スコクロスター ・ ・ 年**スウェーデン王国（Skoklosters slott, Uppsala）**



①16世紀半ば、グスタフ1世
 ②ストックホルムの北約70キロのところにあるウプサラの町は、かつてスウェーデンの首都でもあった。このウプサラに近い湖水地帯に、建物をとりまく庭園と湖水の景観が一体となった静寂なたたずまいをみせてスコクロスターの城がある。中世には、ここにシート教団の僧院と尼僧院があったところで、17世紀にカル9世からこの地をもらったエストニアの貴族ハーマン・ウアンゲルが石造の城館に改築した。その後、息子のカル・ウアンゲルの代になって、当時の有名な建築家ヤン・ポレーとニコデムス・デエシンに依頼してつくられたのが現在残っている北欧風のシンメトリックな白い城館である。城の入口はイオニア風の大理石柱を用いた壮麗なものだが、館の3、4階は本造の部屋が多い。城といっても戦いのための備えはまったくなく、建物の前に飾られた大砲、城内の武具のコレクションから往時の面影をしのぶのみである。

NO : 1020 ドロットニングホルム宮殿★ 宮殿・平城・宮殿 1662年**スウェーデン王国（Drottningholms slott, island Lovon）**



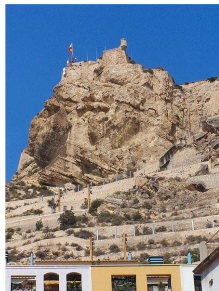
①ドロットニングホルム宮殿(スウェーデン語: Drottningholms slott)は、スウェーデン・ストックホルム郊外のローベン島にある離宮である。この宮殿は、スウェーデン王カール11世の母后ヘトヴィヒ・エレーノラの命によって1662年に建設が始められ、1686年に完成した。庭園にはバロック様式が採用された。ドロットニングホルム(Drottningholm)はスウェーデン語で「王妃の小島」を意味する。「北欧のヴェルサイユ宮殿」の勇名を馳せる。この宮殿は、1744年に結婚したホルシュタイン＝ゴットルプ家のアドルフ・フレデリックとプロイセン王女ロヴィーサ・ウルリカに結婚祝いとして、当時のスウェーデン国王フレデリック1世からプレゼントされた。ロヴィーサ・ウルリカは啓蒙主義思想を持つ優れた才女で、彼女の手によってドロットニングホルム宮殿はさらなる発展を遂げる。この時代にギャラリーや図書館、劇場が増築され、スウェーデンにおける啓蒙時代を作り上げた。

NO : 1021 アティエンサ 城郭(要塞)・平山城・アラビア風 11世紀****スペイン王国 (Castillo de Atienza,Atienza)



①11世紀に築かれた城塞が、今は廃墟。
②スペインの国土回復運動はレオン・アラゴン・カステリアなど北西の地方からはじまり、この辺りは割合に早くキリスト教国になったところだが、城の形態にはやはり、スペインの風土的特色とアラブの手法が強く残っている。

NO : 2057 アリカンテ ・・ 年****スペイン王国 (Santa Barbara ,Alicante)



①Bronze Age, Iberian, and Roman artifacts have been found on the slopes of the mountain, but the origins of the castle date to the 9th century at the time of Muslim control of the Iberian Peninsula. The Arab medieval geographer Al-Idrisi calls this mountain Banu-Iqatil, and the toponym may derive from the words pinna (Arabic for "peak") and laqanti, adjectival form of Laqant, the Arabic name for Alicante. On December 4, 1248, the castle was captured by Castilian forces led by Alfonso of Castile, later King Alfonso X. It was named after Saint Barbara, on whose feast day the castle was captured. It was conquered by the Aragonese in 1296 during the reign of James II of Aragon, who ordered its reconstruction. Peter IV of Aragon, Charles I of Spain and Philip II of Spain would oversee further reconstructions.
②The castle was bombarded in 1691 by a French squadron. During the War of Spanish Succession, it was held by the English for three years. In 1873, it was bombarded, along with the city, by the cantonalistas from the frigate Numancia.

NO : 2058 アルカラ・ラ・レアル ・・ 年****スペイン王国 (Mota fortress,Alcala la Real)



①Alcala remained under the jurisdiction of Jorquera until 1364, when king Peter I gave it the privilege of a Government Council, under the royal crown and the state of Villena. It was elevated to the rank of city in 1432 by king John II. After a flourishing period, the conquest of Granada in 1492 stripped Alcala of its strategical importance. The population started to move from the upper hill to the now safer slopes, thus gradually creating the current settlement.
②The city remained under the marquises of Villena until the early 16th century, when the centralism introduced by the Catholic Kings started to quench the baronial power, although the marquise remained in existence until the 19th century. The depopulation of the La Mota hill ended during the Peninsular War against the Napoleonic troops which occupied the fortress from 1810 and 1812, and set the upper city to fire when retreating, causing also the cathedral's roof to crumble down.

NO : 2059 アルマンサ ・・ 年****スペイン王国 (Castillo de Almansa,Almansa)



①スペイン地中海側には、少し内陸に入ると数多くの城があるが、なかでもバレンシアの町から西南約115キロにあるアルマンサの城は、その位置がかつてのバレンシア王国とムルシア王国の最前線にあったため、サラセン支配当時は戦略上の要地として重視され、たびたび戦乱に巻きこまれた。広い平野の中にぽつんとつき出した急峻な岩に築かれた巨大な城で、その威容は何キロもの遠方から望むことができる。天然の要害の地形のため、いずれの方向からも攻めることが難しいが、城のキープはさらにひときわ高く、城壁と二つの大塔がそれを守るように四方を見下ろしている。サラセン支配後はアラゴンのハイメ王の支配下に入り、1707年のスペイン王位継承戦争ではこの城を中心に戦闘が展開された。その後は放置されたまま荒廃していたのを、近年になって修復をおこない、増設に公開されるようになった。スペインの代表的な城の一つ。

NO : 1022 アルメドバル・デル・リオ ・・ 年****スペイン王国 (Castillo de Almodovar del Rio,cordoba)



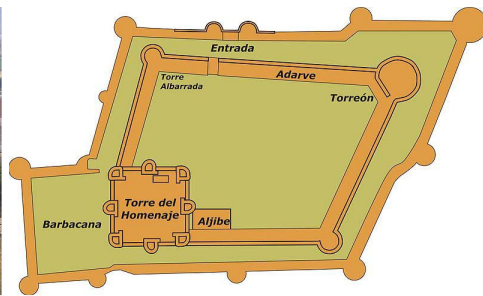
①In 1226 he was beheaded in Almodovar del Rio the Muslim king of Baeza, who was accused of treason by the Almohad by his alliance with Ferdinand III, king of Castile and Leon. Remained for five centuries under the influence of Islamic civilization, until the year 1240 was incorporated, by agreement, to the Crown of Castile during the reign of Ferdinand III, king of Castile and Leon, who conquered the city of Cordoba in 1236. In 1243 the town was given to the Council of Cordoba, remaining under its jurisdiction in the following centuries.
②In 1394 he died in the castle of Almodovar del Rio, for he was a prisoner in it, Frederic de Castilla, illegitimate son of Henry II of Castile. The possession of the castle is linked in the fifteenth century the House of Baena and Goat. Also, its superb location and the contestability of the walls led to use as a residence of kings Peter I and Henry II, and as a prison, as evidenced by an order of the Royal Council (1491). By 1473 appears for the first time the name of Almodovar del Rio, a name with which you want to refer to its location on the banks of the Guadalquivir.

NO : 2060 アルメリア 城郭(要塞)・平山城・10世紀****スペイン王国 (Moorish castle, Alcazaba,Almeria)



①フェニキア人が設けた拠点ウルキ(Urci)が街の起源である。その後、ローマ帝国、西ゴート王国の支配を経て、イスラム勢力によって征服された。10世紀、後ウマイヤ朝のアブド・アッラフマーン3世によって大規模な街の開発が行われた。当時チュニジアに建国され、後ウマイヤ朝と対立していたファーティマ朝に備える必要があったことが背景とされる。15世紀後半、レコンキスタ(再征服運動)を推進していたスペイン王国によって征服され、再度キリスト教化された。

NO : 2061 ヴァレンシア ・ ・ 年****スペイン王国 (Castillo de Villena, Valenciana)



① Standing on its hilltop, Villena Castle dominates this little town in the Vinalopo valley. The original fortress was built by the Arabs. During the 14th and 15th centuries it was occupied by Don Juan Manuel, then by Prince Henry of Aragon who was a poet known as the Marquis de Villena. A large square tower survives, and also walls with circular towers in the corners.

NO : 1023 エル・エスコリアル★ 宮殿・平山城・宮殿 1563年****スペイン王国 (Monasterio de El Escorial, Comunidad de Madrid)



① エル・エスコリアルシエラ・デ・グアダラマ山脈の麓にこの複合施設は国王フェリペ2世の命令で王家の古墳でありスペインの反宗教改革の研究を目的として建てられた。これはフアン・パウティスタ・デ・トレド、ヒアンパティスタ・カステリョ、フアン・デ・エレラの3人の建築家によって厳格な古典様式にデザインされ、1563年から1584年にかけて造営された。建物は、聖ロレンソの殉教を記念するために格子型に形成されている。1557年の聖キンティーンの戦いでは、スペイン軍はロレンソに捧げられた小さな庵を破壊したという。国王フェリペ2世は、勝利を授かった礼として聖人に修道院を奉獻することを決断した。

NO : 2062 オリテ ・ ・ 年****スペイン王国 (Palacio de Olite,)



① Palacio de los Reyes de Navarra de Olite, was a palace and castle of the Kings of Navarre, constructed between the 13th and 15th centuries at Olite, northern Spain. The palace, which still stands, was a major seat of the royal court during the reign of Charles III. Originally a castle, in the 13th century it was amplified into a palace, its residential function predominating over its military. The palace's incoherent, but recognisably Gothic, design stems from its slow progress. Neither its construction nor its expansion were single projects taken up by single kings, rather it each monarch did whatever work he felt was necessary.

② The principal features of the construction, however, were added around the turn of the 15th century under Charles III. Charles chose to make the palace a permanent royal seat, and strove to decorate it accordingly. Charles added gardens, high curtain walls studded with towers, and moats. In this period the distinction between so-called "New Palace" and the "Old Palace" (now home to the Parador Nacional de Turismo) can first be made.

NO : 2063 オロペサ ・ ・ 年****スペイン王国 (, Oropesa)



① Oropesa is a Spanish town in the province of Toledo. The town of 2,872 is famous for its castle-turned-parador, which was built in 1402. The parador was formerly the residence of the Toledo family of nobles. This includes Francisco de Toledo, Count of Oropesa, who became the Viceroy of Peru. The town has a yearly celebration in April called "Jornadas Medievales", or "Medieval Days", which plays off the presence of the Castle in Oropesa.

NO : 2064 カラタユド ・ ・ 年****スペイン王国 (fortificado de Calatayud, Zaragoza)



① La muralla de Calatayud esta articulada por fortificaciones de epoca islamica, intrinsecas a la misma siendo uno de los elementos arqueologicos y patrimoniales mas notables de Aragon. Se compone de cinco areas fortificadas: Castillo Mayor y Recinto de la Longia, Castillo Real, Castillo de Dona Martina, Castillo de la Pena y la Torre Mocha con su recinto murado.

② La primitiva muralla debio construirse en la primera mitad del siglo IX englobando todo el nucleo urbano y uniendo las fortificaciones del Castillo Mayor, el Castillo de la Torre Mocha, el Castillo de Dona Martina y el Castillo Real, y posiblemente aislado el Castillo de la Pena como punto fuerte avanzado (albarrana). Hubo una ampliacion del siglo XII aunque no se sabe exactamente por donde discurria su trazado. Algo parecido ocurre con la muralla del siglo XIV, ya que utilizaba parte de la del XII pero al crecer la ciudad hacia el rio Jalon se desconoce si llego en este momento hasta alli o bien lo habia alcanzado antes.

NO : 2065 カルタヘナ ・ ・ 年****スペイン王国 (, Cartagena)



① 紀元前227年ごろ、カルタゴの将軍ハスドルバルによって「カルト・ハダシュ」(新しい都市)という名で建てられた。紀元前8世紀にはすでにフェニキア人がイベリア半島の海岸に現れており、紀元前5世紀ごろにはイベリア人の一部族によって「マスティア」という町が建てられている。カルト・ハダシュはイベリア半島におけるフェニキア人の都となり、紀元前218年、第二次ポエニ戦争においてハンニバルはこの町からイタリア侵攻に出発した。紀元前209年、将軍大スキピオに征服され、ローマの支配下に置かれて「カルタゴ・ノウア」と呼ばれた。

② イスラム支配期には町は復興した。1245年、カスティリヤ王国に征服され司教座が再建されたが、1年後に司教座はムルシアに移された。1296年にアラゴン王国の手に渡ったが、1305年にカスティリヤ王国に返却された。

NO : 2066 サグント ・ ・ 年****スペイン王国 (,Sagunto)



①正式にはムルビエドロ (Murviedro)。古代ローマ時期にはサグントウム (ラテン語:Saguntum) と呼ばれていた。
②紀元前6世紀頃に、ケルティベリア人によって開かれた「サグントウム」が始まりとなり、海岸沿いの立地にも恵まれてギリシア人やフェニキア人との貿易で栄えた。サグントウムは、カルタゴのハンニバルによるこのサグントウムへの攻撃によって第二次ポエニ戦争が始まったことで一般に知られ、サグントウムはローマ側に組した。ハンニバル軍に結果として降伏したものの、数ヶ月に渡って抵抗した。その後はローマ帝国内の都市として発展したものの、ローマの衰退後は西ゴート王国、次いでイスラム勢力の支配下に入った。その間に近隣のバレンシアが都市として発展していく中で地区の中心都市の地位をバレンシアへ譲った。

NO : 2067 ハエン ・ ・ 年****スペイン王国 (Castillo de Jaen,Jaen)



①8世紀にスペインにムーア人が侵攻したあと、この都市は「Yayyan」と呼ばれ、商業の中心地として発展した。ムーア人の要塞や城壁が今でも残っている。ルネサンス様式のカテドラルは1532年に建設が始まり、18世紀に完成された。そのほかの名所には、街のどこからでも見えるサンタ・カタリーナ城がある。この城は、ムーア人が築いた岩を増強したもので、街の西にある山頂にそびえている。また、ビジャルドンバルド宮殿の地下には、アンダルシアでもっとも重要なムーア人の遺構であるアラブ式浴場がある。

NO : 2068 ハビエル ・ ・ 年****スペイン王国 (Castillo de Javier,Navarra)



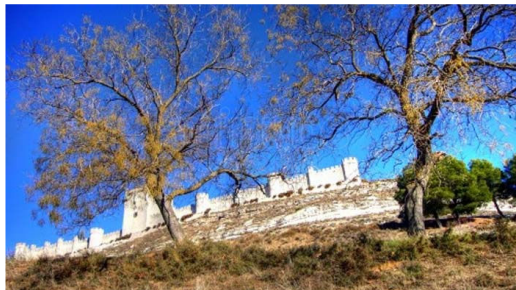
①This castle was built in the Tenth Century; it was reformed in the Twelve and Thirteen Centuries and later in the Fifteenth Century. The castle was partially destroyed in the year 1516 and this was ordered by Cardinal Cisneros, due to the continuous uprisings taking place there.
②In the year 1223 the castle belonged to the king of Aragon and in 1236 it went over to the hands of the king of Navarra. In the 16th Century, father San Francisco Javier owned the place and San Francisco Javier was born here, that was a cofounder together with San Ignacio de Loyola, from the Company of Jesus. Javier is a much visited region since the Jacobea Route is very near. The tradition of providing accommodations to pilgrims goes back centuries ago, since the lords of the castle sheltered non residents from the Camino de Santiago (Santiago' s road).

NO : 1024 ビレーナ 城郭(城塞) ・ 平山城・アラビア風 1140年****スペイン王国 (Castillo de la Atalaya,Villena Alicante)



①スペインの南西部海岸、アリカンテから北西に約70キロのところにビレーナの村があり、村の中央の丘上に城塞が残っている。このアリカンテ地方は、フェニキア人が地中海沿岸に植民地をつくったところから開けた土地で、そののち北アフリカからのアラブの侵入の拠点にもなった関係で、古くから城塞のきわめて多いところであった。
②ビレーナの城もその一つで、近くにビアル、アルマンサの城もあり、13世紀のころにはアラゴン王国(当時、イベリア半島の東北部を占めた王国、のちカステリアと併合、スペインとなる)のハイメ1世は、1135年から1145年にかけてバレンシア地方に出兵し、アラブの勢力を逐ったが、1140年にはビレーナの城も占領した。そののちアラゴンあるいはアストリアの貴族の城となった。近年荒廃していたドンジョンなど修復されたが、その様式はスペインの城の一つの典型である。
③Castle of la Atalaya, built by the Moors in the 11th century

NO : 2069 ペナフィエル 城郭(城塞) ・ 平山城・ 14世紀****スペイン王国 (Castelo de Penafiel, Penafiel)



①14世紀のサン・フェルナンド王の孫、ドンファン・マヌエルが建設。
②このペナフィエルの村をのぞむ丘上につくられた城はまるで巨大な軍艦のような形状をしていて、前後に塔を持ち中央部に天守閣に相当するドンジョンがある。きわめて個性的な形だが、中世におけるカステリア王国の重要な城であった。14世紀にサン・フェルナンド王の孫、ドンファン・マヌエルが居城として構築した。当時この城の堅固さに対抗する城塞はその数が少ないといわれたほどであった。

NO : 1025 ペニスコラ 城郭(要塞) ・ 水城・水辺の要塞 1572年****スペイン王国 (Peniscola, Costa del Azahar)



①1572年から、フェリペ2世はイタリア人軍事技師ジョヴァンニ・アントネッリ
②バルセロナとバレンシアの中ほどの地中海沿岸、スペイン名ではこの海岸をコスタ・デル・アサールという、美しい海辺に、ペニヤスコラの町がある。海岸に突出する岬状の大岩盤の上にある城壁は、古くフェニキア人の昔にはじまるもので、ギリシャ、ローマもここを基地としていた。城塞は地形的にも古代地中海型城塞都市の一つの理想的な、また典型的な類型を示している。岩盤、というよりは島の中央古同所に城塞がつくられ、島全体を城壁がとり囲む、という形状は今でもよく保たれている。

NO : 1026 **ベルベル** ・ ・ 年****スペイン王国 (Castell de Bellver, Palma on the Island of Majorca)



①The castle originally served as a residence for the Kings of Mallorca whenever they were not staying at mainland Europe, and was seldom used as a residency again for viceroys during the XVII century. As a fortification, it suffered and successfully resisted two sieges during the Middle Ages, the first of them in 1343, during Peter IV of Aragon's campaign to reincorporate the Majorcan territories to the Crown of Aragon, and then again in 1391 during an anti-semitic peasant revolt. The castle has only fallen once into enemy hands in its history, in 1521 after an assault during the Majorcan second Revolt of the Brotherhoods. ②The castle was usually governed by a Lord Warden. In 1408, King Martin I of Aragon gave the lordship of Bellver to the Charterhouse of Jesus of Nazareth in Valldemossa. Charles of Viana arrived in 1459 to take possession of both the island and the castle, as he had agreed with his father King John II of Aragon, even though finally the King granted not the lordship nor the Bellver Castle.

NO : 2070 **ベルランガ 城塞** ・ ・ 年****スペイン王国 (CASTILLO BERLANGA, BERLANGA DE DUERO)



①15世紀以前に城は建てられた

NO : 1027 **マラガ 城郭 (城塞)** ・ 平山城・イベリア半島 1487年****スペイン王国 (Castillo de Gibralfaro, Malaga)



①前1000年頃、フェニキア人が現在のマラガの位置に「マラカ」(Malaka)という都市を建てた。マラカの名はおそらくフェニキア語の「塩」から来ており、港で魚が塩漬けにされたことによる。その6世紀ほどのち、カルタゴの領土だったイベリア半島のほかの地域とともに、ローマ人により征服された。5世紀からは西ゴート王国の支配下に入った。②8世紀にイベリア半島はイスラム教徒に征服され、マラガは重要な貿易の中心地となった。マラガは後ウマイヤ朝に領有されたのち、タイファ時代にはグラナダとは独立した王国の首都となった。1487年にスペイン王国に征服された。③1936年、スペイン内戦においてフランコの反乱軍とイタリア軍により激しい空爆にさらされた。1960年代以降、コスタ・デ・ソルの観光業によってマラガの経済は大きく発展した。

NO : 1028 **マンサナレス・エル・レアル 城郭 (城塞)** ・ 平城・イベリア半島 15世紀****スペイン王国 (Castillo de los Mendoza, Manzanares el Real)



①マドリードの北方郊外、サンチラーナ湖の青い水面を望むところにマンサナレス・エル・レアルの城がある。この近くには二つの城が建てられたが、一つは崩壊して廃墟となり、現在残っているのは15世紀にサンチラーナ侯爵の息子インファンタード伯爵によって築かれたものである。

②典型的なスペインの城の一例で、イベリア風の原型の上にアラブ風の石造手法が色濃く影響を与えている。正面から見るとほぼシンメトリックなつくりで、外壁と内壁の二重の城壁、上部に歩廊と胸壁、城内と内壁の隅に側塔をもつ。主館の正面に向かって右手、サンチラーナ湖をのぞむ側に回廊風なバルコニーが開いており、この部分にはアラブの石造の装飾技術がよく表現されて見事な彫刻をみせており、この城のもっとも美しい箇所である。

NO : 1029 **モレラ 城郭 (城塞)** ・ 平山城・イベリア半島 1460年****スペイン王国 (Castell de Morella, Morella)



①この辺りは丘陵地帯でモレラはその巨大な一つの丘の上に、岩盤全体を城としてその周辺に町がつけられた。人口は現在新しい町約4000人と古い村約心〇〇〇人ほどの町だが、その景観は一つの典型的なスペインの城の様相を呈している。古代ギリシャのアクロポリスをそのままスペインの風土に移したような堅固さであるが、今でも旧い町をとり囲む城壁、城門に残っている。

②この城は1081年、スペインの伝説的な国民的英雄エル・シドが戦ったことでも知られ、また、1460年にはポアン二世がこの城を攻略している。

NO : 2071 **ロアレ** ・ ・ 年****スペイン王国 (Castillo de Loarre, Loarre)



①After 1070, Loarre became increasingly important. In 1073, King Sancho installed a community of Augustinian canons, and it was from Loarre that he prepared for the conquest of Huesca in 1094. In 1097, however, his successor, Peter I of Aragon and Navarre, donated all the goods of Loarre to a new royal monastery at Montearagon. This evidence suggests that the second major construction program was undertaken between 1073 and 1097, and much building evidently does date from this period. By comparison with other monuments, however, it is also clear that the building and decorative program continued into the 12th century. ②The outermost walls of the castle and their eight towers were erected in the 13th

~ 14th century

OF THE COUNTRY.

NO : 2072 スモレニツェ 城郭（城塞）・平山城・20世紀****スロバキア共和国（Smolenicky Zamok,）



①モルビールの丘の上に、8世紀から12世紀にかけてのスラブ人の砦の遺跡があり、これはボヘミアの道を行き来した商人たちを保護するためのものであった。現在のロマンティックな城の外観は、20世紀の初めに遺跡を再建した結果である。防衛施設の一部は、中世の城以来の形で残されている。

NO : 1030 デヴィーン 城郭都市（城塞）・平山城・東欧の山城 907年****スロバキア共和国（Devinsky hrad, Bratislava）



①前125年ごろ、ケルト人が城塞都市（オッピドゥム）をブラチスラヴァの丘陵地帯に設け、ドナウ川一帯のケルト人の中心地の一つになった。1世紀にはローマ帝国の影響下に入ってローマ軍の駐屯地となり、防壁（リーメス）やデヴィーン城（Devinsky hrad）が建設され、ブドウの栽培が始まった。

②907年にはハンガリー王国の国境城塞として初めて文献に登場し、王国の国境の要として戦略上の重要拠点として成長した。11世紀にはスラブ人住民によってオーストリアとハンガリーの商業中継地としての地位を確立。13世紀にはドイツ人が多く入植し、1291年に都市法を獲得して中世都市の形を整えた。ハンガリー王マーチャーシュ1世の時代に文化・経済の中心地として栄え、大学も設置された。

③1536年から1784年までハンガリー王国の首都となり、1542年にはハンガリー議会も移転した。1563年から1830年まではハンガリー国王・女王の戴冠式が聖マルティン大聖堂で行なわれた。ナポレオン戦争中の1805年には、プレスブルクの和約が締結されるが、1809年にはフランス軍が侵攻して占領され、ブラチスラヴァ城は1811年に駐屯フランス軍の失火による大火災が発生して荒廃する。

NO : 2073 カレメグタン ・ ・ 年****セルビア共和国（Kalemegdan Fort, Belgrade）



①Kalemegdan is the core and the oldest section of the urban area of Belgrade and for centuries the city population was concentrated only within the walls of the fortress, thus the history of the fortress, until most recent history, equals the history of Belgrade itself (see: Timeline of Belgrade history). First mention of the city is when it was founded in the 3rd century BC as "Singidunum" by the Celtic tribe of Scordisci who had defeated Thracian and Dacian tribes that previously lived at the fort and around. The city-fortress was later conquered by the Romans, became known as Singidunum and became a part of "the military frontier", where the Roman Empire bordered "barbaric Central Europe".

②In 1521, 132 years after the Battle of Kosovo, the fortress, like most parts of the Serbian state, was conquered by the Turks and remained (with short periods of the Austrian and Serbian occupation), under the rule of the Ottoman Empire until the year 1867 when the Turks withdrew from Belgrade and Serbia. During the period of short Austrian rule (1718?1738) the fortress was largely rebuilt and modernized.

NO : 2074 コトル☆ ・ ・ 年****セルビア共和国（, Kotor）



①コトルが最初に言及されるのは、紀元前168年である。古代ローマ期を通してローマの属州であり、Acruviumや AscriviumまたはAscrviumとして知られた。中世初期より強化が続き、535年のユスティニアヌス1世の時代に、Ascriviumの上に要塞都市として建築された。後にゴート族を退けている。おそらく10世紀にコンスタンティノス7世により第2都市が周辺の高地に建設されたことがLower Cattaroよりうかがえる。810年にサラセン人の略奪にあっている。1002年、街は第一次ブルガリア帝国の占領下で苦しみ、翌年、ブルガリア皇帝（ツァーリ）サムイルにより、セルビアに割譲された。

②In 1002, the city suffered damage under occupation of the First Bulgarian Empire, and in the following year it was ceded to Serbia by the Bulgarian Tsar Samuil. However, the local population resisted the pact, and taking advantage of its alliance with the Republic of Ragusa only submitted in 1184, while maintaining its republican institutions and its right to conclude treaties and engage in war. It was already an episcopal see, and, in the 13th century, Dominican and Franciscan monasteries were established to check the spread of Bogomilism.

③In the 14th century commerce in Kotor, as the city was then called, rivalled that of the nearby Republic of Ragusa and Venice. Kotor was part of the Venetian Albania province of the Venetian Republic from 1420 to 1797, except for periods of Ottoman rule between 1538?1571 and 1657-1699.

NO : 1031 スメデロボ ・ ・ 年****セルビア共和国（, Smederevo）



①ユーゴスラビアの首都ベオグラードから東南に約50キロ、ドナウの流れに沿ったスメデルボは古い町である。ローマ時代にはローマの駐屯軍の基地があり、そののちも城塞があった。1430年、ドナウ川畔の1区画に、城壁をめぐらすビザンチン風の城郭都市がつくられた。その遺構から見てそれほど広大な城市ではないが、この地方の中心として繁栄していた。16世紀にはトルコ軍に占領され、その支配下にあったが、トルコ軍の撤退とともに城塞も放棄された。

②そののち町は古い城郭都市の遺構の外側につくられたので、城壁や城内の建物は廃墟になってしまった。しかし、現在もかつてのビザンチン風の城壁、塔の残骸がドナウ川に面して残り、かつての繁栄のあとを水の流れに映している。

NO : 1032 ヴァルチツェ（フェルツベルク）☆ 宮殿・平城・宮殿 1720年****チェコ共和国（Schloss Valtice, Lednicko-valticky）



①It was designed as the seat of the ruling princes of Liechtenstein by Johann Bernhard Fischer von Erlach in the early 18th century. Construction was supervised by Domenico

NO : 2075 カールシュタイン 城郭（城塞）・山城・1348年****チェコ共和国（Statni hrad ,Karlštejn）



①1348年に建立された、ゴシック様式の要塞カレル4世

NO : 2076 タボル 稜堡都市・平城・15世紀****チェコ共和国（Tabor）



①15世紀前半のフス戦争に際して、神聖ローマ皇帝に反旗をひるがえした急進派が軍事拠点として、ウルタヴァ川の支流であるルジュニツェ川沿いの高台に建設した。15世紀、神聖ローマ皇帝（ボヘミア王を兼ねた）ジギスムントに反旗をひるがえしたフス派の中でも急進的な勢力が、彼らの軍事拠点として建設した。そのため、軍事目的から複雑な路地が多く、敵の侵入に備えた都市計画がなされている。優れた軍事指導者が戦争経験の不足する農民などを巧みに訓練したため、幾度も皇帝軍にも勝利を収め、急進派（ターボル派とも呼ばれる）の抵抗は続いた。しかし、1434年のリパニの戦いに敗れてターボル派は壊滅へと至り、まもなく都市も神聖ローマ皇帝＝ボヘミア王の統制下におかれた。

NO : 1033 ヘブ 城郭（城塞）・平城・東欧の城郭 12世紀****チェコ共和国（Cheb castle,Cheb）



①11世紀後半より史料に現れる（当時の表記は「エーギレ」）。12世紀には、神聖ローマ皇帝フリードリヒ1世のもとで、ヘブ城が建てられている。
②14世紀半ば、カレル1世（神聖ローマ皇帝カール4世）によって貨幣鑄造権が認められた。通商路の中継地に位置していたため商業が盛んだったが、幾度となく戦禍にもさらされた。また、1389年におけるエーガーのラント平和令や、ボヘミア王国とザクセン公国の勢力範囲を確定した1459年のエーガー条約など、この町において諸侯間の重要な取り決めが結ばれた。
③ヴァレンシュタインの暗殺15世紀前半のフス戦争、17世紀前半の31年戦争で深刻な被害を受けるが、そのつど復興を果たした。また、31年戦争において皇帝側で戦ったヴァレンシュタインは、皇帝の不信を招いてこの地で暗殺された。

NO : 1034 ヤヌーヴ宮殿・平城・宮殿 1810年****チェコ共和国（Januv hrad,Lednicko-valticky）



①1810年のネオゴシック様式の城の形をとった人為的な廃墟
②A Romantic imitation of a castle ruin from 1807, the first of many follies erected in the Lednice-Valtice area by J. I. Liechtenstein. The interiors feature a collection of deer hunting trophies, a chalice for the King of the Hunt, a graphite sculpture of a wild boar, a three-dimensional wall paintings. The museum exhibit by the National Museum of Agriculture in Prague showcases the fauna of wetland forests.

NO : 1035 リトミシュル宮殿・平城・宮殿 1568年****チェコ共和国（Litomyřl Schloss,）



①1568年から14年の歳月を掛けて領主ベルンシュテイン家ブラティスラフにより建設された。領主はスペインから嫁いだ妃ララのために、当時ボヘミアではみられない優雅で明るいネサンス様式の城を建築した。
②城内にあるビール醸造所でチェコの国民音楽家、ベドルジハ・スメタナが生まれた。

NO : 1036 レドニツェ宮殿・平城・宮殿 1846年****チェコ共和国（Zamek Lednice,Lednicko-valticky）



①リヒテンシュタイン家が領有権を得た1249年に、ゴシック様式の要塞として最初の建物が建てられました。その後数回の増改築を経た後、1846年から1858年に架けて行われた大改修工事により現在のネオ・ゴシック様式となりました。
②レドニツェ城は、チェコ最大級のイギリス庭園を持ち、そこには、19世紀に造られた温室もそのまま残っていて、ネオゴシック様式の特徴が見られる。城内には、様々な木造の彫刻、陶器、絵画などが展示されている。

NO : 1037 イーエスコフ 宮殿・平城・宮殿 1554年****デンマーク王国 (Egeskov Castle, island of Funen)



①1554年にフラン・ブロッケンフスによって建設された。その建築は、オランダ・ルネッサンスに北欧の手法が加わった北欧ルネッサンス風の赤煉瓦づくりである。
 ②Egeskov's history dates to the 14th century. The castle structure was erected by Frands Brockenhuis in 1554. Due to the troubles caused by the civil war known as the Count's Feud (Danish: Grevens fejde), general civil unrest, and a civil war introducing the Protestant Reformation, most Danish noblemen built their homes as fortifications. The castle is constructed on oaken piles and located in a small lake with a maximum depth of 5 meters (16 ft). Originally, the only access was by means of a drawbridge. According to legend, it took an entire forest of oak trees to build the foundation, hence the name Egeskov ("oak forest").

NO : 2077 クリスチャンスボー ・・・年****デンマーク王国 (Christiansborg Slot,)



①中世デンマークの歴史家サクソ・グラマトイクスの記述によれば、1167年、ロスキレの司教アブサロンがコペンハーゲン湾の小島（今日のスロットホルメン島）に城を建設した。城は石灰岩の帳壁に囲まれていた。今日、クリスチャンスボー城の地下に残る遺跡の発掘調査では、城壁の内部に住居や煙の幹をくりぬいて作った井戸の跡などが見つかっている。井戸跡には大理石の建物の断片も発見されており、教会の一部だったのではないかと推測されている。アブサロンの城は200年にわたって存続したが、その間、スラブ系民族のソルブ人海賊やハンザ同盟による攻撃をしばしば受けた。1369年、城はヴァルデマー4世と敵対していたハンザ同盟に奪われる。エーレスンド海峡における貿易において、かねてより城の存在を懼たがっていた同盟都市側は、石工を送り込んで石という石を解体し、城を破壊した。

NO : 2078 ボルディンボー ・・・年****デンマーク王国 (Vordingborg,)



①The castle was built in 1175 by King Valdemar I (Valdemar the Great) as a defensive castle and as a base from which to launch raids against the German coast. His half-brother built another castle in a remote location, which is now Copenhagen. Valdemar II (Valdemar the victorious) similarly used the castle for expansion into the Baltic, and in 1241 it was where he created the reformed legal system, the Law of Jutland. By the time of King Valdemar IV (Valdemar Atterdag, 1340-1375), the castle had nine towers and a defensive wall 800 metres long. The castle was the birthplace of Queen Margaret I of Denmark, daughter of Valdemar IV, in 1353.

NO : 2079 ローゼンボーグ ・・・年****デンマーク王国 (Rosenborg Slot,)



①The castle was originally built as a country summerhouse in 1606 and is an example of Christian IV's many architectural projects. It was built in the Dutch Renaissance style, typical of Danish buildings during this period, and has been expanded several times, finally evolving into its present condition by the year 1624. Architects Bertel Lange and Hans van Steenwinckel the Younger are associated with the structural planning of the castle.
 ②The castle was used by Danish regents as a royal residence until around 1710. After the reign of Frederik IV, Rosenborg was used as a royal residence only twice, and both these times were during emergencies. The first time was after Christiansborg Palace burned down in 1794, and the second time was during the British attack on Copenhagen in 1801.

NO : 1038 アウグストゥスブルク★ 宮殿・平城・ロマンチック街道 1727年****ドイツ連邦共和国 (Schlosser Augustusburg, Bruhl)



①アウグストゥスブルク城(アウグストゥスブルク宮殿とも訳される)は、18世紀初頭に選帝侯を兼ねていたケルン大司教の座にあったヴィッテルスバッハ家のクレメンス・アウグスト・フォン・バイエルンによって建造された。実際に建築を委ねられたのはヨハン・コンラート・シュラウン(Johann Conrad Schlaun)であった。彼はブリュールにもともとあった中世の城を改築する形で質素な宮殿を作り上げたが、1727年からフランソワ・ド・キューヴィリエ(Francois de Cuvillies)が手がけた再改築によって、現存するロココ様式の壮麗な宮殿が出来あがった。宮殿には華やかな階段室があるが、これはバルタザール・ノイマンが手がけたものである。

NO : 2080 アルブレヒト ・・・年****ドイツ連邦共和国 (Albrechtsburg, Meissen)



① ドレスデンから北に20キロ、マイセンもドイツの古都の一つである。エルベ川の流れに沿うこの町は、すでに10世紀のころから開け、いまだに町には中世風の建物も多く、とくに町の中心の広場付近には古い建物が見られる。かつてマイセン辺境伯の、そしてザクセン選挙侯の城下町であった。マイセンの町にのぞむ丘にはアルブレヒトの城がそびえている。この城は10世紀ころからの古い城塞にはじまるが、現在の建物は1470年から1525年にかけてつくられた城館で第二次大戦後、荒廃していたものが近年修理された。城内は公開されているが、美術品、調度類のコレクションはない。城塞の構築物・建造物はオリジナルな構造が一部分に残っていて興味深い。城の建物の一部は住居として使用され、またレストランになっている。城からエルベ川やマイセンの町のながめが美しいが、このマイセンは、マイセン焼という陶器の産地としても知られ、その焼物は日本にも入っている。
 ②1470年にはArnold von Westfalen (アーノルド・フォン・ヴェストファレン)によってアルブレヒツ城が建てられた。The Albrechtsburg is a Late Gothic castle that dominates the town centre of Meissen in the German state of Saxony.

NO : 2081 ヴェルツブルク ・ ・ 年****ドイツ連邦共和国 (Fortress Marienberg, Würzburg)



①The mighty Fortress Marienberg is the symbol of Würzburg and served as a home of the prince-bishops for nearly five centuries. It has been a fort since ancient times. After Gustavus Adolphus of Sweden conquered the area in 1631, the castle was reconstructed in the Baroque style. Today, it is a park and museum.
 ②In 704 A.D., the Marienkirche was built atop a former Celtic shelter, and in the 13th century it was surrounded by the first fortification. In 1482, the main castle was encircled by a medieval ring wall with the Scherenberg gate. Some of the parts of the fortress accessible to the public are the Scherenberg-Tor (Gate) the Burgfried (keep), a chapel, a well house and Fürstenbaumuseum (Bibra Stairs / Lorenz von Bibra apartments, and the Julius Echter apartments).

NO : 2082 エルトビル ・ ・ 年****ドイツ連邦共和国 (Eltville)



① ドイツは高級ワインの産地を101に分けているが、その最高はラインガウとモーゼル地区である。ラインガウはライン川の右岸を占めるゆるやかな丘陵地帯で、シロス・ヨハネスベルク、シロス・フローーツ、などの有名なワインを産出する城があるが、エルトビルの村にも、マインツの大僧正による城とズインメルン家の城がある。シロス・エルトツは同名のワインを産出する近世風の居館で、今も住い、事務所、醸造所、貯蔵庫などに使われている。もう一つの古い城は14世紀から15世紀ころの建物といわれ、シロス・エルトツのすぐ近くにあるが、こちらのほうは古い塔、城壁、城館などが残っていて、今では城内はワインの貯蔵庫に使用されている。城の白い塔はライン川のすぐ岸辺にあり、シーズン中には、古い城門はバラの花が咲きほこり、古いライン川の生活を想わせる。この城はライン川を上り下りする遊覧船からよく見える。マインツの大僧正によって創築されたので、今でも『大僧正の城』と呼ばれる。
 ②The earliest traces of humans settling here go back to the New Stone Age. There has been continuous habitation since the late 4th century. Eltville had its first documentary mention in Vita Bardonis ("Bardo's Life") from 1058, a biography of Archbishop Bardo of Mainz. In 1329, the archiepiscopal castle and the town wall around Eltville were built. On 23 August 1332, Emperor Louis the Bavarian granted Eltville town rights. With the granting of town rights, Eltville ended up being a pawn in the then ongoing dispute between the Emperor and the Pope. Archbishop Baldwin, one of Emperor Louis' s followers and administrator of the Mainz monastery, was the one who asked for Eltville to be raised to town. From 1347 to 1480, ③Eltville was the residence of the Archbishops of Mainz. From Dietrich Schenk von Erbach, Archbishop of Mainz (1434?1459), the outlying centre of Erbach presumably got its name.

NO : 2083 オクセンフルト ・ ・ 年****ドイツ連邦共和国 (Ochsenfurt)



①ヴェルツブルクからアンスバッハ方面（ローテンブルクに行く途中）に、15分今日行ったところで線路沿いに塔と市壁が現れます。この立派な市壁に守られている歳がオクセンフルトです。マイン川ほとりのこの町の歴史は古く、8世紀までさかのぼれます。文献上には12世紀に登場し、14世紀に市壁等の建設が始まります。16世紀になると現在残る市庁舎が建てられています。その後他の都市と同様に19世紀にバイエルンに編入されますが、戦災を逃れたこともあり今でも古い建物が残ったままで、中世の面影を強く残す町となっています。
 ②It contained in 1911 an Evangelical and five Roman Catholic churches, among them that of St Michael, a fine Gothic edifice. There is a considerable trade in wine and agricultural products, other industries being brewing and malting. It was one of the places in Germany that King Richard I of England was detained in 1193 while the king was returning to England from the Third Crusade.
 ③The premises of the former Carthusian monastery here, Tuckelhausen Charterhouse, secularised in 1803 and largely converted for private residential use, contain a museum of Carthusian life. The monastery, dedicated to Saints Lambert, John the Baptist and George, was founded in 1138 by Otto I, Bishop of Bamberg, as a double canonry of the Premonstratensians. From 1351 it belonged to

the Carthusians.

NO : 2084 オベルヴェゼル ・ ・ 年****ドイツ連邦共和国 (Schonburg Flaggenwiese, Oberwesel)



① ドイツ・ラインの景観の中で、もっとも有名なのがローレライの岩なのだが、日本的な渓谷美を見なれた目には大味にすぎる。しかし名所は名所で、川からのながめはさほどでなくとも、この大岩盤の上に登るとライン川を一望するながめは壮観である。このローレライのやや上流、ラインの左岸にオベルヴェゼルの町がある。ここはライン川沿岸の町の中でもっとも中世的な面影を残している。古くから集落として発達したが、12世紀から14世紀にかけて町は城壁がめぐられ、城郭都市となった。城壁に沿って塔の林立する壮観だった。現在では町に古い塔が残り、ザンクト・マルチン、ザンクト・マリア教会がある。またオベルヴェゼルのそぞろ南の丘には10世紀にはじまるシュンブルクの城があり、かつての大城塞はなかなかに崩れたが、現在に部がユース・ホステルとレストランになっていて、オベルヴェゼルの町、ライン川、そして一面のブドウ畑のながめが美しい。

NO : 1039 カッツ 城郭（城塞）・平城・ラインの城 1393年****ドイツ連邦共和国 (Burg Katz, St. Goarshausen)



①1393年から、ヨハン・カッツェネルンボーゲン伯によって築かれた城。この場所はライン川の要衝であって、古くから城塞がつくられていたが、度重なる戦乱で壊され、1804年の破壊によって廃墟となっていたのを1898年に古い城の通りに再建したのが現在の建物である。建物の一部には古くからのものも残っている。主塔はナポレオンに破壊されている。
 ②ネコ城はその名のとおり“猫”という意味があるが、その理由として二つのことが挙げられる。一つ目は、この城を建てた人物が猫のような顔をしていたという事。二つ目は、城の一部が猫に似ていたという事である。また、城を建てたカッツェネルンボーゲンのヴィルヘルム2世（カッツェンエルンボーゲンはドイツ語で『猫の肘』の意）の名前にちなんでいるという説も有る。
 ③現在は日本人男性が持ち主。

NO : 1040 クヴェトリンブルク★ 宮殿・平山城・宮殿 922年****ドイツ連邦共和国 (Quedlinburg Castle, Quedlinburg)



①922年、ハインリヒ捕鳥王による寄進の一部として記録されている。936年のハインリヒの死後、彼の妻であるリンゲルハイムのマティルデは貴族の娘たちの教育の場としてクヴェトリンブルク女子修道院を設立、ハインリヒをはじめとする諸王を記念した。また、ハインリヒの息子で神聖ローマ帝国初代皇帝のオットー一世は父が基礎を築いた城をさらに拡張し、帝国の宮殿としての機能を持たせた。
 ②1936年、ナチス・ドイツの親衛隊指導者ハインリヒ・ヒムラーは捕鳥王の没後1000年を記念した式典をクヴェトリンブルクで行なった。

NO : 2085 グーテンフェルス ・ ・ 年****ドイツ連邦共和国 (Burg Gutenfels ,)



①Burg Gutenfels (also known as castle Caub) is a castle 110m above the town of Kaub in Rhineland-Palatinate, Germany.

NO : 2086 グリュックスブルク ・ ・ 年****ドイツ連邦共和国 (Schlos Glucksburg, Glucksburg)



① ドイツの北端、ユトランド半島のデンマークとの国境に近い湖水に面してグリュックスブルクの城がある。三方を湖水に囲まれているところから、バッサ1・シュロス、すなわち水城と呼ばれている。この城に限らずドイツでは濠の中の城をバッサー・シュロスと呼ぶ習慣がある。もともとここには小さな城塞があったが、それが1587年に典型的な北ヨーロッパ風ルネッサンス様式の居館に改築された。城館は、白い本館と白い6角の四つの塔に囲まれ、赤い屋根、青い屋根をもった端正なたたずまいを北ドイツの清涼な風景の中に見せている。現在、城の内部は博物館として公開され、17世紀のベルギー(フランドル)製家具も置かれ、訪れる人人の目を楽しませている。2階には、ロット・ザール(赤い部屋)と呼ばれている広間があり、壮麗な美しさで知られている。あまり武備的ではないが、北ドイツの名城の一つといえよう。

NO : 1041 サンスーシ宮殿 宮殿・平城・宮殿(庭園式) 1745年****ドイツ連邦共和国 (Schloss Sanssouci, Potsdam, near Berlin)



①1745年から1747年にかけて、フリードリヒ2世の命によって建てられた、ブランデンブルク州の州都ポツダムにあるロココ建築の宮殿。「サンスーシ(Sans Souci)」とは、フランス語で「憂いなし」を意味し、日本や中国では漢訳して無憂宮とも表記する。

NO : 2087 シュヴァインフルト ・ ・ 年****ドイツ連邦共和国 (Schweinfurt)



①The city is first documented in the year 791, though as early as 740 a settlement called Villa Suinfurde is mentioned. In the 10th century Schweinfurt was the seat of a margraviate. Early history includes the count Henry of Schweinfurt, who rebelled against King Henry II of Germany.
②In the first half of 13th century Schweinfurt was expanded to a real city with city wall, towers and city gates. At that time the Nikolaus hospital was founded, a mint was established and construction work on the Saint Johannis church began. Around 1250 Schweinfurt was totally destroyed during a feud between the Earl of Henneberg and the Prince-Bishop of Würzburg. In the following years it was reconstructed. A document from 1282 signed by King Rudolf I of Habsburg states that Schweinfurt was a free city within the Holy Roman Empire. At least since then the known coat of arms of Schweinfurt is an imperial white eagle.

NO : 1042 シュヴェリーン 宮殿・平城・宮殿 1525年****ドイツ連邦共和国 (Schweriner Schloss,)



①スラヴ人の居留地がその起源と考えられ、その後ザクセン人に征服された。1160年にハインリヒ獅子公から自治権を与えられ、まもなく司教座がおかれた。中世から近代にかけて、メクレンブルク公領、メクレンブルク＝シュヴェリーン公領の都であった。第二次世界大戦後、東ドイツ領となり工業化が進められた。
②Under Duke Johann Albrecht I. (1525–1576), the castle saw some important changes. The fort became a castle, and the defensive functionality of the fortress was replaced with ornamentation and concessions to comfort.

NO : 2088 シュピタル門 ・ ・ 年****ドイツ連邦共和国 (Spitalbastei, Rothenburg)



①The southern extension with its hospital was not incorporated within a city wall until the end of the fourteenth century. Here we are viewing: the main southern gate, the Spitalbastei, a double-walled and moated entrance dating from 1572. The Spitaltor rises in the background.

NO : 1043 ツ빙ゲンベルク ・ ・ 年****ドイツ連邦共和国 (Hohentubingen, Tübingen)



- ① ハイデルベルクからネッカースルムにいたるネッカー川沿いの道が『ブルゲン・ストラーセ(城郭街道)』と呼ばれるのは、この美しい渓谷沿いに数多くのロマンチックなたたずまいを見せる城塞、城館、城跡などが数多く見られるからである。
- ② 有名なツ빙ゲンベルクの城もこの谷間の名城の一つである。中世のころからの城塞居館であるが、現在見られる建物は、近世になってから修築されたものである。ネッカー川の清流にせまる丘陵の山腹の、贅蒼とした木立に建てられた一群の建物は、まるでおとぎ話の中の城のような詩情をたたえ、ドイツでも美しい城の一つに数えられ、古城のメルヘンをたたえる典型である。
- ③ しかし、この城は、5月から9月までのシズン中も、日・火・金曜日のみしか公開されていないので、それ以外の日は、対岸の山道から城の外観を觀賞するのみである。しかし、運よく旅行中にこの城に入ることができたならば、城内のコレクションを觀賞できる。

NO : 2089 ディンケルスビュール ・ ・ 年****ドイツ連邦共和国 (Dinkelsbühl)



- ①ディンケルスビュールに初めて都市施設が作られたのは、1130年頃のことである。それはシュタウフェン家とヴェルフェン家とのドイツ王位をめぐる争いの中で、シュタウフェン家の所領を結ぶ防衛拠点の一部として形成されたものであった。この都市は、元々カロリング朝時代に創られたヴェルニッツ川渡渉地点沿いの入植地を拡充させてできたのである。付近の森林地帯へは、フランク族が支配していた時代の後期、8世紀頃に入植が行われていた。市壁は、防衛上の理由から円形に巡らされた(この内部を、以下「中核地区」と呼ぶ)。この痕跡は、現在の街でも明らかに見て取れる。それは、シュビタルガッセ、ウンテルン・シュミーツガッセ、フェーレンベルクガッセ、ヴェートガッセと一致するが、これらは、市壁の痕跡ではなくむしろその外側の濠の跡なのである。
- ②市ができあがるまえから、二つの交易路(ニーベルンク街道とローマ街道)が交わるヴェルニッツ川の渡渉地点として、防衛上の重要地であったこの地に、1130年頃シュタウフェン家はディンケルスビュールの防衛施設を建造した。中世初期、ディンケルスビュールは、北西のクライルスハイム、南西のエルヴァンゲン、東のニュルンベルク、北のローテンブルク・オブ・デア・タウバー、南のウルムと関連を持っていたことが証明されている。この、ディンケルスビュールを通る(1236年の文献では「Dinkelpole」と記載されている)南北の街道は、ヴェルニッツ川やレヒ川の渓谷沿いをたどる交易路であると同時に、北ドイツからローマへ向かう巡礼の道でもあった。

NO : 1044 ニュールンベルク 城郭都市(自由都市) ・ 平城・自由都市 1050年****ドイツ連邦共和国 (, Nurnberg)



- ①1050年に皇帝ハインリヒ3世のSigena-Urkundeに「Nuorenberg」として記録されている。現在の地名の元となったこの名前は「岩山」を意味している。その後ニュルンベルク城は皇帝の拠点として神聖ローマ帝国で重きをなした。
- ②中世以来、ニュルンベルクはアウクスブルクとともにイタリアとヨーロッパ北部を結ぶ2大貿易都市であった。カール4世は、1356年にニュルンベルクで金印勅書を公布した。勅書では即位後第一回目の帝国議会をニュルンベルク

で開催することと定められ、この慣例は1543年まで続けられた。

NO : 1045 ニュンフェンブルク宮殿 宮殿・平城・宮殿(庭園式) 1664年****ドイツ連邦共和国 (Schloss Nymphenburg, Westen Münchens)



- ①この宮殿はバイエルン選帝侯フェルディナント・マリアとその妻ヘンリエッテ・アーデルハイト・フォン・ザヴォイエンの命により、イタリア人建築家アゴ스티ーノ・パレリが1664年に設計したものである。それ以前の1662年に選帝侯の息子マクシミリアン2世エマヌエルが生まれている。中央の建物は1675年に完成した。

NO : 2090 パートヴィムプフェン ・ ・ 年****ドイツ連邦共和国 (Bad Wimpfen)



- ①ネッカー川沿いの保養地。ドイツで最もシルエットの美しい町とも言われる。この町は1803年から1945年の間、ヘッセンの飛び地であった。現在の法律上の州の帰属は必ずしも明確ではない。ヴィンブフェンは、神聖ローマ皇帝オットー1世の文書により965年に市の開催権を得た。交通の要衝である地の利と裁判所の所在地であることからこの町は大いに繁栄した。ヴィンブフェンのタールマルクト(谷の市)は今日でも毎年開かれており、1000年以上の歴史を持つドイツで最も伝統ある市である。1182年に、皇帝フリードリヒ1世バルバロッサはヴィンブフェンに滞在したと考えられている。彼の中世的なシュタウフェン家の帝国は分散統治されていた。このため、シュタウフェン家は、帝国内の各地に、広大で堅牢な城郭施設を持った「カイザー・ファルツェン(皇帝の城)」とよばれる町を設けていた。

NO : 2091 ハンブルク ・ ・ 年****ドイツ連邦共和国 (, Hamburg)



- ①6世紀には、エルベ川河口に港湾都市として存在しており、バイキングの襲来を受けている。808年、カール大帝によって前哨基地ハンマブルクの城塞が築かれ、811年にはキリスト教の布教をさらに推進する目的で、砦の近くに大聖堂を建設し、「ハンブルク」としての基礎が整えられる。
- ②ハンブルクはデン人やスラブ人の襲撃にももちこたえ、1189年には神聖ローマ帝国のフリードリヒ1世から船舶航行の特許状をうける。この特許状は第3回十字軍への貢献の報償としてあたえられたもので、商業上の特権をみとめるものだった。また、関税特権、経済特権を獲得したことで交易都市としての発展が進み、1241年にリューベックと、1249年にブレーメンと防衛同盟をむすんだ。これはやがてハンザ同盟の成立へとつながっていく。ハンザ同盟の1員としてハンブルクは富裕な有力都市のひとつとなり繁栄し、1410年、1510年、1618年と3度神聖ローマ皇帝から自由都市の特権を与えられ、自治権を獲得維持した。

NO : 2092 バンベルク ・ ・ 年****ドイツ連邦共和国 (, Bamberg)



①902年に初めて、現在のドムベルクが“Castrum Babenberch”として登場する。この地はフランケン・バンベルク家の所領であったが、903年、ラインフランケン・コンラート家との流血のフェーデの末にこのレーエンを失った。1007年、ハインリヒ好戦公の息子である皇帝ハインリヒ2世によって新たな司教区が創設された。また、同年、大聖堂が建設されるが、二度の火災に遭い、13世紀以降に現在の建物に改築された。16世紀の司教領主権力に対する農民達の蜂起は、不成功に終わった。司教領主ロタール・フランツ・フォン・シェーンボルンとフリードリヒ・カール・フォン・シェーンボルンの下、この都市はバロック文化の華を体験した。この都市は、30年戦争でスウェーデン軍に、7年戦争でプロシセン軍に、19世紀にはフランス軍に、手ひどく痛めつけられた。

NO : 2093 フライブルク ・ ・ 年****ドイツ連邦共和国 (, Freiburg)



①フライブルクは、シュロスベルクという小高い丘の麓に、ドライザム川に沿って発達した町である。1008年には、川の南側に位置するヴィーレ地区に触れた記録がある。1091年には、ツェーリンガー公により、シュロスベルクに城が建設された。1120年に、ツェーリンガー公コンラッドとベルトルト3世により、市場と都市の権利が与えられた。1200年には、ベルトルト5世によって大聖堂ミュンスターを建設する工事が開始されており、工事の費用には、主としてシュヴァルツヴァルトにある銀鉱山の収益が充てられた。

NO : 2094 ブラウンシュヴァイク ・ ・ 年****ドイツ連邦共和国 (, Braunschweig)



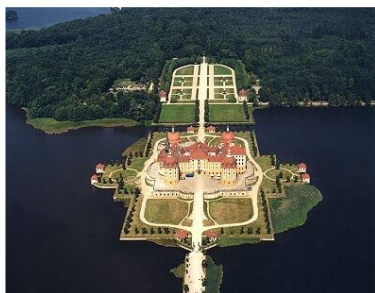
①中世においては、神聖ローマ皇帝と争ったハインリヒ獅子公の拠点であった。ハインリヒ獅子公の子孫が治めたブラウンシュヴァイク＝リュネブルク公国ではリュネブルクと並ぶ主要都市であり、17世紀よりブラウンシュヴァイク公国の都となり、第一次世界大戦後はブラウンシュヴァイク州の州都であった。第二次世界大戦後、イギリスの占領統治を経てニーダーザクセン州に属することとなった。

NO : 2095 ヘレンキームゼー ・ ・ 年****ドイツ連邦共和国 (Schloss Herrenkiemsee,)



①バイエルン州のキーム湖（キームゼー）の中央に浮かぶヘレン島に位置する城である。バイエルン王ルートヴィヒ2世によって建設された。Neues Palaisはクリスチャン・ヤンク、フランツ・ザイツ、ゲオルグ・ドールマンによってデザインされ、1878年から1886年にかけて建設された。それはヴェルサイユ宮殿をそっくりそのまま模倣したものであるが、ルートヴィヒ2世が死ぬ前に中央の一部分だけが建設されたのみだった。1886年にルートヴィヒ2世が死ぬと建設が中止された。70部屋のうち、50部屋は現在でも未完成である。
②ヘレンキームゼー城は島にあり、小さなフェリーのみだけが訪問する交通手段である。そのため、ヘレンキームゼー城は、ルートヴィヒ2世が建設した他の城と比べて訪問しにくい。しばしば、ヘレン島にある他の小さい建物の存在を忘れて、Neues Palaisだけをヘレンキームゼー城と呼んでしまうが、実際はこれらの全てがヘレンキームゼー城である。

NO : 2096 モリッツ ・ ・ 年****ドイツ連邦共和国 (Schlos Moritzburg, Dresden)



① 東ドイツの古都、ドレスデンはかつてはドイツ連邦のザクセンの首都で、古くからの町だが、17世紀から18世紀にかけてザクセンの王だったフリードリッヒ・アウグスト1世の代に栄えた。彼は、強王といわれた人でその力は指先で硬貨が折れるほどであり、また多くの女性に総計200人もの子供を生ませた。ドレスデンは現在東ドイツ共和国の東ベルリン、ライプチヒについて第3の都市である。ドレスデンから西に10キロほどのところにモリッツ城がある。ここはかつてザクセン王家の狩猟の館があったところだが、森、湖に囲まれた自然の領域は動物が多かった。18世紀にドレスデン市中に有名なツヴィンガー宮殿を建てた建築家ベッセルマンが、王の依頼で、モリッツに城をつくった。城といっても戦いのものではなく、シロス、宮殿で、大きなドームを持つピンク色の建物である。現在は、城内は博物館之なつて一般に公開されている。 城の周辺はドレスデン市民の行遊の場所として人気がある。

NO : 1046 ライヘンシュタイン 城郭（城塞）・山城・ラインの城 1218年****ドイツ連邦共和国 (Schloss Reichenstein ,Bingen am Rhein)



①In 1218 his son Werner took the name “von Reichenstein,” but since he died without an heir, the castle feared robber-knights of his time.

NO : 1047 ラインシュタイン 城郭（城塞）・山城・ラインの城 1275年****ドイツ連邦共和国（Rheinstein, Trechtlingshausen）



① ドイツ・ライン川の漢流の一つの中心ビンゲンのやや下流、ライン川左岸にラインシュタインの城がある。数多くのラインの名城の中では、さほど大きいものではないが、今ではライン川の遊覧船からよく見えて、いかにも形の整った古城らしいという点で、観光的に知られている。城は、ライン川に迫る山陵の山腹にある一つの岩盤の上に築かれている。そのはじまりは1275年、トリエールの大司教の居城であった。地形的に見てきわめて要害堅固な城だが、城地は充分な広さがなく、小さい岩だった。
② 19世紀になってこの城を買ったプロシアのフリードリッヒ王子が、古い岩をこわし、ネオ・ゴシック風の館を建てた。現在残っているのはこの建物である。城内には16、17世紀ごろの家具、調度、武具などがあったが、現在は少なくなっているという。城には小さい教会が付属している。この城は一時、日本のデパートが売り出したことでも有名である。

NO : 2097 リエスフェルド ・ ・ 年****ドイツ連邦共和国（Schlos Raesfeld,）



① 北ドイツ、ミュンスターはドイツの古都の一つ、ベストファレン様式の12世紀にはじまるカテドラルやバロックの宮殿がある。この町から西に70キロほどのところにリエスフェルドの城がある。 パッサー・シロス、すなわち水城と呼ばれるこの城は1643年から1658年にかけてつくられた北ドイツ風、というよりはベストファレン風な居城である。それより前の1259年にゲーメンのリッター・シモンによってゲーメンの山城として城塞がつくられていた。居館ができてからはこの地方の主要な城館の一つとなった。現在は塔と二つの館が接続されてその特色ある美しい姿を水濠に映している。現在、城の一部はレストランになっていて、城での静かな食事を楽しむ人たちのために公開されている。 なお、リエスフェルドと関係の深いゲーメンには中世風の濠に囲まれた城館が残っていて、公開されている。 ともあれ、北ドイツの城には風土的な特色が見られる。

NO : 2098 リヒテンシュタイン ・ ・ 年****ドイツ連邦共和国（Schlos Lichtenstein, Traifelberg）



①南ドイツ、シュツットガルトの町から南に行くと、チュービンゲン、ロイトリンゲンなどの小都があり、いずれも由緒深い町で、シュバーベン森への入口である。 ロイトリンゲンから山中のドライブウェイを行くと、23キロでリヒテンシュタイン城のパーキングにつく。このリヒテンシュタインは、スイスとオーストリアの国境にある小国のリヒテンシュタインとは違う。 城の入口から少し入ったところに小さい居館と塔からできている。その城が建っている岩盤は、深い渓谷にのぞみ、建物は1842年につくられたトロオパドール・スタイルと呼ばれるもので、この建物は岩盤上に孤立し、わずかにね橋で対岸と結ばれている。ここには古くは岩があったという。この城はそのおとぎ話のようなスタイルからビュルテンブルク地方でもっともポピュラーな城となっていて、見物人も多い。小さい館の中には中世の武器、調度が飾られている。また、この城の塔からのながめは絶佳だが、その眼下には数100メートルの渓谷が展開する。

NO : 1048 リューベック・ホルステン門★ 城郭都市（自由都市）・平城・自由都市 1469年****ドイツ連邦共和国（Holstentor, Lubeck）



①1469年-1477年にかけて造られた北ドイツ特有の煉瓦造りの門で、門の両端に立つ塔は現在では博物館として利用されており、17世紀当初の都市の姿を再現した模型などが展示されている。しかし、レンガの重みに耐え切れずに建物の一部が陥没し、塔が傾いている。
②バルト海に面する北ドイツの代表都市。かつてはハンザ同盟の盟主として繁栄を誇った。リューベック商人は、ノルウェーのベルゲンに商館を築き、ノルウェーの鱈を南に売却して大きな利益をあげた。また、リューネブルクの岩塩をおさえたことで、塩漬し鯀（ニシン）でも独断的地位を誇った。近世にはいると、ハンザ同盟の衰退とともに、リューベックも衰退していった。

NO : 2099 リンダーホーフ ・ ・ 年****ドイツ連邦共和国（Schloss Linderhof, Graswangtal bei Oberammergau）



①1874年、バーバリアの国王ルドルフィック二世によってつくられたもので、広大なアルプス山麓の自然を庭園にとりいれ、本館の前庭には人工の粋を集めた噴水と石彫を配して、自然と人工を見事に調和させた優雅な構想である。ルドルフィック二世はノイシュバンシュタインのところで述べたように、国政の理想を追って破れた『失出息の王』だが、リンデルホッフもその失意を逃れようとしてつくった城の一つで、5カ年の歳月をかけて完成したが、武備はなく城というよりは離宮というべきである。
②主館は後期バロック様式の小さいながら豪華な建物であり、城内のモロー風の茶室は、王が好んで小憩したところで、金銀、青紅緑の宝石で華麗な装飾が施されている。王の傾倒したワグナー愛用のピアノが今も主館の1室に置いてある。庭園の大噴水もこの城の名物で、定時に巨大な水柱をあげる。

NO : 2100 イリオス（トロイ）遺跡★ 城郭都市（ポリス）・平山城・ポリスとアクロポリス -3000年****トルコ共和国（?lios）



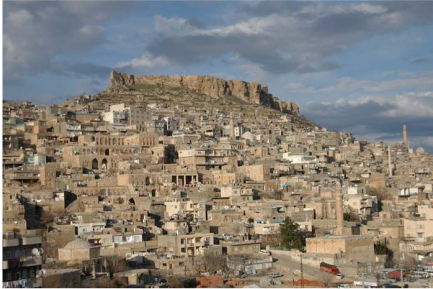
①前3000-AC100、最初の集落は初期青銅器時代に分類される。第II層は、エーゲ海交易によって栄えたと考えられており、トロイア文化ともいえるべき独自の文化を持っていた。城壁は切石の下部構造を持ち、入り口は城壁を跨ぐ塔によって防衛されている。トロイア戦争の時代を、ヘロドトスは紀元前1250年、エラトステネスは紀元前1184年、Dourisは紀元前1334年と推定した。トロイア戦争時代と推定される第VII層の発掘では、陶磁器の様式から、紀元前1275年から紀元前1240年と推定されている。
②シュリーマンの発掘した遺跡がトロイア戦争の舞台として登場する古代都市イリオスであるか否かは議論のわかれるところである。ホメロスの『イーリアス』には複数の都市に関する伝承が混合している可能性が指摘されており、その複数の都市の中に、シュリーマンが発掘したこのトロイア遺跡が含まれているということについては概ね合意が得られていると言える。しかし、ホメロスの『イーリアス』それ自体に考古学的事実と符合しない部分があり、また、最も重要な証拠となるべき第VII層の大部分がシュリーマンの発掘によって消失しているため、イリオス遺跡が伝説上のトロイアであるという決定的な証拠はない。ホメロスの伝承が全く架空の伝承とする立場もないわけではない。

NO : 2101 ディヤルバクル 城郭都市（ローマ）・平城・ローマ時代 -190年****トルコ共和国（Diyarbakır）



①前190年-60古代のアルメニア王国の首都。297年につくられたという長さ5.5kmの玄武岩の城壁が旧市街を囲む。
②ローマ帝国時代にはアミダ（Amida）と呼ばれたが、629年にアラブ人に征服されて以後はアーミド（??? ?mid）と呼ばれるようになった

NO : 2102 マルディン 城郭都市（城館・アルトゥク朝）・平山城・ローマ時代 299年****トルコ共和国（Mardin）



①3世紀にマルディンを開いた住民はシリア正教会のキリスト教徒。12世紀から14世紀にかけてセルジューク朝系のアルトゥク朝の首都。
②1517年、オスマン帝国のセリム1世の時代に征服され、第一次世界大戦の敗戦までその一部となっていた。

NO : 1049 ルメリ・ヒサル 城郭（要塞）・平城・ローマ時代 1452年****トルコ共和国（Rumeli Hisar?, Istanbul）



①1452年メフメト2世が東ローマ帝国の首都コンスタンティノープルを攻略中に、わずか4か月ほどの短期間で造営し、攻略の拠点となった。もちろん当時は木造の部分もあったが、ムハメット2世がここを拠点としてコンスタンチノープルを攻め落とし、ビザンチン帝国を滅亡させた後、三つの大塔と18の塔からなる石造の大城塞に改築された。「ローマの城」という意味をもつ。
②当時のコンスタンティノープルは、マルマラ海と金角湾にはさまれた半島の一帯に中心部があり（現在、旧市街と呼ばれている）、海と古代ローマ帝国来の堅固な城壁に守られた難攻不落の城塞都市となっていた。ルメリ・ヒサルは、コンスタンティノープルから金角湾をはさんで北側約10キロメートルにあり、アジアとヨーロッパの境界であるボスポラス海峡の最狭部（幅660メートルほど）のヨーロッパ・サイドに位置する。対岸のアジア・サイドにはアナドル・ヒサルがある。金角湾の入り口には東ローマ帝国によって鉄製の太い鎖が張られ、オスマン艦隊の進入を阻止していたが、メフメト2世は艦隊を陸上から丘越えて金角湾に移動させるという奇策に出てコンスタンティノープルを陥落させた。

NO : 2103 フレデリックステン ・ ・ 年****ノルウェー王国（Fredriksten.）



①オスロ峡湾にそそぐテスタ川の河口の町ハルデンにあるフレデリックステンの城塞は、町を見下ろす海拔130メートルの丘の上にある要塞で、急峻な坂道と幾重もの城門をもち、現在でも18世紀当時の大砲が海に向かって据えられている。第二次大戦中もドイツ軍に要塞として使用されたため、城の上部はすっかり近代化されていて、砲座、石塁、地下道、火薬庫、兵舎などに当時の痕跡をとどめている。中世のころからここには砦があったが、18世紀にノルウェー王家によって近世風の城塞にあらためられている。1718年、ここを占領したスウェーデン王カール11世は、重壕工事を視察中にノルウェー兵の狙撃によって戦死、スウェーデン軍は撤退したというエピソードがある。塗壁の先端に出るとイデ峡湾やハルデンの町が美しく、目を返すと森林の起伏がスウェーデン領までつづいている。ハルデンはオスロー・からは鉄道で一時間くらいのところにある。

NO : 2104 ヴィシェグラード ・ ・ 年****ハンガリー共和国（Visegradfellegrar, Visegrad）



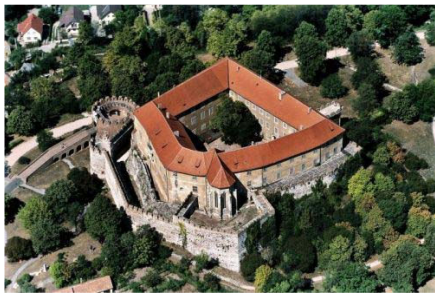
①Visegrad was first mentioned in 1009 as a county town and the chief town of an archdeaconry. After the destructive Mongol invasion of Europe in 1242, the town was rebuilt in a slightly different location to the south. King Charles I of Hungary made Visegrad, his hometown, the royal seat of Hungary in 1325. In 1335, Charles hosted at Visegrad a two-month congress with the Bohemian king, John of Luxembourg, and the Polish king, Casimir III. It was crucial in creating a peace between the three kingdoms and securing an alliance between Poland and Hungary against Habsburg Austria. Another congress followed in 1338.
②Sigismund, Holy Roman Emperor and King of Hungary, moved the royal seat to Buda between 1405-1408. King Matthias Corvinus of Hungary used Visegrad as a country residence. Visegrad lost importance after the partition of the Kingdom of Hungary following the Battle of Mohacs in 1526.

NO : 2105 エゲル ・ ・ 年****ハンガリー共和国（egri var ,Eger）



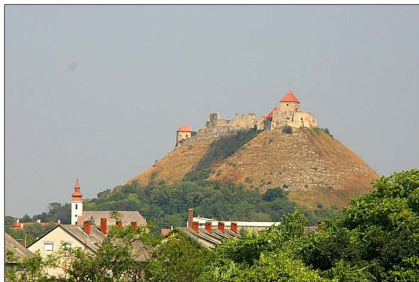
①Eger has been inhabited since the Stone Age. Today's Eger was formed in the 10th century by St. Stephen (997?1038), the first Christian king of Hungary, who founded an episcopal see in Eger. The first cathedral of Eger was built on Castle Hill, within the present site of Eger Castle. Eger grew up around its former cathedral and has remained an important religious centre in Hungary since its foundation. The 14th-16th centuries were an age of prosperity for Eger. Winegrowing, for which the town is still famous for, began to be important around that time. The bishops of Eger built beautiful buildings in the city during 18th and 19th centuries.
②The first castle was built on the high hill named Varhegy at Felsőtarkany near Eger. During the Mongol invasion in 1241, this castle was ruined, and the bishop of Eger moved it to a rocky hill in the city of Eger. On the hill, a new castle was built, and it developed rapidly. In 1470 a Gothic palace was built. In 1552, a Turkish army of 80,000 soldiers attacked the castle which had 1,935 defenders.

NO : 2106 シクローシュ ・ ・ 年****ハンガリー共和国 (Siklos)



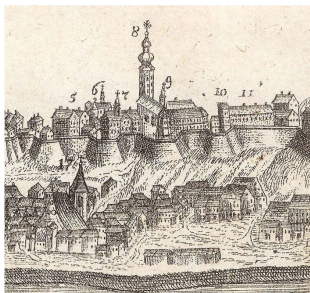
①The castle in Hungary's most southerly town is one of the only medieval castles to avoid damage from conflicts with the Turks and Habsburgs. The foundations date to the 13th century, but several overhauls through the centuries gave it Romanesque, Gothic, Renaissance and especially Baroque features. After crossing the drawbridge, there is much to explore, including a museum, a Gothic chapel and the castle dungeon complete with torture chambers. T
②he oldest part of the castle dates back to the 13th century. Some windows are from the Roman age; and the castle chapel was built between the 14th and 15th centuries. The castle houses a museum, now.

NO : 1050 シュメグ 城郭(城塞)・山城・東欧の城郭 14世紀****ハンガリー共和国 (Sumegi varrom, Sumeg)



①14世紀に築城された城は、現在博物館となっていて、城の歴史展のほか、拷問部屋や蝸牛形館もあり、中庭では騎士の馬上試合を彷彿とさせる城祭りが行われる。
②Hungary's best-preserved fortress presumably was built before the mid 13th century since King Bela IV lived here for a while during the Mongolian invasion (1241—1242). It was extended several times during successive centuries. 125 metres long and 80 metres wide, the castle is oriented north to south and has an irregular polygonal shape. After entering the outer castle gates, the walled path leads to the internal gatehouse that opens onto the courtyard.

NO : 1051 フィッシャーマンズ・バステイオン★ 城郭(要塞)・平城・東欧の城郭 1895年****ハンガリー共和国 (Fishermansbastion, Budapest)



①It was designed and built between 1895 and 1902 on the plans of Frigyes Schulek
②ハンガリアの首都ブダペストは、市内を流れるドナウ川によって二分され、左岸をベスト、右岸をブダと呼ぶ。この町は古くローマ時代にすでにローマ軍の駐屯地として知られていたが、5世紀のころアッチラ大王が侵入し、その有力な部将ブダが左岸の丘陵上に城塞を築いたことから、ブダの呼び名がはじまったという。この城山はそののちもパールヘイジと呼ばれ、隣接するゲレートとともに関城があつてブダペストの守りであつた。中世のころ、ブダに住む漁師たちが、敵襲に備えて城塞の一部分を守つたために、その城山の一つの岩をフィッシャー・バステイ、すなわち漁夫たちの岩と呼ぶようになった。
③現在はこの岩のあとにネオ・ロマネスクの城塔、歩廊などが復興されているが、優雅で美しい建造物で、この塔の上からながめるドナウ川の流れと、ブダペストの町並みは美しく、この城山一帯は市民や観光客のいこいの場所となっている。

NO : 2107 ミシュルコツ ・ ・ 年****ハンガリー共和国 (Diosgy?ri var, Miskolc)



①ディオウシュジュール城 (Diosgy?ri var) は、ハンガリーの都市ミシュコルツにある城。9世紀、マジャル人がこの地に移動してきた際に築かれた岩が起源とされる。13世紀にモンゴルの攻撃を受けて破壊されたが、石積みの岩が再建された。その後、14世紀のラヨシュ1世、15世紀のマーチャーシュ1世などによって増築されたが、16世紀にオスマン帝国によって征服されると、徐々に城は荒廃していった。17世紀後半、オスマン帝国の撤退後にハプスブルク家とハンガリー貴族の対立が深まり、この地域は反ハプスブルク貴族の重要拠点となった。彼らは劣勢に陥ると、自らこの城を破壊したとされる。

NO : 1052 オラビリンナ 城郭(城塞)・水城・北欧の城郭 15世紀****フィンランド共和国 (Olavilinna Castle, Savonlinna)



①15世紀、デンマーク人統治者E. A. Tott によって、モスクワ大公国イワンⅢ世からの侵略に対する城としてヴィプリの城壁と同時期に建設された。17世紀初頭よりフィンランドの東進政策の軍事的拠点として重要な役割を負ってきた。
②18世紀初頭にはロシアの手に落ち、19世紀ナポレオン戦争時、完全にロシアの支配下に落ち着いてからは、城としての役割を終え、監獄として使われた。1870年代の修復、1975年に完了した修復によって今日見られる姿になり、毎年夏には世界的に有名なサヴォンリンナ・オペラ・フェスティヴァルが城の中庭を会場として開催され、世界中から訪れる人々に楽しませている。

NO : 2108 トウルリンナ ・ ・ 年****フィンランド共和国 (TURUN LINNA , Turku)



①1229年にローマ教皇グレゴリウス9世の命によってトゥルクに司教座が置かれ、以降街は繁栄した。1280年頃に城の建設が開始され、主にスウェーデン王国の城として使用されてきた(当時のトゥルクはスウェーデン領である)。トゥルクは、近世までフィンランドの首都であった。この為、スウェーデンは、16世紀のスウェーデン王ヨハン3世の居城としての役目を除いて、都市の防衛の為にトゥルク城を要塞として使用して来たのである。当初は、フィンランドにおける北方十字軍の拠点として、後には、スウェーデンが築いた「バルト帝国」を維持する役目として重要な城となった。 フィンランドに現存する三つの城の一つとして、同国最古の城として現在に至る。

NO : 2109 ハメンリンナ 城郭（要塞）・平城・13世紀****フィンランド共和国（Hameenlinna, Hame）



①13世紀にスウェーデン人によって築かれたハメ城（Hameen linna）が町の象徴となっている。また、ジャン・シペリウスの生まれ育った町としても知られる。

NO : 1053 アゼ・ル・リド☆ 宮殿・平城・ロワール川 1518年****フランス共和国（Chateau d'Azay-le-Rideau, Azay-le-Rideau）



①1518年から1527年にかけてフランソワ1世治世下で徴税官兼トゥール市長を務めていたジル・ベルトロによって建設された。
②初期のフランス・ルネサンス様式

NO : 2110 アネ ・ ・ 年****フランス共和国（Chateau d'Anet, Dreux）



①The Chateau d'Anet is a French chateau near Dreux built by Philibert de l'Orme from 1547 to 1552 for Diane de Poitiers, the mistress of Henry II of France. It was a gift from the king and was built on the former chateau at the center of the domains of Diane's deceased husband, Louis de Breze, seigneur d'Anet, Marshal of Normandy and Master of the Hunt.
②The chateau is especially noted for its exterior, notably the statues of Diane de Poitiers as Diana, goddess of the hunt, by Jean Goujon and the relief by Benvenuto Cellini over the portal. Anet was the site of one of the first Italianate parterre gardens centered on the building's facade in France; the garden-designer in charge was Jacques Mollet, who trained his son at Anet, Claude Mollet, destined to become royal gardener to three French kings.

NO : 1054 ヴァンセンヌ 城郭（城塞）・平城・ドンジョン型 1373年****フランス共和国（Chateau de Vincennes, Paris）



①ヴァンセンヌの歴史は12世紀に始まる。ルイ7世がヴァンセンヌの森で大きな狩猟の催しを行い、休憩をとるための城を築くことを決めた。ルイ7世の後継者フィリップ2世は、城を拡張し壁で森を囲んで狩猟を行った。しかしヴァンセンヌが真に都市となったのは、ルイ9世の時代である。彼はヴァンセンヌの荘園で過ごすことを好み、森の中の有名なカンの木の下で重要な裁断を下した。1248年と1269年の二度行った十字軍である。フィリップ6世は荘園を要塞化し、1337年には城中央に巨大なダンジョンを築いた。シャルル5世は1373年にダンジョンを完成させた。
②イングランド王ヘンリー5世が摂政とされたトロワ条約後、1420年から城をイングランド軍が接収した。1436年、パリとヴァンセンヌからイングランド軍が撤収した。のち、フランソワ1世がサント＝ジャベル礼拝堂を完成させた。ジュール・マザランは、1661年に亡くなるまで10年以上、ヴァンセンヌとその城のためにいくつもの計画を構想した。マザランの死後、ルイ14世は宮廷をヴェルサイユへ移した。

NO : 1055 ヴィランドリー☆ 宮殿・平城・ロワール川 16世紀****フランス共和国（Chateau de Villandry, ）



①フランス・アンドル＝エ＝ロワール県のロワール渓谷内のコミューンであるヴィランドリーにある城である。ルネサンス様式の美しい城で、典型的なロワールの古城の一つと言える。
②城そのものよりも庭園の幾何学模様でその名が知られる。そのデザインは14世紀の古い文獻に残されている。所有者の変遷により一時期は庭園も公園に作り変えられるなどして荒廃したが、20世紀初めに所有者となった現オーナー族の丹精込めた世話により往時の姿をみごとに回復し、バラやツゲをはじめとした様々な美しい花や樹を楽しめる。
③The lands where an ancient fortress once stood were known as Colombier until the 17th century. Acquired in the early 16th century by Jean Le Breton, France's Controller-General for War under King Francis I, a new chateau was constructed around the original 14th-century keep where King Philip II of France once met Richard I of England to discuss peace. The chateau remained in the Le Breton family for more than two centuries until it was acquired by the Marquis de Castellane. During the French Revolution the property was confiscated and in the early 19th century Emperor Napoleon acquired it for his brother Joseph Bonaparte.

NO : 1056 ヴェルサイユ宮殿☆ 宮殿・平城・宮殿（庭園式） 1661年****フランス共和国（Chateau de Versailles, Paris）



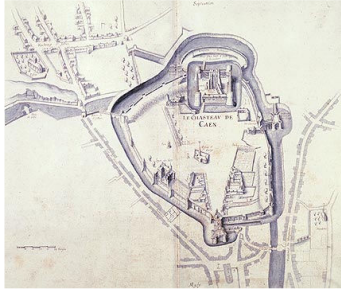
①1624年ルイ13世の狩猟の館として建てられ、1661年-65年 ルイ14世が建築家ル・ヴォーを招き、増築。
②バロック建築の代表作

NO : 1057 **オルレアン** 城郭都市（城塞）・平城・ロワール川 1428年****フランス共和国（Orleans）



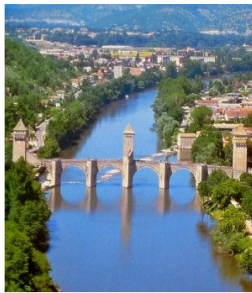
①ケナブム（Cenabum）はガリアの要塞で、ドレイド僧が毎年集会を開くカルヌト族の主要な町の一つであった。紀元前52年、ユリウス・カエサルによって町は征服・破壊され、ローマ帝国の元で再建された。ローマ皇帝アウレリアヌスはこの町を再建し、アウレリアヌスムすなわちアウレリアヌスの都市（スイテ・ドーレリヤンcité d'Aurelien）と名付けた。これが変化してオルレアンとなった。
②メロヴィング朝時代、市はクロヴィス1世の王国分割に伴って生まれたオルレアン王国の首都であった。カペー朝の元では王家の占有財産としてオルレアン伯、次いでオルレアン公領の首都となった。ヴァロワ家の分枝であるヴァロワ＝オルレアン家からはルイ12世、ついでフランソワ1世がフランス王位を継承している。ランスで聖別を行うのが常であったフランス君主が、オルレアンで聖別を行った希な例がある。1108年、ルイ6世はオルレアン大聖堂でサンス大司教ダンペールによって聖別を受けた。
③1428年9月のオルレアン。オルレアン包圍戦の最中であるオルレアンは常にロワール流域の戦略的要所であった。川が最も北側に曲がる地点で、パリに近接していたからである。ロワール川は危険な川であり、橋はわずかしかなかった。そのひとつがあったため、オルレアンはパリ、ルーアンとともに中世フランスでもっとも豊かな都市となった。南岸にあるトゥーレル要塞は、敵が橋に近づくのを防いでいた。この場所は、1429年5月8日にオルレアン包圍戦の際、王家の将軍ジャン・ド・デュノワとフロラン・イリエールの助けを得てジャンヌ・ダルクがオルレアンに入り、この町を解放した場所である。オルレアン市民はジャンヌ・ダルクを『オルレ안의乙女』（"la pucelle d'Orleans"）と呼び、市内に中程度の家を提供した。市民はジャンヌが捕らえられた時には身代金を寄付している（この身代金はフランス王シャルル7世が没収したため、ジャンヌは釈放されなかった）。オルレアン市民は今日までジャンヌ・ダルクに対し誠意と謝意を待ち続けている。

NO : 2111 **カーン** ・・ 年****フランス共和国（Chateau de Caen ,Caen）



①中世からの歴史を持ち、ノルマン公・征服王ウィリアム1世の建てた城、修道院、教会などの歴史的建造物で知られる。1060年頃に建てられたカーン城は、西ヨーロッパでも最大級の中世城砦である。またウィリアム1世はいとこフランドルのマティルダとの結婚を改悛するため、街にふたつの修道院を建設させた。1063年に完成された男子修道院は聖エティエンヌ（ステファノ）に、1060年に完成された女子修道院は聖ジルに献堂された。両修道院は後に廃止され、建物は現在はそれぞれ、市庁舎と地域圏議会議事堂として使用されている。

NO : 2112 **カオール**☆ ・・ 年****フランス共和国（Cahors）



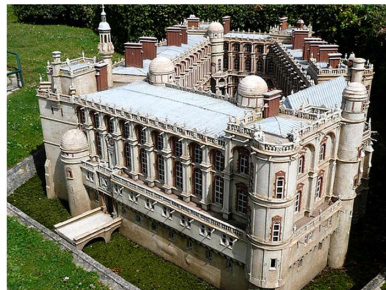
①カオールはケルト時代からの長い歴史を持つ。しかし、経済的に中世以降は衰退してしまい、18世紀には大学も失った。今日は、中世の街並みを目的に来る人の、人気のある観光拠点となった。中世、カオールは有名であった。百年戦争からユグノー戦争の間にかかなりの騒乱があった。この時期、貸したお金に利息を取る銀行家が存在したこと、街は悪名高かった。この時期のカトリック教会は、利息を取ること自体が“高利”の罪であると述べていた。カオールが罪の同義語となり、ダンテの「神曲」にも、「ソドムが邪悪である」と並行して記述されている。

NO : 2113 **コンカルノー** 城郭（要塞）・・ 年****フランス共和国（Ville Close,Concarneau）



①コンカルノーが初めて歴史に登場したのは、ランデヴネック修道院（fr:Abbaye de Landevennec）の特許状台帳に記載された時である。1680年から、ヴォーバンがコンカルノーを訪れ、防衛設備改善によるいくつかの事業を指揮した。1694年にこれらの作業は全て終了し、同年の6月7日にヴォーバンが視察にやってきた。
②コンカルノー市街は、沖合の小島につくられた、要塞に囲まれた閉ざされた都市周囲で発展し、港に面し、長く漁業（特にマグロ漁）を主幹産業としてきた。現在のコンカルノーでは、観光と造船業が重要な経済活動となっている。

NO : 1058 **サン・ジェルマン・アン・レー** ・・ 年****フランス共和国（Saint-Germain-en-Laye,Yvelines）



①1124年、ルイ6世によって最初の城塞（16世紀以降の名称：シャトー・ヴィュー[chateau vieux、意：古城]）が築かれた。16世紀には、アンリ2世によってシャトー・ヌフ(chateau neuf、意：新城)が建造され、以後、1689年に当時の国王ルイ14世がヴェルサイユに移り住むまで、王の居城であった。

NO : 1059 **サン・マロ** ・・ 年****フランス共和国（Saint-Malo）



①サン・マロは、中世にはランス川河口の要塞化された島で、河口だけでなくその向こうに広がる公海を統御していた。今ではサン・セルヴァン（Saint-Servan）地区となっている現在の中心地の南方、Aleth岬の岬はローマ時代以前からランスへ接近するものを見下ろしていた。しかし、現代のサン・マロは、6世紀初期に聖アロンと聖ブレンダンによって設立された修道士の居住地にその起源を遡る。その名前は、ブレンダンの弟子だったと言われる聖マロに由来する。
②サン・マロは、その後、誰の命令にも服さない、凶暴な海賊の根城として悪名高くなった。1590年から4年間、サン・マロは、「フランス人でもなく、ブルターニュ人でもなく、サン＝マロ人だ」というモットーを掲げて、独立共和国であるとの宣言をえた。サン・マロの海賊・私掠船「コルセール」は、英仏海峡を通るイギリス船に通行料を課しただけでなく、さらに広い範囲から富を持ち帰った。

NO : 2114 サント・マリー・ド・ラ・メール ・ ・ 年****フランス共和国 (Saintes-Maries-de-la-Mer)

WWW.LIVREOCCASTON.COM



①ナザレのイエスが磔刑に処せられた後、マグダラのマリア、マリア・サロメ、マリア・ヤコベ、従者のサラ、マルタ、ラザロたちが、エルサレムから小舟で逃れてこの地へと流れ着いた。彼女たちのうち、マリア・ヤコベとマリア・サロメの2人とこれに従うサラがこの地に残った。これがこの市の名の由来であるとされる（このため、市名は「海の2人の聖女マリア」などのように訳されることもある）。ちなみに、伝説では、マグダラのマリアはサント＝ボーム山塊へ、マルタはタラスコンへ赴いたとされており、それぞれの地には彼女たちにちなんだ伝説が残っている。

NO : 1060 シャンティイ 宮殿・平城・宮殿(庭園式) 1528年****フランス共和国 (Chateau de Chantilly,)



①中世にはここにブッティエ家の城があり、1386年にはそれが時の大法官オルジェモン家の城となった。1450年以来オルジェモンの娘と結婚したモンモランシー男爵の居城とされたが、1528年、建築家ピエール・サンビジュによって城塞風な城館からルネッサンス風な居館に改築された。
②ルイ14世によってこの城を所望された老コンデが「門番として残してくれるなら譲りましょう」といったという逸話が残っているほど魅力ある名城である。
③パリ近郊、オアズ川支流のノネット川の谷間にあるシャンティイは森と競馬で有名な町である。

NO : 1061 ショウモン★ 宮殿・平城・ロワール川 1560年****フランス共和国 (Chateau de Chaumont,)



①11世紀に始まり、ブロワ伯爵のユーデス2世によって建てられた。現在の城は16世紀になってアンボワーズ家のシャルル1世とその息子シャルル二世によって再建されたもので、丘の中に中世風のスタイルを見せけているが、実戦用の武備は単に建物の装飾としてつけられているだけの居館である。
②1560年、城はカトリヌ・ド・メディシスの資産となり、彼女はここに多数の占星術者を滞在させた。なお、占星術師ノストラダムスがこの城でカトリヌに未来の情景を映し出す鏡を見せて、ヴァロワ朝の終焉が近いことを知らせたというエピソードは有名であるが、ノストラダムスがショモン城に滞在したことは確認されていない。

NO : 2115 セラン ・ ・ 年****フランス共和国 (Chateau de Serrant, Saint-Georges-sur-Loire)



① ロワール地方、城とワインで有名なアンジェの町から西に約20キロ、ロワール川とロワール川の合流点から少し下ったところにセランの城がある。 静かな濠と森にかこまれた城は、大きな二つの円塔にはさまれた居館であり、その壁面は白と茶色の石で構成され、二つの色のコントラストが基調となってこの城に優雅な独特の雰囲気をもたしている。 建物は16世紀から17世紀、18世紀と建築をつづけてきてきたにもかかわらず、周囲の風景とは見事に調和を見せている。 城館の内部の部屋には、家具、調度品、美術品がそろっており、シーズン中は観光客に公開されている。 この城の豪華な賓客用の部屋は、かつてルイ14世やナポレオン1世がここを訪れた際に使用したものであり、歴史の流れを感じさせる。 濠の水に映る姿がこの城の特色がある。 ロワールの城の観光コースから少しはなれているため、訪れる人も多くないが、見たい城の一つである。

NO : 1062 ソミュール 宮殿・平山城・宮殿 1621年****フランス共和国 (Chateau de Saumur,)



①1200年代フランス王フィリップ2世の所領に築かれ、1410年ベリー公爵によって改修された。ナポレオン時代牢獄として使われた。
②The chateau at SaumurIn the early part of the 1200s, Philip II of France made Saumur part of his royal domain. The page for September in the Tres Riches Heures du Duc de Berry depicts the Chateau as it looked in 1410. It changed hands several times until 1589 when the Protestant King Henri IV (of France and Navarre) gave the castle to Duplessis-Mornay. In 1621 the castle was converted into an army barracks. Nearly two centuries later it was converted into a state prison under Napoleon Bonaparte.

NO : 2116 バル ・ ・ 年****フランス共和国 (Chateau de Val, Lanobre, Cantal)



① フランスの中部高原地方にクレルモン・フェランの町がある。ドルドーニュ川はこの辺りに端を発し、流域には多くの城があるが、それらはロワール流域の城のように王城・宮殿ではなく、地方貴族のものであり、公開されていないものもある関係で、華やかな脚光を浴びた城はさほど多くはない。 バルの城は、クレルモン・フェランの町から西に80キロほどの湖水地帯の中にある。この湖水はドルドーニュ川をダムでせきとめた人造湖だが、城はかつて川辺にあったものが、今は湖の中の小島に孤立した形になっている。湖岸から堤防によって結ばれて水の中にある姿はスイスの名城シヨンにも似ている。修理はされているが、15世紀以来のオリジナルな城館で、小尖塔の林立する構造はヨーロッパの城の一つの典型的なパターンを示している。城内も中世来の古い作りが残されており、ルネッサンス風暖炉や調度が目につく。 近年、この城のそばにヨットハーバーができて観光地として知られる。
②This fairy-tale castle dates from the 15th century and is located in the 'Parc des Volcans' region of Auvergne in south-central France, next to (and surrounded by, for it is on an island) an attractive lake. But the castle once stood on a hilltop, with fine views across the valley below! It was between 1942 and 1952 that the dam of Bort-les-Orgues was constructed, and the valley filled with water.

NO : 1063 **ピエルフオン** 城郭（城塞）・平城・ドンジョン型 1392年***フランス共和国 (Chateau de Pierrefonds ,Pierrefonds)



① バリから北に約80キロ、森の中の小村にピエルフオンの城がある。1世紀のころからここには城塞があったが、歴史的に著名になるのは14世紀の終りごろシャルル6世の時に、弟ルイ・ドルレアンがパロワ伯爵領であったこの地方とピエルフオンの領主となったところである。その後16世紀の終りに、アンリ4世の寵妃で1世の才媛といわれるガブリエル・ディストレの父親アントワヌ・ディストレに与えられ、ついでその息子フランソワ・ディストレが城主になったが、王に叛逆して滅亡したため城も荒廃した。

② 1813年、ナポレオン1世がこの城を買いとり、1857年になってナポレオン3世当時高名な建築家ヴィクトール・デュックに依頼して再建させた。デュックは完全に中世城塞スタイルの復元を意図したため、完成した時の評判は芳しくなかったが、現在では中世城館の典型として貴重な存在となっている。また、この城は中世のスタイルをよく再現しているため、かつて映画『青ひげ』のモデルとして使われた。

NO : 1064 **フォル・ラ・ラッテ** ・ ・ 年***フランス共和国 (Fort La Latte?, Cap Frehel)



① ブルターニュ海岸のサン。マロは、モン・サン・ミッシェルから約60キロ西にある古くからの港町である。かつては海賊たちが集まる港で、ひとかせぎして来た海賊の休憩地だったという。ここからさらに東へ約50キロ、フレール岬に近くフォル・ラ・ラッテの城がある。

②現在の城は13世紀ころにはじまり、17世紀ころまでにつくられたもので、岩だらけの海岸の岬の先端を利用し、地の利を生かした中世風の頑強な要塞で、海陸からの攻撃に対する防御が考えられている。いかにも実戦的な要塞であるが、城の形もよく、景色の美しさ、とくに海の色の美しさは定評がある。かつてアメリカ映画「バイキング」の撮影にも使われている。ヨーロッパにおける海岸の城として代表的なもので、現在は個人所有で、持主はパリに住んでいるが、城は訪れる人のために公開されている。 占交通の便はよくないが、機・会が山めれば訪ねたい城である。

③This impressive castle was built on a small piece of land at the Baie de la Fresnaye in the 13th century. Various films have been shot at this site, including The Vikings (1958 by Richard Fleischer) with Kirk Douglas and Tony Curtis. It is also featured in the french band Manau videoclip La Tribu de Dana.

NO : 1065 **フォンテンブロー宮殿**★ 宮殿・平城・宮殿(庭園式) 17世紀***フランス共和国 (Palais de Fontainebleau,)



①フランスで最も大きな宮殿。フォンテーヌブロー城 (Chateau de Fontainebleau) とも呼ばれる。宮殿の現在の姿は多くのフランス王による築城の結実であり、基本的な建築構造は17世紀フランス王1世による。建物は中庭を囲むように広がり、フォンテーヌブローの街がかつての王の狩猟場

(フォンテーヌブローの森)跡を取り囲むように発展している。

NO : 2117 **ブリザック** ・ ・ 年***フランス共和国 (Chateau de Brissac, BRISSAC-QUINCE)



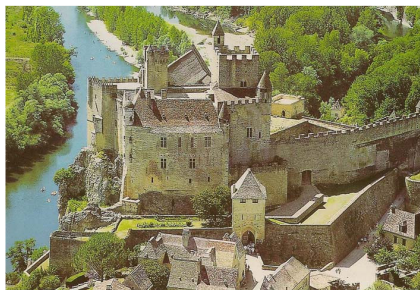
① シノンの西、ヴィエンヌ川とロワール川が合流する地点からさらに10キロほど本流を下った所に古都ソーミュールがある。バルザックの『ウジェーヌ・グランデ』の舞台としても知られるところで、城は町とロワール川をのぞむ丘の上に築かれている。 10世紀にブロワとトゥレーヌの伯爵であったティボーがここに要塞を築き、12世紀末にはフィリップ・オーギュストの居城となった。現在の城は14世紀後半にベリー公爵によって再建されたものである。 実戦用の城塞でありながら、胸壁にはレリーフが彫られ、複雑な形の屋根をもち、再建当時とリつけられていたという金箔の風見鶏など、その壮麗さが人々を驚かせ、『城塞化された宮殿』と呼ばれた。 1940年、第二次大戦によるドイツ軍の砲撃により、72発の砲弾を受け損害をこうむったが、現在では完全に修復されて一般に公開されている。城内には宗教画をはじめ、家具、調度、そして馬具のコレクションが有名である。

NO : 2118 **プレシー・ブーレ** ・ ・ 年***フランス共和国 (Chateau du Plessis-Bourre, Angers)



① ロワール川の一つの中心でもあるアンジェの町から北に約20キロ、静かな田園の中にプレシー・ブーレの城がある。 1468年、ルイ11世の財務百であったジャン・ブーレは自分の居城としてこの地に城を築いた。住いのための居城ではあったが、防備は考えられ、ブーレは塔や外壁の様式に、ロワール川流域でも戦闘城塞の外観を残すランジェの城の構想をとり入れたといわれる。 城は中世風とはいいながらランジェの城とは構築の目的も、城のある地形も異なるので、プレシーの城は正面城門、はね橋などに城塞的な要素を見せながらも、住居的な居館となっている。 ロワールの流れから少し離れているために、観光客の訪ねる人も多くはないが、城館をとり囲む濠の美しい水面にその姿を映すたずまひは古城の雅をよく現している。シーズン中はその一部分が公開されている。 ロワール地方にある貴族の城の代表的なものである。

NO : 1066 **ペイナック** 城郭（城塞）・平山城・ドンジョン型 1485年***フランス共和国 (Chateau feudal de Beynac, Beynac-et-Cazenac)



①11世紀のCount of Blois用の拠点であり、最初の城塞はアンドル川を見下ろすシノンの森の端にある高い台地に建てられた。その後、1485年から1535年にかけて現在の城が建造された。

②シャルル・ペローはユッセ城で『眠れる森の美女』の作品を書いた。ユッセ城がお姫様が目覚めたお城のモデルである。

NO : 2119 ベニヤック ・ ・ 年****フランス共和国 (Chateau de Beynac, Beynac-et-Cazenac)



① フランスの西南部、ドルドーニュの渓谷には古城、城館が多い。ポルドーから東に約180キロのところにあるベニヤックもまたドルドーニュ的な景観を見せる城である。ここには古代から原住民の砦があったと伝えられるが、12世紀にこの地方がイングランド領であったころ、イングランドのリチャード獅子心王がここに城塞を築いた。城はドルドーニュ川に面する切り立ったような300メートルの崖の上につくられ、当時、ドルドーニュ渓谷のもっとも頑強な城塞であった。この地方がフランス領になると、この地方の領主の居城となり、建物の一部は改築されたが、城壁は黄土色の石をもって組まれ、建物の様式にはたとえば塔などにサラセン風の胸壁、狭間なども見られ、外観にはリチャード1世当時の面影をしのぼせるところがある。現在はシーズン中城内は観光客のために公開されている。ドルドーニュ渓谷の崖に建つ城は戦術的城塞の特色をよく現わしていて、ドルドーニュの旅の異観である。

NO : 2120 ポリグニャック ・ ・ 年****フランス共和国 (Forteresse de Polignac, Polignac, Haute-Loire)



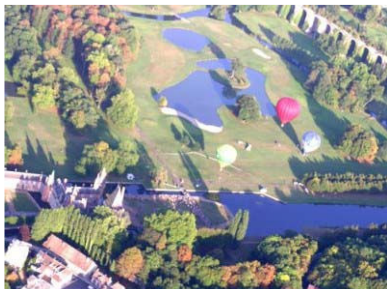
① リヨンの町から西南に約125キロ、オーベルニュの高原地帯の山間にル・ピュイの町がある。スイスのシオンの町に似て、町の中央に二つのけわしい小山があり、城と教会が山頂に建てられている。このル・ピュイの町のすぐ北にポリグニャックの城がある。巨大なテーブルのような台地の上につくられた、山上都市城塞であって、建物の一部が現在も残っている。かつては、この台地上に寺院があったというが、13世紀に城塞がつくられ、オ1ベルニュー地方でも堅固な城の一つに数えられていた。現在、城跡は廃墟になっているが、巨大なドンジョン(塔)は昔目の姿に復元されて、…数十キロ離れた先からものぞむことができる。オーベルニュー地方はその地勢の変化が激しく、ポリグニャックの台地もその典型の一つなのだが、その姿は異色があり、遠くから眺めた台地上の城の姿もフランスでは珍しくユニークだが、城内からの周囲に広がる高原の眺望もまた壮観である。

NO : 2121 マン ・ ・ 年****フランス共和国 (Le Mans)



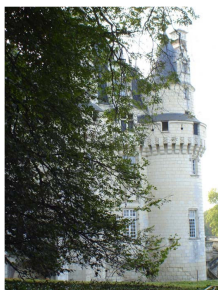
①トゥールのグレゴリウスは、フランク族の副王リゴメルが、フランク族領の統合のため遠征したクロヴィス1世によって殺害されたと記載を残している。キリスト教化はフランク王国の時代に行われた。865年、町はヴァイキングの襲撃を受けた。
②16世紀のル・マンメヌ第一の都市として、ル・マンは11世紀にはアンジュー伯とノルマンディー公の抗争の舞台となった。ノルマンディー公がメヌヌを手中に収めると、ギヨーム公(のちのイングランド王ウィリアム1世)は、イングランドへ侵攻し成功した。しかし、1069年に市民の反乱が起こりノルマン人が追放され、エステ辺境伯アルベルト・アッツォ2世・デステの子ユグが、メヌヌ伯ユグ5世を自称した。事実上のメヌヌ伯位を持つのはイングランド王であったが、長年敵対してきたアンジュー伯家がイングランド王家と縁戚関係を結んだことで、フルク・ダンジューがメヌヌ伯となった。ヘンリー2世とその王子たちとの内戦時代に、ル・マンは攻撃され火を放たれた。

NO : 2122 マントノン ・ ・ 年****フランス共和国 (Chateau de Maintenon ,)



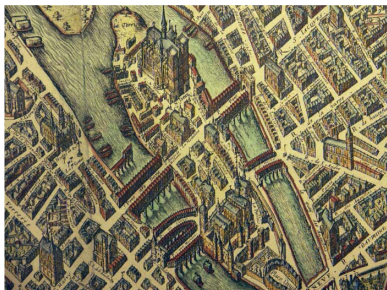
①The construction of the chateau began in the 12th and ended roughly in the 18th century. In the early 16th century it was purchased by Louis XII's treasurer Jean Cottereau, who transformed the chateau-fort into a country house. In the 17th century it was rebuilt for Madame de Maintenon, who purchased the estate in 1675.
②The chateau's main features are the keep, constructed in the 13th century, and the principal corps de logis, flanked by two round towers, one at the avant-cour and the other at the bridge across the moat. The south and west wings frame a cour d'honneur, beyond which is the moat filled by the waters of the Eure, and, beyond, the parterre and park. The picturesque massing of the varied towers and roofs pleased Francois-Rene de Chateaubriand who found its special character was like that of an abbey or an old town, "with its spires and steeples, grouped at hap-hazard

NO : 1067 ユセ☆ 宮殿・平城・ロワール川 1535年****フランス共和国 (Chateau d'Usse,)



①11世紀のプロア伯用の拠点であり、最初の城塞はアンドル川を見下ろすシノンの森の端にある高い台地に建てられた。その後、1485年から1535年にかけて現在の城が建造された。
②シャルル・ペローはユッセ城で『眠れる森の美女』の作品を書いた。ユッセ城がお姫様が目覚めたお城のモデルである。

NO : 2123 ラ・シテ ・ ・ 年****フランス共和国 (Ile de la Cite)

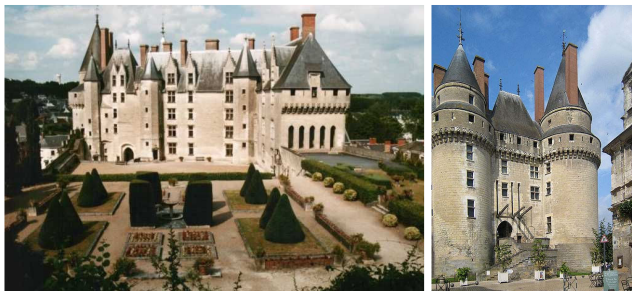


NO : 1068 ラ・ロッシュ・コルボン 城郭（城塞）・平城・ロワール川 17世紀****フランス共和国 (Chateau de Loches, Indre-et-Loire)



① フランス南西部、ポルドーの北約130キロのところにラ・ロッシュ・コルボンの城がある。15世紀の終りころ、この地方の領主シュヌボーによって城塞としてつくられた城は17世紀になってルイ12世の所有となった。建物はルネッサンス風に改築され、広大な庭園がつけ加えられた。この美しい城はルイ13世のお気に入りの城だったが、城内の花の咲き乱れる庭園、そして広い池には舟も浮べられ、園遊の舞台となった。
②ピエール・ロチがこの城を訪ねて、こここそ『眠れる森の美女』のモデルにふさわしいといったというほどの城だが、交通の便の関係でこの城を見物する観光客は多くない。しかし、シーズン中には曜日と時間を限って屠館の一部を公開しているし、広い庭園はいつでも見物することができる。パリからポルドーに行く途中、またはコニャックを訪れたとき足を伸ばしてぜひ見たい城である。また、外観のみでなく、室内の家具、調度、美術品の類も一見の価値がある。

NO : 1069 ランジェ 城郭（城塞）・平山城・ドンジョン型 1465年****フランス共和国 (Chateau de Langeais ,)



①10世紀末になって、アンジェ伯フルク・ネラが城塞をつくった。
②1465年から69年にかけて、ルイ11世の命でジャン・ブーレが新たにさらに実戦的な城塞を築いた。これが現在の城である。

NO : 2124 ルールド ・ ・ 年****フランス共和国 (, Lourdes)



①「ルルドの泉」で知られ、カトリック教会の巡礼地ともなっている。
②1858年2月11日、村の14歳の少女ベルナデッタ・スビルー（ベルナデットとも）が郊外のマッサビエルの洞窟のそばで薪拾いをしているとき、初めて聖母マリアが出現したといわれている。ベルナデッタは当初、自分の前に現れた若い婦人を「あれ」と呼び、聖母とは思っていなかった。しかし出現の噂が広まるにつれ、その姿かたちから聖母であると囁かれ始める。
③彼女自身は、気管支喘息の持病があったが一度もルルドの泉に行くことはなく、より遠方の湯治場へ通っていた。1879年、肺結核により35歳で帰天（病没）し、1933年に列聖されている。また、彼女が見た「聖母」は、ルルドの泉に関して次のような発言をしている。「聖母」はまずベルナデッタに「泉に行つて水を飲んで顔を洗いなさい」と言った。近くには水は無かったため、ベルナデッタは近くの川へ行くとしたが、「聖母」が「洞窟の岩の下の方へ行くように指差した」ところ、泥水が少し湧いてきており、次第にそれは清水になって飲めるようになった。

NO : 2125 ロデーズ ・ ・ 年****フランス共和国 (, Rodez)



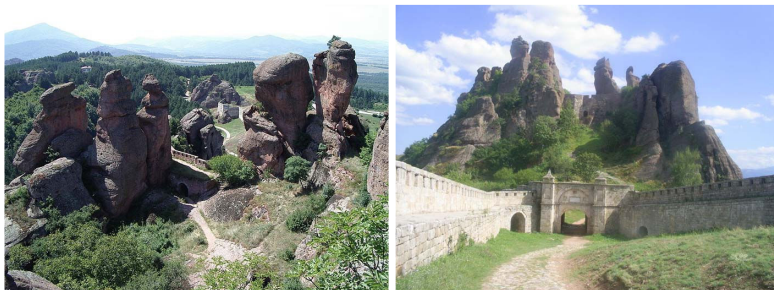
①Existing from at least the 5th century BC, Rodez was founded by the Celts. After the Roman occupation, the oppidum (fortified place) was renamed Segodunum, while in late Imperial times it was known as Civitas Rutenorum, whence the modern name. After the fall of the Western Roman Empire, it was captured by the Visigoths and then by the Franks, being also ravaged by the Arabs in 725. Later it was occupied by the armies of the Dukes of Aquitaine and of the Counts of Toulouse. English troops occupied Rodez during the Hundred Years War.
②However, in medieval times the city's history was marked by strong rivalry between the Counts and the Bishops of Rodez, who exerted their authorities in different sectors of the city, divided by a wall. The counts were able to defy the royal French authority until the submission of count John IV by the future King Louis XI in the 15th century. In the following century bishop Francois d'Estaing built the Rodez Cathedral.

NO : 2126 プリスカ ・ ・ 年****ブルガリア共和国 (, Pliska)



①Pliska was the capital of Bulgaria between 681 and 893 AD. According to a Bulgarian chronicle, it was founded by Khan Asparukh. It is called Pliskusa by Georgios Kedrenos and Anna Comnena. It had an area of 23 km² and was surrounded by a moat and earthwork ramparts. The walls of the inner fortress were 2.6 meters thick and about 12 meters high. Pliska was sacked by the Byzantine army in 811, but the invaders were soon driven out by Khan Krum (see Battle of Pliska). Khan Asparukh brought in artisans and craftsmen to improve the city. In 886, Boris I founded the Pliska Literary School (after 893 Preslav Literary School), which was headed by Naum of Preslav.
②In 892, the city became the scene of a pagan revolt led by King Vladimir. After the crushing of the revolt, Vladimir was dethroned and the third son of Boris I, Simeon, was installed into power. One of the first steps of the new ruler was to move the capital to Preslav, a fortified town in the vicinity of Pliska, probably because of the steadily strong pagan influence in the old capital. The importance of Pliska gradually waned throughout the 10th century with the concentration of power and resources in Preslav. The city was destroyed during the assaults of the Kievan Rus' and the Byzantine Empire between 969 and 972 and was not rebuilt again.

NO : 1070 ベログラドツク 城郭（城塞）・山城・東欧の山城 1837年****ブルガリア共和国 (, Belogradchik)



①1837年、サルタン・マハムト二世によってつくられた。当時、ブルガリアはトルコの支配下にあったため、この城塞の構築もブルガリア人の強制労働によったという。
②要塞は天然の岩の要害を利用し、山の中央高台を中心として多くの眺望を構築し、ふもとの周囲に頑強な城壁をめぐらした、一つの山全体にそのまま城塞の機能を持たせる構想になっている。かつてのギリシャのアクロポリスのように、自然と人力を結合させた城塞であり、東ヨーロッパの近世城郭史上特異なものである。
③ベログラトツクは「小さな白い町」を意味し、バルカン山脈のふもとの丘陵地帯にあり、セルビア国境のすぐ東、ドナウ川から50キロメートル程度のところに位置している。町は不思議な形をした奇岩・ベログラトツク岩で知られる。岩は範囲90平方キロメートルにわたって広がり、最も高いところで200メートル程の高さを持っている。

NO : 1071 ヴェーヴ 城郭（城塞）・平城・小奇麗な城 1793年****ベルギー王国（chateau de Veves,）



①7世紀後半にはビピン2世が、セルのサン・アドラン修道院と良好な関係を築くために、館を築いていた。
②この要塞は1200年に壊されたが、1220年にボフォール家によって再建され、城はより強大なものとなる。15世紀には、ディナンの市民によって破壊されるが、すぐに復旧された。しかし、1793年にフランス革命派の人間によって再び被害を受けてしまう。

NO : 2127 ガースベーク ・ ・ 年****ベルギー王国（Kasteel Gaasbeek, Lennik）



①The fortified castle was erected around 1240 to defend the Duchy of Brabant against the County of Flanders. The castle was destroyed however by Brussels city troops in revenge for the assassination of Everard 't Serclaes, which was commanded by the Lord of Gaasbeek.
②At the beginning of the 16th century the Horne family constructed a brick castle on the ruins of the medieval fortress. In 1565 Lamoral, Count of Egmont, acquired the castle and its domain, including feudal rights in 17 surrounding villages. Accused of high treason by Philip II of Spain, the Count of Egmont was beheaded three years later.

NO : 1072 クリュベ 宮殿・平城・小奇麗な城 13世紀****ベルギー王国（chateau des Carondelet , crupet）



①13th Century Castle of Crupet
②クルベ川の水をひいた小さな沼のような濠に、四角形の城館がその姿を映しているが、14世紀にはじまる建物はこの地方の小領主の居館としてつくられ、17世紀に改築された。 近くにあるスポンタンの城がいかに美しい城館づくりであるのに比べて、クルベ一城の戦いのための備えはさほど強固ではない。しかし、水中に孤立した建物は、平凡な構造の割合には個性的なスタイルを見せて、側面の城塔や城門とは統一された調和を見せてくれる。

NO : 2128 ステン ・ ・ 年****ベルギー王国（Het Steen, Antwerp）



①The castle made it possible to control the access to the Schelde, the river that flows through Antwerp. It was also used as a prison between 1303 and 1827. This was not the noblest time of existence of the Steen Castle. Captivity itself was not punishment – the prison was where you awaited your sentence. Very popular punishment available was: chopping of hands, heads and/or burning and quartering. The prison's regime was not a very honest one. The rich were lodged in the right wing and the poor in the left wing of the castle.
②Part of the castle was later demolished to make the roads to connect the south and the north part of the port. The remaining building contains a shipping museum, with outside on displayed on the quay, some real old canal barges.

NO : 1073 ナミュール城塞 城郭（城塞）・平山城・実践的な砦 1692年****ベルギー王国（, Namur）



①町はアルデンスを横切る東西、南北の交易ルートの中継地として、ケルト時代から人が定住していた。古代ローマ人も、ユリウス・カエサルが地元のアドゥアトウキ族を打ち負かした後に定住した。ナミュールは中世初期に、2本の川が交わる場所の、町を見下ろす岩の懸崖上にメロヴィング朝の城が築かれてから有名になった。10世紀に、町単体として県となった。ナミュール伯がムーズ川北岸にのみ町を建て、南岸はリエージュ枢機卿の所領であったために町はいくぶん揃いに発展した。そしてジャンプの町もさらにゆくりと発展した。1262年、ナミュールはフランドル伯の手に落ち、1421年にブルゴーニュ公フィリップ3世 によって買い上げられた。
②1640年代に入ってナミュールはスペイン領ネーデルラントの一部となり、城塞が強化された。フランス王ルイ14世は1692年に侵入し町を攻略、フランスへ併合した。彼の軍事技術者ヴォーバンが要塞を再建した。フランス支配は短期で終わり、それからわずか3年後の1695年に大同盟戦争の最中にオラニエ公ヴィレム（のちのイングランド王ウィリアム3世）によって奪われた。1715年のユトレヒト条約以前の、1709年の和平でオランダはナミュールの要塞権を獲得した。しかし町を支配したのはオーストリアのハプスブルク家で、要塞はオランダ管理下にあった。彼らの共同保有の元再び再建がされた。
③第一次世界大戦中の1914年、フランスへ至るルートとしてムーズ谷を通過できるナミュールはベルギーへ侵攻したドイツ軍の標的であった。事実上難攻不落であるといわれていたにもかかわらず、わずか3日で要塞は陥落し町はドイツ軍に占領された。それでも第二次世界大戦中の方よりまだましであった。1940年のアルデンヌの戦い、1944年のバルジの戦いでは前線地帯となった。町はどちらの戦闘でもひどい被害を受けた。1977年まで、ナミュールはベルギー軍落下傘部隊の本拠地であった。

NO : 1074 ビヤゼル(バーゼル) ・ ・ 年****ベルギー王国（Kasteel Beersel,）



① 12世紀ごろ、ブリュッセル防備のための出城としてつくられた。ベルギーの城特有の型の三つの塔とそれをつなぐ城壁からなる戦術的な中世の城塞である。 中世期にこの地方はまだ一つの独立国を形づくっておらず、諸侯領であったり、スペインそのほかの国に属していた。1489年、オーストリアのマクシミリアンに属していたビヤゼルの城主アンリ・ド・ウィットেমはブリュッセル市民の反乱を受け、ビヤゼルの城も市民の二度にわたる激しい攻撃で陥落、城の守備隊長は絞首刑に処せられ、城も壊された。反乱はマクシミリアンの援軍によって鎮圧されたが、マクシミリアンは市民に償いとして城の再建を厳命した。
②17世紀以降にはビヤゼルの城はアランベルクの皇子達の所有となった。のちにビクトル・ユーゴ1がこの城を訪れて1文を草している。静かな森に囲まれて、小さな濠の中に古色蒼然とたたずむ姿はいまだに中世の雰囲気を保っている。夏のシーズンには城の中庭でシェクスピアの劇が上演される。

NO : 2129 ブルッヘ (ブリュージュ) ・ ・ 年****ベルギー王国 (Brugge)



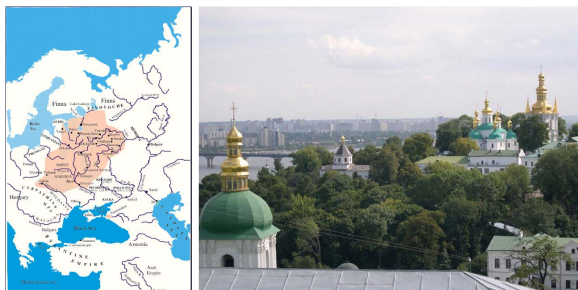
①9世紀、初代フランドル伯のボードゥアン1世によって建てられた城塞が街の起源とされる。3代アルヌルフ1世の時代に、シント・ドナティアン教会やシント・サルヴァートル教会が建てられ、城塞も強化された。
②ブルッヘは北海に出る玄関口として格好な場所となり、イギリスや北欧と内陸を結ぶ交易は、13世紀になるとハンザ同盟の在外商館がおかれたほか、1277年にジェノヴァ商人が大西洋沿岸を経由してズウィン湾にまで訪れるようになり、金融・貿易の一大拠点として繁栄した。

NO : 2130 ルーヴェン ・ ・ 年****ベルギー王国 (Louvain)



① 891年、西ローマ皇帝アルヌルフがヴァイキング軍を打ち破ったとき、Loven として言及されたのにはじまる。伝説によればその赤、白、赤の紋章は、戦闘後の血に染まったデイレ川の岸辺を描いたものだという。デイレ河畔にあり又ブラバント公の要塞への近さのために、11世紀から14世紀にかけて、ルーヴェンは公領における商業の最も重要な拠点となった。織物生産の拠点としての以前の都市の重要性の一端は、14-15世紀の文章で Lewyn (外には: Leuwyn, Levyne, Lewan(e), Lovanium, Louvain) として知られる典型的なルーヴェンのリネンによく反映されている。15世紀、低地地方で最も大きく且つ最も古い大学の創設と共に新しい黄金時代が創められた。1425年創立のルーヴェン・カトリック大学 (Katholieke Universiteit Leuven, K. U. ルーヴェン) である。

NO : 2131 キエフ ・ ・ 年****ポーランド共和国 (Kievan Rus')



①キエフ大公国(キエフたいこうこく)は、9世紀後半から1240年にかけてキエフを首都とした東欧の国家である。正式な国号はルーシ(古ルーシ語: Рѹсь)で、日本語名はその大公座の置かれたキエフに由来する。
②ルーシ族と呼ばれる北欧系のヴァイキングによって建国され、リュリク朝によって統治された。10世紀までに同地の東スラヴ人との混血によってスラヴ化し、キリスト教の受容によってキリスト教文化圏の1国となった。11世紀には中世ヨーロッパの最も発展した国の一つであったが、12世紀以降は大公朝の内訌と隣国の圧迫によって衰退した。1240年、モンゴル来襲によってキエフは落城し、事実上崩壊した。国民国家史観を中心とした研究史においては、ウクライナ、ベラルーシ、ロシアの3国の共通の祖国とされる。

NO : 1075 クラクフ・ヴァヴェル★ 城郭(城館・ピアスト朝)・平城・東欧の城郭 1205年****ポーランド共和国 (Zamek królewski na Wawelu, Krakow)



①13世紀にはモンゴルの侵入を受け、破壊、略奪を受けたが、1205年には復興されそれ以降1596年にワルシャワに移されるまでポーランドの首都であった。15世紀には町をとり囲む城壁が完成し、当時東ヨーロッパでも堅固な城郭都市の一つとして知られていた。
②17世紀前半の30年戦争、18世紀前半の大北方戦争に巻き込まれ国土は荒廃し、クラクフもこの混乱に巻き込まれた。18世紀後半には3度のポーランド分割によって国家自体が消滅し、クラクフはオーストリア領ガリツィアへと組み込まれることになった。
③クラクフの歴史は、ポーランド王国の成立以前にまでさかのぼり、伝承によれば8世紀には成立していたと推測される。10世紀にはイベリアのウマイヤ朝イスラム帝国のユダヤ人記録家イブン・ヤクブがこの地方を訪れ、ボヘミアの版図にある交易都市としてクラクフに言及している。

NO : 2132 アブランテ ・ ・ 年****ポルトガル共和国 (Castelo de Abrantes, Abrantes)



①It is believed that the city was originally established during the Celtic period as an Iberian settlement, about 300 B.C., although the name Abrantes comes from the Latin Aurantes perhaps owing to the alluvial gold (aurum) found along the Tagus. Roman mosaics, coins, the remains of an aqueduct, and other antiquities have been discovered in the neighborhood.

②Since 1172 (in the reign of Alfonso I), Abrantes was the Spanish military Order of Saint James of Compostela's first commandery in Portugal, where it soon became a distinct order, which Pope Nicholas IV in 1290 released from the jurisdiction of the Spanish grand master in Ucles.

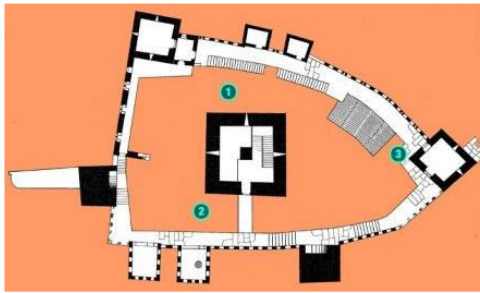
NO : 2133 オーレム ・ ・ 年****ポルトガル共和国 (Castelo de Ourem, Ourem)



① The area was reconquered by Christians in 1136, and the town was donated in 1178 by the first king of Portugal, Afonso Henriques, to his third daughter, Princess Theresa. The princess granted it a letter of feudal rights (foral) in 1180, to promote the settlement and development of the village.

②Castle of Ourem. The two towers flanking the entrance are located in the front right, with the ruins of the large palace of Count Afonso just behind them. The oldest portions of the castle are located in the back left of the image. Under Count Afonso (1402?1460), fourth Count of Ourem, the town flourished. To accommodate his court, Count Afonso remodelled the old-fashioned castle and built a palace inside it following the trends in 15th-century Italian military architecture.

NO : 2134 ギマランイス ・ ・ 年****ポルトガル共和国 (Castelo de Guimaraes, Guimaraes)



①ギマランイスの名前は、868年に最初のポルトゥカーレ伯領を築いたヴィマラ・ペレス伯爵の名前に由来する。1095年、ブルゴーニュ家出身のアンリ・ド・ブルゴーニュ（エンリケ）は、カスティーリャとレオンの王アルフォンソ6世の娘テレサと結婚し、ポルトゥカーレ伯に封じられた。1109年6月25日、エンリケとテレサの息子アフォンソ・エンリケスがギマランイスで生まれた。サン・マヌーデの戦いの後、ポルトガルはカスティーリャ＝レオン王国からの独立を宣言し、後に初代国王アフォンソ1世となる。

NO : 1076 サンチャゴ・ド・カセン 城郭（城塞）・平山城・イベリア半島 15世紀****ポルトガル共和国 (Castelo de Santiago do Cacem, Santiago Do Cacem)



①この地方がかつて地中海諸国の植民地だったところからつくられていた城と神殿の位置に、15世紀になって、城郭都市的な園郭の構造で築かれたものであり、古い城壁で囲まれた城内は一部墓地となり、大部分は畑になっている。このあたりになると、さすがに訪れる観光客も少なく、古城の情趣が偲べるが城は開放され、城壁の周辺は自由に回ることもでき、構造にはアラブ風の城塞のスタイルが残っているが、とくに胸壁や石造の手法にはそれが強く現れている。

② リスボンの対岸セツバルから南へ約90キロ下ったところに、人口7000ほどの小村サンチャゴ・ド・カセンがあり、この村の山上にサンチャゴ・ド・カセンの城がある。城のある丘からは、はるかに大西洋と、その海岸にあるシネス岬、燈台などが遠望できて、ポルトガルのな景観を展開している。

NO : 1077 シルヴェス 城郭（城塞）・平山城・イベリア半島 13世紀****ポルトガル共和国 (, Silves)



①石と赤煉瓦で構築された城塞は13世紀ころにはじまるといわれ、方形の塔、直線的な城壁、その上部の胸壁すべてアラブの築城の手法を示している。現在、町は城門外に新しくつくられているが、その新旧の対照が興味深い。この城は赤い色をしていたので『赤い城』という別名もあった。

②この辺りの海岸は古代のフェニキヤ人による航海時代から開けたところで、シルベスの町はアフリカの北岸からアラブが侵入したところから基地としてはじまった。

NO : 2135 シントラ・モウロス ・ ・ 年****ポルトガル共和国 (Castelo dos Mouros, Sintra)



① リスボンから西へ約30キロ、シントラの町はかつてバイロンがここに住み、この地方の風光を愛して『グロリアス・エデン』と讃えたという。この町をのぞむ高さ560メートルの山上に二つの城がある。一つは王城のペナの城、もう一つはその峰つぎにあるモロの城である。モロはアラブと同意である。モロの城はかつてのアラブ支配時代、アラブ人によってつくられた長城で、山頂を囲むようにめぐらされた石造城壁の大部分が現在もよく残っている。長城は、城壁と、移動のための廻廊、兵士の拠点としての城塔から成り立っており、けわしい峰と峰とを結びながら壘々と続く石の壁である。ところどころに塔があり、要所には兵士の待機のための石造の部屋が設けられている。塔の上に出ると、ペナの城、眼下にシントラの町、そしてかたに大西洋の雄大な風景が一望できる。表城の上は自由に歩くことができる。

NO : 2136 セシンプラ ・ ・ 年****ポルトガル共和国 (Castelo dos Mouros, Sesimbra)



① ポルトガルの中南部、首都リスボンとティジョ川を経た半島には数々の古城がある。エスピセル岬につらなる南岸にセシンプラの町があり、町を見下ろす山上にセシンプラの城跡が残っている。セシンプラの町は人口8000ほどの漁港だが、観光地としても知られる。大西洋に面した漁業の基地だが、いわし漁でも知られている。セシンプラの城は町の北約6キロのところにあり、標高200メートルの急峻な山上には1165年、アラブ風の城塞がつくられた。現在も城壁と城内に小さい教会が残っているが、山上から山腹にかけて曲折する石壁は壮観であり、城の広さは、小さい城郭都市的な構想を持っていて盛時には城内での兵士と家族の生活があったことを思わせる。またここからセシンプラの町と港、大西洋へのぞむながめが美しい。ここはリスボンから古城めぐりの観光バスも出ているが、リスボンの近郊でもあり、セシンプラの観光をかね訪ねたいところである。

NO : 2137 パルメラ ・ ・ 年****ポルトガル共和国 (, Palmela)



① ティジョ川をへだてた、リスボンの対岸の半島で、サド湾にのぞむ漁港セトウバルから北へ10キロほどのところに、丘の上に広がる小さな城郭都市パルメラがある。町に望む丘のいただきに古くからの城があるが、これはもとはアラブ人によって建てられたものである。レイリアの城やオビドスの城と同様に、1世紀なかば、アラブ人の手から奪回されてポルトガル人の手に移ると、いく度かの改築・修築を経て、アラブ風の特徴を減少させていった。そのため現在では、かつてのアラブ風の城塞の面影は少なく、ヨーロッパの塗壁型の実戦的城塞の様式を示しており、その意味でポルトガルの城塞の中でも代表的なものとされている。高くめぐらされた城壁にはたくさんの銃眼が設けられており、ティジョ川とサド川の間の平野を見下ろすようになっている。テラスからのセトウバルと大西洋の眺めは壮大である。パルメラの古城もリスボンからの古城めぐりのコースに入っているから、観光バスで訪ねられる。

NO : 1078 フェイラ 城郭（城塞）・平城・イベリア半島 15世紀****ポルトガル共和国（Castelo de Santa Maria da Feira, Santa Maria da Feira）



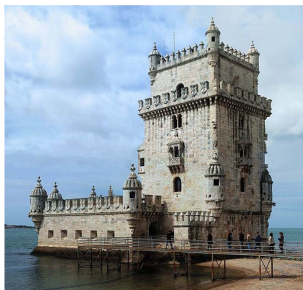
①ここには11世紀から城塞があったが、現在残っているフェイラの城の建物は、15世紀にボアン1世、アルフォンソ5世らによって再建されたものである。この城は独特の石造の手法で構築された興味深いもので、その形態もぎわめてポルトガルの特色の強い変わったものである。その様式は城館としての北ポルトガルの城の類型をギマラッシュの古い城とともに代表していて、ヨーロッパの城の中でも変わったフォルムといえよう。
②South Cadbury

NO : 2138 ベジャール ・・・年****ポルトガル共和国（Castle in Beja, .）



① ポルトガル南部、アレンティジョと呼ばれる地方の中心、ベジャールはローマ時代から開けた古い町で、現在は人口約2万。この町を有名にしているものが三つある。その一つは『ポルトガル・レター』の舞台の町ということ、ヨーロッパの文学に一つのエポックを与えたこの作品は、17世紀のフランス王ルイ14世のポルトガル侵入のとき、ベジャール県の尼僧院の娘がフランス将校との恋を手紙の形式で書いた作品。あとの二つは15世紀の僧院と、12世紀にはじまる城である。町の中央にある城は石造の城壁、その上の回廊、そしてアラブの様式の現れた塔、そのほかの建物などをよく残している。城は公開されているが、この高い塔の長い階段を上って最上層に出れば、城内はもとより、ベジャールの町、その周辺に広がるアレンティジョの平原が一望の内にのぞめる。このベジャールの辺り、交通の関係で訪れる観光客も少ないが、機会があれば行きたいところである。
②The castle on top of the hill can be seen from afar and dominates the town. It was built, together with the town walls, under the reign of king Diniz in the 13th century over the remains of a Roman castellum that had been fortified by the Moors. It consists of battlemented walls with four square corner towers and a central granite and marble keep (Torre de Menagem), with its height of 40 m the highest in Portugal. The top of the keep can be accessed via a spiral staircase. The merlons of the machicolation around the keep are topped with small pyramids.

NO : 1079 ベレムの塔★ 城郭（要塞）・水城・水辺の要塞 16世紀****ポルトガル共和国（Torre de Belem, Lisboa）



①16世紀にマヌエル1世によってヴァスコ・ダ・ガマの世界1周の偉業を記念して作られたテージョ川の船の出入りを監視する目的の要塞である。
②要塞というよりはむしろ河中に建てられた優美な居館のような感じである。長い船旅を終えた水夫たちに、リスボン港の美しい標識として永年親しまれてきたというベレムの塔は、時には白、時にはベージュ色に輝き一見小さくみえる建物であるが、塔の一番上まで上ってみると、この建物の大きさがわかる。建物部分のデザインの美しさは、ヨーロッパの石造建造物の中でも特色がある。
③建築様式はマヌエル様式である。

NO : 2139 ポンバル ・・・年****ポルトガル共和国（, Pombal）



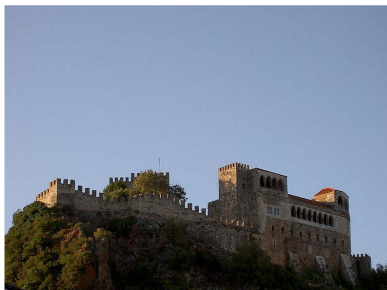
①The castle, which was built originally in 1161 by Gualdim Pais, Grand Master of the Orders of Knights Templars, was modified in the 16th century and restored in 1940.

NO : 1080 モンテモール・オ・ベロー ・・・年****ポルトガル共和国（, Montemor-o-Velho）



①A sua importancia estrategica fez desta vila um polo de atraccao, tendo recebido o primeiro foral em 1212. Montemor foi ainda, durante seculos, terra de infantado, primeiro de D. Sancho e D. Teresa, depois de D. Afonso IV (1322), mas tambem de D. Pedro, Duque de Coimbra (1416). Em 1472, D. Afonso V faz Marques de Montemor-o-Velho D. Joao de Portugal, mais tarde Duque de Braganca.

NO : 1081 レイリア 城郭（城塞）・平山城・イベリア半島 16世紀****ポルトガル共和国（, Leira）



①1135年に初代ポルトガル国王アフォンソ1世が王城を築いた。アラブ風の石造の手法を取り入れた城塞であったが、今の城は16世のものである。
②城はポルトガルの堅城の一つとして保持され修築・補修されながら現在に残った。今の建物はポルトガルの城のなかでもぎわめて特色のあるものの一つである。とくに町に面してつくられた居館の上層部はアラブ風の大きな窓を持つ塔や歩廊が見られる。城壁やその他の塔にはアラブの流れをくむ胸壁がならび、おもしろいコントラストを現している。

NO : 1082 モナコ王城 城郭(城館・モナコ公国)・平山城・小国の城 1228年****モナコ公国 (Monaco)



- ①6世紀にあったボカイア人の入植地。ジェノヴァ共和国は、1228年に今日のモナコを建設した。
- ②1793年にはフランス革命で、革命軍がモナコを占領、公国が再建される1814年までフランス支配が続いた。1861年に、領土の5/6にあたるマントンとロクブリュヌをフランスに売却し、見返りにモナコ公国の主権を回復した。
- ③1956年にはハリウッド女優のグレース・ケリーと結婚、世界中の注目を集める。1962年に新憲法を制定。この憲法で死刑が廃止され、婦人参政権が実現。同時に最高裁判所も誕生した。

NO : 1083 トライカイ島 城郭(城塞)・水城・北欧の城郭 1409年****リトアニア共和国 (Trakai Castle,Vilnius)



- ①1377年に行われたドイツ騎士団による攻撃で、城は大きな損傷に見舞われた。ケストウティスの暗殺の後、リトアニア大公の地位をめぐるヨガイラとヴィトフトの間で権力闘争が始まった。その際、城は双方から包囲されている。双方の和解が成立したすぐ後に、リトアニアの君主ケストウティス (Kęstutis) により始められ、1409年頃に彼の息子であるヴィタウタスにより竣工へと至った。
- ②15世紀初頭に行われた船首楼の拡張工事で船首楼の壁は回廊が取り付けられ、2.5メートルの厚さに強化された。
- ③リトアニアのトライカイ、ガルヴェ湖上に浮かぶ島の上に建てられた城。

NO : 2140 グーテンベルク ・・ 年****リヒテンシュタイン公国 (Burg Gutenberg, Gutenberg)



- ① リヒテンシュタインの南部、スイスとの国境に近いアルプス山系のふもとの町バルツェルスの村はずれに、盆地の小丘を利用してグーテンベルクの城が築かれている。小高い丘の上につくられた城は中世ながらのたたずまいを見せており、ヨーロッパの城塞の中でも一つの典型的なスタイルを示している。12世紀にはじまるといわれる中世風の城館は、かつてはドイツやオーストリアの領主に属する居城であったが、現在では、リヒテンシュタインで、ファドーツの王宮とともにただ二つの城として名高い。建物は近世になって修築されたが、中世的な城館が多くの塔とともに赤いスレート屋根をもっていて、周囲の山々や森の緑の中で1種のメルヘン的な雰囲気をもたしている。城のある小丘にはブドウ畑があって城のワインをつくり、周囲はリンゴ、桃、李、さくらんぼなどの果樹園で囲まれている。城は個人所有で非公開放だが、その外観のみでも旅入には印象深い城である。

NO : 2141 オラディア 城郭(要塞)・平城・1598年****ルーマニア (Oradea)



- ①オラデアが最初にラテン語文献に現れるのは1113年であり、このときはヴァラディヌム (Varadinum) という名で言及された。現在は廃墟として残っているオラデア城砦は、1241年にモンゴル帝国の来襲に備えるため修復と強化が始まったという記事が最古の記録である。
- ②ハンガリー王カーロイ1世とその息子ラヨシュ1世の時代には、オラデアはカトリックの司教の所在地となった。16世紀、トランシルヴァニアはオスマン帝国宗主下の自治権を持つ半独立国家トランシルヴァニア公国となり、その範囲の中にはオラデアのあるビホル地方も含まれた。1598年に要塞はオスマン帝国軍によって包囲され、1660年、オスマンはオラデアを占拠し、ハプスブルク帝国軍が侵襲して来る1692年9月まで支配下に置いた。1703年には、ラーコーツィ・フェレンツ2世に率いられた反ハプスブルク運動が起こり、オラデア要塞の周囲の市場も、砦の中の帝国の駐屯部隊とラーコーツィの反乱軍との戦場になった。その時の帝国の駐屯部隊の支援においてのオラデア市民たちの功績は、1712年11月27日に、神聖ローマ皇帝カルル6世によって公式に認められている。またそのころ、オラデア市民たちの経済的生活においては、手工業と商業が盛んになった事が特徴として挙げられる。

NO : 2142 クルージュ・ナポカ 平城・15世紀****ルーマニア (Banffy Castle, Cluj-Napoca)



- ①クルージュ・ナポカへの人間の居住は先史時代にさかのぼる。2世紀初めローマ帝国がダキアを征服すると、トラヤヌス帝はローマ軍の宿営地をおき、ナポカ (Napoca) と命名した。ナポカには軍人以外も多く定住するようになり、ハドリアヌス帝のとき、自由都市 (municipium) に格上げされ、ムニキピウム・アエリウム・ハドリアヌム・ナポカと命名された。のちにおそらくマルクス・アウレリウス帝のとき、植民市に格上げされた。ポロリッセンシス属州の首都とされ、行政の中心となった。しかし民族大移動の時期に征服され、荒廃した。
- ②1316年、クルージュは都市としての特許をカーロイ1世から得た。街は急速に発展し、ジギスムント (ジグモンド) 王のとき、聖ミカエル大聖堂が建てられた。15世紀にザクセン人とハンガリー人の住民の数が等しくなると、ハンガリー王マーチャーシュ (1440年クルージュ生まれ) は、首席判事がザクセン人とハンガリー人から交互に出されるよう命令を出した。

NO : 1084 シギショアラ(要塞都市)★ 城郭(要塞・教会)・平城・宗教関連 12世紀****ルーマニア (Sighișoara)



- ①12世紀、トランシルヴァニア・ザクセン人の名で知られるドイツ人職人と商人たちが、ハンガリー国王によって辺境への定住と防御のため招聘された。ドイツ人工芸家と職人たちが都市経済を支配し、同様に要塞化した建物が都市を守っていた。
- ②16世紀から17世紀のシギショアラは15のギルドと20の手工芸工房を抱えていたと概算される。

NO : 1085 スチャヴァ 城郭（城館・モルダヴィア公国）・平山城・東欧の城郭 1388年***ルーマニア（, Suceava）



①1388年-1565年、長きに渡ってモルダヴィア公国の首都であり、代々のモルダヴィア公が邸宅をかまえていた。アレクサンドル・ラプシュネアヌ公時代、宗主国オスマン帝国の、モルダヴィア公をより監視しやすい平野部のヤシへおくという意向から、首都が移された。
②スチャヴァ要塞スチャヴァという名前はダキア発祥とされており、砦を意味するdav?から発生したとみなされている。17世紀のモルダヴィア公ディミトリエ・カンテミールは自身の著作Descriptio Moldavieで、市名はハンガリー語のSz?csvar（毛皮商人の町を意味する）からきたと記している。

NO : 1086 ネアムツ修道院 ・・ 年***ルーマニア（manastirea-neamt, neamt）



①The Neam? Monastery (Romanian: M?n?stirea Neam?) is a Romanian Orthodox religious settlement, one of the oldest and most important of its kind in Romania. It was built in 14th century, and it is an example of medieval Moldavian architecture. A jewel of 15th century architecture, the church was built by ?tefan cel Mare and finished in the year when the Moldavian army won the battle against King John Albert (1497).
②The monastery is located in north-eastern part of Romania, in Neam? County, 10 km west of Targu Neam?. It is accessible by car (DN 15B road) and train (Targu Neam? railway station); the nearest airport is Suceava, located about 60 km north. Sumptuous, with delicate colour effects, the monastery shows the maturity of the Moldavian architectonic style, which matured during Stefan cel Mare's period. The facade of the church is covered with the decoration characteristic of Stefan cel Mare's time: Gothic windows and friezes with enamelled disks, coloured in green, yellow and brown.
③In the chamber of the tombs, which appear for the first time at this church, is the tomb of Stefan al II-lea, son of Alexandru cel Bun and

uncle of ?tefan cel Mare.

NO : 2143 ファガラシュ ・・ 年***ルーマニア（Fagaras Citadel.）



①Fagaras Fortress is the most impressive monument of the town, and the core around which the town was actually built. Ladislav Kan started to build it in 1310 on the former place of a 12th century wooden fortress strengthened by earthen walled fortifications. The former fortress had been burned down by the Tartars in 1241. The fort was enlarged and rebuilt in the 15th-17th centuries in the Transylvanian Renaissance style and came to be known, alongside with Deva, as one of the strongest fortifications in Transylvania.
②12世紀の終わりに木で作られ、タタール人により焼失。その後、14世紀に砦を拡大し、強化して石の要塞に。1455年ごろ、トランシルヴァニアの王子が管理を任せられ、このあたりの領主としてに任命されます。オスマントルコとの戦いのときにも活躍が、勝ったオスマントルコはここを牢として使用し、当時の領主は捕まり、ここに閉じ込めます。10年入れられ、亡くなったそうです。この後はオスマントルコの宗主権の下で自治公国となります。

NO : 1087 ペレシュ 宮殿・平城・宮殿 1875年***ルーマニア（Castelul Peles, Peles）



①1875年に8年の歳月をかけてカロール1世が、ルーマニア王室の夏の離宮として建てた宮殿。
②建築家ドーデラーとシュルツによって、1875年から6カ年の歳月をかけて構築されたもので、城の外観は中世の巨大な城郭建築のもつロマンチックなムードを漂わせており、封建時代のドイツの建築様式の影響を受けている。城の内部は、ゴシック、ルネッサンス、バロックの各様式が混合されて使用されている。

NO : 1088 ルシュノフ要塞 城郭（要塞）・山城・東欧の山城 1215年***ルーマニア（Rasnov Fortress, Rasnov）



①In Ra?nov a citadel was built around the year 1215 by the Teutonic Knights and it was mentioned for the first time in 1331. The citadel was conquered only once in its history, around the year 1600 by Gabriel Bathory. There is a myth attached to Ra?nov Fortress. During a particularly long siege of the fortress, the citizens of Ra?nov were concerned about the lack of available fresh drinking water.
②Two Turkish soldiers, having been captured earlier, were put to the task of digging a well in the centre of the fortress. These two men were assured that they would be given their freedom once the well was completed. According to local legend, it took them 17 years to finish the well, but they were still

killed afterwards. This famous well still sits in the centre of Ra?nov Fortress, and is 143 metres deep.

NO : 2144 クレルヴォー 城郭（城塞）・平城・17世紀***ルクセンブルク大公国（Chateau de Clervaux, Clervaux）



① 首都ルクセンブルクから北に約70キロ、ケレルポーは山間の盆地につくられた人口2000ほどの小さい古都である。町の中央につくられた城は、あまり装飾性のない中世風の塔と居館からできている。11世紀のころ、かつてはきわめて防備性のある城塞化された館の形をもっていたが、17世紀になって修理された。ルクセンブルクの国防上の重要な地点の一つであった。また、このケレルポーは近くにサン・モリス、サン・モラルなどの有名な僧院もあり、歴史的な町らしい雰囲気を加えている。この山間の静かな町は、ルクセンブルクの古都のたたずまいを残す。

NO : 1089 ブールシャイト 城郭（城塞）・山城・小国の城 1095年***ルクセンブルク大公国（Bourscheid Castle,）



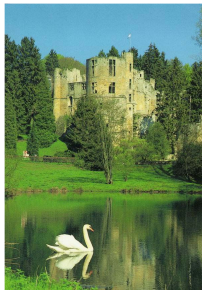
①1095年よりキープと四つの塔、礼拝堂、城館が建設される。1350年-1384年、外周壁や8つの塔が完成。

NO : 2145 ブルクリンスター ・・ 年***ルクセンブルク大公国（Burg Linster,）



①Bourglinster Castle was probably founded in the late 10th century. It consisted of an upper and lower castle. The lower castle was probably finished in the early 15th century. The moat was dug out in the 15th century, but did not protect the castle quite as was intended to for in 1682 and again in 1684 French troops attacked and destroyed parts of the castle. Almost all the buildings of the lower castle were demolished in the late 17th century.

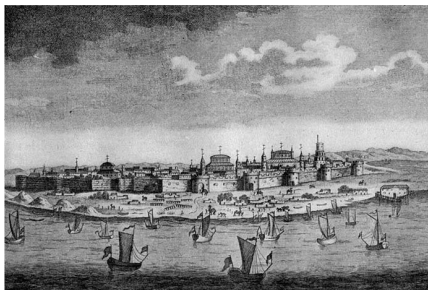
NO : 2146 ボーフォール ・・ 年***ルクセンブルク大公国（Beaufort）



① ベルギー、フランス、ドイツに囲まれたルクセンブルクは、日本の神奈川県より少し大きいくらいの面積と35万の人口の小国である。しかし、この国はかつて大国の間にあって、その勢力の緩衝地帯的な役割を果たしてきた。そのせいか国の広さの割合には城が多い。国名と同名の首都ルクセンブルクから北東に約50キロ、ドイツとの国境に近いベエウホルの小村に近く城館の廃墟がある。この城は12世紀の城塞としてはじまり、16世紀には破壊された。この旧城のすぐそばに17世紀になってつくられた城館があって、観光客のために公開されているが、城の内部には家具、調度、美術品のコレクションが展示されている。この城のある谷間は、溪谷、沼などがあり、ルクセンブルクの国内でも美しい地区の一つとなっている。シーズン中には外国人の旅人も多く、静かに散歩を楽しんでいる人たちも見かけられる。交通の便はよくないが車なら首都から一時間くらいのところである。

②Beaufort (Luxembourgish: Beaufort, German: Befort) is a commune and town in eastern Luxembourg. It is part of the canton of Echternach, which is part of the district of Grevenmacher.

NO : 2147 アストラハン ・・ 年***ロシア連邦（Kremlin, Astrakhan）



①古くからアストラカ（XacitarxanまたはActarxan）などと呼ばれ、ヴォルガ川右岸に町があった。ハザールの時代にはこの一帯はハザールの主要な地域であり、アストラハンの南西40kmにある村・サモデルカはハザールの都・イティルと推定されている。ジョチ・ウルスの時代には主要な交易都市・行政都市となる。しかし、1395年にはティムールによって灰燼に帰した。そこで12kmほど南の今日のアストラハンの地に町を再建。15世紀後半からアストラハン・ハン国の首都であったが、1547年、クリミア・ハン国の軍勢に包囲される。1556年にはイヴァン4世（イヴァン雷帝）によって征服され町は炎上する。1569年にはオスマン帝国の侵攻・包囲を受けるが、結局、オスマン帝国は撤退。以降、ロシアの前哨都市として発展。アルメニア人、ペルシア人、インド人、ヒヴァ人なども居住する国際的な交易都市となる。1670年、ステンカ・ラージンの率いた軍勢に占領され、ロシア政府に対する抵抗の拠点となった。

NO : 2148 イズボルスク ・・ 年***ロシア連邦（Izborsk, Pechory）



①According to the Russian Primary Chronicle, the town was the seat of Rurik's brother Trurov from 862-864. Although his burial mound is still shown to occasional tourists, archaeological excavations of long barrows abounding in the vicinity did not reveal the presence of the Varangian settlement at the site, indicating that Izborsk was an important centre of the early Krivichs.

②The next mention of the town in Slavonic chronicles dates back to 1233, when the place was captured by the Livonian Brothers of the Sword. Pskov moved the fortress to a more convenient site in 1302. The most ancient extant structure is the Tower Lukovka (literally, "Onion Tower"), constructed in 1330. At that time it was the only stone building west of Pskov and adjoined a wooden wall. After seven other stone towers and the new stone wall were completed, Lukovka became a watch-tower. The Nativity church within the fortress was built in the 16th century. Near the fortress is a museum of stone crosses.

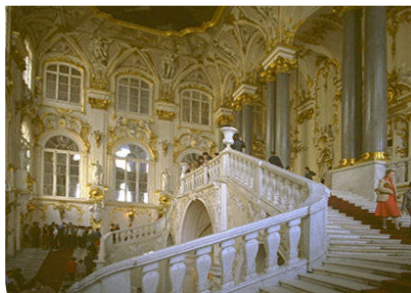
NO : 2149 コトリン島の砦 ☆ ・・ 年***ロシア連邦（Kotlin,）



①この地域は歴史的にフィンランドの地勢であったと思われる。12世紀以降、スウェーデン（北方十字軍）とノヴゴロド公国（ロシア人）の争奪地の一つとなった。13世紀にスウェーデンとノヴゴロドの間で国境線が確定。この島はノヴゴロドのものとなった。その後この島は、ロシア帝国に引き継がれたが、1613年にスウェーデンがカレリアと共に領有する。この島が最終的にロシアの領土と確定したのは、大北方戦争の最中の1703年である。以後、海港サンクトペテルブルクを防衛するために、コトリン島は要塞となった。

②バルチック艦隊の主力基地があり、軍事的に重要な島である。サンクトペテルブルクへ接近する海路を二つの海峡に分けており、都市の防衛に大きな役割を果たしてきた。

NO : 1090 **ザンクトペテルスブルグ・冬宮殿★** 宮殿・平城・宮殿 1754年***ロシア連邦 (Zimniy Dvoretz, Letniy Dvoretz, Sankt-Peterburg)



①ロシア皇帝の冬季の王宮として1754年～1762年の間に建設された。建築家はバルトロメオ・ラストレツィで、緑と白の石材を用いたロココ建築は1,786のドアと1,945の窓がある。宮殿の北側はネヴァ川に面し、南側には宮殿広場が広がる。帝政時代は王宮として機能し、最初に使用したのはエカテリーナ大帝（在位：1762年-1796年）。レフ・トルストイによる小説『戦争と平和』に描かれる1812年ロシア戦役前後のロシア宮廷の舞台の一つである。現在、エルミタージュ美術館の本館として使用されている。

NO : 1091 **スーズダリ★** 城郭（城館・クレムリン）・平城・クレムリン 1150年***ロシア連邦 (Kremľ', Suzdal')



①12世紀前半、ユーリー・ドルゴルーキー（手長公）の時代にロストフ・スーズダリ公国の首都。
②以後、14世紀末にモスクワ大公国の支配下に入るまで、ウラジーミル・スーズダリ大公国をはじめとする諸公国の首都として機能しいわゆる「黄金の環」を形成した。政治的重要性が喪失された後も、ロシア正教の中心の一つとして、宗教的・文化的な役割を果たした。

NO : 1092 **デルベント城塞古代都市要塞建築群★** 城郭（要塞・クレムリン）・平山城・クレムリン 5世紀***ロシア連邦 (Kremľ', Derbent)



①5世紀の終わりかあるいは6世紀の始めにサーサーン朝の皇帝カワード1世（en: Kavadh I）によって統治され、子供であるホスロー1世の時代に、デルベントの北を臨む監視塔を備えた高さ20メートルの城壁が建設された。
②歴史的に、デルベントは、ユーラシア草原と中東を結ぶ交通の要衝であったため、様々な民族の衝突の舞台となってきた。第3次ペルシャ・トルコ戦争（サーサーン朝と西突厥の間で起きた627年から629年の間の戦争）において、デルベントは1旦、西突厥の支配下に置かれることとなったが、その後、ペルシャによって再度、統治されることとなった。14世紀になると、デルベントはティムールの軍隊によって征服された。1437年には、ペルシャのシルヴァンシャー朝の支配下に入った。16世紀にはサファヴィー朝とオスマン帝国との間の戦場となり、アッバース1世の時代には、トルコ軍に大きな打撃を与えたことで、デルベントはサファヴィー朝の支配下に入った。1722年には、ロシア帝国とペルシャの間で第一次ロシア・ペルシャ戦争がビョートル1世の手によって勃発しデルベントはロシア帝国の支配下に入るることとなった。

NO : 2150 **ロストフ** ・ ・ 年***ロシア連邦 (Rostov-na-Donu)

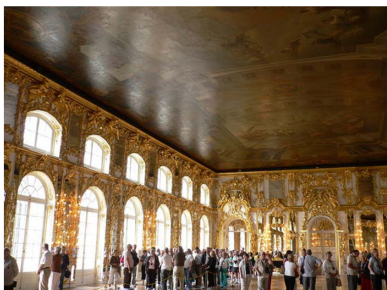


①街の始まりは1749年12月15日とされている。ビョートル1世の娘で当時のロシア皇帝だったエリザヴェータの命令で、ドン川の支流テムルニク川のほとりの「ボガトゴ・コロデゼヤ」（Богатого колодезя、豊かな井戸）にオスマン帝国との交易を管理する税関が建てられた時のことである。1756年、ロシア・コンスタンチノーブル商業貿易会社がこの地に設立され、ドン川沿いの台地の上に集落を築きクベチェスカヤ・スロボダ（商人の町）と名付けた。1760年から翌年にかけてオスマン軍の侵攻に備えて税関からほど近い場所に要塞が建てられ、1761年に皇帝エカチェリーナ2世により要塞に対して、1700年代に北方の古都ロストフの天主教を務め、当時聖職されたばかりのロストフのドミトリ（Dimitry of Rostov）にちなんでロストフの名が与えられた。

②1796年に集落は市の地位を与えられ、古都ロストフと区別するためにロストフ・ナ・ドヌと改名された。1797年にはロストフ・ナ・ドヌとノル・ナヒチェヴァンとともにヴォロシンスク県に属した。若は18世紀後半には露土戦争の際のロシア軍の基地となったが、やがて重要性を失い19世紀前半にはアナパへ移された。

③ドン川の下流河畔の丘上に開かれた町で、アゾフ海の付け根・タガンログ湾郊外に位置する要衝である。1735年にアゾフ一帯を併合したロシア帝国によって1749年に建設された。

NO : 1093 **夏宮殿★** 宮殿・平城・宮殿 1754年***ロシア連邦 (Letniy Dvoretz, Sankt-Peterburg)



①サンクトペテルブルク中心部から30km離れたペトロドヴォレツの100以上の噴水があることで著名なペテルゴフにビョートル大帝時代に建設された夏宮殿が存在するが、同じくサンクトペテルブルク郊外ツァールスコエ・セローにロココ建築の壮麗なエカテリーナ宮殿が建設された以降は、実質的にエカテリーナ宮殿が夏の宮殿として用いられた。